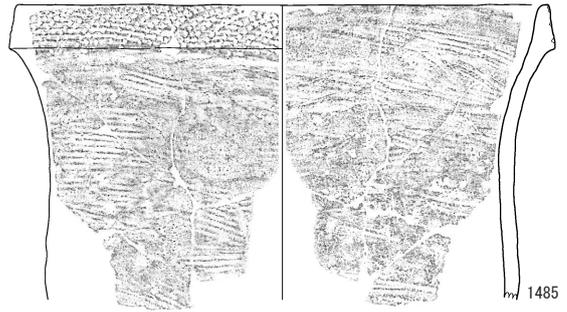
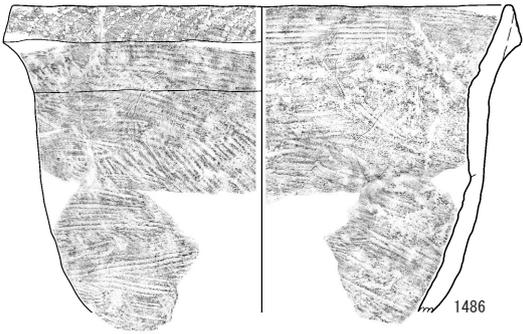


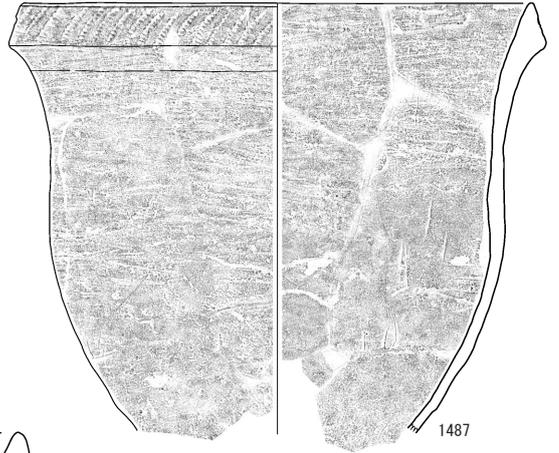
1484



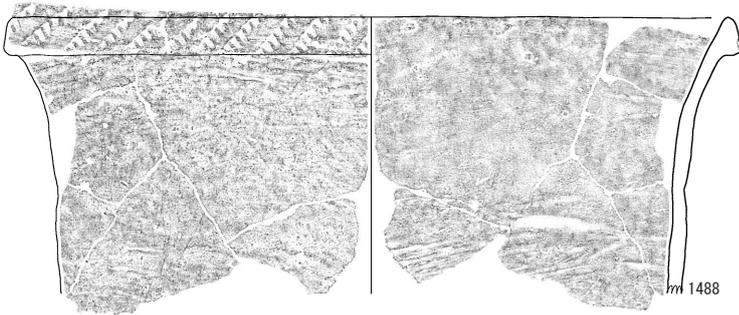
1485



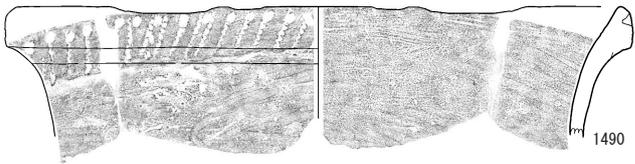
1486



1487



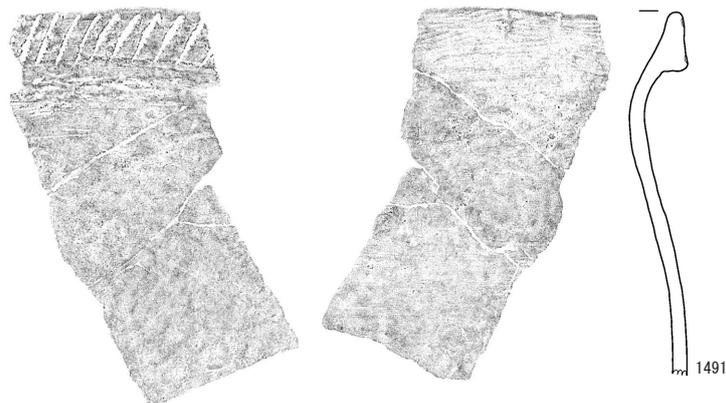
1488



1490



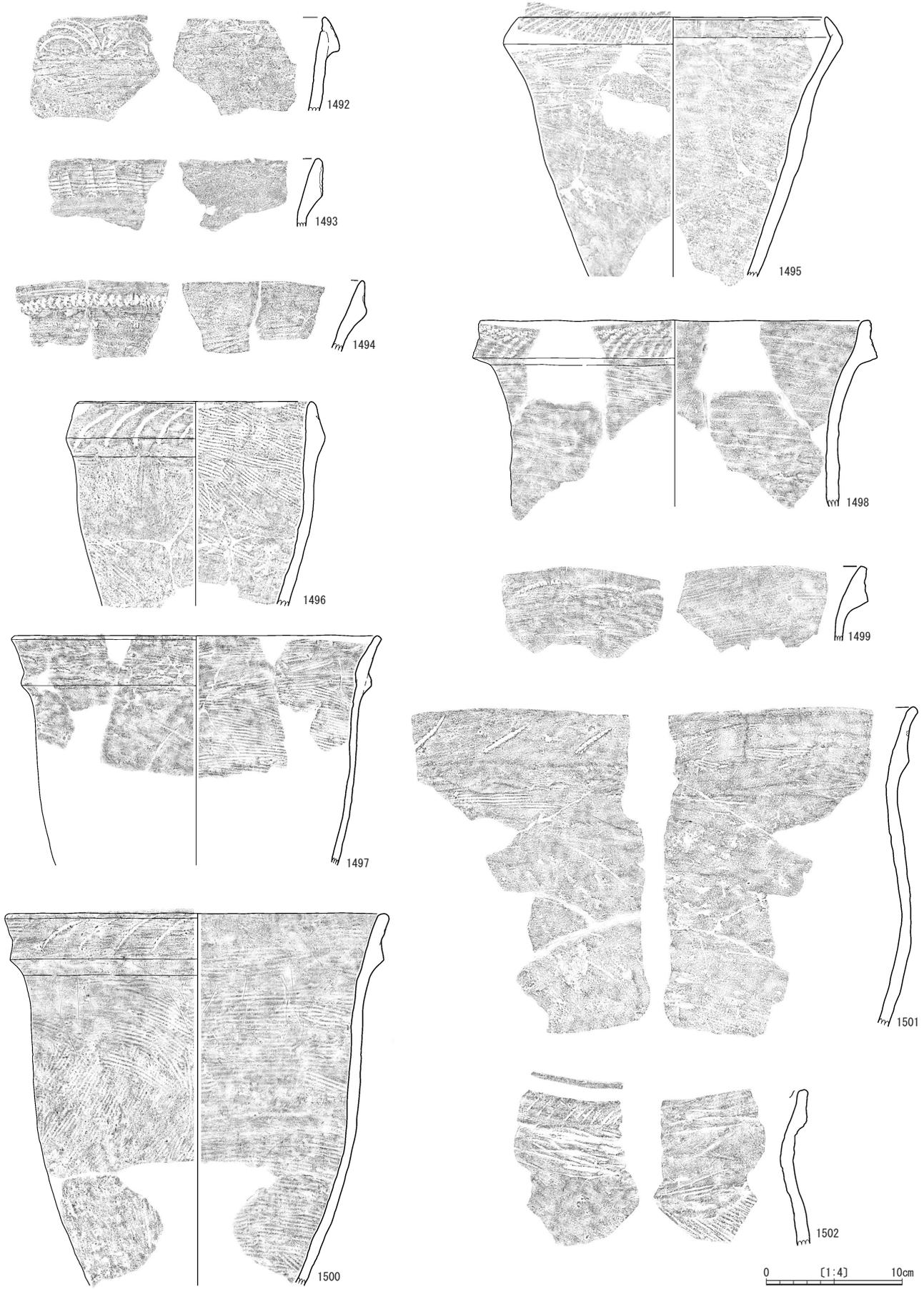
1489



1491

0 [1:4] 10cm

第2-85図 V類土器(3)



第2-86図 V類土器(4)



第2-87図 V類土器 (5)

1517・1518は口縁部が外反し、波状を呈する。1517は、幅の狭い口唇部の外端よりヘラ状工具による刺突を行う。胴部はやや張り、胴部下位でくびれ底部に向かってすぼまる器形をもつ。1518は口縁部が強く外反し、内面に稜をもつ。口唇部には深い刺突を施す。

#### Vb-3 類土器 (第2-88図1519~1525)

1519~1524は平口縁で、1525は波状口縁となる。いずれの口縁部も外反する。1519は口縁部がやや外反し、一部欠損した突起が1か所残存するが、全体形は不明である。文様帯に端部が丸い工具で刺突を施すが、一部押し引状となる。さらに突起の上面及び内面にも刺突を施す。1520は、文様帯にヘラ状工具による刺突を横位2列に施す。1521は、粘土を貼り付けて幅広く作った文様帯の中央部にヘラ状工具による刺突を1列施す。1522は口縁部が強く外反し、胴部は張らず直立する。文様帯に端部が平坦な棒状工具(径約4mm)で密に刺突を施す。1523は、口唇部上部に粘土を貼り付けて文様帯を形成する。文様帯の中央部を窪ませ、縦長の刺突を密に施す。口縁部内面に稜をもち、粘土の接合痕が一部残る。文様帯直下は強くくびれ、そこには指頭圧痕が残る。胴部はほぼ張らず、底部に向かってすぼまる。胴部内面にスガが付着する。1524は口縁部外面直下が強くくびれ、胴部はあまり張らない。口縁部に細い刺突を密に施す。1525は、肥厚させた文様帯に下から上方向に棒状工具で刺突を行う。

#### Vb-4 類土器 (第2-88~90図1526~1548)

1526~1528は、内湾する口縁部をもつ。1526は、内湾する文様帯の下端に粘土を貼り付けて肥厚させる。さらに粘土を貼り付けた上辺に沈線を巡らせ、肥厚部を強調する。文様帯にはヘラ状工具による細い刺突を行う。胴部の張りは弱く、直線的に底部に至る。1527は胴部上位から口縁部に向かって内湾し、胴部がほぼ直立し、胴部下位から底部に向かってすぼまる。口縁部には高さのない突起が1か所残存する。幅の狭い文様帯には粘土を貼り付け肥厚させ、ヘラ状工具で押圧に近い刺突を施す。1528は、幅の狭い文様帯に斜位の刺突を連続して施す。口縁部直下に粘土の接合痕が残る。内外面に堅果類の圧痕が複数残り、種子が貫通した箇所もある。二次焼成を受けたと考えられ、表面がざらつき、桃色や薄灰色の色調を呈す。

1529~1535は、直立した口縁部をもつ。1529・1530は胴部から口縁部へほぼ直立し、口縁端部が短く外反する。1529は、文様帯に2本一組の沈線を間隔を空けて施す。1531は胴部から口縁下部まで内湾し、口縁部が直立する。胴部に最大径があり、口唇部は方形を呈し平坦面をもつ。1532~1535は波状を呈する口縁部をもち、文様帯には斜位の刺突を連続して行う。また、1532・1534・1535は、文様帯の下辺に沿うように刺突を施文する。1532は内面に粗いケズリ調整を施し、口縁部直下から胴

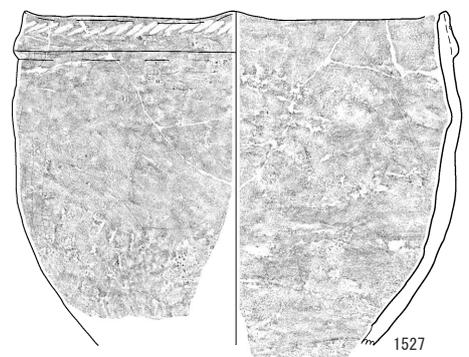
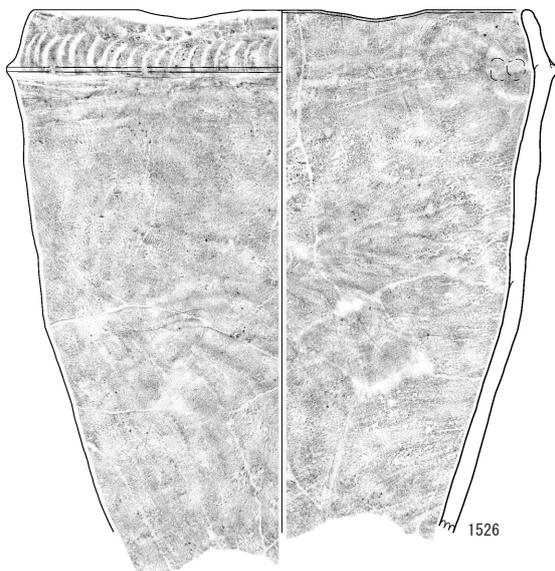
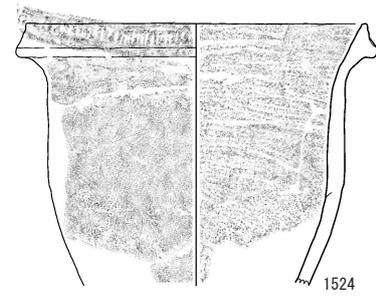
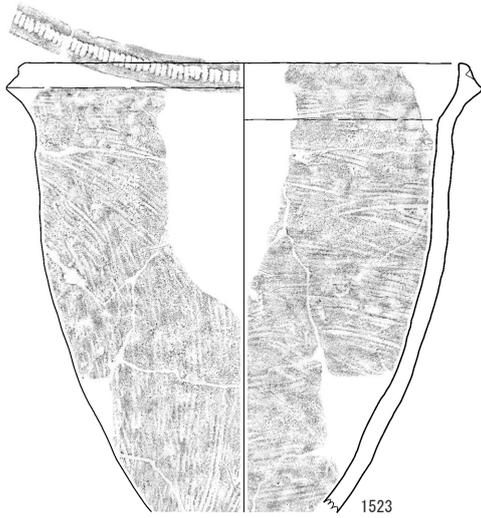
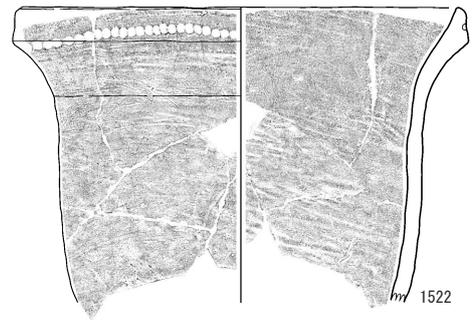
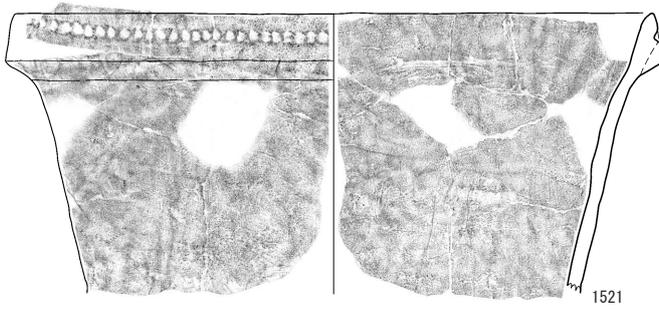
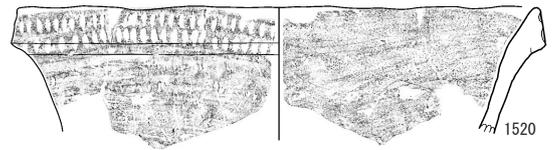
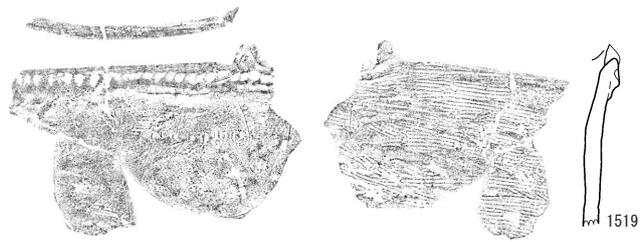
部中位までスガが付着する。1533・1534は、口縁部下端部が外に張り出して厚みがある文様帯をもつ。1535は口唇部が方形を呈し、波頂部にも4条の刺突を施す。

1536~1541は平口縁で、口縁部が直線的に外に開き、胴の張りの弱い器形をもつ。1536・1538・1539は、文様帯にヘラ状工具による斜位の刺突を連続して施す。1537は、2列一組の半裁竹管文を間隔をおいて施す。1540は口縁部中央が強く凹み、そこに竹管による刺突を横位に施す。

1541~1548は、外反する口縁部をもつ。1541は口縁部幅が幅広く、口縁部の中央に1列隙間なく斜位の刺突を施す。胴部内外面にスガが付着する。1542は幅広い口縁部をもち、口縁部下位でくびれ、胴部が張る。口縁部下半に太い1列の凹みを作り、そこに粘土を充填しその上から斜位の刺突を施す。部分的に刺突を施したあと上から凹線を引き、その上に粘土をさらに貼り付ける部分もある。充填した粘土は一部剥離する。内外面にスガが付着する。1543は、粘土を貼り付け文様帯の下部を肥厚させる。胴のやや長い器形となる。文様帯に横位の爪形文を巡らし、内外面にスガが付着する。1544は口縁部がやや外反し、口縁部直下でくびれ、胴部がやや張り、底部に向かってすぼまる。波頂部が、2か所残存する。幅広い文様帯にはヘラ状工具による斜位の刺突を連続して施す。口縁部から胴部の膨らみまでが狭く、器形は寸胴となると考えられる。口縁部の内外面にスガが付着する。1545は口縁部が外反し、胴部が張る器形をもつ。あまり肥厚しない文様帯には斜位の刺突を施す。波頂部が2か所残存する。1546は口縁部直下でくびれ、胴部が張り底部に向かってすぼまる。口縁部に幅広い刺突を施す。口縁部外面にスガが一部付着する。1547は波頂部下に刺突を施すが、右側には施文されない箇所がある。1548は粘土を貼り付け文様帯を肥厚させるが、波頂部下はさらに肥厚させる。文様帯にヘラ状工具による刺突を施すが、波頂部上面にも刺突を行う。

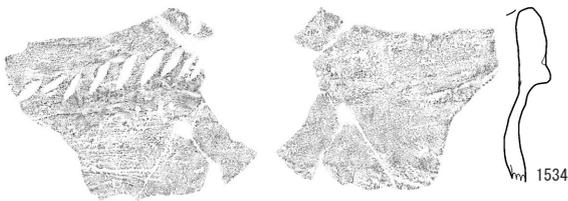
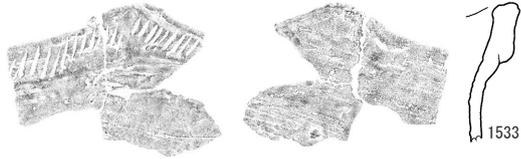
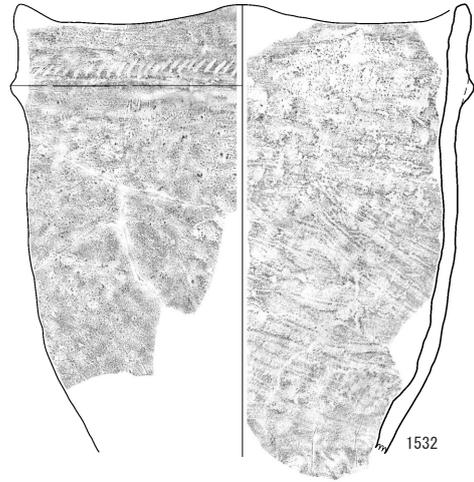
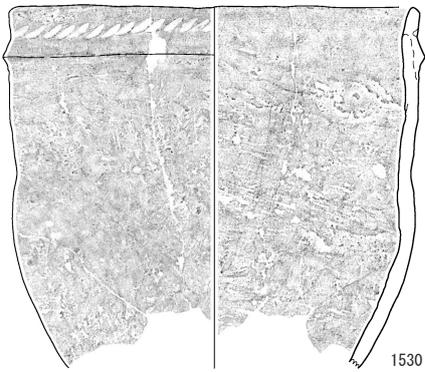
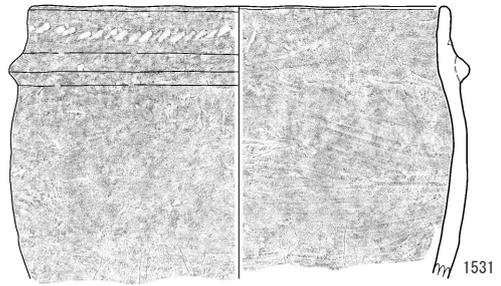
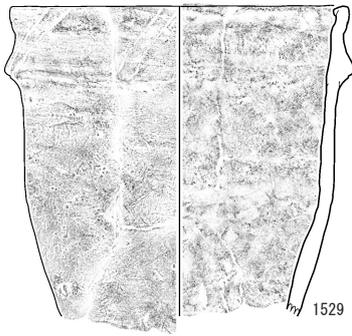
#### Vc 類土器 (第2-91図1549~1557)

1549~1556は鉢で、1557は台付皿である。1549~1552は、口縁部が内湾する。1549・1550は、口唇部幅が狭く上向きで外面端部が角張る。1551は口唇部がやや方形を呈し、口唇部直下に方形の突帯を貼り付け、口唇部と突帯に棒状工具による刺突を施す。1552は、胴部から口縁部に向かって直線的に内傾する。口唇部が方形を呈し、口縁部中央がくびれ、口縁部下端部が張り出す。口縁部直下に段をもつ。刺突は口縁部中央に施すが、やや下になる箇所もある。1553・1554は外反する口縁部をもち、口縁部下位で強くくびれ胴部に向かって強く張り出し、胴部に最大径をもつ。1553は口唇部がやや垂れ下がり、そこに斜位の刺突を施す。二次焼成を受けたと考えられ、表面が粗く、桃色や薄灰色を呈す。1554は、方形を



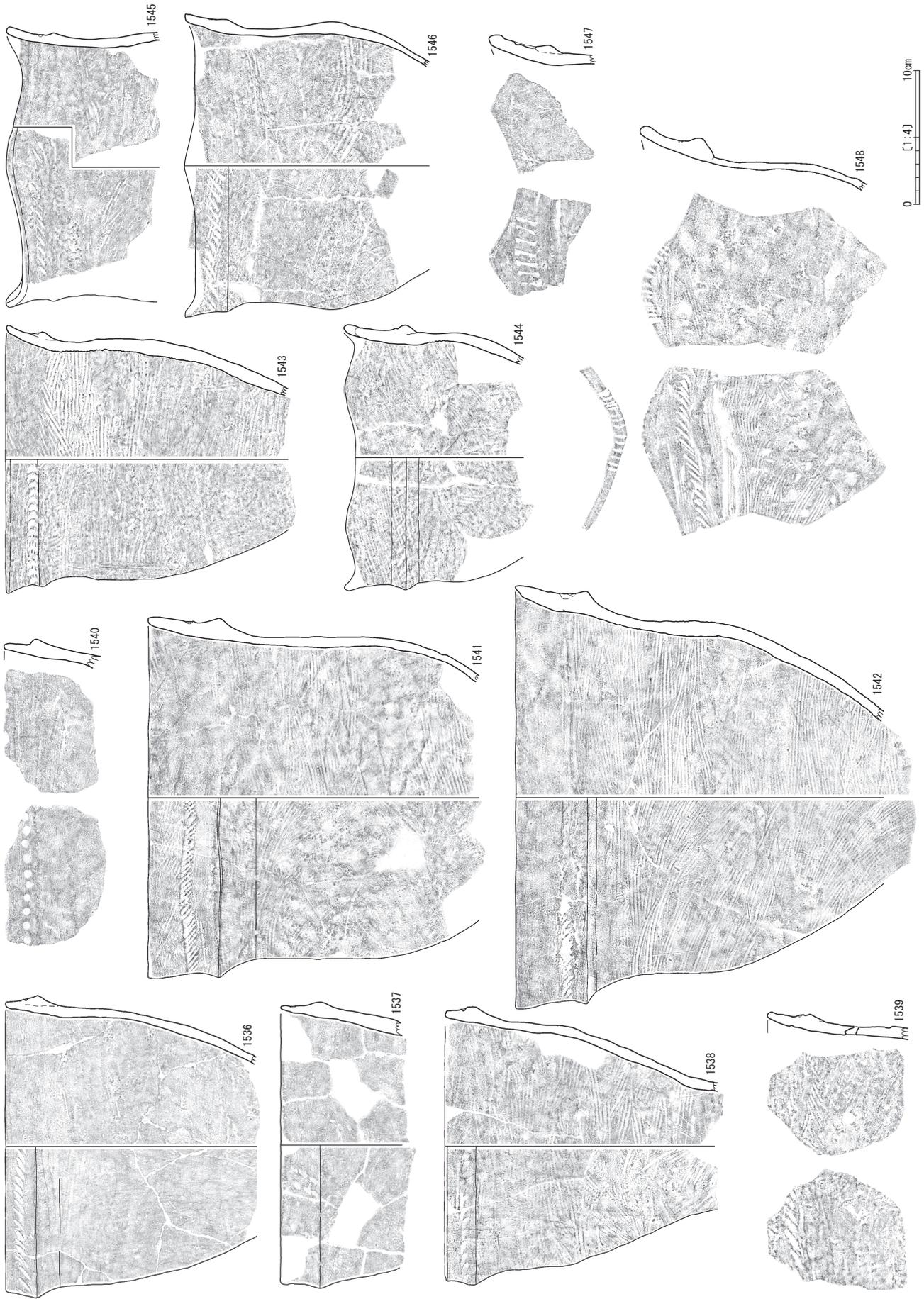
0 [1:4] 10cm

第2-88図 V類土器(6)

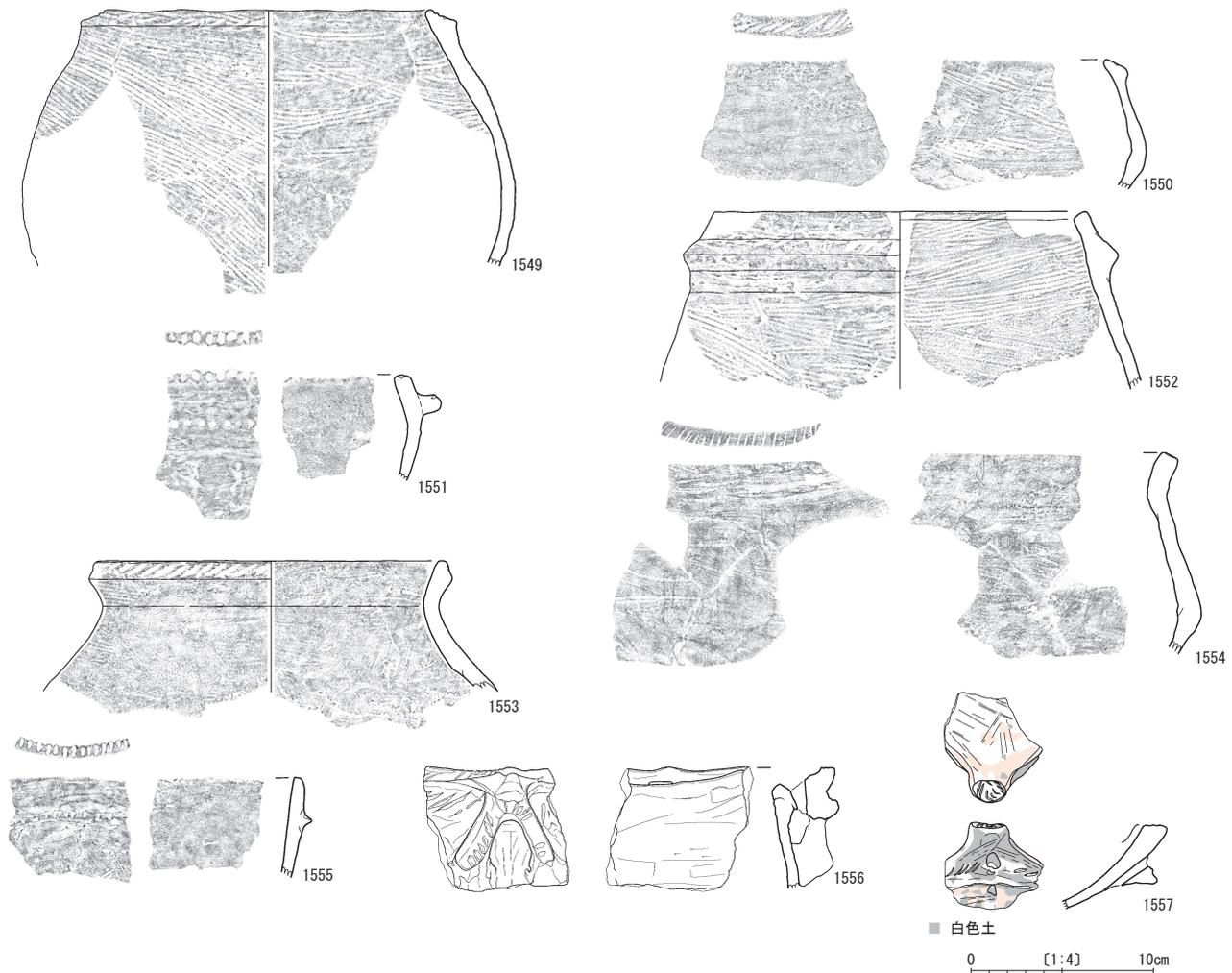


0 [1:4] 10cm

第2-89図 V類土器(7)



第2-90図 V類土器 (8)



第2-91図 V類土器（9）

呈する口唇部に刺突を施す。口縁部の外反は短く、胴部に稜をもつ。1555は、口縁部が外傾する。口縁部に三角突帯を貼り付け、突帯上面に外から押し当てるように刺突を施す。口唇部には刻みを施す。1556は波状口縁で、波頂部に突起と把手をもつ。把手は棒状粘土2本を逆「V」字状に貼り付け、その頂部に山形の突起を2つ貼り付けて口唇部と合流する。波頂部上面に上面から穿孔を行う。突起の上面・外面及び把手の外面に刺突を施す。口縁部にも大きい刺突を施す。口唇部の断面は方形を呈し、平坦面をもつ。

1557は台付皿で、波状口縁をもつ皿部である。波頂部上面に楕円形の平坦面をもち、そこに刺突を施す。波頂部直下の口縁部から胴部に向かって斜めの穿孔を行う。口縁部中央は凹み、そこにも刺突を施す。全面に白色土が、一部に赤色顔料が付着する。赤色顔料の残り方から白色土を下地にし、その上から赤色顔料を塗布している。

#### 【VI類土器】

口縁部の上下を刺突で区画して文様帯とし、その内側

に沈線や凹線、刺突、凹点、刻みを行うものである。深鉢や鉢、台付皿、注口土器の器種がある。

深鉢は口縁部が外反し、口縁部下端が強く張り出し口縁部直下がくびれる。口縁部の断面形態は、三角形または「く」の字状を呈する。胴部はあまり張らない。深鉢は文様構成及び器形によりVIa類とVIb類に大別し、さらに器形は同様であるが文様帯に区画をもたないものをVIc類、無文のものをVI d類に分類した。また、鉢をVI e類、台付皿・注口土器・舟形土器をVI f類として報告する。VI類の分類は、次のとおりである。

#### VI a類土器

口縁部上下を刺突で区画して文様帯とし、そこに沈線や刺突で文様を構成するものである。ただし、口縁部上下を区画する刺突に代わって刻みとなる場合もある。口縁部は外反し、口縁部下端部が張り出し、口縁部直下がくびれる。口縁部中央が凹むものもある。胴部は、張るものと張らないものがある。平口縁と波状口縁があり、波状口縁の波頂部には刺突とその左右に貝殻刺突を連続

で行うものもある。内面や胴部に文様を施すものや口縁部下位に突起をもつものもある。文様構成によって、さらに4つに細分した。

**VI a-1 類** 口縁部の上下に連続刺突を行い区画を設けるものである。区画内の施文は行われない。

**VI a-2 類** 口縁部の上下に連続刺突を行い区画を設け、その区画内に横位の沈線を施すものである。

**VI a-3 類** 口縁部の上下に連続刺突を行い区画を設け、その区画内に刺突を施すものである。

**VI a-4 類** 口縁部の上下に連続刺突を行い区画を設け、その区画内に横位の沈線と刺突を施すものである。

#### VIb 類土器

口縁部上下を刺突で区画した文様帯に「C」字状の凹点と凹線や刺突、刻みで文様を構成するものである。凹点や凹線が、刺突や沈線となる場合もある。口縁部は中央部が凹むが、口縁部の断面が三角形を呈すものもある。口縁部下端が張り出し、口縁部直下はくびれ、胴部は張らない器形となる。口縁部下位に突起をもつものや口縁部内面や口縁部下位（胴部）まで文様を施すものもある。文様構成によって、次の3つに細分した。

**VIb-1 類** 口縁部の上下に連続刺突を行い区画を設け、その区画内に「C」字状の凹点を施すものである。

**VIb-2 類** 口縁部の上下に連続刺突を行い区画を設け、その区画内に主に「C」字状の凹点と横位の凹線を施すものである。

**VIb-3 類** 口縁部の上下に連続刺突を行い区画を設け、その区画内に主に「C」字状の凹点と横位の凹線及び刺突を施すものである。

#### VI c 類土器

口縁部上下を刺突で区画せず、刺突や沈線で文様を構成するものである。口縁部は外反し、口縁部下位が張り出し、口縁部直下でくびれる。口縁部断面形態は三角形や「く」の字状を呈するものがある。口縁部下位に突起をもつものや口縁部内面や口縁部下位（胴部）まで文様を施すものもある。文様構成によって4つに細分した。

**VIc-1 類** 沈線を施すもの。

**VIc-2 類** 貝殻刺突と工具による刺突を連続で施すものである。

**VIc-3 類** 「C」字状の凹点と刺突を施すものである。

**VIc-4 類** VIc-1 類からVIc-3 類に分類できないものである。

#### VI d 類土器

口縁部に文様をもたない無文のものである。口縁部下端部が張り出し、口縁部直下がくびれる。口縁部形態で2つに細分できる。

**VI d-1 類** 口縁部は肥厚し、特に口縁部下端部が張り

出すもの。

**VI d-2 類** 口縁部中央が凹み、いわゆる口縁部断面形態が「く」の字状を呈するもの。

#### VI e 類土器

鉢は胴部から口縁部にかけて内湾し、胴部が強く張り出す器形をもつ。中には突起をもつものもある。また、台付鉢の脚台もここに含めた。

#### VI f 類土器

台付き皿及び注口土器、舟形土器をまとめた。

以下、分類に従って記述する。なお、掲載番号1586・1595・1621・1649・1657は、放射性炭素年代測定を行った。

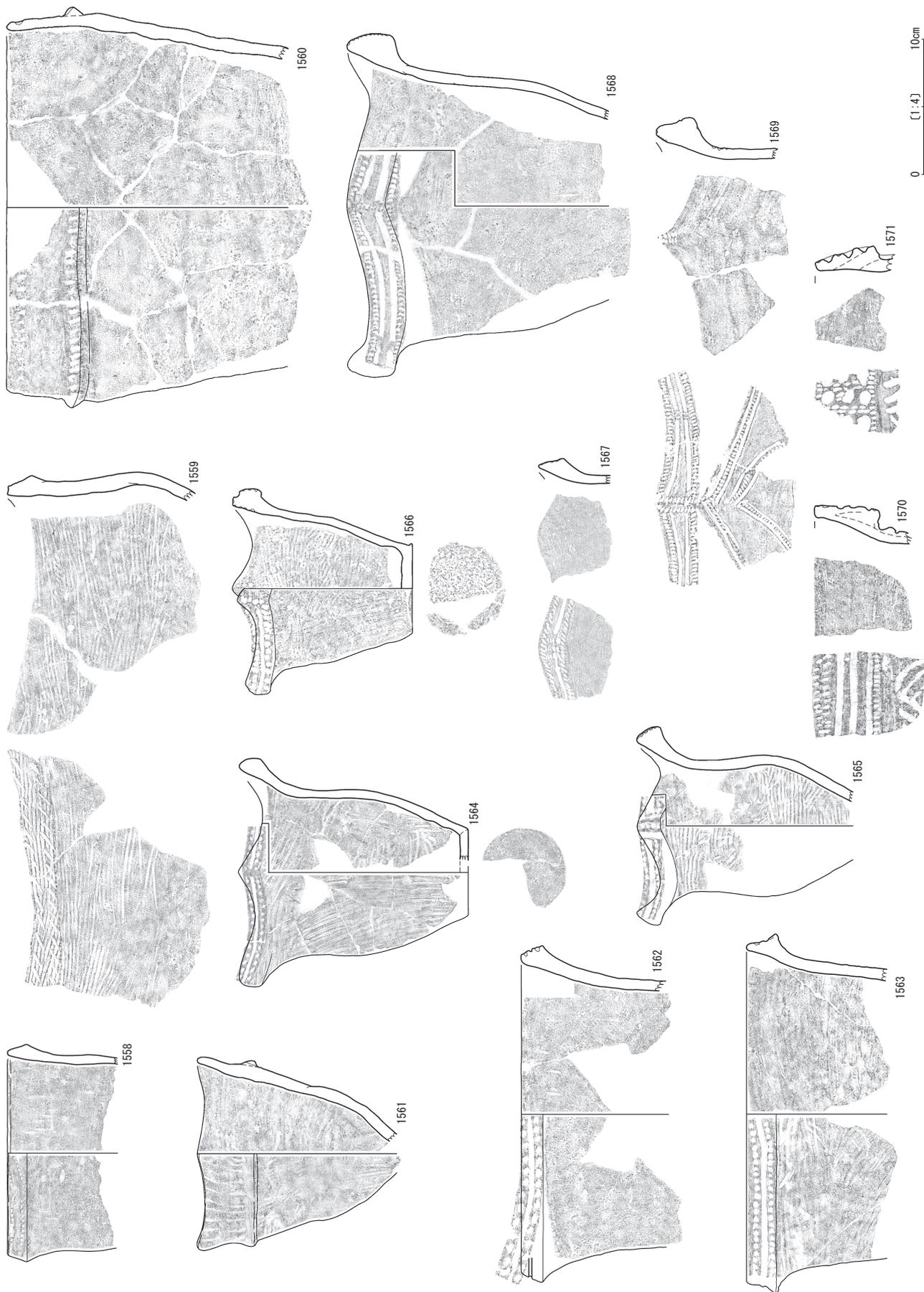
#### VI a 類土器

##### VIa-1 類土器（第2-92図1558～1561）

1558は口縁部下端部が肥厚し、胴部上位でややくびれ、胴部はあまり張らない器形をもつ。口縁部の上下に棒状工具による刺突を巡らせ区画する。1559は口縁部下端部が張り出し、口縁部直下に段をもつ。口縁部はやや内湾し、胴部が張り、ここに最大径をもつ。口唇部は、方形を呈す。口縁部に爪形刺突による区画を行う。1560は、内湾する口縁部下端に粘土を貼り付け肥厚させる。そして、口縁部上端と肥厚させた部分に棒状工具で連続した刺突を巡らせ区画する。器面調整は粗く、胎土の小礫の混入が目立つ。1561は、波頂部が1か所残存する。口縁部下端に粘土を貼り付け肥厚させ、口縁部の上下に刻みを連続して施し区画を設ける。口縁部から胴部にかけての内外面には、部分的に赤色顔料が残る。

##### VIa-2 類土器（第2-92図・93図1562～1577）

1562～1571は口縁部の上下に棒状工具による連続した刺突を行い、区画を設けるものである。1562～1564は口縁部の区画は上下のみであるが、1565～1571は刺突による縦位の区画をもつものである。また、1562～1567は区画内に横位の沈線を1条、1568～1571は区画内に横位の沈線を複数施す。1562は平口縁で、口縁部が外反し、口縁部下端部がやや張り出し胴部は直立する。1563は平口縁で、口縁部中央がやや凹み、口縁部下端部が張り出し胴部は直立する。口縁部内面に緩い段をもつ。1564は波状口縁で、口縁部が強く外反し、胴部がやや張る。波頂部直下まで横位の沈線は及ばない。1565は波頂部が1か所残存し、上面観は方形と考えられる。波頂部外面の屈曲部に4個の刺突とその左右に短沈線を施す。口縁部が外反し、胴部が張る。1566は波頂部外面の屈曲部に3～4個の刺突を2列施し、内面にも3～4個の刺突を施す。口縁部は直立し、波頂部は外反する。胴部はあまり張らず、底部に向かって直線的にすぼまる。口縁部の作りはいびつで上面観は方形を呈すが、一角が外側へ飛び出る。1567は波頂部外面の屈曲部に4個の刺突を縦3列に



第2-92図 VI類土器(1)

施す。1568は波頂部外面の屈曲部に刺突を、区画内に横位の幅の広い沈線を2条施す。この沈線の端部は、強く押し止める。波頂部は外反し、下端部が厚く肥厚する。1569は波頂部外面の屈曲部の両脇に刺突を縦位に施し、口縁部の縦区画を波頂部で閉じる。波頂部内面にも5個の刺突を縦2列に施す。また、口縁部の上下に施される連続刺突で区画する中に横位の沈線を2条巡らす。口縁部の谷部の沈線上に2個の刺突を縦2列に施す。沈線間に刺突を施す文様を口縁部直下には横位に、胴部には山形に配する。また、口縁部及び胴部の沈線端部には深い刺突を施す。口縁部は直立し、波頂部は強く外反する。1570・1571は同一個体と考えられ、口縁部直下の胴部にも沈線で文様を施す。1570は口縁部上端を横2列、下端を横1列の刺突で区画し、その内側に3条の沈線を施す。1571は口縁部上下を刺突で区画し、その内側に3個の凹点を横3列施す。凹点の間を縦を区画すると考えられる棒状工具による刺突を施す。

1572・1573・1574は口縁部の上下に貝殻による連続した斜位の刺突を行い、区画を設けるものである。1572は、区画内に1条の深い沈線を巡らす。口縁部下端部はやや肥厚し、口縁部直下がくびれ胴部がやや張る。1573は、区画内に幅広く長さが10cm程度の短沈線を巡らす。短沈線の端部は、強く押し止める。1574は区画内に4cmから6cm程度の短沈線を横位に2条施すが、部分的には1条となる。高さのある波頂部が2か所残存するが、それぞれ一部欠損する。この上面には3～5個の刺突を、内面には6個以上の刺突を施す。

1575～1577は、本類の中でもやや異質な小片である。1575は、区画内に渦巻文を施す。薄橙色を呈し摩滅する。1576・1577は波状口縁で、波頂部外面の屈曲部に刺突を施さず、胴部には文様を施す。1576は、口縁部区画内に横「V」字状の沈線を施す。口縁部直下には横位の短沈線とその下に中空の工具による深い刺突を1か所施す。沈線端部に深い刺突を施す。1577は口縁部区画内に3条の沈線を施し、沈線端部に深い刺突を施す。波頂部上面に「V」字状の面をもち、内面に三日月状の刺突を上下に施し、その間に爪形刺突と弧状の短沈線を施す。波頂部直下に把手と考えられる剥離面が残る。胴部に横位の連続刺突と沈線を交互に施す。

#### VIa-3 類土器 (第2-93～95図1578～1590)

1578～1583は平口縁で口縁部上下を棒状工具による刺突で区画して文様帯とし、その区画内に主に斜位の貝殻刺突を密に施す。1578は口縁部が外反し、張りのない胴部は底部に向かってすぼまり、底部はやや直立する器形となる。底面に白色土が付着する。1579は口縁部がやや外反し、胴部がやや張る器形をもつ。胴部外面にススが付着する。1580は口縁部が外反し、胴部はあまり張らない。1581は口縁部がやや外反し、口縁部上位が直立する。

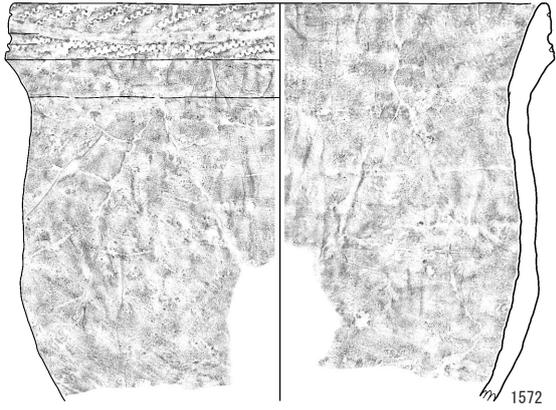
1580と同様に口縁部下端部の刺突を起点に貝殻刺突を施す。1582は口縁部が強く外反し、胴部に張りはない。口縁部内面には強い段をもつ。文様帯に施される斜位の貝殻刺突はややまばらになる。1583は口縁部上下を横位の貝殻刺突で区画し、そこにヘラ状工具による刺突を密に施す。

1584～1590は口縁部の上下を棒状工具等による刺突で区画し、区画内に貝殻刺突をまばらに施す。1584は平口縁で、口縁部は外反する。口縁部中央が凹み口縁下端部に粘土を貼り付けて肥厚させる。口縁部上下を竹管文で区画し、そこに横位の貝殻刺突を螺旋状に施す。1585は波状口縁で、口縁部はやや外反する。口縁部の上中下にヘラ状工具による横位の刺突を施し、この刺突の間にもまばらな貝殻刺突を施す。1586～1589は平口縁で、口縁部が外反する。口縁部下端部が張り出しさらに口縁部中央が凹む。口縁部上下を刺突で区画し、その間に斜位の貝殻刺突をまばらに施す。1587は、胴部内外面にススが付着する。1588は、口縁部がやや薄手であり肥厚しない。1587と1588は、ほぼ同じ文様を構成する。1590は口縁部中央が凹み、さらに口縁部下端部が強く張り出す。口縁部直下は強くくびれ胴部が張り、胴部内面が一部分厚くなる。口縁部上下を竹管文で区画し、その間に斜位の短沈線を施す。

#### VIa-4 類土器 (第2-96～98図1591～1610)

1591・1592は、文様帯に沈線と貝殻刺突を施す。1591は口縁部上下を横位の貝殻刺突で区画して文様帯とし、そこに2条の沈線と横位の貝殻刺突を施す。貝殻刺突は一部重ねて施される。口縁部は直立し、波頂部は強く外反する。口縁部直下でくびれ、胴部はやや張る。波頂部内面に強い指頭圧痕が1か所残る。1592は区画した文様帯に横位の沈線を3条、その間に貝殻刺突を施す。沈線端部に巻貝の頭頂部による刺突を施す。波頂部が1か所残存し、外端に貝殻刺突を施す。口縁部内面に粘土の接合痕が残る。

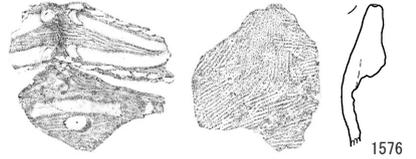
1593～1599は、文様帯に沈線や刺突で縦位の区画を設けるものである。1593～1595は平口縁で、1596～1599は波状口縁である。1593は文様帯に横位の沈線を3条施し、中央の沈線にはヘラ状工具による連続刺突が上書きされる。また、文様帯の上下を区画する横位の連続刺突を結ぶように斜位の沈線とその左右に細い棒状工具による刺突を1列ずつ施し、文様を区画する。口縁部は強く外反し、口縁部直下でくびれ胴部は張らない。1594は口縁部の上端に右下がりの貝殻刺突を、下端に右上がりの貝殻刺突を施して区画する。さらに、山形の沈線3条と貝殻刺突で文様帯を縦に区画し、文様帯には横位の沈線を2条、その間に貝殻刺突を施す。口縁部は直線的に開き、胴部の張りはほぼない。1595は口縁部上下にヘラ状工具による連続刺突を行い区画し、区画内に幅広く浅い



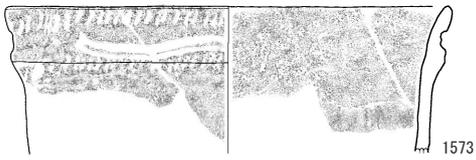
1572



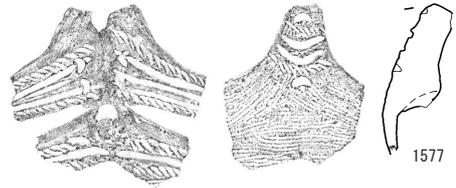
1575



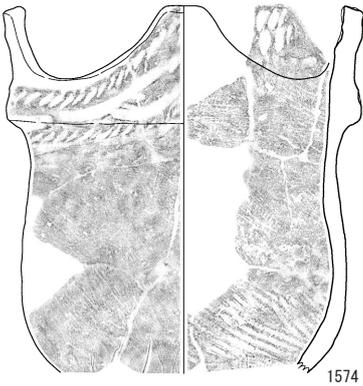
1576



1573



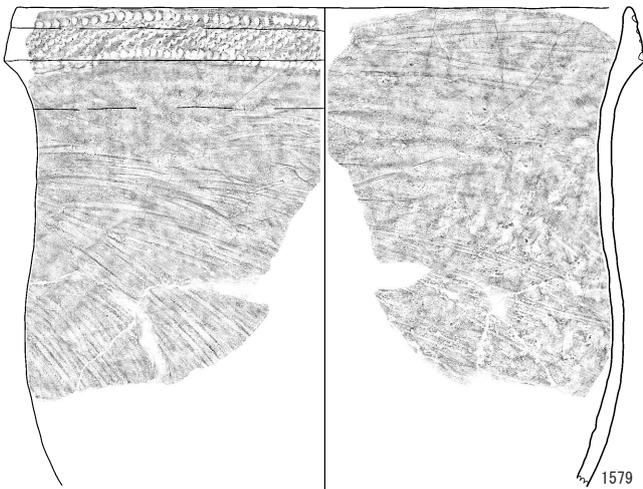
1577



1574



1578

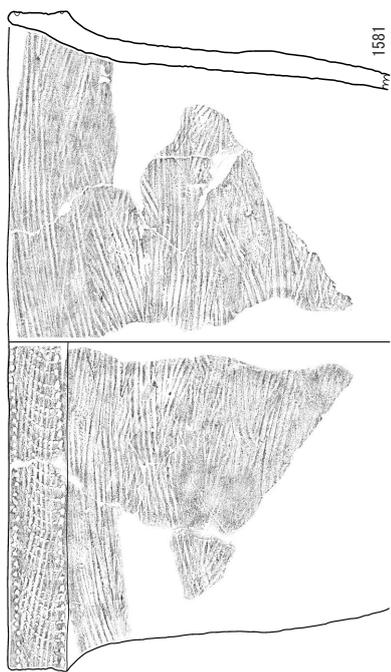


1579



0 [1:4] 10cm

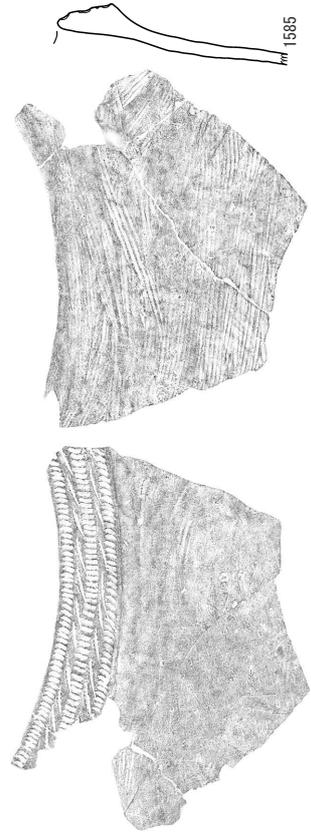
第2-93図 VI類土器(2)



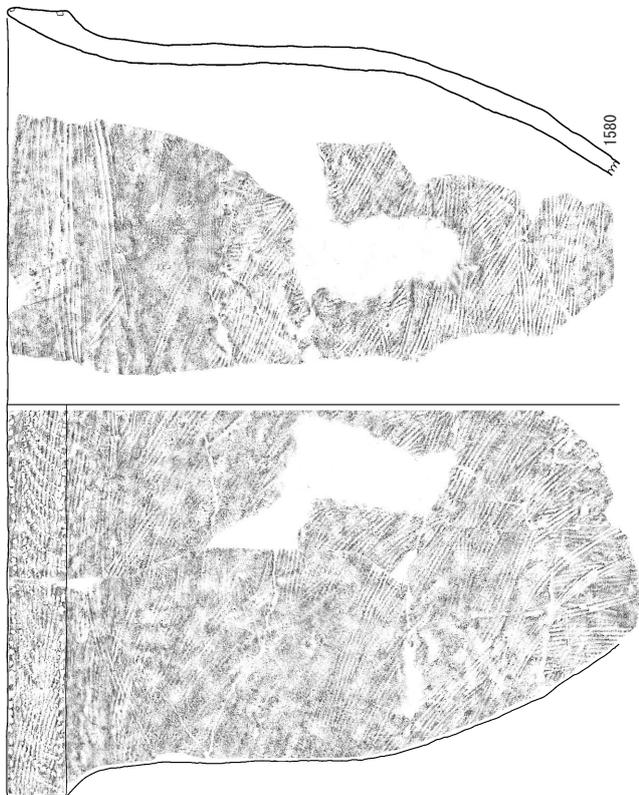
1581



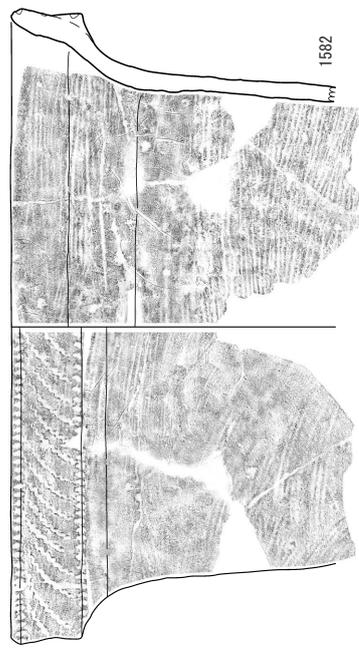
1584



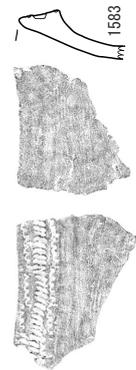
1585



1580

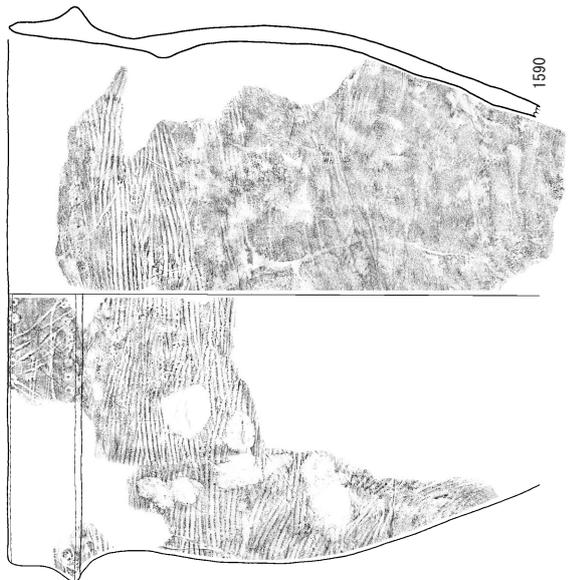
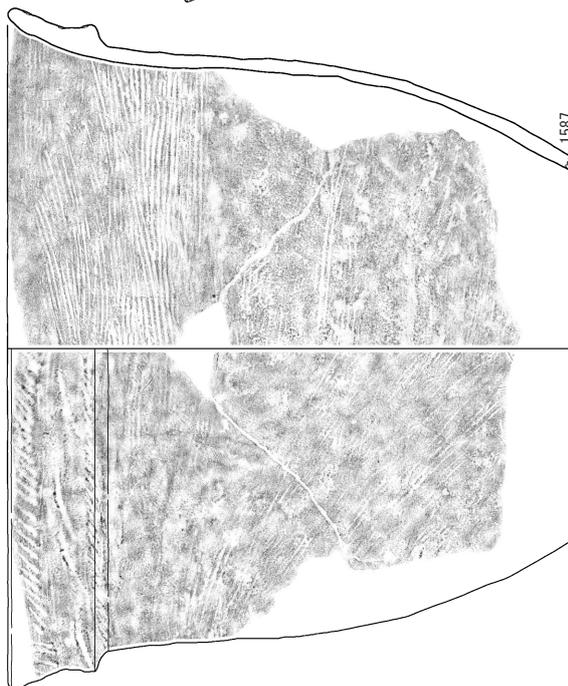
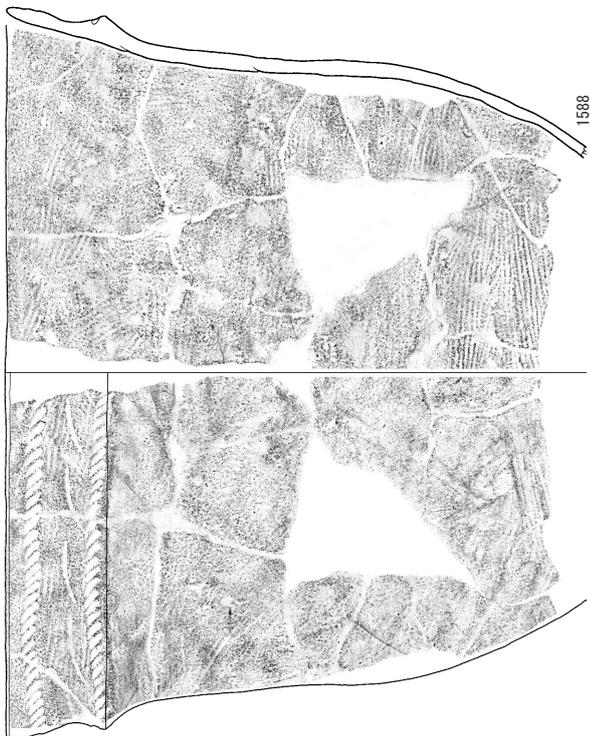


1582



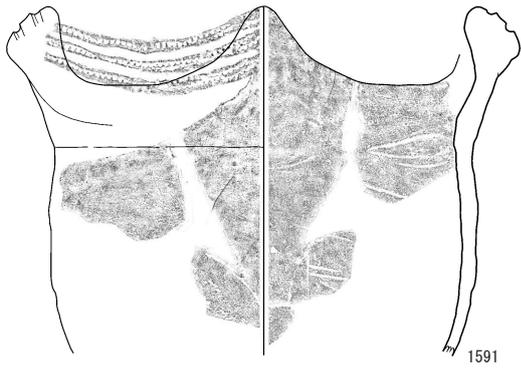
1583

第2-94図 VI類土器 (3)

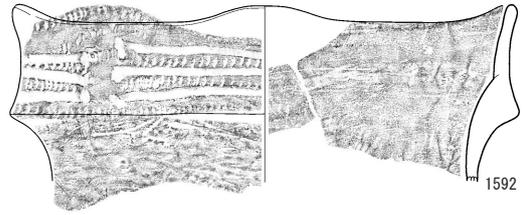


0 [1:4] 10cm

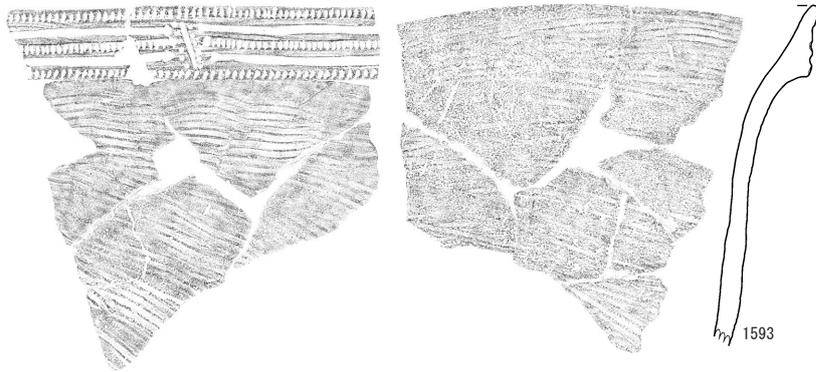
第2-95図 VI類土器 (4)



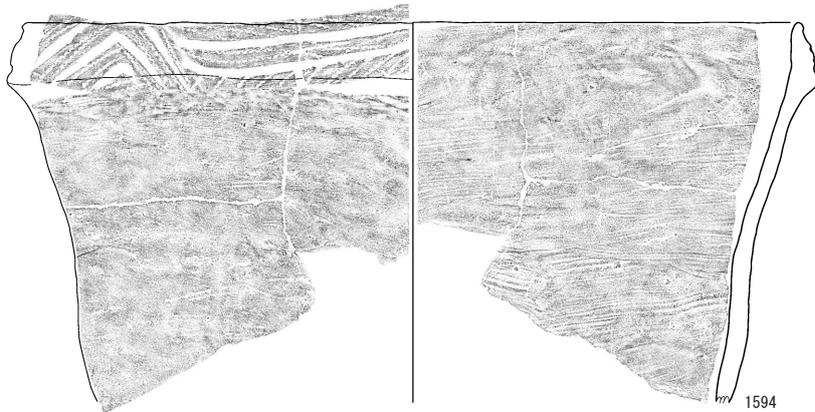
1591



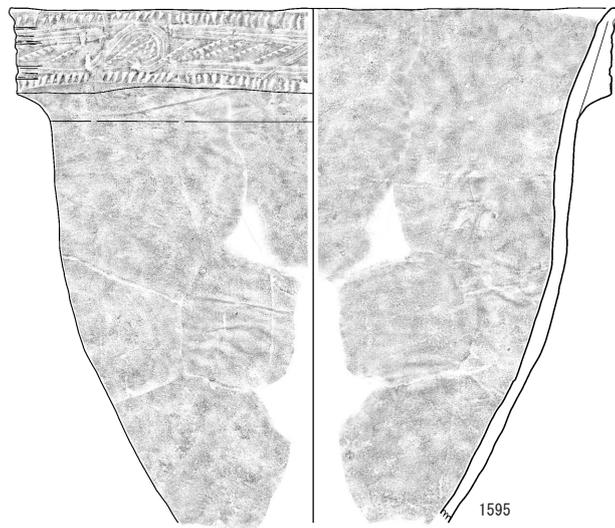
1592



1593



1594



1595

0 [1:4] 10cm

第2-96図 VI類土器 (5)

2条の沈線とその間に斜位の貝殻刺突を施す。また、下位の沈線からつながる渦巻文で縦の区画を行い、さらに4個一組の刺突を文様帯を巡る沈線上にまばらに施す。渦巻文の中にも貝殻刺突を施す。口縁部は外反し、口縁部直下でくびれ、胴部が直立し底部に向かってすぼまる器形をもつ。1596は波頂部外面の屈曲部に刺突を縦位に施し、波頂部上面にも同じ工具による刺突が1か所施される。口縁部文様帯に3条の沈線と沈線の間に貝殻刺突を施す。沈線の端部には棒状工具による深い刺突を施す。3条の沈線のうち、中央の沈線は波状口縁の谷部付近には施文されず、棒状工具による深い刺突が1か所施される。横位の沈線の端部には刺突を行うが、部分的である。1597は、波頂部外面の屈曲部に6個の刺突を縦に施す。口縁部上下を爪形刺突で区画し、その間に1条の幅広の沈線を、沈線端部は深い刺突を施す。口縁部直下から胴部にかけても文様帯と同様の文様を施す。口縁部は外反し、口縁部内面に粘土接合痕が明瞭に残る。また、口縁部下位の肥厚部が1か所剥離し、そこに土器作成時の指紋が明瞭に残る。1598は波頂部外面の屈曲部の左右に2列の刺突を施す。文様帯を巡る2条の沈線は波頂部付近では間隔が広くなり、貝殻刺突が複数回行われる。文様帯の一部には赤色顔料が付着する。口縁部直下でくびれ、胴部はあまり張らない器形をもつ。1599は波頂部外面の屈曲部とその両脇に刺突を縦に施し、さらにその外側に短沈線を施すが、これの下端は強く押し止める。波頂部の頂部にも刺突を施す。上下を連続刺突で区画する文様帯には横位の沈線を2条配し、両端を強く押し止める。さらに波頂部屈曲部の下端から胴部を巡る文様まで縦位3列の刺突を垂下させる。胴部及び口縁部沈線端部の刺突は端部が平坦な棒状工具を使用している。口縁部は直立し波頂部が強く外反し、胴部が張る器形をもつ。波頂部は4か所残存し、上面観は方形である。内外面に整然とした貝殻条痕を行う。外面は橙色を呈し、口縁部から口唇部は黒色を呈す。

1600~1603は波頂部外面の屈曲部に棒状工具による刺突を縦位に行い、その両脇には縦位の貝殻刺突を複数施すものである。いずれも波状口縁である。1600は口縁部上下を刺突で区画し、その間に2~3条の沈線と沈線の間に貝殻刺突を施す。口縁部は外反し、特に波頂部は強く外反する。口縁部断面は三角形を呈し、口縁部直下でくびれ、胴部がほぼ張らない。1601・1602・1603は、口縁部文様帯に横位の沈線と貝殻刺突を施す。1601は肥厚させた波頂部の上面に平坦面を作り、そこに4個の刺突を施す。1602の波頂部上面にも1個の刺突を施す。口縁部文様帯に横位に施される沈線の端部は強く押し止めるように施文する。波頂部は外反し、胴部がやや張る器形をもつ。1603は、沈線の端部に竹管で刺突を施す。1604は口縁部の上下にヘラ状工具の浅い刺突で区画を設け、

区画内に極めて浅い沈線と波頂部外面に刺突を「ハ」の字状に施す。1605は、文様帯に細長い楕円形状の文様を沈線で描く。楕円形状の文様の中には横位の沈線と連続刺突を施す。口縁部はやや外反し、口縁部上位は直立し口唇部は方形を呈す。口縁部内面に粘土の接合痕が残る。1606は、口縁部内外面及び胴部に文様を施す。波頂部外面に2か所の指頭圧痕とそれを囲むように竹管文を施す。口縁部の上下には貝殻刺突を施し区画を行い、その中に沈線で方形の文様と竹管文を施す。口唇部から口縁部内面にかけて幅広の面を作り、その波頂部に大きな指頭圧痕と両脇に貝殻刺突を施す。さらに、幅広の面の上下には貝殻刺突を、その間には2条の平行沈線を施す。胴部は間に刺突を施す2条の沈線で描く渦巻文、その左右に「ハ」の字状に広がる文様を展開させる。口縁部外面に幅広く粘土を貼り付けて肥厚させ、口縁部直下に明瞭な段をもつ。1607は口縁部の上には貝殻刺突、下には沈線を施して区画する。1608・1609は、文様帯に施される横位の沈線に刺突が上描きされる。1610は、文様帯に横位の沈線を3条と貝殻刺突を施す。波頂部外面の直下に突起もしくは把手と考えられる剥離面が残る。波頂部上面から内面にかけて凹みもち、そこに貝殻刺突を施す。波頂部内面の口唇部に半裁竹管文と直下に竹管文を4~5か所施す。

#### VIb 類土器

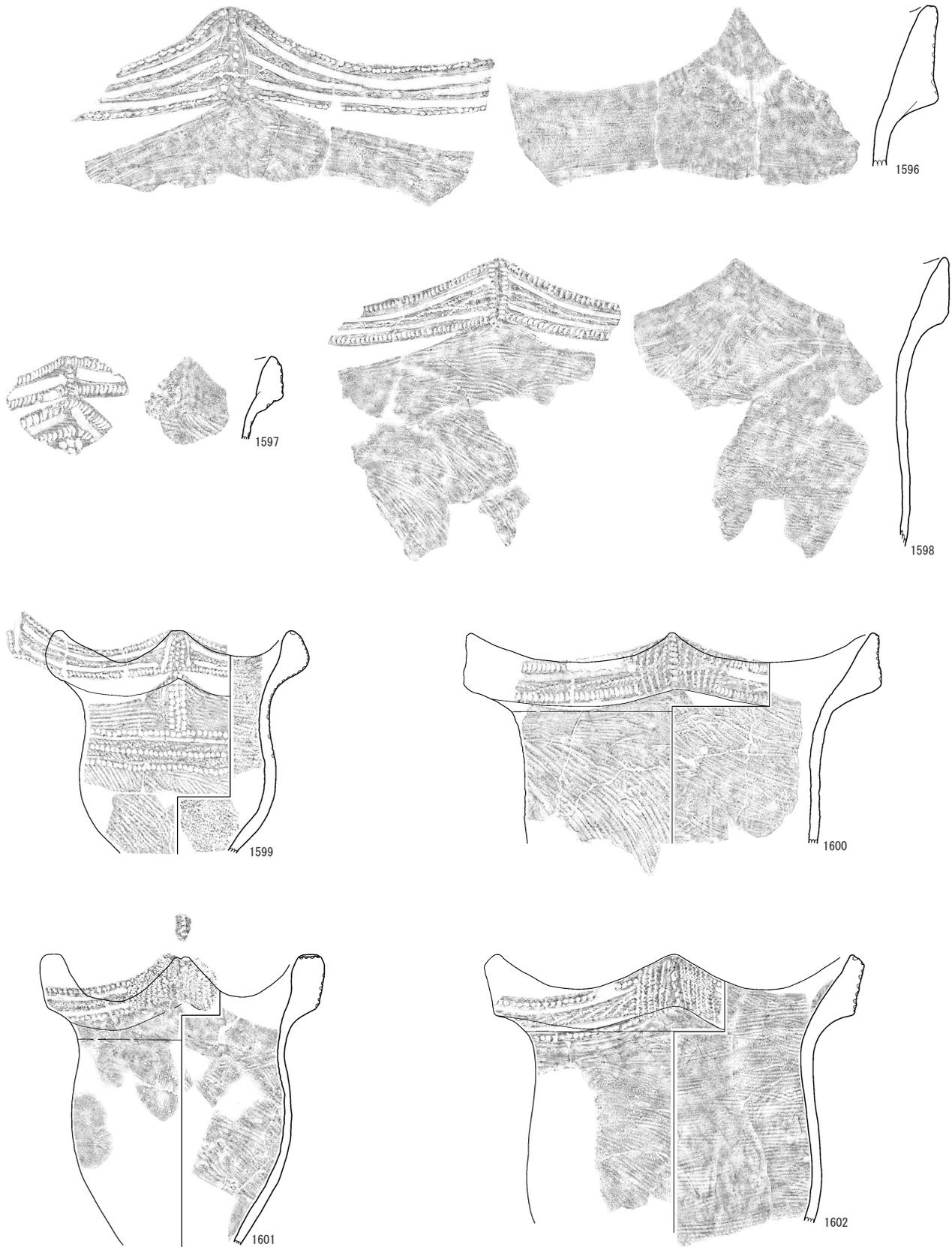
##### VIb-1 類土器 (第2-99図1611~1616)

1611・1612は波状口縁で、口縁部上下を連続刺突で区画した文様帯に「C」字状の凹点を単独で施す。1611は、波状口縁の谷部に「C」字状の凹点を上向きに1か所施す。1612は、波頂部に刺突を2個一組で3列施す。波頂部間に間隔をあけて「C」字状の凹点を上向きに2か所施す。胴部に円盤形加工品と考えられる破片が接合している。円盤形加工品の作成方法を復元する資料となると考えられる。

1613~1616は、区画内に「C」字状の文様を複数施す。1613は平口縁で、文様帯に4個一組の「C」字状の貝殻刺突を4cmほどの間隔で巡らす。1614~1616は、波状口縁である。1614は胴部から口縁部が内湾し、波頂部や谷部に「C」字状の凹点を背中合わせに配置し「X」字状の文様を施す。口縁部下端部が肥厚し口縁部直下に段をもつ。胴部が強く張り出し最大径をもつ。1615は波頂部と谷部に「C」字状の凹点を組み合わせ「X」字状に施す。波頂部の口唇部及び内面に8~9個の刺突を施す。口縁部下端部が張り出し、口縁部直下に段をもつ。1616は、波頂部に「C」字状の凹点を「X」字状に施す。波頂部と口縁部下端部が肥厚し、口縁部直下に段をもつ。口縁部の作りは、粗雑である。

##### VIb-2 類土器 (第2-99~102図1617~1636)

1617~1628は、文様帯に「C」字状の凹点を2~3個



0 [1:4] 10cm

第2-97図 VI類土器 (6)



第2-98图 VI類土器 (7)

と横位の凹線を施すものである。その内、1617～1622は、「C」字状の凹点を同じ向きに重ねて施すものである。1617・1618は、平口縁である。1617は胴部がほぼ張らず胴部中位で屈曲し、底部に向かってすぼまる。文様帯に縦長の凹点と横位の凹線を2条施す。1618は文様帯に横位の凹線を2条巡らせ、凹線上に「C」字状の凹点を上向きに縦に並べて施す。1619・1620は、平口縁の口唇部にヒレ状突起が付くものである。1619は文様帯に横位の凹線を1条巡らせ、突起部外面には上向きの「C」字状の凹点を縦に3個、突起部間の谷部には2個施す。突起部の断面は方形を呈し、その口唇部と内面に9～10個の刺突を施す。1620は文様帯に浅く幅の広い凹線を1条巡らせ、突起部外面と突起部間の谷部に上向きの「C」字状の凹点を縦に2個施す。ゆるやかなヒレ状突起をもち、胴部が緩く張り、底部に向かってすぼまる器形である。底部接合面で剥離する。1621は、波状口縁をもつ。口縁部下端部が肥厚し、口縁部直下でくびれ、胴部はあまり張らず胴部下位へ向かってすぼまる。胴部下位から底部は直立する。口縁部から底部まで器壁は薄く、胴部内外面にススが付着し、胴部内面には炭化物が付着する。文様帯に「C」字状の凹点を上向きに2個、約2cm間隔で巡らす。1622は、文様帯に同じ向きの「C」字状の刺突を2個一組で上下に施す。また、横位の凹線は、部分的である。口縁部に焼成後の穿孔を1か所もつ。

1623～1628は文様帯に施される「C」字状の凹点を組合せ、主に「X」字状の文様を描くものである。1623は、平口縁である。文様帯に沈線で「X」字状の文様を施して、その両側には端部を深く差し込む2条の沈線を巡らす。1624～1628は、波状口縁となる。1624～1626は、文様帯に横位の凹線を2条と「C」字状の凹点を「X」字状に描く。1624は口縁部が内湾し、口縁部上下を区画する刺突はややまばらに施す。1625・1626は胎土が灰色を呈し、2次焼成によって変色したものと考えられる。1627は、口縁部下端が強く張り出す。口縁部の上下を細い棒状工具による連続刺突を行い、区画を設ける。波頂部外面には「C」字状の凹点を上向きに2個、下向きを1個施す。波頂部間の谷部には同じような凹点を上向きと下向きを1個ずつ施す。また、文様帯には横位の沈線が2条巡る。1628は波頂部の直下で途切れる横位の凹線を2条施すが、その端部は強く突き刺す。波頂部間の谷部には「C」字状の凹点を「X」字状に描く。

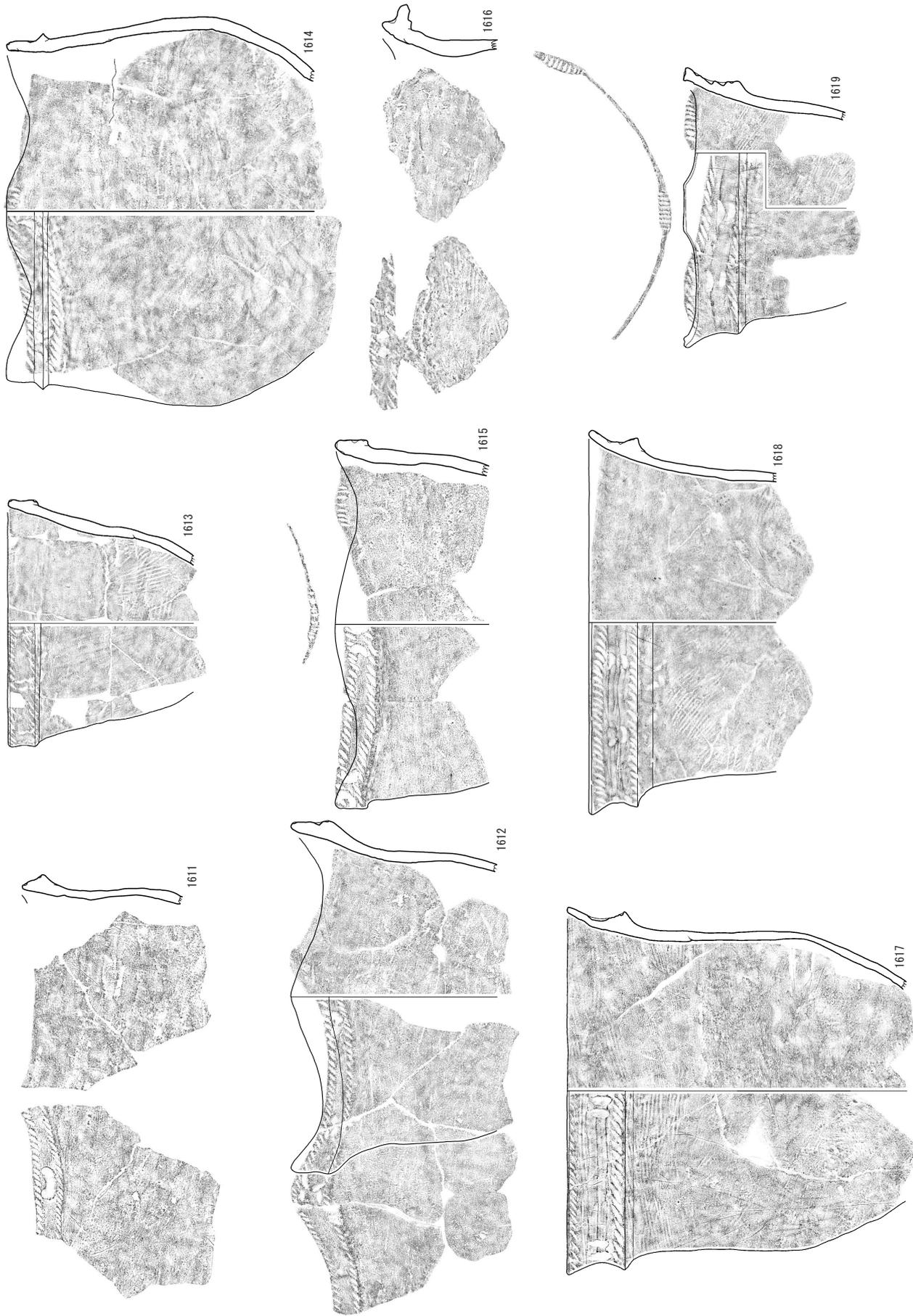
1629～1631は、文様帯に凹点と凹線で多様な文様を描くものである。1629は、波頂部外面に縦長の凹点を2個とその直上に半円形の凹線を施す。1630は口縁部上下の連続刺突を波頂部外面の屈曲部まで施し、方形の区画を設ける。区画内に横位の凹線4条を施す。さらに、凹線の両端部付近に「C」字状の凹点を2個一組として施す。谷部には2条の凹線で山形文を描き、その上下に横位

の、両脇に斜位の「C」字状の凹点を2個ずつ施す。波頂部の口唇部と内面に刺突を5～6個施す。口縁部直下に横位の連続刺突を3段施し、波頂部下の口縁部下端から胴部にかけて長方形の突帯を縦位に貼り付け、その下に低い横位の長楕円形突帯を貼り付ける。縦位の突帯の上面及び側面に、横位の突帯の縁と突帯を取り囲む様に連続刺突を施す。さらに、横位の突帯の下位に10個の刺突を2段施す。口縁部はやや内湾し、波頂部は外反し、胴部はやや張る。胴部内外面に部分的にススが付着する。口縁部下位は強く張り出す。1631は平口縁で、中央が凹んだ口縁部の上下を刺突で区画する。その区画内に太い沈線で波形文を描き、2個の「C」字状凹点は、縦に2～3回ずらして施文する。口縁部下端部に粘土を貼り付けて肥厚させる。

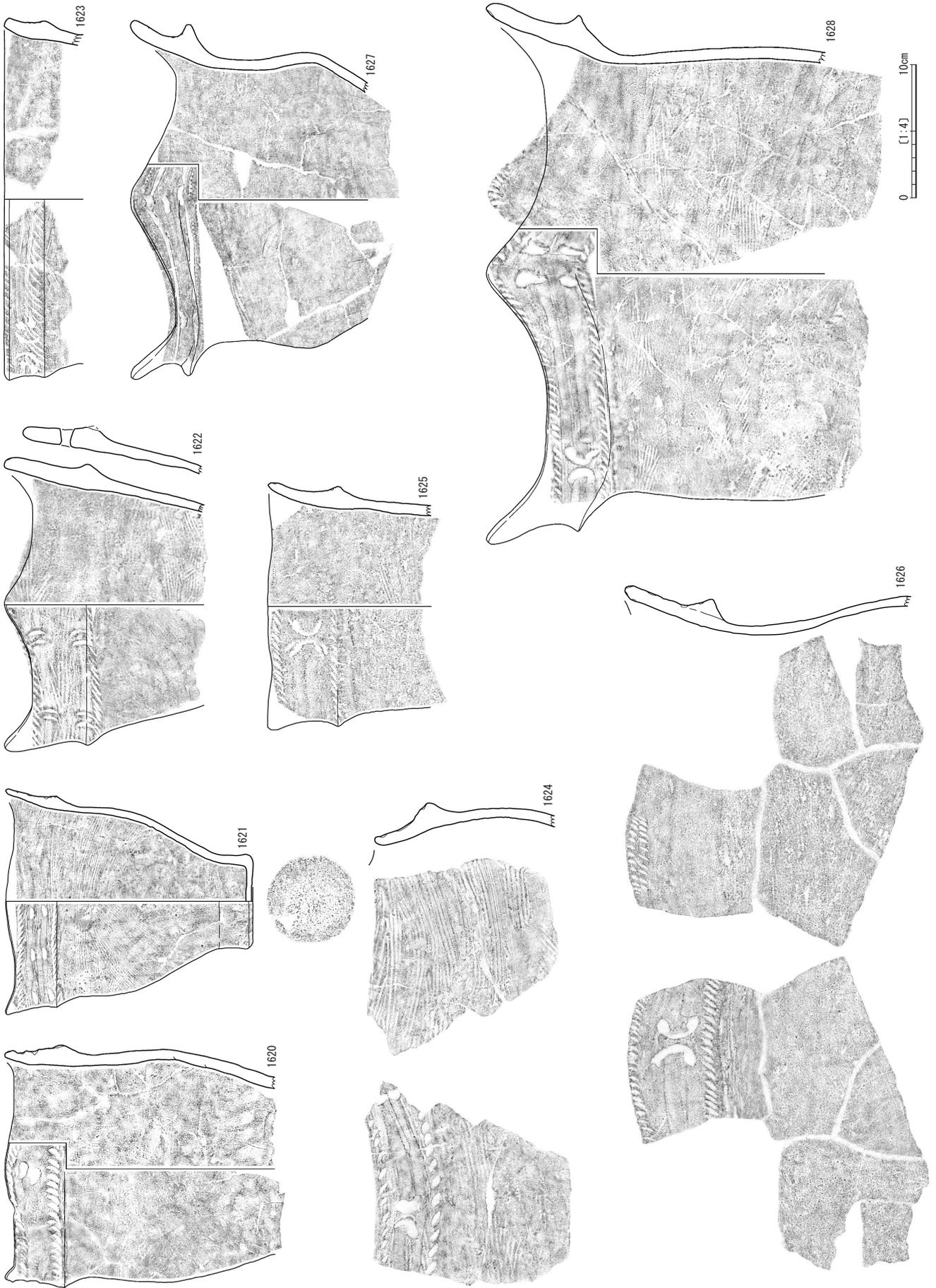
1632～1636は、文様帯に4個以上の「C」字状の凹点で構成する文様をもつものである。1632は波頂部外面に「C」字状の凹点を上向きに4個、波頂部間の谷部に縦に2個×2列施す。横位の凹線は、3条巡らす。波頂部の口唇部及び内面に6～8個の刺突を行う。口縁部は外反し、口縁部下端部は強く張り出す。口縁部直下に段をもち、胴部がやや張る。口縁部内面に植物と考えられる圧痕が残る。1633は文様帯に1～2条の凹線を横位に巡らせ、上向きの「C」字状の凹点を波頂部外面に縦に5個、その左右に2個ずつ施し、さらに外側の左右に1個ずつ施す。波頂部間の文様帯には2個一組の「C」字状の凹点を方向を変えて施す。口縁部は外反し、口縁部下端部は強く張り出す。1634は、文様帯に2～3条の凹線と「C」字状の凹点を2～4個一組で施す。波頂部の凹線は横位に3条、平口縁部分は半円状に2条施す。下向きの「C」字状の凹点を波頂部外面には縦位に3個、その左右の上下に2個施す。さらに、その横には4個と2個の「C」字状の凹点を組み合わせて文様を描く。口縁部は外反し、口縁部下端部は強く張り出す。1635は口縁部区画内に2～3条の凹線を施し、6個一組の「C」字状の凹点を組み合わせて文様を描き、これを一定間隔で施す。波頂部内面に横位の「C」字状の凹点を縦に4個施す。波頂部口唇部に6個の刺突を施す。口縁部内面が部分的に赤色を呈す。1636は、4個一組の「C」字状の凹点を「X」字状に施す。波頂部は欠損し、波頂部直下に把手をもつ。把手の外面及び側面に幅広の爪形刺突を各列が互い違いになるように施す。胎土が橙色からやや灰色を呈し、表面がやや摩滅することから二次焼成の影響と考えられる。

#### VIb-3 類土器 (第2-102～104図1637～1646)

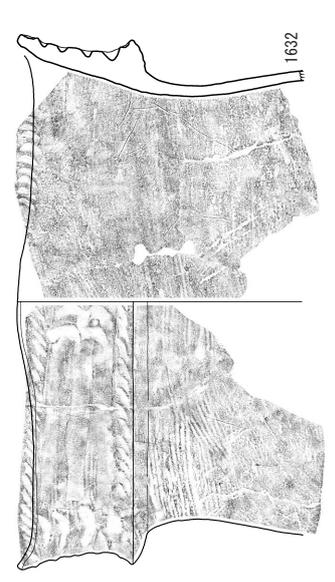
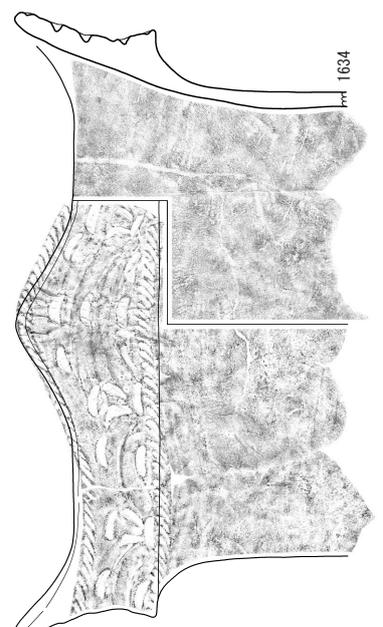
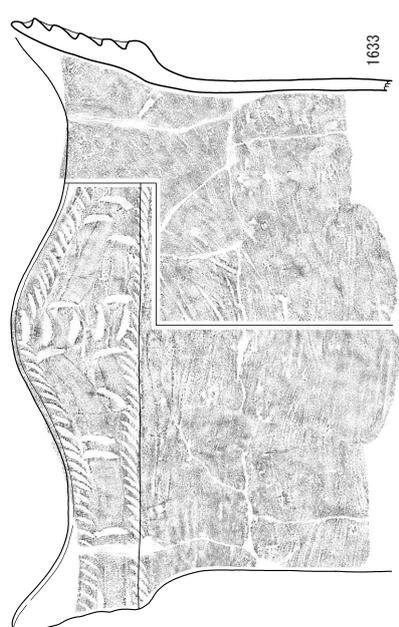
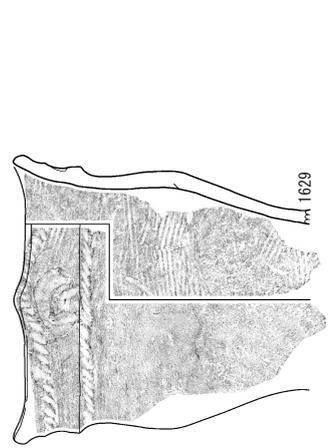
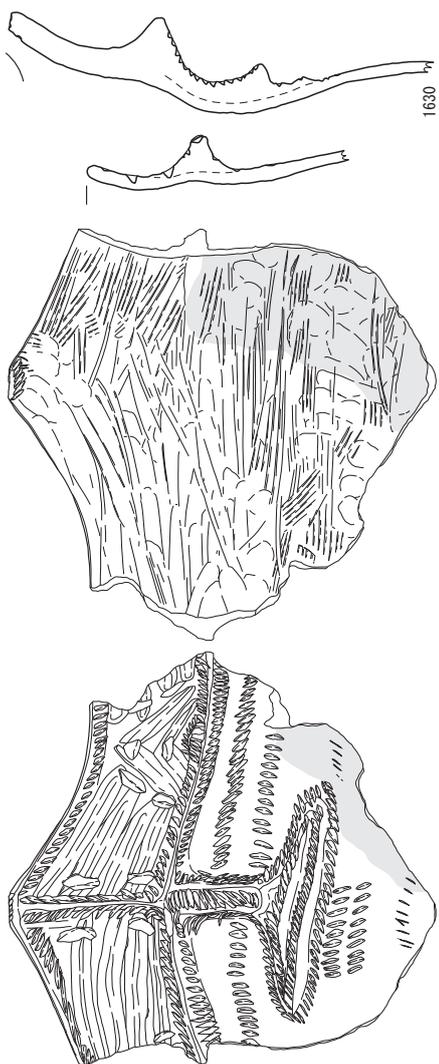
1637～1640は、平口縁である。口縁部上下を刺突で区画し、区画した中に1～2条の凹線と凹線上に4～5個一組の「C」字状の凹点を施し、凹線間や凹線上にも貝殻刺突を施す。1637・1638は文様帯に2条の凹線と同じ

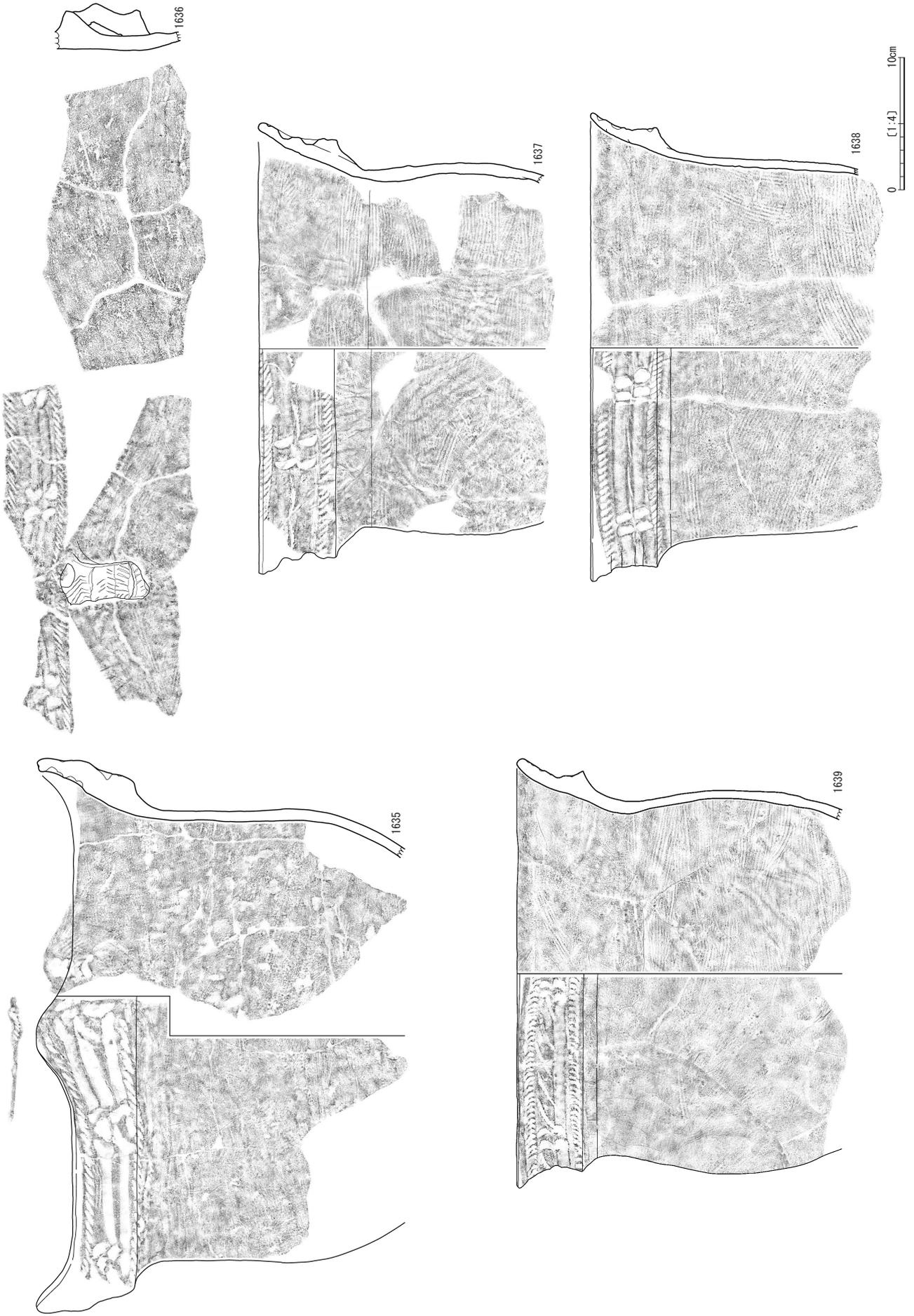


第2-99图 VI類土器 (8)



第2-100図 VI類土器 (9)





第2-102図 VI類土器 (11)

向きの「C」字状の凹点を4個一組で施し、凹線の間に横位の貝殻刺突を施す。1637は口縁部が強く外反し、胴部はやや張る。1638は口縁部が外反し、胴部は張らない。1639は文様帯の下位に1条の凹線、その上位に斜位の貝殻刺突を施し、4個一組の「C」字状の凹点を一定間隔で施す。口縁部は強く外反し、胴部は張る。口唇部から胴部外面にかけてススが付着する。1640は文様帯に2条の凹線と5個一組の「C」字状の凹点を施し、凹線の間に横位からやや斜位の貝殻刺突を密に施す。

1641・1642は、波状口縁である。口縁部上下を刺突で区画して文様帯とし、そこに2条の凹線と2～5個一組の「C」字状の凹点と凹線間に貝殻刺突を施す。1641は文様帯に5個一組の「C」字状の凹点と2条の凹線を施し、凹線間に斜位の貝殻刺突を施す。口縁部は外反し、口縁部下端部が強く張り出す。1642は文様帯に2条の凹線を巡らせ、「C」字状の凹点を5個一組と2個一組で構成する文様を一定間隔で交互に施す。凹線間に貝殻刺突を横位に施す。

1643は方形の突起をもち、その口唇部に1条の沈線と口唇部内面に連続刺突を施す。口縁部上下を浅い刺突で区画し、その区画内に2条の浅い凹線と4個の「C」字状の凹点を施す。突起部の両端に4個、中央に6個の「C」字状の凹点と3条の浅い凹線と凹線間に浅い刺突を部分的に施す。

1644～1646は、文様帯に2～3条の凹線と2～6個の「C」字状の凹点を施す。さらに、凹線の間に工具による連続刺突を施す。1644は文様帯に2条の凹線と凹線端部に「C」字状の凹点を施し、凹線の間に爪形刺突を施す。1645は波頂部に「C」字状の凹点を6個上向きに配し、平口縁部に4個の「C」字状の凹点を施し、3条の凹線の間には連続刺突を施す。波頂部の口唇部及び内面に刺突を6条施す。1646は「C」字状の凹点を波頂部外面の屈曲部両脇に3個施し、これを起点とした凹線を3条巡らし、中央の凹線内には連続刺突を施す。波頂部間の谷部には凹線上に7個の「C」字状の凹点を施す。波頂部上面の口唇部に刺突を施し、内面に刺突を7か所、その下位に下向きの「C」字状の凹点を1個施す。口縁部は強く外反し、胴部は張らない。

#### VI c 類土器

##### VIc-1 類土器 (第2-105・106図1647～1657)

1647・1648は、口縁部の下端に貝殻による連続刺突を巡らせる。1647は内側に肥厚した口唇部を文様帯とし、口唇部下端に横位の貝殻刺突を巡らす。文様帯には工具による刺突を連続して施す。胴部は直立する。1648は口縁部の幅が狭く、文様帯には斜位の貝殻刺突を密に施す。口縁部は、直線的に外に開く。

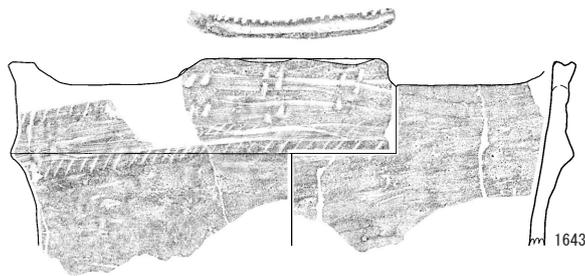
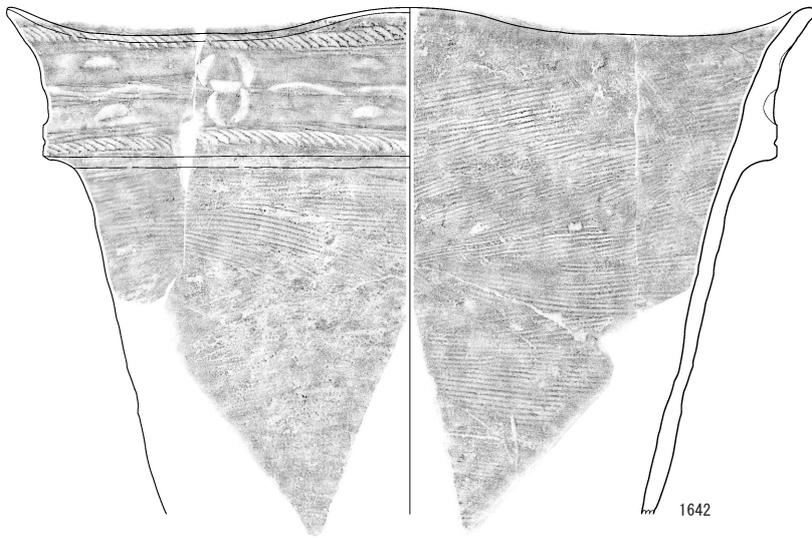
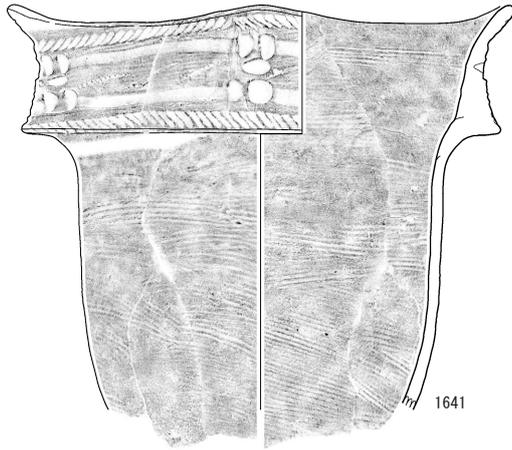
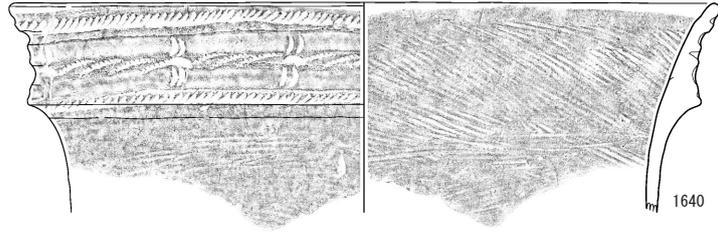
1649～1657は、口縁部の下端に工具による連続刺突を巡らせる。1649は文様帯に弧状の沈線や横「V」字状の

沈線を施し、胴部から口縁部にかけては直線的に立ち上がる。内外面にススが部分的に付着し、胴部の内外面の一部には炭化物が付着する。1650は、文様帯に2条の沈線を巡らせる。口唇部には爪形刺突を密に施す。波頂部直下に把手をもち、外面に1条の沈線を縦位に深く2段階で施す。波頂部内面に横「W」字文を施す。口縁部はやや外反し、口縁部下端部が張り出す。1651～1653は平口縁で、文様帯に斜位の貝殻刺突を施す。1651は底部接合箇所剥離し、胴部内外面に植物の種子と考えられる圧痕が残り、胴部内面にはスが残る。1652の口縁部下端に施される刺突は、場所によって高さが異なる。1653は口縁部が内湾し口縁上位が強く外反し、胴部はやや張りをもつ。1652と同様に口唇部が細かく波打つ。1654は波状口縁で、口縁部下端に巻貝による貝殻刺突を施し、文様帯には二枚貝による横位もしくは斜位の貝殻刺突をまばらに施す。波頂部内面にも巻貝による貝殻刺突を施す。口縁部の下端は張り出し、直下でくびれ、胴部は張る。1655・1656は波状口縁で、文様帯に横長の刺突を施す。1655は、文様帯に横長の刺突を2個一組で間隔をあけて施す。波状口縁だが波頂部は一定ではなく歪である。外面に部分的にススや炭化物が付着する。1656は波頂部外面に横長の刺突を縦に4個、波頂部間に縦に3個を2か所に施す。口唇部にも貝殻刺突を密に施す。胴部から口縁部は内湾し、口縁部上位が外反する。胴部は張りをもち、底部に向かってすぼまる。口縁部下端の張り出しは不均衡である。1657は、文様帯に斜位の貝殻刺突と横向き「C」字状の凹点2個を交互に施す。口縁部直下の胴部外面にススが付着する。

##### VIc-2 類土器 (第2-106～107図1658～1667)

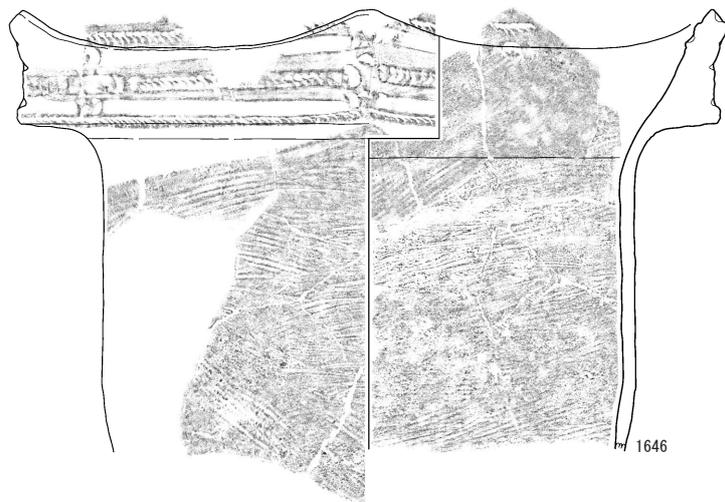
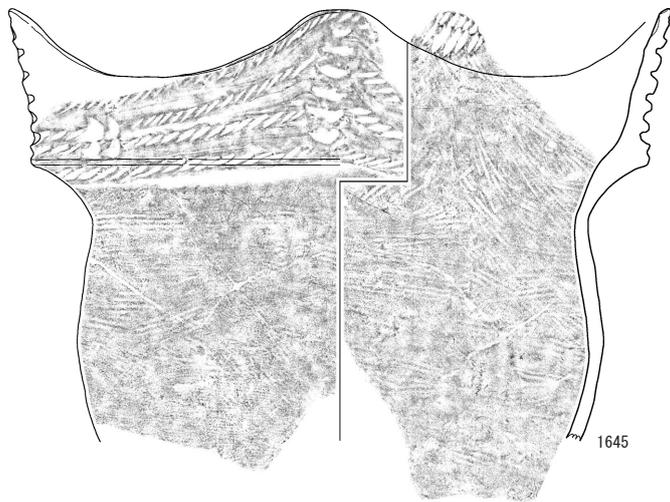
1658～1660は波状口縁で、文様帯に横位の沈線を施す。1658は、文様帯に波頂部に向かって横位の沈線を2条施す。口縁部は外反し、波頂部は特に強く外反し口縁部が強くくびれる。口縁部下端部が張り出し、胴部が張る。波頂部の口唇部は方形を呈し、そこに4条の刻みを施す。波頂部内面にも上向きの「C」字状の凹点を縦に3個施す。焼成後の穿孔が、胴部上位に1か所残る。1659は文様帯に波頂部へ向かって3～4条の沈線を施し、縦位の短沈線を施す部分もある。波頂部は強く外反し、口縁部はくびれ、口縁部下端部が張り出す。1660は、あまり肥厚しない文様帯に4条の沈線を施す。胴部にも沈線を斜位に配置する。

1661～1664は、文様帯に横位や斜位・弧状の凹線を施す。1661は、文様帯に横位の凹線を3条と斜位の凹線を2条施す。口縁部下位が肥厚し、口縁部直下が強くくびれる。沈線の端部は深く突き刺す。1662は、文様帯に2条一組の弧状の凹線を上下に向きを変えながら一定間隔で施す。口縁部下位が肥厚し、胴部から口縁部にかけて直線的に開く。1663は、文様帯に浅い弧状の凹線を2～



0 [1:4] 10cm

第2-103図 VI類土器 (12)

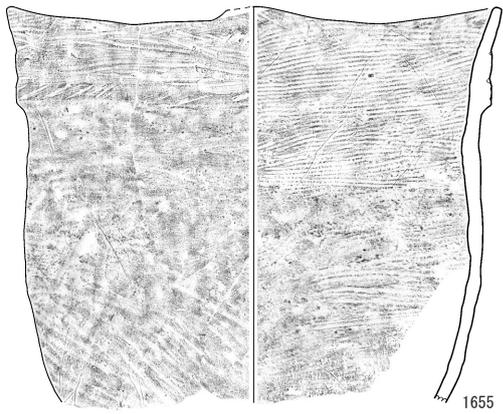


0 [1:4] 10cm

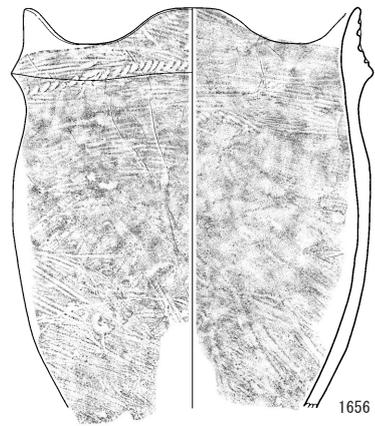
第2-104図 VI類土器 (13)



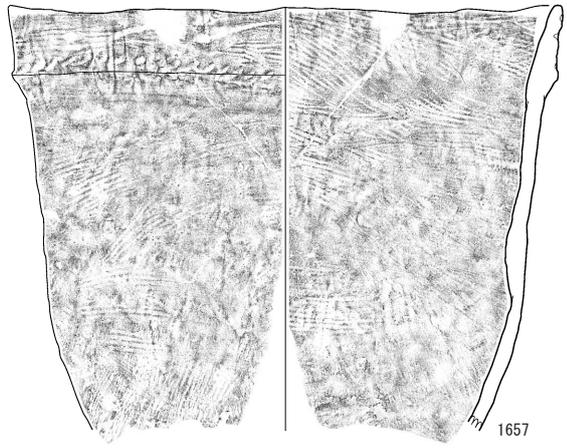
第2-105図 VI類土器 (14)



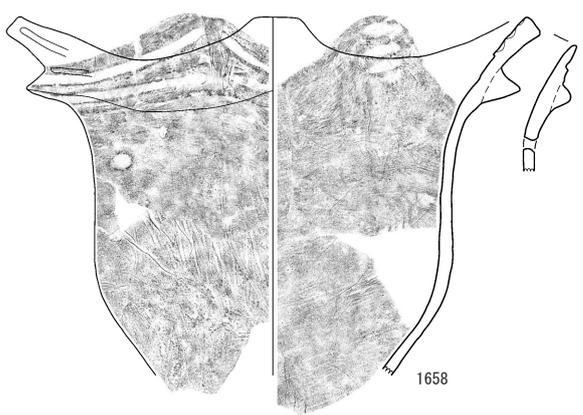
1655



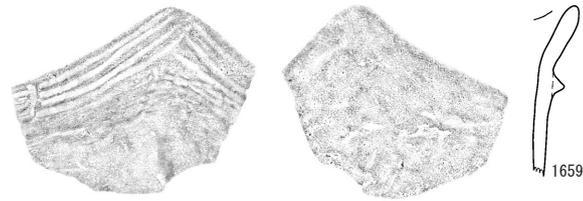
1656



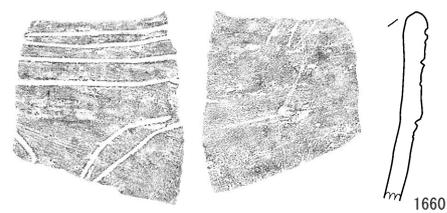
1657



1658



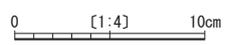
1659



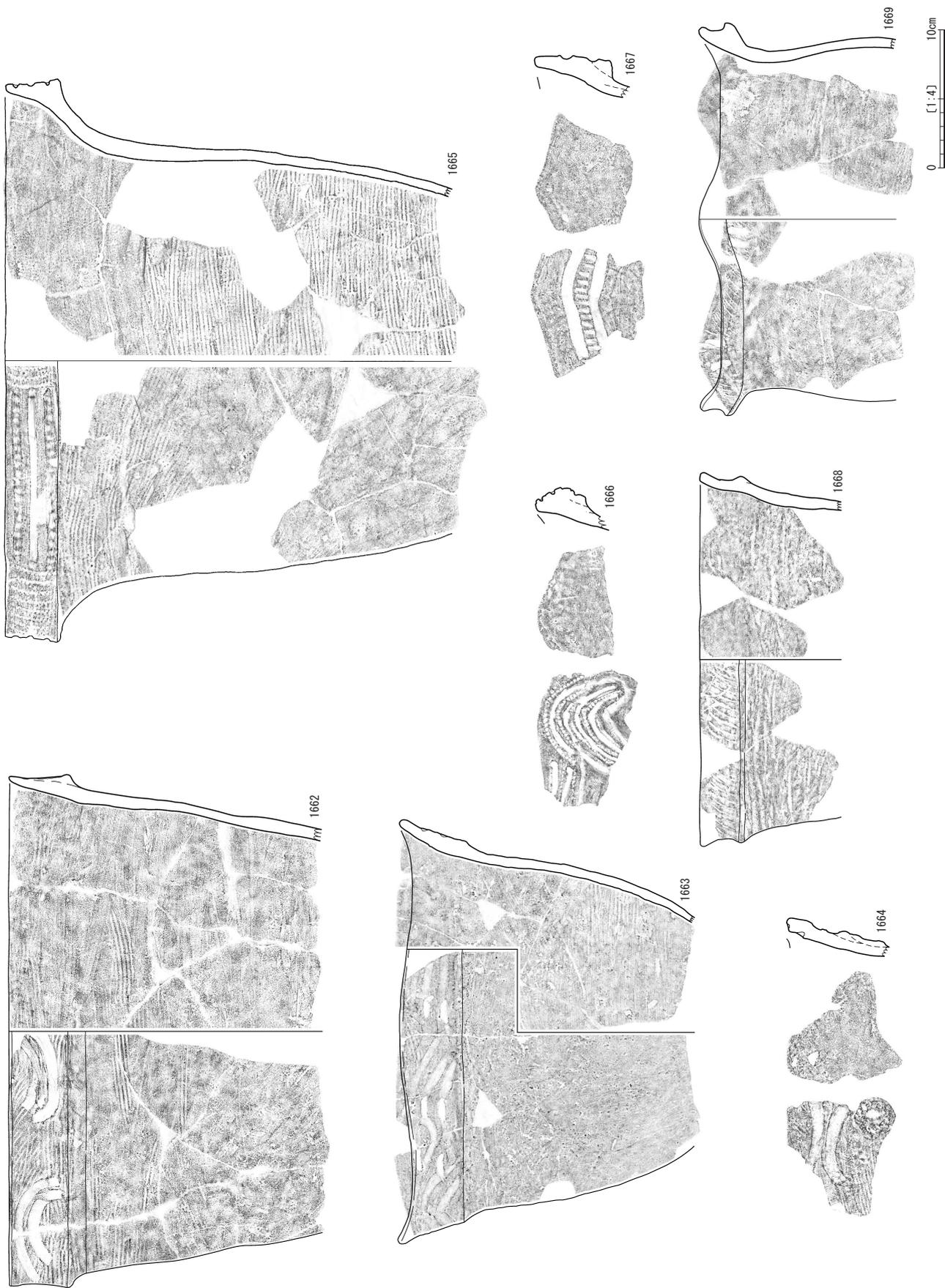
1660



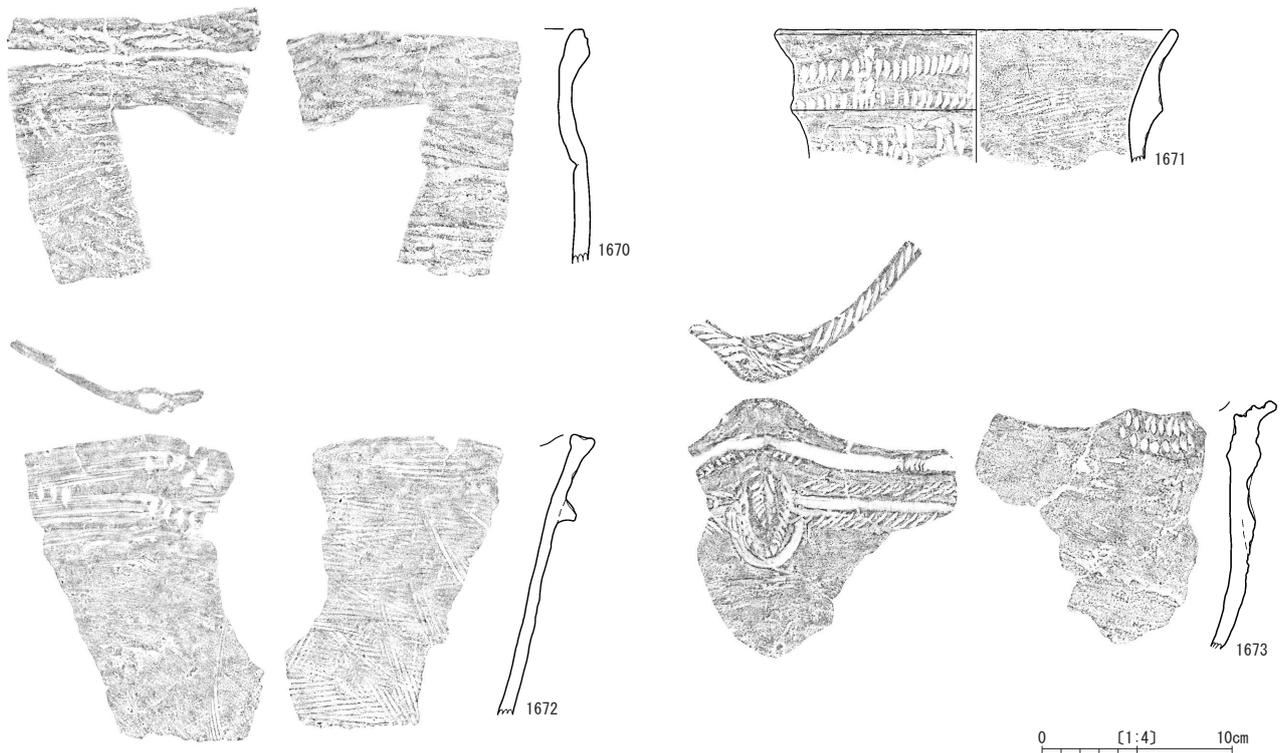
1661



第2-106図 VI類土器 (15)



第2-107图 VI類土器 (16)



第2-108図 VI類土器 (17)

3条重ねながら施す。その上に下向きの「C」字状の凹点を2個一組として間隔をあけて施す。口縁部は外反し、胴部はあまり張らない。1664は、文様帯に弧状の凹線を逆向きにして施す。波頂部直下に円形の粘土を貼り付けてその中央を凹ませ、円形に刺突を施す。波頂部口唇部から内面にかけて「C」字状の凹点を2個施す。

1665～1667は、文様帯に沈線と刺突を行う。1665は平口縁で、口縁部断面が三角形を呈する。文様帯を多条の縦位の貝殻刺突で区画する。さらに3条の平行沈線を巡らせ、その上下の沈線内に連続刺突を施す。口縁部は強く外反し、胴部は直立する。1666は波頂部に半円状の貝殻刺突と沈線を交互に各2条施し、沈線内に1か所ずつ刺突を施す。沈線端部には深い刺突を施す。その左右に横位の沈線と貝殻刺突を2条ずつ交互に施す。波頂部直下に口縁部とつながる逆「U」字形の突帯を貼り付け、そこに貝殻刺突と沈線を2条ずつ施す。口縁部は外傾し、口縁部直下に段をもつ。1667は、文様帯に2条の平行沈線とその間に連続刺突を施す。

#### VI c-3 類土器 (第2-107図1668・1669)

1668・1669は文様帯全面に斜位の爪形刺突文を施し、その上から刺突や「C」字状の凹点を施す。1668は平口縁で、「C」字状の凹点を組合せて「X」字状の文様を一定間隔で施す。1669は波状口縁で、波頂部と谷部に先端が長方形の工具による凹点を施す。口縁部は外反し、

胴部外面に一部ススが付着する。

#### VI c-4 類土器 (第2-108図1670～1673)

1670～1673は、文様帯に多様な文様を描くものである。1670は文様帯に工具刺突や貝殻刺突、短沈線などを斜位や横位に不規則に施す。口縁部は外反し、胴部は張る。1671は平口縁で、文様帯に2列の連続刺突を施し、その間に浅い凹線を施す。胴部には浅い凹線と刺突を、凹線端部には刺突を施す。口縁部は外反し、口縁部中央は凹み、口縁部直下がくびれる。1672は波状口縁で、文様帯に横位の凹線と刺突を施す。波頂部上位に菱形に刺突を4個、下位に横方向に刺突を4個施し、その左右に凹線を2条施す。凹線間に部分的に刺突を3個施す。凹線の端部には刺突を施す。口唇部は方形を呈し、波頂部の口唇部に1か所凹点を施す。口縁部下端部が肥厚し、胴部から口縁部に向かって外に開く。口縁部は歪で焼成時のひび割れが残る。1673は波状口縁で、文様帯に幅広の沈線と沈線の上に6条の爪形刺突を施す。波頂部の口縁部下端部には刺突を施す。胴部には横位の凹線と上下に貝殻刺突を巡らせ、波頂部直下に長楕円形の突帯を貼り付けその外面に刺突を施す。突帯を囲む様に刺突と凹線を施す。刺突は、一部突帯の側面にかかる。口唇部に平坦面をもち、そこに斜位の刺突を施す。波頂部の上面は特に幅広で「C」字状に刺突を施し、その中央に深い刺突を施す。波頂部内面には8～10個の刺突を2列施

す。口縁部は直立し、波頂部の口唇部外面のみ強く外に張り出す。胴部はあまり張らない。

#### VI d 類土器

##### VI d-1 類土器 (第2-109図1674~1678)

1674~1678は、狭い幅の口縁部をもつものである。この中でも1674・1675は口縁部が直立し、1676~1678は外反する。

1674は口縁部下端部がやや張り、口縁部直下にくびれをもつ。胴部はあまり張らない。1675は、波状口縁である。波頂部は1か所残存するが、その半分近くは欠損する。波頂部の外面には屈曲部を作り、上面観は方形を呈すと考えられる。口縁部下端はやや張り出し、口縁部直下にくびれをもつ。胴部はやや張り、底部に向かってすぼまる。1676は、波頂部上面に幅広の凹みを作る。口縁部直下にくびれをもつ。1677は波頂部が1か所残り、波頂部の上面に方形の突起をもつ。突起の上面はやや菱形状に凹み、波頂部外面には屈曲部をもつ。1678は口縁部が肥厚し、口縁部直下にくびれをもつ。口縁部中央は凹むが、波頂部下は大きく凹む。口縁部幅は狭いが、波頂部のみ間延びする。上面観は、円形を呈す。

##### VI d-2 類土器 (第2-109・110図1679~1690)

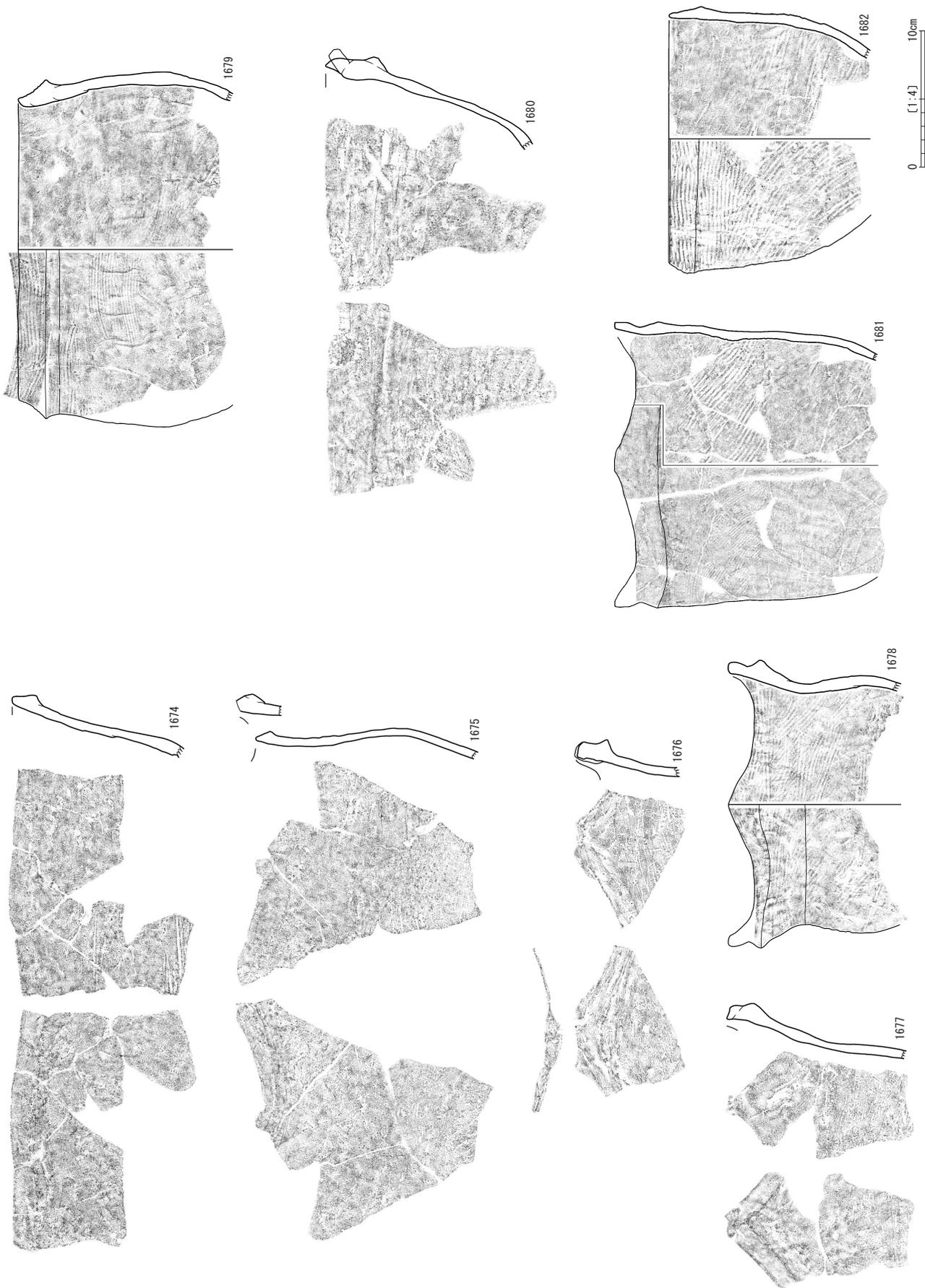
1679~1690は、幅の広い口縁部をもつ。1679は胴部から口縁部が内湾し、胴部に最大径をもつ。口縁部下端が肥厚し、口縁部中央が凹む。口縁部直下にはくびれをもつ。口唇部は、やや方形を呈す。口縁部は横位の貝殻条痕で、胴部上位は横位の条痕後ナデで、胴部下半はケズリ後ナデで器面調整を行う。口縁部内面に粘土接合痕が良好に残る。1680は口縁部が直立し、口縁部下端が張り出す。口縁部直下にくびれをもち、胴部はほぼ直立する器形である。1681は、口縁部内面に接合痕が残る。胴部から口縁部にかけてやや外に開き、胴部の張りは見られない。口唇部は、方形を呈す。1682は胴部から口縁部が直立し、胴部から底部に向かってすぼまる。口縁部から口縁部直下にかけて横位の貝殻条痕を、胴部は斜位の条痕を行う。1683は、波頂部外面に逆「V」字状の粘土紐を貼り付る。波頂部の上面は押し潰したような平坦面をもち、そこに刺突を施す。波頂部外面には、屈曲部をもつ。1684は口縁部上端がやや外反し、下端は張り出す。口縁部直下に段をもち、胴部は直立する。口縁部は横位の条痕後ナデを行う。1685は、胴部から口縁部にかけて直線的に外に開く。口唇部は、方形を呈す。1686は、口縁部端部がやや外反する。胴部内面に接合痕が残る。1687は、口縁部下端の張り出しは弱い。口縁部直下でややくびれ、胴部は張りをもつ。口唇部は部分的に方形を呈す。1688は口縁部が外反し、口縁部直下でくびれ、胴部は張る。1689は胴部から口縁部にかけて直線的に外開きとなり、口唇部は平坦に仕上げ、口縁部下端が張り出す。波頂部外面に屈曲部を作り、上面観は方形を呈すと考えら

れる。1690は口縁部が強く外反し、口縁部下端が張り出す。口縁部直下は強くくびれ、胴部は張りをもつ。口縁部に横位の条痕後部分的にナデを、胴部も口縁部直下は横位、中位以下は斜位の条痕を行う。

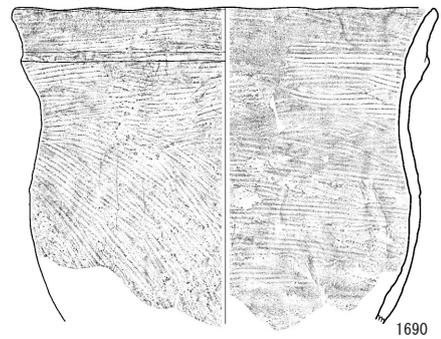
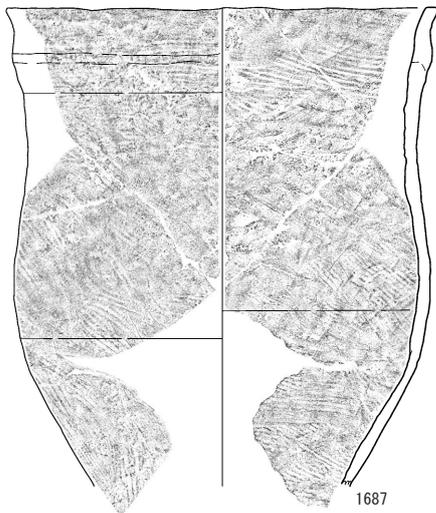
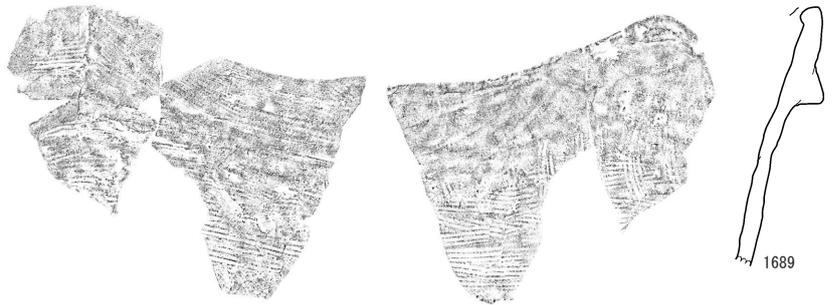
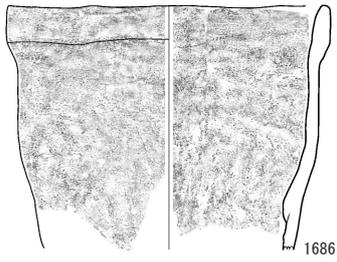
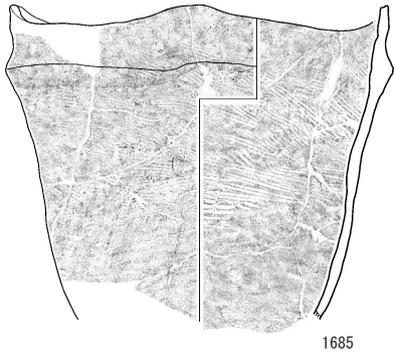
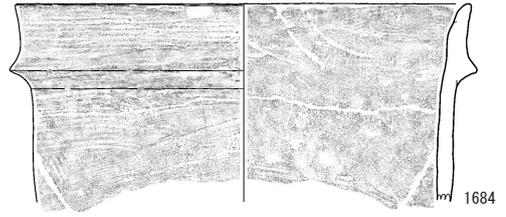
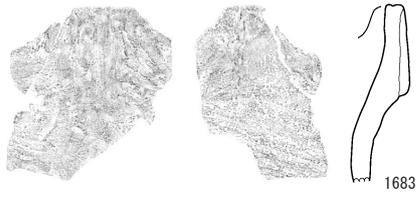
##### VI e-1 類土器 (第2-111図1691~1697)

1691~1697は、鉢である。1691・1692は口縁部が短く外反し、胴部が外に開く器形をもつ。肥厚した口縁部を文様帯とし、横位の沈線と斜位の短沈線で構成する文様を施す。口縁部直下は段をもち、口縁部内面に稜をもつ。1693・1694は下端を肥厚させた口縁部が内湾し、文様帯は上向きとなる。1693は口縁部が短く内湾し、胴部は張らず底部に向かってまっすぐすぼまる。口縁部は上下を連続刺突文で区画して文様帯とし、そこに半円状の凹線を互い違いに施す。1694は波状口縁で、口縁部直下に緩いくびれをもつ。胴部は短く強く張り、ここに最大径をもつ。口縁部は上下を斜位の刺突で区画し、下端部は一部施さない部分もある。口縁部区画内に2条の沈線を施すが、波頂部下では途切れ、このみに刺突を施す。波頂部の口唇部にも刺突を施す。

1695~1697は波状口縁で口縁部が強く外反し、波頂部直下に把手をもつものである。1695は、波頂部の頂部に円形の深い刺突を施す。また、波頂部の下部に円形の突起を付け、そこにも刺突を施す。波頂部の屈曲部両脇には縦位の貝殻刺突を、さらに外側には3条の平行沈線を巡らせ、端部には深い刺突を施す。平行沈線の2条目は、細く浅い。波頂部直下に把手をもち、把手の両端の根元に沿って刺突を施す。把手の外面には刺突を横2列、縦1列に施す。波頂部の内面にも刺突を横2列、縦4列に施す。1696は波頂部上面に1か所、屈曲部外面に2か所の深い竹管文を施す。さらに、屈曲部の両脇には縦位の貝殻刺突と短沈線を施す。文様帯には2条の平行沈線とその間に横位の貝殻刺突を施す。屈曲部直下には把手をもち、把手の上下に深い竹管文を1か所ずつ施し、下位の刺突の周囲には貝殻刺突を円形に施す。また、把手の外面には縦位の貝殻刺突と沈線が施される。口縁部直下に2条の平行沈線とその間に貝殻刺突を巡らせる。胴部上位に2条の平行沈線とその間に貝殻による刺突を施し、山形の文様を展開する。その下位にも2条の平行沈線とその間に貝殻頂部による刺突を施す。口縁部内面には2条の平行沈線とその間に貝殻刺突を口唇部に沿うように巡らす。口縁部端部の内外面に赤色顔料が残存し、胴部外面には部分的に残存する。1697は間に沈線を施す2条の沈線を基本とした文様を口縁部の上下端、波頂部の屈曲部外面、把手の外面、胴部に施す。波頂部の屈曲部には渦巻文、把手外面には平行沈線の上位にも刺突を、胴部には3条の沈線とその間に刺突を横位に施す。把手の中央付近には透かし孔を1か所設ける。波頂部の内面にも円形の沈線とその内側に刺突、さらに中央に深い凹点を



第2-109图 VI類土器 (18)



0 [1:4] 10cm

第2-110図 VI類土器 (19)

施す。口縁部から波頂部の沈線の内側に赤色顔料が部分的に残存する。1695～1697は口縁部の文様構成からⅣ類の可能性もあるが、波頂部の文様構成及び口縁部下端部の強く張り出す器形がⅥ類と同様のため本類とした。

#### Ⅵe-2 類土器 (第2-111図1698～1705)

1698～1705は、台付鉢の中空脚台である。1698～1702は、脚台の上下に貼付突帯を巡らす。そこに1700は貝殻で、他は工具で連続刺突を施す。1698は胴下部が部分的に残存するが、鉢の底面は剥離して残存しない。脚台には焼成前に外面から内面に向けてあけた5か所の透かしをもつ。脚台の外面には白色土が残存する。1699は、脚台に外面の上方向からあけた楕円形の穿孔を5か所もつ。脚台の上下に貼付けた突帯に施される刺突は、深さや長さが一定しない。底面形は歪で、内面には鉢部と底部の接合痕が良好に残る。鉢部の底面のみ残存し、ボウル状を呈す。1700は、脚台に外面から内面に設けた焼成前の透かしが2か所残存する。貼付突帯を巡らし、貝殻腹縁による刺突を施す。底部端部の突帯は色調の異なる土を貼り付け、接地面の突帯は外面との境に沈線を施す。上位の突帯は幅広だが、厚みは薄い。鉢部は底面が剥離して残存しない。1701は脚台に焼成前の楕円形の透かしが3か所残存し、全体では6か所と考えられる。底部端の貼付突帯は大きく刺突も大きい。底面は内側に向かって削り取るように成形し、鉢部は残存しない。1700・1701は、台付皿の可能性も考えられる。1702は、脚台外面に4か所の深い縦長の刺突が残存する。鉢部底面は粘土の接合箇所剥離して残存しない。底部端の突帯には棒状工具による刺突を、鉢部との境の突帯にはヘラ状工具による刺突を行う。底面及び外面に白色土が付着する。

1703～1705は、脚台の上下に2条の突帯をもたないものである。1703は、突帯のない無文の脚台である。脚台には外面から内面にあけた焼成前の楕円形の透かしを8か所設ける。底面は網代痕が残存し、調整は内外面ともに粗雑である。鉢部底面の内側は、摩滅する。1704は脚台の上下境に貼り付け突帯をもたず、外面下端部に斜位の貝殻刺突文を巡らせる。底面には網代痕が残存する。1705は外面下端部だけに突帯を貼り付け、刺突を施す。脚は逆「ハ」の字状に開く。底面から突帯下位にかけて白色土が、良好に付着する。

#### Ⅵf 類土器 (第2-112・113図1706～1735)

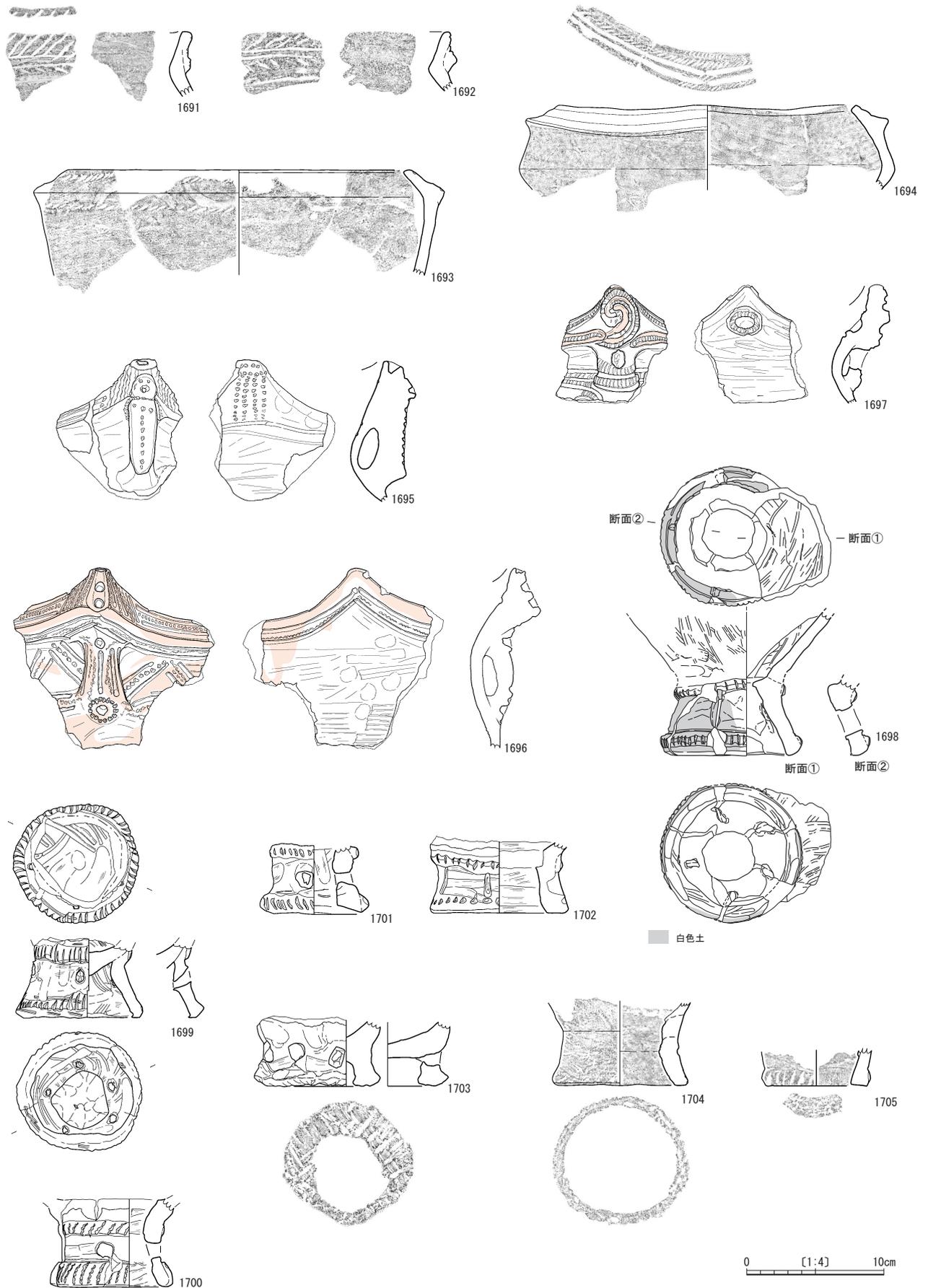
1706～1719は、台付皿の皿部である。

1706～1710は口縁部上下を刺突で区画して文様帯とし、そこに沈線や刺突を施す。1706は細い棒状工具による連続刺突を口縁部上下、波頂部の屈曲部両脇に施す。さらに同じ刺突を文様帯の中央に横位に巡らす。施文されない部分もある。波頂部の屈曲部上位に横方向の穿孔を入れて把手状に見せる。内外面の一部には赤色顔料が残存する。1707は口縁部上下を連続刺突で区画し、右

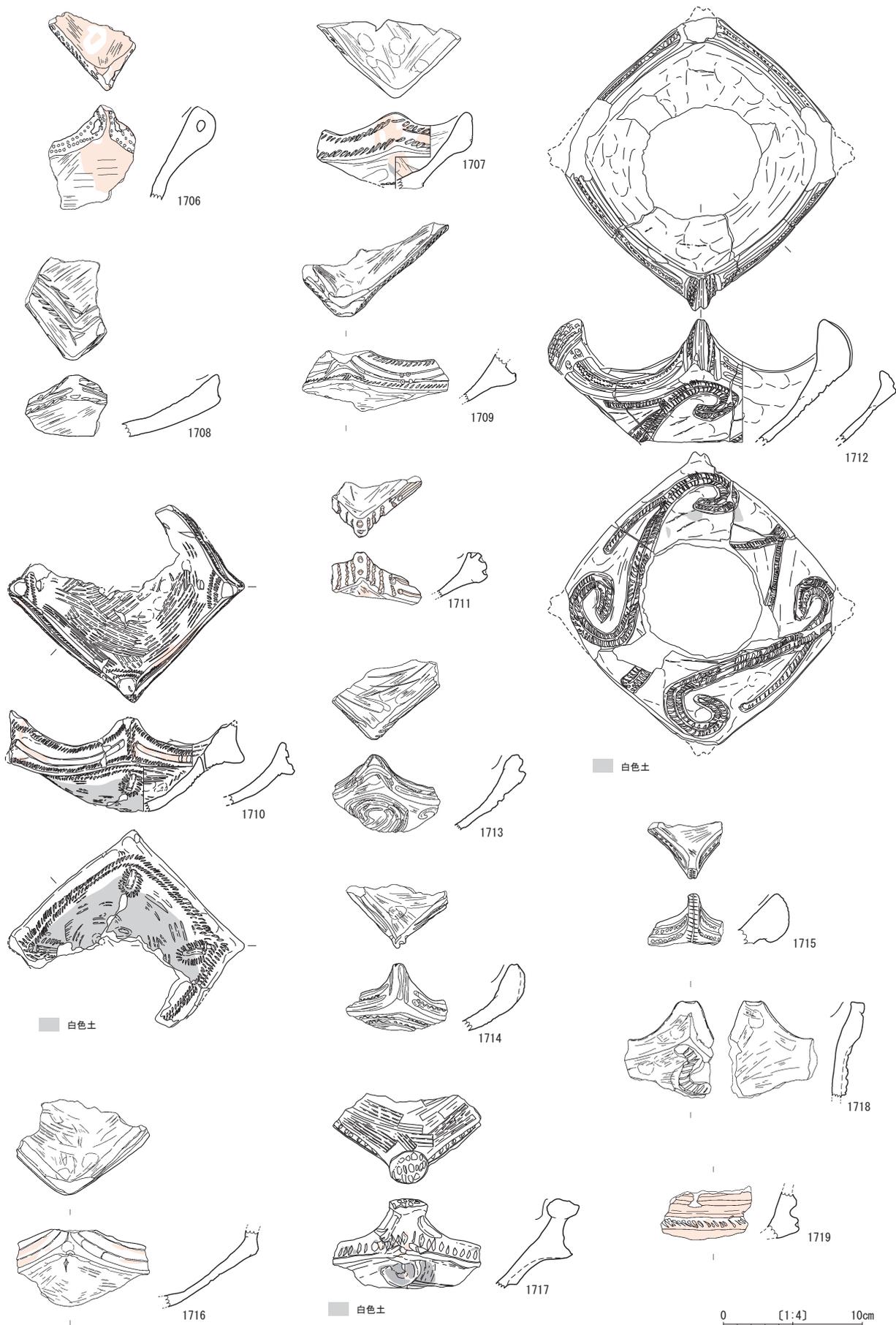
側文様帯は上位の刺突下に沈線を施す。口縁部から胴部外面に赤色顔料が部分的に残存する。脚台との境にも刺突を巡らせ、皿部の底面に脚台との剥離面が残る。1708は、文様帯に上下を区画する連続刺突と中央に1条の沈線を巡らす。口縁部内面に2列の刺突とその内側に2条の平行沈線を施す。1709は、波頂部が欠ける。口縁部上下を刺突で区画した文様帯には2条の沈線、谷部の沈線上に4個の竹管文を施す。波頂部の下端部は強く張り出し、そこに爪形刺突を施す。口唇部には一部赤色顔料が残存する。1710は波頂部が3か所残存し、全体では4か所と考えられる。各波頂部上面に押圧を行い、内面に2条の連続刺突文を弧状に施す。口縁部の上下と波頂部の屈曲部両脇に連続刺突を施し、文様帯を方形に区画する。文様帯には横位の太い凹線を1条、凹線上の中央部に刺突を2か所に施す。胴部外面には2条の連続刺突文を口縁部に沿って巡らし、屈曲部下には縦長楕円形の連続刺突文の間に短沈線を施文する。波頂部内面に内から外に向かって焼成前の穿孔を対角線上に2か所行う。皿部と脚台との接合面が明瞭に見られない。このことから脚台が付属せず、2か所の穿孔を利用して吊り下げて使用していた可能性が考えられる。口縁部の沈線内に赤色顔料が、胴部外面に白色土が一部残存する。

1711～1715は、口縁部上下に2条の沈線で区画して文様帯とする。1711は、口縁部を区画する沈線のみを施文である。1712～1714は文様帯に貝殻刺突を、1715は文様帯に棒状工具による刺突を施す。1711は波頂部上面に1か所、外面に2か所の深い竹管文を施し、その左右に縦位の貝殻刺突を4条施す。口縁部を区画する2条の平行沈線の端部には深い刺突を施す。沈線や刺突内に赤色顔料が良好に残存し、内外面にも一部残存する。1712は波頂部の屈曲部に縦位の短沈線を1条、その左右に縦位の貝殻刺突文を3条と短沈線を1条施す。文様帯には2条の平行沈線とその間に横位の貝殻刺突文を施す。沈線の端部は強く押し止める。胴部外面には間に工具による刺突を施す3条の沈線で逆「S」字状の文様を2か所に描く。さらに、2条の沈線と刺突を横位と山形に配する。底面は脚台との接合部分で剥離する。1713は、波頂部に斜位の貝殻刺突を施した後に屈曲部を横断する深い沈線を1条施す。胴部外面は1712と同様に逆「S」字状の沈線とその内側に貝殻刺突を施す。1714は波頂部の屈曲部に1条、その両脇に2条の短沈線を施す。胴部外面には3条の曲線状の沈線間に貝殻刺突を施す。1715は、幅広く作った波頂部の屈曲部に縦位と横位の短沈線を施す。口縁部に方形の沈線の内側と口縁部下端に浅い棒状工具による刺突を施す。沈線内の一部に赤色顔料が残存する。1711～1715は器形から本類に含めたが、文様構成からはⅣ類土器の可能性も考えられる。

1716は、口縁部の上下に2条の平行凹線を施す。凹線



第2-111图 VI類土器 (20)



第2-112图 VI类土器 (21)

内と胴部外面に赤色顔料が一部残存する。口縁部下端は張り出し、口縁部内面に段をもつ。1717は口縁部下端に沈線を、中央には刺突を連続して施す。波頂部に円形の突起をもち、その上面に刺突を施す。波頂部の屈曲部には「ハ」の字状の凹線を施す。屈曲部直下に「J」字状の突帯を貼り付け、突帯状に浅い凹線を施す。口縁部から胴部外面に白色土と赤色顔料が一部残存する。「J」字状の突帯は白色土と赤色顔料が良好に残存し、一部白色土の上から赤色顔料を塗っていることが観察できる。1718は口縁部に施文はなく、波頂部上面に押圧による凹みを施す。波頂部直下に逆「S」字状の突帯を貼り付け、突帯に爪形刺突を施す。1719は、口縁部下端部のみ残存する。口縁部下端を連続刺突で区画し、内側に2条の深い沈線を施す。外面に赤色顔料が残存する。

1720～1730は、台付皿の脚台である。1720～1724は、脚台が「ハ」の字状に強く広がる。1720は脚台の上端と下端に突帯を巡らせ、下端の突帯を挟むように沈線を施す。また、下端の突帯上と上端の突帯の直下に斜位の刺突を施す。さらに、上下の突帯を繋ぐように2状の突帯を縦位に貼り付け、突帯の上には沈線を施す。縦位の突帯間に外から内に向けて孔が穿たれる。1721は脚台の底面端部に幅広の突帯を貼り付け、そこに2段の刺突を巡らす。脚台の外面には沈線で渦巻文を施す。沈線及び刺突の内部には赤色顔料が部分的に残存する。1722・1723は、脚台の外面に貝殻刺突を施す。1722は底面断面が方形を呈し、上側に斜位の貝殻刺突を3段施す。1723は底部接地面が狭く、脚台の外面に3段の貝殻刺突を横位に施す。外面に外から穿った焼成前の穿孔が2か所残存する。脚台の内外面に白色土が残る。1724は、底面端部に約1cmの連続凹点を施す。外面の凹点から底部接地面にかけて白色土が部分的に残る。

1725～1730は、脚台が弱く広がるものである。1725は外面に刺突を施した突帯で方形や楕円形に区画し、区画した内部を白色と赤色の顔料で塗り分ける。赤色顔料は、下地に白色土を使用している。1726は底端部とその上部にある2条の貼付突帯で区画し、その間に半円状に粘土を貼り付け、その横に沈線を横位や楕円形に施す。脚台の外面には部分的に赤色顔料が付着する。1727は、皿部との境に刺突を施した突帯を貼り付ける。底端部にも突帯が貼り付けていたと考えられるが欠損する。突帯の間に斜めに「C」字状の粘土を貼り付け、その上に沈線を施す。1728は、粘土を幅広く貼り付けて脚部を肥厚させる。脚台外面に上位から横位の沈線を1条、横位の貝殻刺突を1段、平行沈線を3条、横位の貝殻刺突を1段、横位の沈線を1条巡らせ、脚台の中央部付近に棒状工具による刺突を1か所施す。脚台外面を縦に区画する縦位の沈線が1条確認できるが、全体像は不明である。脚台に外から内に行く焼成前の穿孔と考えられる痕跡が

2か所残存する。底部接地面には白色土が、良好に残存する。1729は、外面下端部に横位の貝殻刺突文を3段施す。1730は底面が方形を、皿部は円形を呈す。脚台は四隅が突出し、対角上に同様の突出部をもつと考えられる。突出部1か所は把手状を呈すと考えられ、対角上の1か所は突出のみである。外面には3条の沈線を横位に施す。外面の上部に4か所の横長方形の透かしを作る。底面にも沈線を施す。外面の沈線内に一部赤色顔料が残る。胎土は、黒褐色を呈する。

1731・1732は、片口付壺の突起部である。1731は、外面全面に赤色顔料を塗布する。突起部には刺突文と沈線で施文する。1732は、外面の一部に赤色顔料が残る。突起部には刺突文で施文する。

1733～1735は、注口土器の注口部である。1733は上向きの注ぎ口で、胴部との接続部まで一部残存する。1734は向きが不明であるが、注ぎ口端部が弱くくびれる。丁寧なナデ調整で成形する。1735は、注ぎ口部の半個体である。胴部接続部が残存し、接続部の外面に沈線を巡らせる。注口土器は、後期後半の可能性も考えられる。

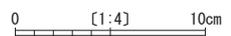
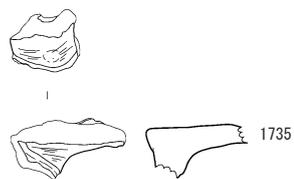
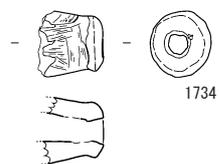
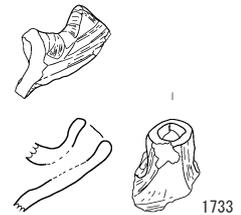
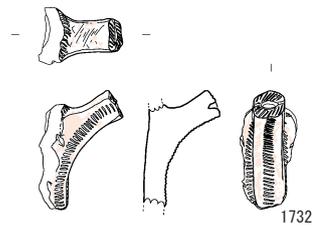
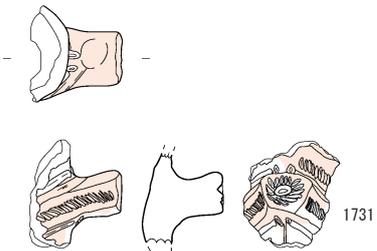
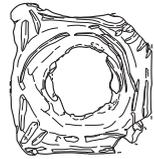
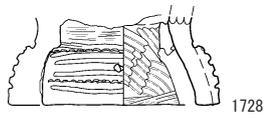
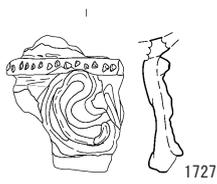
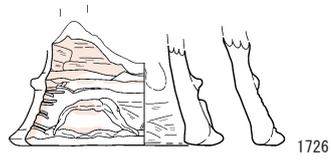
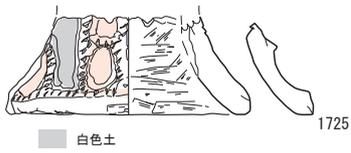
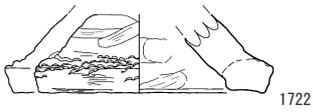
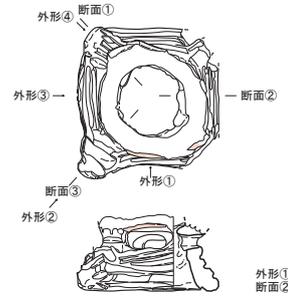
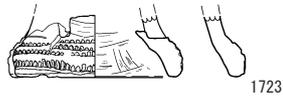
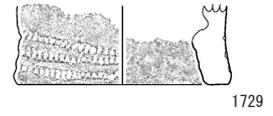
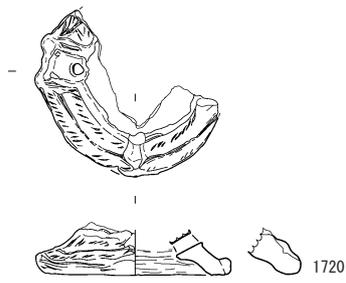
#### 【Ⅶ類土器】

I類土器からⅥ類土器に含まれない後期中葉から後半に該当する土器をまとめた。これらの土器は個体数が少なかったため便宜的に型式毎に報告する。具体的には丸尾式土器、北久根山式土器、西平式土器、三万田式土器及びその他に分類した。

#### 丸尾式土器（第2-114・115図1736～1749）

1736～1749は、丸尾式土器である。口縁部直下から下位にかけて連続刺突文を1～2段施す。口縁部は外反し、胴部はあまり張らない器形をもつ。口縁部は、直立するものや肥厚するものもある。深鉢には平口縁と波状口縁がある。

1736～1743は、平口縁である。1736～1739は、口縁部下端がやや肥厚する。1736は、口縁部上下及び口縁部直下に斜位の貝殻刺突を施す。口縁部の貝殻刺突の間に横位の凹線を3条施し、斜位の凹線で区画する。胎土に金雲母を多量に含む。1737は口縁部上下に斜位の貝殻刺突を施し、その間に幅広の刺突を施し、弧状の沈線で縦位に区画する。Ⅵ類の可能性も考えられる。1738は、口縁部下端に斜位の貝殻刺突を施す。口縁部の断面は、方形を呈す。Ⅴ類の可能性も考えられる。1739は口縁部上端に右上がり、下端に右下がり、口縁部直下に右上がりの連続刺突を施す。口縁部下端はやや肥厚する。1740は、口縁部の上下と口縁部直下に斜位の貝殻刺突を施す。口縁部が直立し、口縁部直下が胴部に向かってすぼまる。1741は、口縁部中央と直下に斜位の貝殻刺突を施す。口縁部は直立し、口縁部直下がくびれる。1742は、口縁部下端に斜位の貝殻刺突を施す。口縁部はやや外に開く。



第2-113图 VI类土器 (22)

1743は、口縁部下位に斜位の貝殻刺突を施す。口縁部がやや外反し、胴部は張らず直立する。口縁部下位は器壁が厚く、そこから口唇部に向かって器壁が薄くなる。胎土に粒の大きい5mm前後の小礫が多量に含まれる。

1744～1749は、波状口縁である。1744・1745は、口縁部内面がくびれる。1744は、口縁部下端と直下に斜位の連続刺突を施す。口縁部が内湾し、口縁部内面及び直下がくびれる。内外面に丁寧なナデを行う。1745は口縁部に2段の刺突を施し、上位は右上がり、下位は右下がりとなる。口縁部が短く内湾し、内面に緩いくびれをもつ。1746～1749は、外開きから外反する口縁部をもつ。1746は、口縁部下端に方向の異なる貝殻刺突を上下に施す。口縁部がやや外開きとなり、波頂部が2か所残存する。1747は口縁部がやや外反し、口縁部下端に斜位の貝殻刺突を施す。波頂部の頂部に「S」字状の突起を貼り付ける。1748は、口縁部のくびれ部に半円状の貝殻刺突を施す。口縁部は強く外反し、胴部が張る。1749は、口縁部下端の上下に2段貝殻刺突を縦位に施す。直立する口縁部の下端がやや肥厚し、稜線をもつ。口縁部直下は、弱くくびれる。内面は、条痕による器面調整を行う。

#### 北久根山式土器（第2-115図1750～1752）

1750～1752は、北久根山式土器の深鉢である。口縁部に刺突文を施し、口縁部は短く直立し、口縁部直下が強くくびれ、胴部が強く張るものである。1750は、波状口縁の深鉢である。波頂部が3か所で、口縁部から底部接合部まで残存する。口縁部は短く直立し、口縁部に貝殻復縁による縦位の刺突を1段巡らせる。波頂部の頂部には4～5条の刻みを施す。口縁部直下でくびれ、胴部は、丸みを帯びて張る。底部との境は、直立もしくはくびれると考えられる。1751は、波状の口縁部である。波頂部に縦位の、その左右に斜位の短沈線を施す。口縁部は肥厚し、強く外反し、胴部は膨らむ。内外面に横方向のミガキを行う。1752は、口縁部下端から胴部まで残存する。口縁部下端に刻みを施す。口縁部直下は強くくびれ、胴部中位で強く張り、胴部が最大径になると考えられる。胴部下位は、底部に向かって急激にすぼまる。

#### 西平式土器（第2-115図1753）

1753は、西平式土器の深鉢である。波状口縁で口唇部は幅広く平坦面を作る。断面は方形を呈し、内面に段を作る。口縁部に2条の細い沈線を施す。胴部から口縁部へかけて直線的に開く器形である。

#### 三万田式土器（第2-115図1754）

1754は、三万田式土器の鉢である。胴部上位でくびれ、胴部中位で張り、胴部下位に向かって直線的にすぼまる。胴部の張り出し部に稜線をもつ。胴部くびれ部に1条の沈線、その下に1段の刻みと沈線を2条、胴部張り出し部直上に刻みを1段施す。外面は、ミガキに近い細かいナデを行う。

#### その他（第2-115図1755～1757）

1755～1757は、後期中葉～後半に含まれる土器と考えられる。1755は口唇部下端部が張り出し、口唇部直下に段をもつ。口唇部内面に6個の楕円形の刻みを施す。口縁部はやや外反し、胴部は張る。内面に横方向の丁寧なナデを行う。1756は口唇部に広い平坦面を作り、そこに1条の沈線を施す。口唇部内外面の直下に段をもつ。口縁部は強く外反し、口縁部直下で強くくびれ、胴部は、強く張る。内外面に横方向のナデを行う。1757は口縁部が短く外反し、胴部が強く張り稜線をもつ。口縁部から胴部中位の内面に深い条痕で器面調整を行う。

#### 【底部】

底部については、底面の特徴をもとにして以下の4種に分類して掲載、記述する。

- A類…平底及び若干上げ底気味の底部。圧痕は有さない。
- B類…平底で、底面に何らかの圧痕を有する底部。網代編みやもじり編みの圧痕や木葉等の圧痕がある。
- C類…脚台を有する底部、及び脚台状を呈する底部。
- D類…その他の特色を有する底部。

#### A類（第2-116・117図1758～1777）

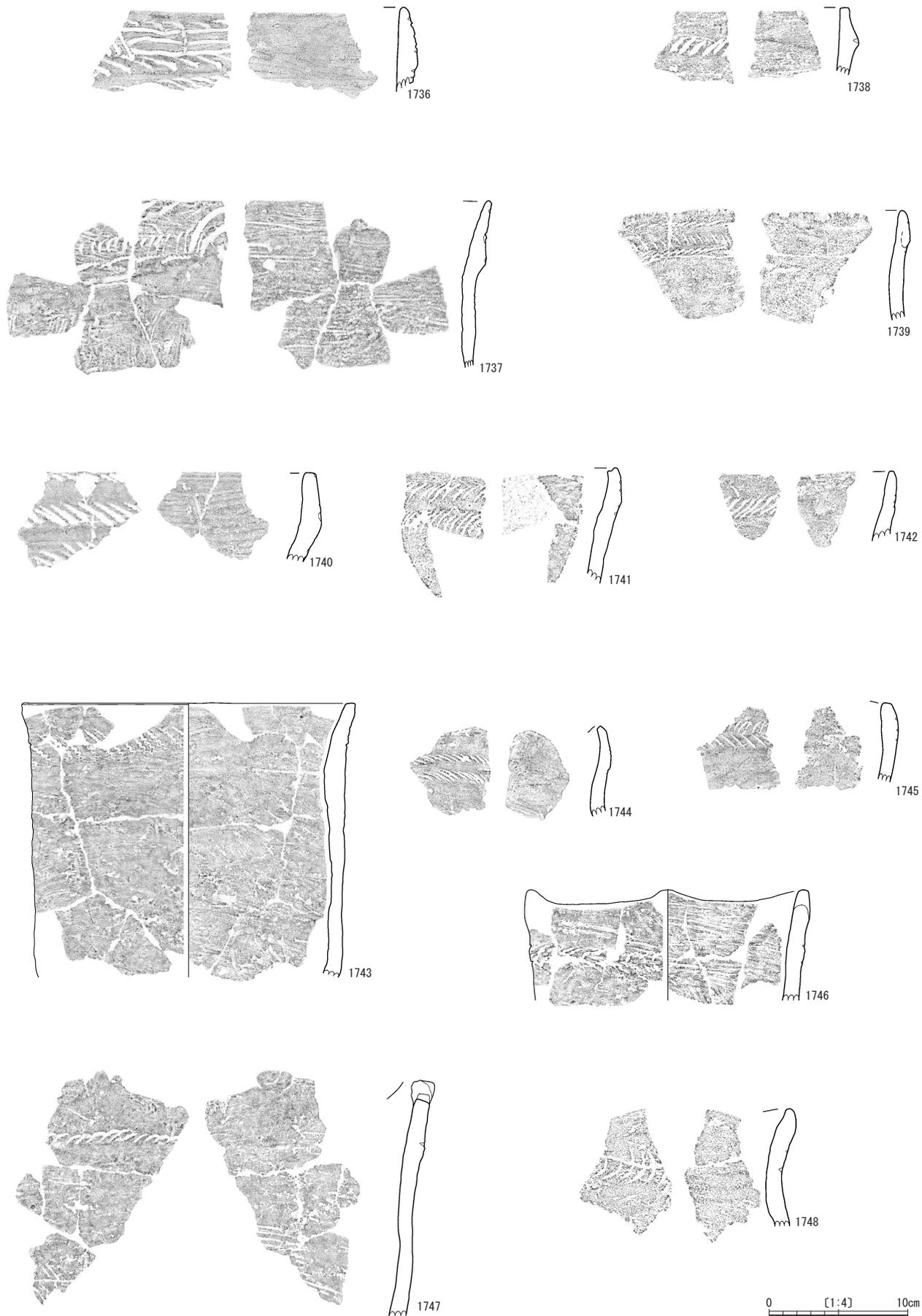
A類は平底及び若干上げ底気味で、圧痕は有さない底部である。ほぼ平坦な底面を有する底部は1758・1759・1765・1770・1777・1780のみで、他は若干上げ底気味の底部である。C類のように脚台を有するほどではないが、底面の縁辺部を接地面として、底面中央部に向けてやや盛り上げ、レンズ状の上げ底を呈する底部である。A類の9割弱が上げ底を呈するという状況は、土器製作時の最終仕上げの段階で、底面中央部が若干盛り上がるような手立てを意識的に施した結果である可能性が高いと考えられる。

底面の整形は丁寧なナデ仕上げを基本とするが、1774～1776のように貝殻条痕による仕上げや、1777のようにケズリ仕上げの痕跡が残る底部もある。1760と1762の底面外面と1764の底面内外面には、木の実1個体分の圧痕が残る。約半分の底面で白色土の付着が見られるが、特に1765には多量に付着していた。

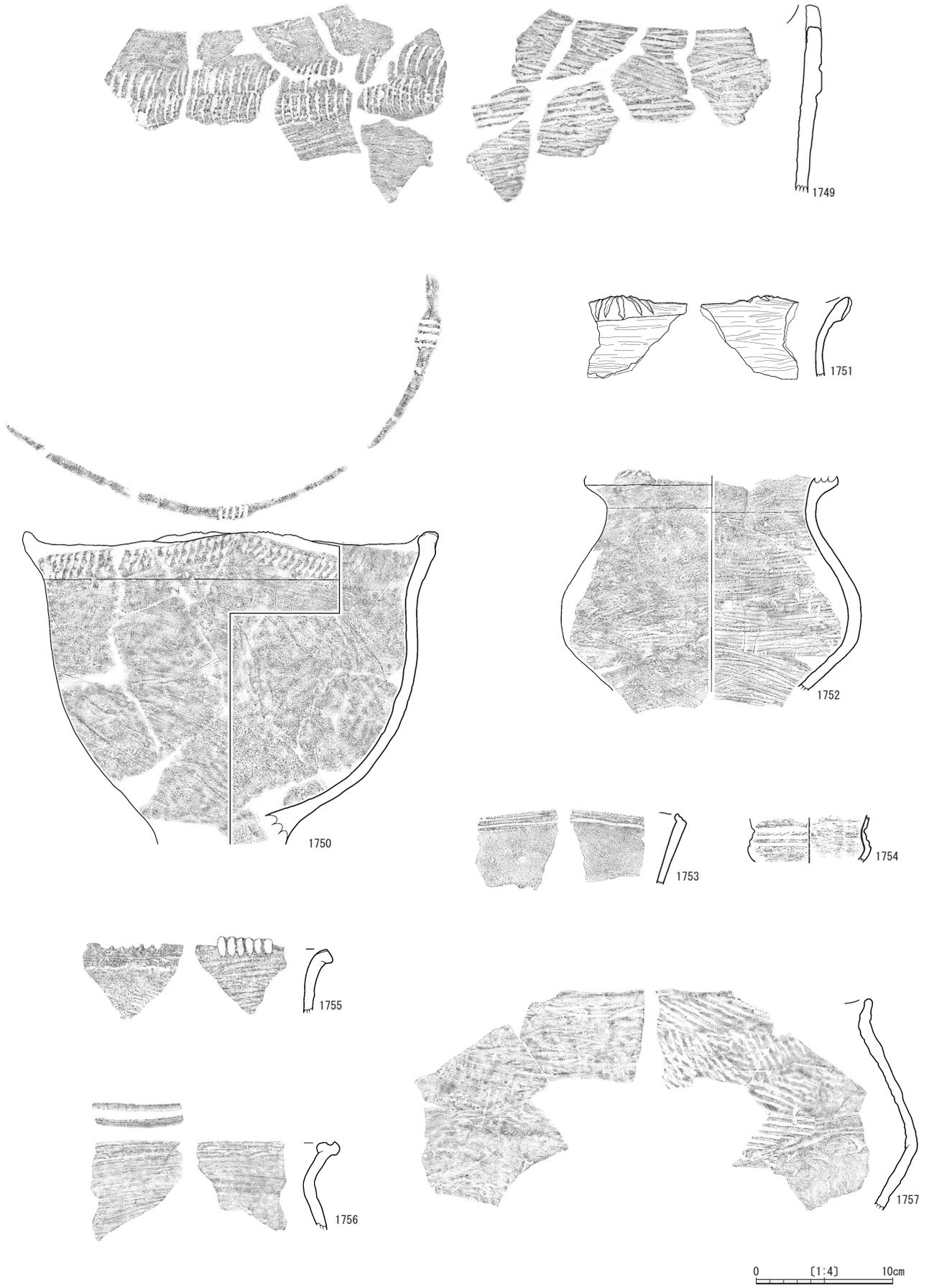
#### B類（第2-117～120図1778～1834）

B類は、平底を基本とする底面に何らかの圧痕を有する底部である。網代編みやもじり編みの圧痕、木葉等の圧痕がある。

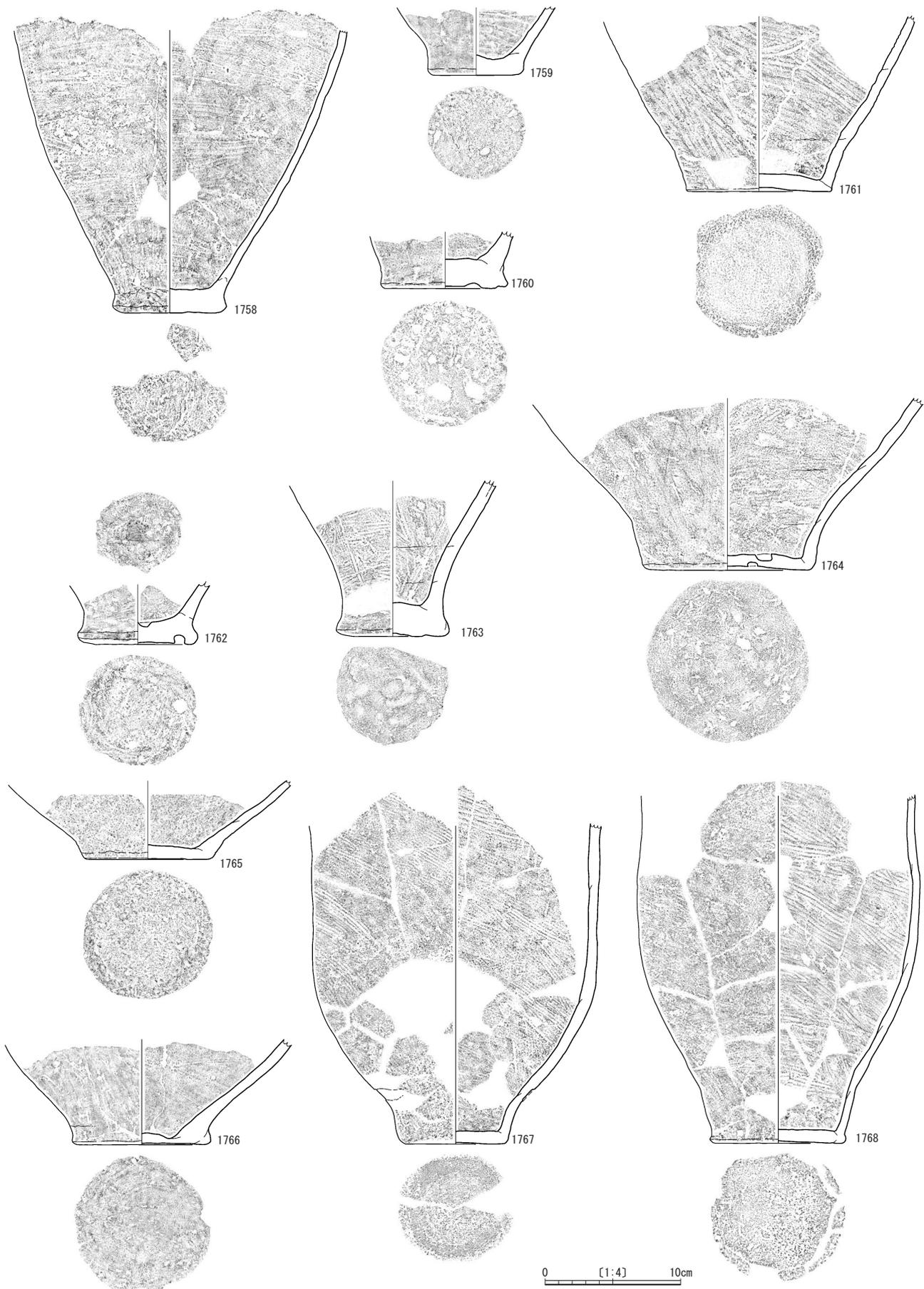
1778～1797は、網代編みの圧痕が残る底部（網代底）である。全て若干上げ底状を呈している。1785のように網代編みの痕跡を残したまま、中央部にやや大きめの木の実を当てて底面を押し上げたものもある。圧痕は全面に残るものが多いが、1781や1790は外縁部をケズリ仕上げし、1789は底面中央部をナデ消している。全体の7割



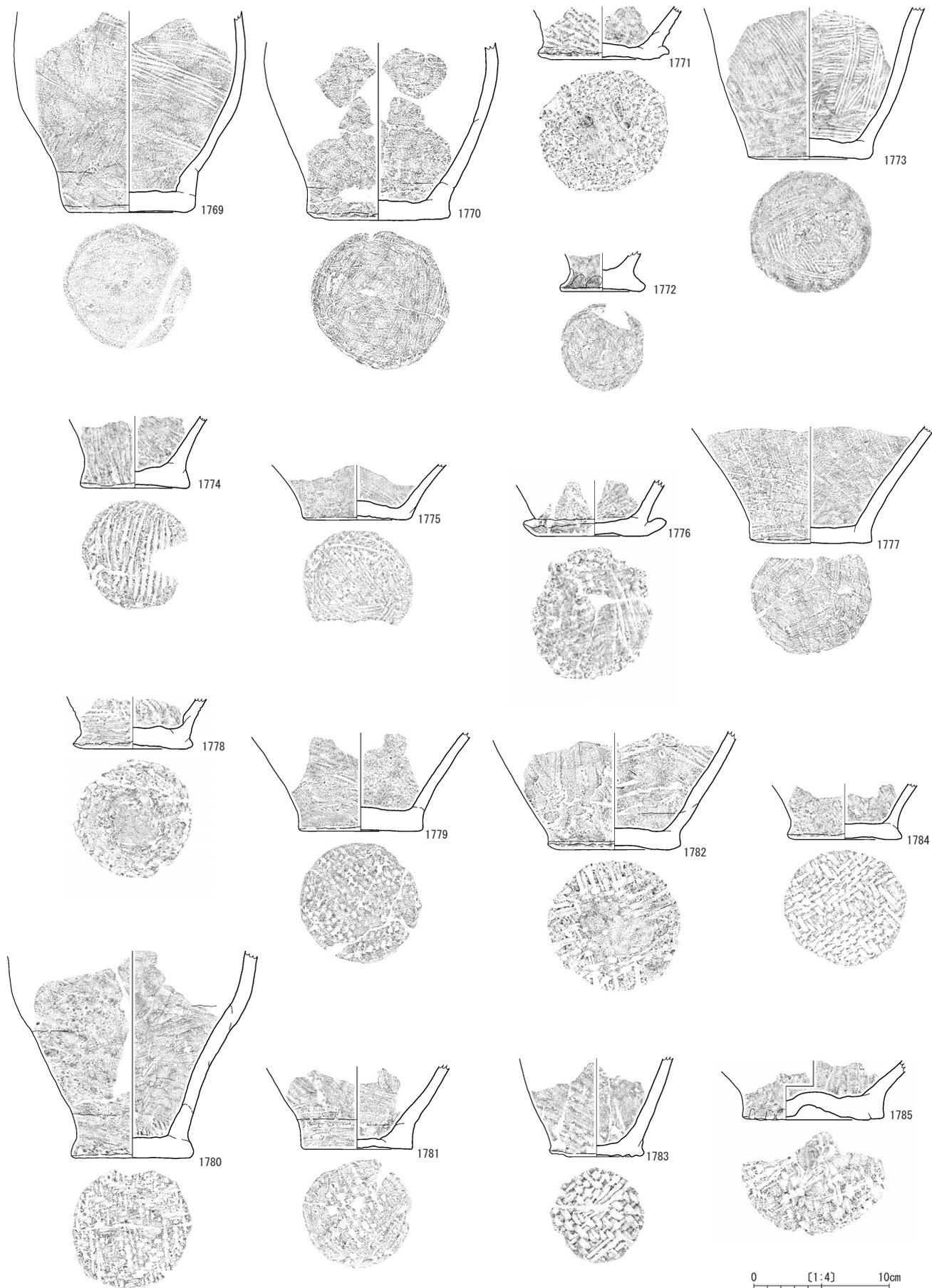
第2-114図 VII類土器 (1)



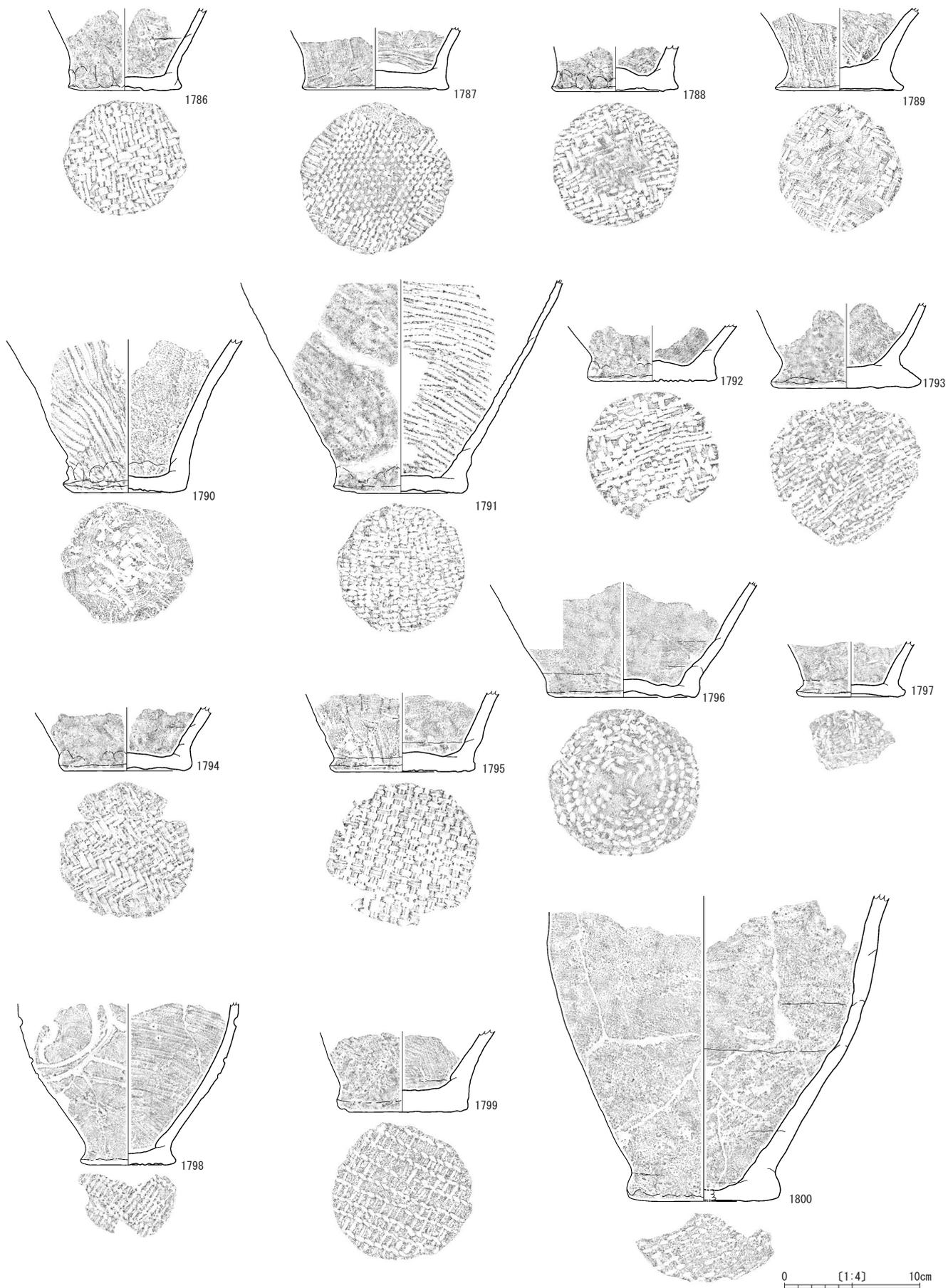
第2-115図 VII類土器 (2)



第2-116図 底部（1）



第2-117图 底部 (2)



第2-118图 底部 (3)

強の底面で白色土が付着し、特に1778・1779・1793では多量の付着が見られた。1796は網代編みともじり編みの圧痕が、1797は網代編みと木葉痕がそれぞれ同面で見られる例である。

1798～1814は、もじり編みの痕跡が残る底部である。網代底のほぼ全てが上げ底を呈するのに対し、3割強がほぼ平底を呈する底部とやや違いを見せる。全体の6割弱の底面で白色土の付着があり、特に1800では多量の付着が見られた。1814は、もじり編みと木葉の圧痕が同面で見られる例である。

1815～1826は、木葉の圧痕が残る底部（木葉底）である。1815～1818は、オオタニワタリの木葉を利用していると考えられる。1819と1823はほぼ平底を呈するが、他は全て上げ底状の底部である。また、1815・1826以外、8割強の底部で白色土の付着が見られた。

1827～1834は、上記以外の圧痕が残る。1827・1828は底面の周縁部にごく小さな凹部がややまとまって見られるもので、クジラの脊椎骨の圧痕を有する底部である可能性もある。いずれもやや上げ底状を呈し、1827の底面には白色土の付着も見られる。底面のごく一部に1829～1833は網代編み、1834はもじり編みの痕跡が残るものである。1829・1830・1832・1834は、貝殻条痕による整形痕の一部に圧痕が残る。その内、1829・1830・1834は、底面周縁部に圧痕が残る。1829・1832・1834が平底で、その他は若干上げ底気味の底部となっている。1829を除く全ての底面で白色土の付着が見られた。1833の底面には、木の実1個体分の圧痕が見られた。

#### C類（第2-121図1835～1852）

C類は、底部が脚台もしくは脚台状を呈する土器である。1835～1845は上げ底を意識した底（脚）部作りが見られる一群で、わずかではあるが脚台状を呈している底部である。拓本に示したように、接地面がリング状を呈するのが特徴である。1835は脚台の接地部だけでなく、底面全体に多量の白色土が付着しており注目される。

1846～1851は上げ底感をより明瞭にした脚台をもつ底部で、いわゆる中空の脚台を呈する土器である。

1852は脚台部を欠損するが、鉢の底部を円盤皿状に仕上げた様子がかがえる資料である。口縁部側からキャップ状にはめ込む形で整形したものと考えられる。

#### D類（第2-121図1853～1857）

D類は、その他の特色で包括した土器である。

1853は、底面に植物繊維痕を残すくびれ底である。小型の土器と考えられる。1854は、底部外面に細沈線と連点状の連続刺突文を組み合わせた文様を巡らす。色調が薄紫色を呈することから指宿地域の胎土と考えられる。1855・1856は、底面に径1cm程度の焼成前の円孔が施される。円孔は1855が底面のほぼ中央、1856は中央からやや外れた部分に位置する。用途は不明である。1857は脚

台状を呈するが、上位にあると想定される器部との接点が把握できない土器である。器台状を呈する可能性もある。

#### (2) 土製品

##### 円盤形土製品（第2-122～127図1858～1942）

土器片を利用した円盤形土製品が、1132点出土した。今回は、その中から良好に残存している85点を図化した。使用している土器は、縄文時代後期の指宿式土器や磨消縄文系土器が多い。使用部位は、口唇部・口縁部付近・胴部・底部と様々である。側面への調整は、丁寧に研磨するもの、打ち欠いたのちに簡単に研磨するもの、打ち欠きのみで成形されるものの3種類が確認できた。

1858～1873は、口唇部を残すものである。最大径4～6cmのものが多く、他の部位を使用したものよりも大型である。1863のように口唇部を利用し、四角形を意識したような形状のものもある。1866や1867のように口唇部を一部だけ残し、不定形のものもある。

1874～1909は、口縁部付近を利用したものである。最大径4cm程度のものが多い。1874は、最大径8.2cmの大型品である。器壁が薄い部分を利用しており、断面はやや湾曲する。1874・1897～1901は打ち欠き後研磨を施すもの、1904～1909は打ち欠きのみ調整のもの、そのほかは研磨による調整のものである。

1910～1931は、胴部を利用したものである。最大径が3.0～9.5cmとばらつきがある。端部の調整は丁寧に研磨を施すものが多い、円形を呈するものが多い。

1932～1942は、底部を利用したものである。底部の形状をそのまま利用し、円形を呈するものが多い。1938のように網代圧痕が確認できるものもある。

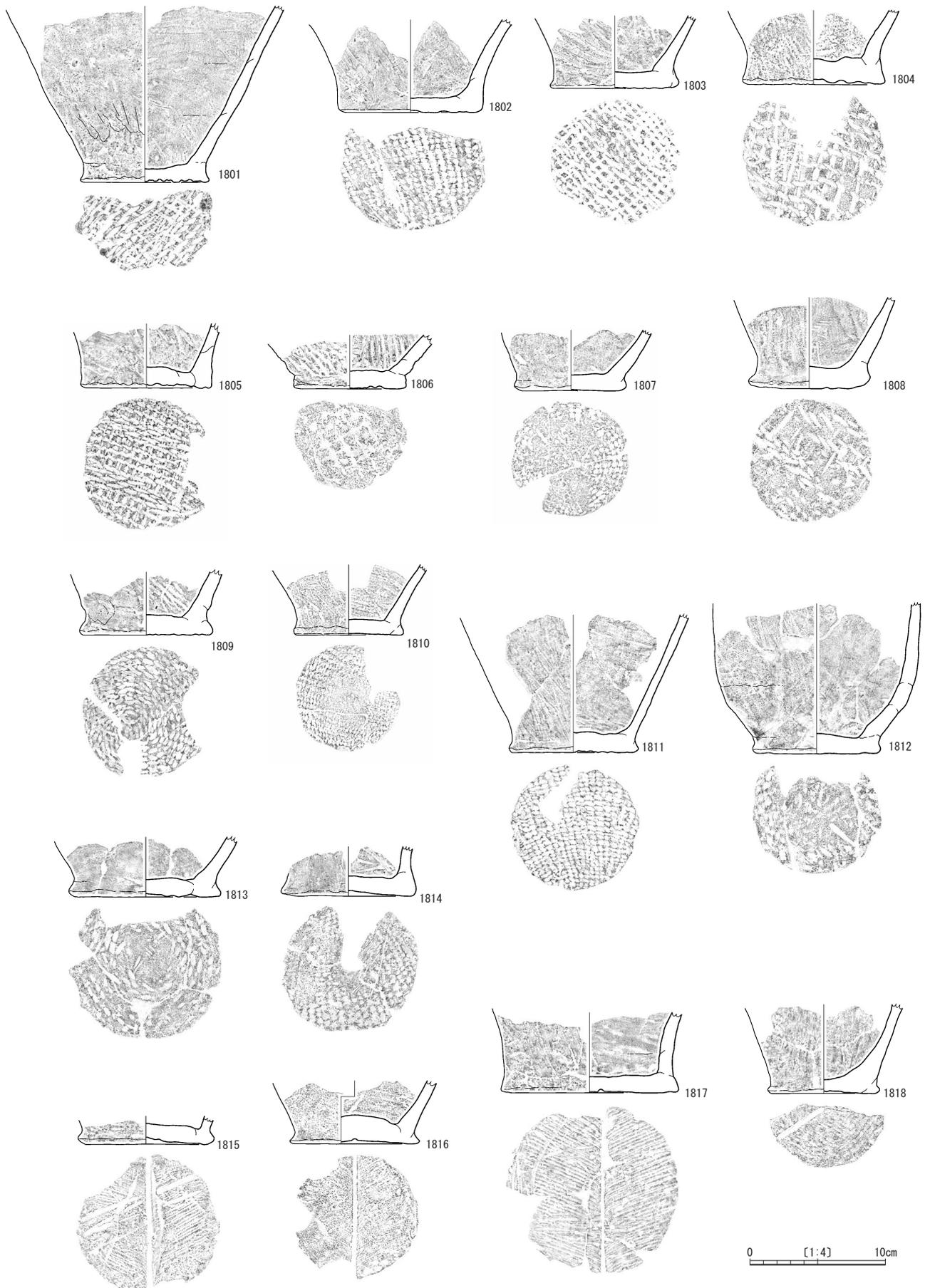
##### その他の土製品（第2-128図1943～1961）

穿孔が確認できる土製品は、27点出土した。その中から良好に残存している16点を図化した。1943～1955は穿孔を確認できるもので、そのうち1952～1955は破損品である。1956～1958は、未貫通である。穿孔の直径も0.8cmから1.8cmとばらつきがあり、複数の穿孔具があった可能性がある。1943は最大径9.0cmと大型で、両面から孔が穿たれる。

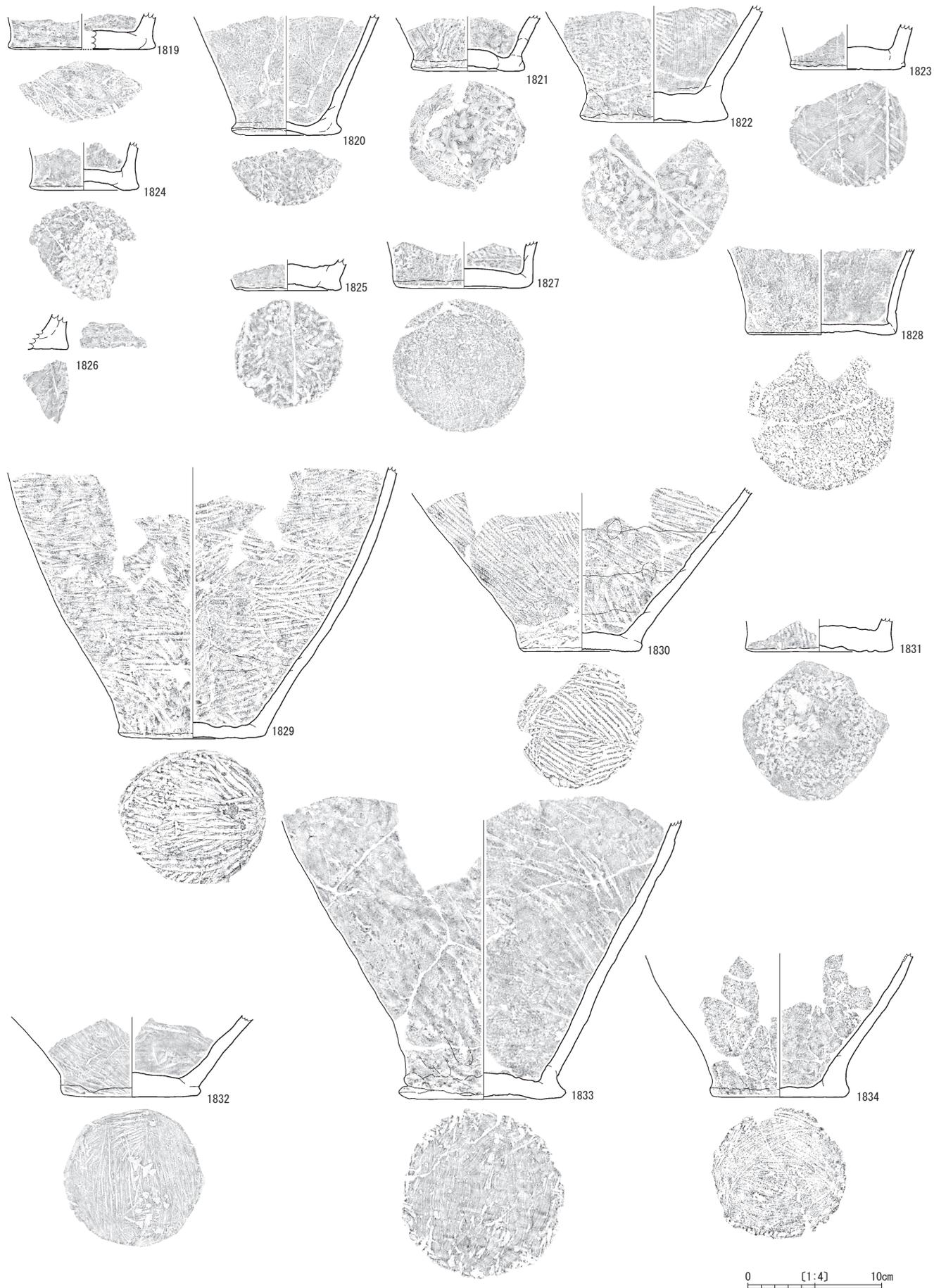
1959は指宿式土器の口唇部を利用し、2つの突起物を残す。表面には沈線があり、三角形の頂点部分に円が描かれる。1960は四角形状を呈し、各側面を丁寧に研磨して仕上げる。表面には焼成後の線刻があり、菱形の中に円が描かれる。1961は、側面に滑車状の凹みをもつ土製品である。土錐の可能性もある。

## 2 縄文時代中期以前の土器・土製品

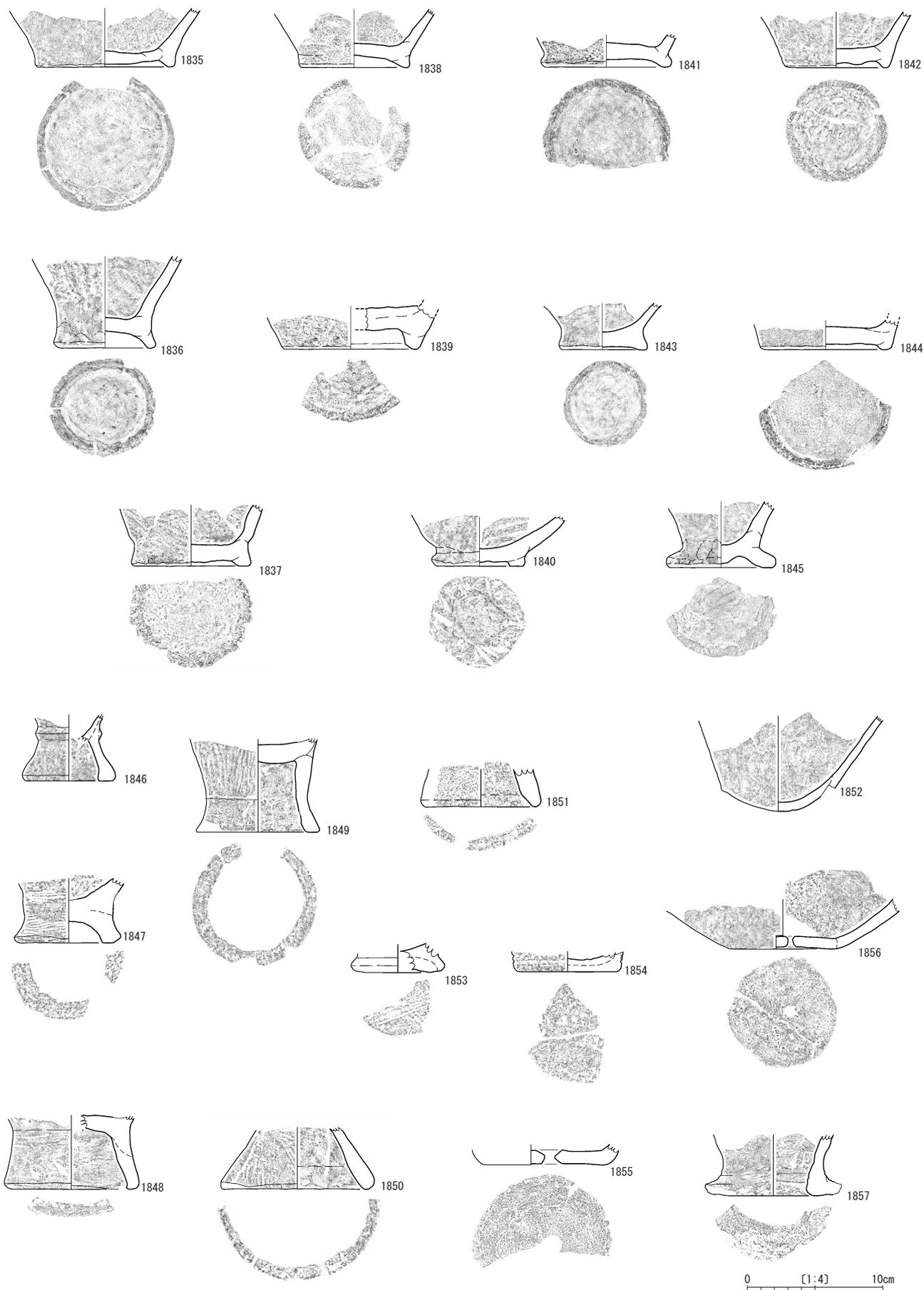
縄文時代早期及び前期、中期に属する土器・土製品については、出土量が少ないことから型式毎に記述する。



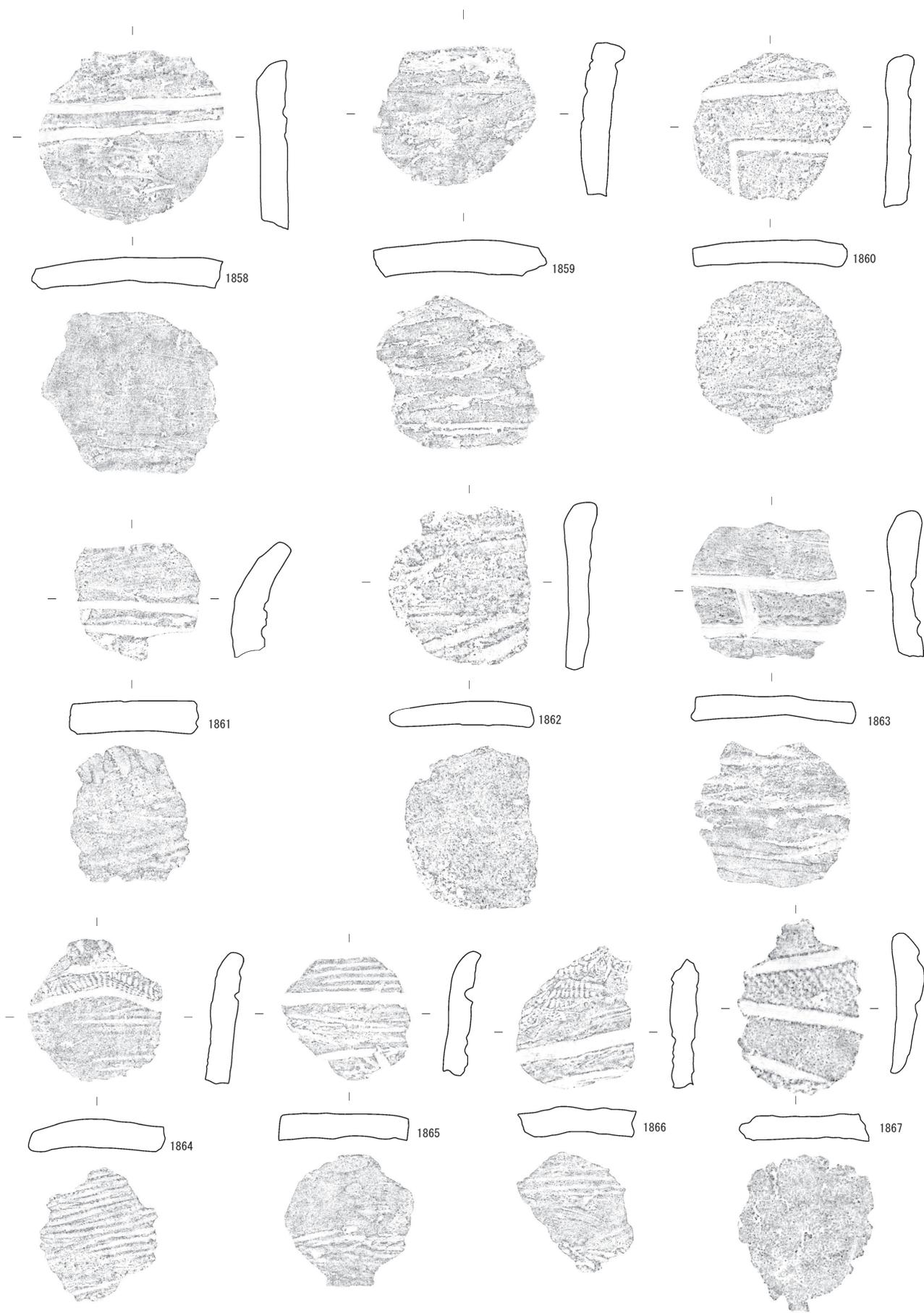
第2-119图 底部 (4)



第2-120图 底部 (5)

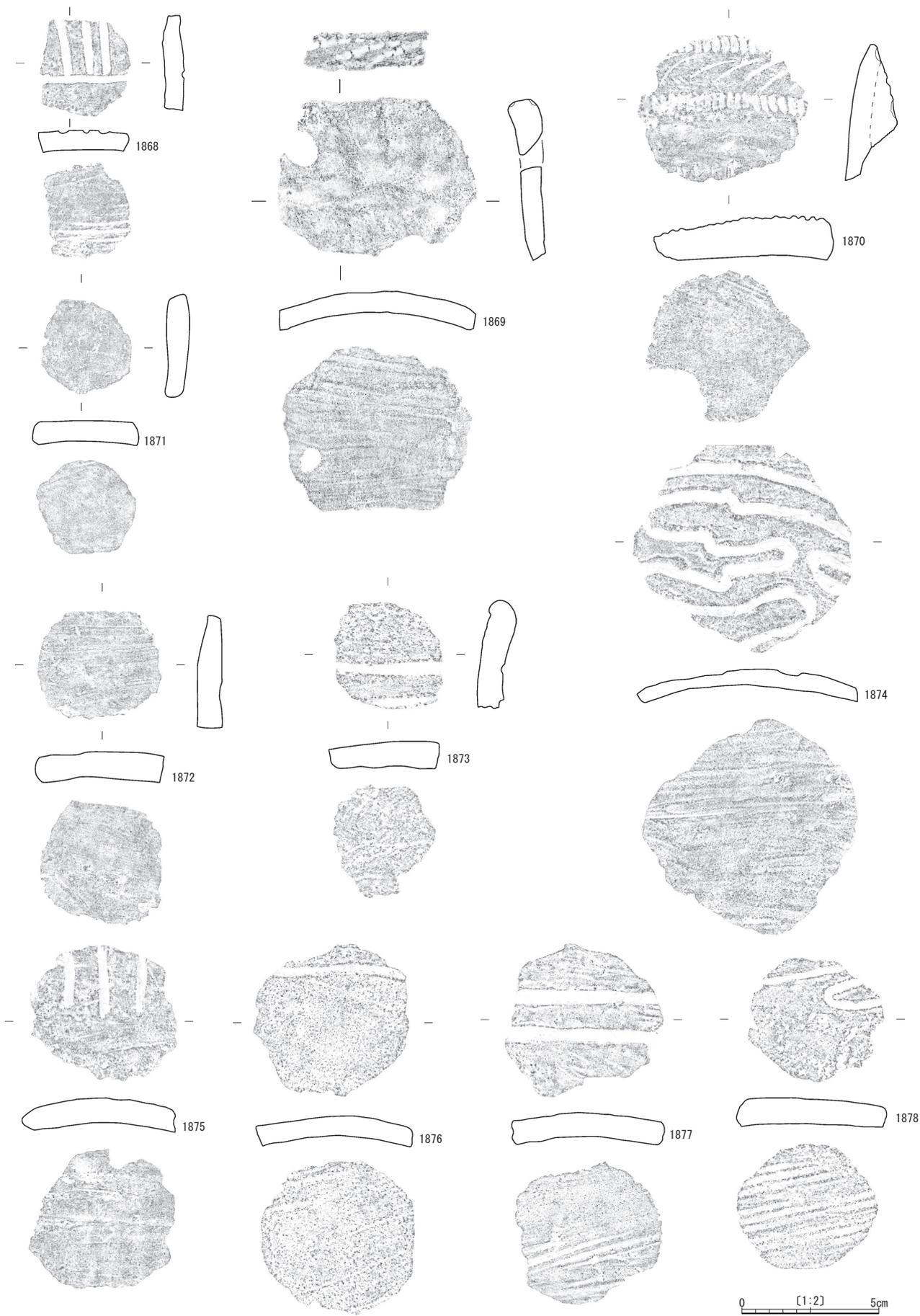


第2-121图 底部 (6)

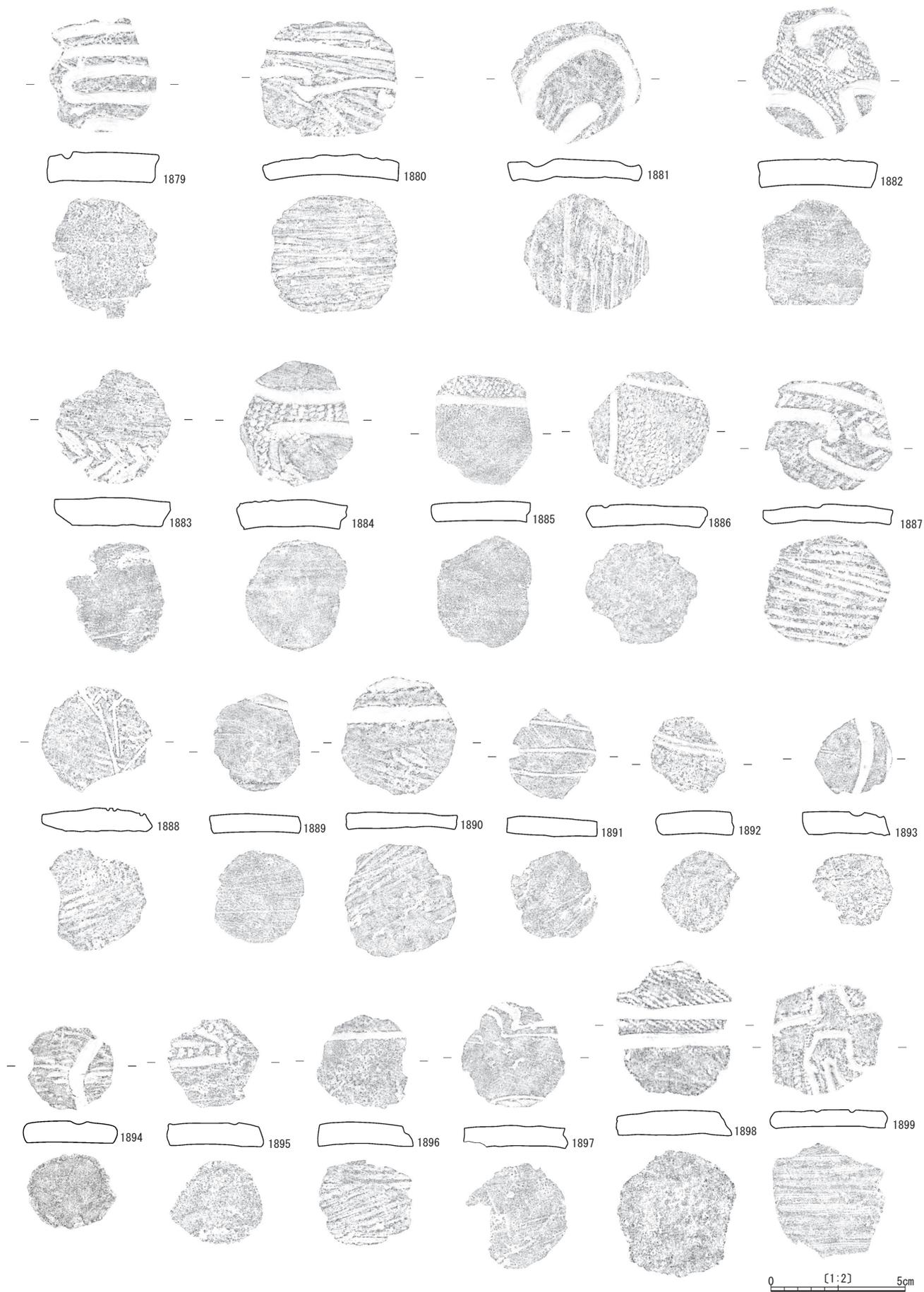


0 [1:2] 5cm

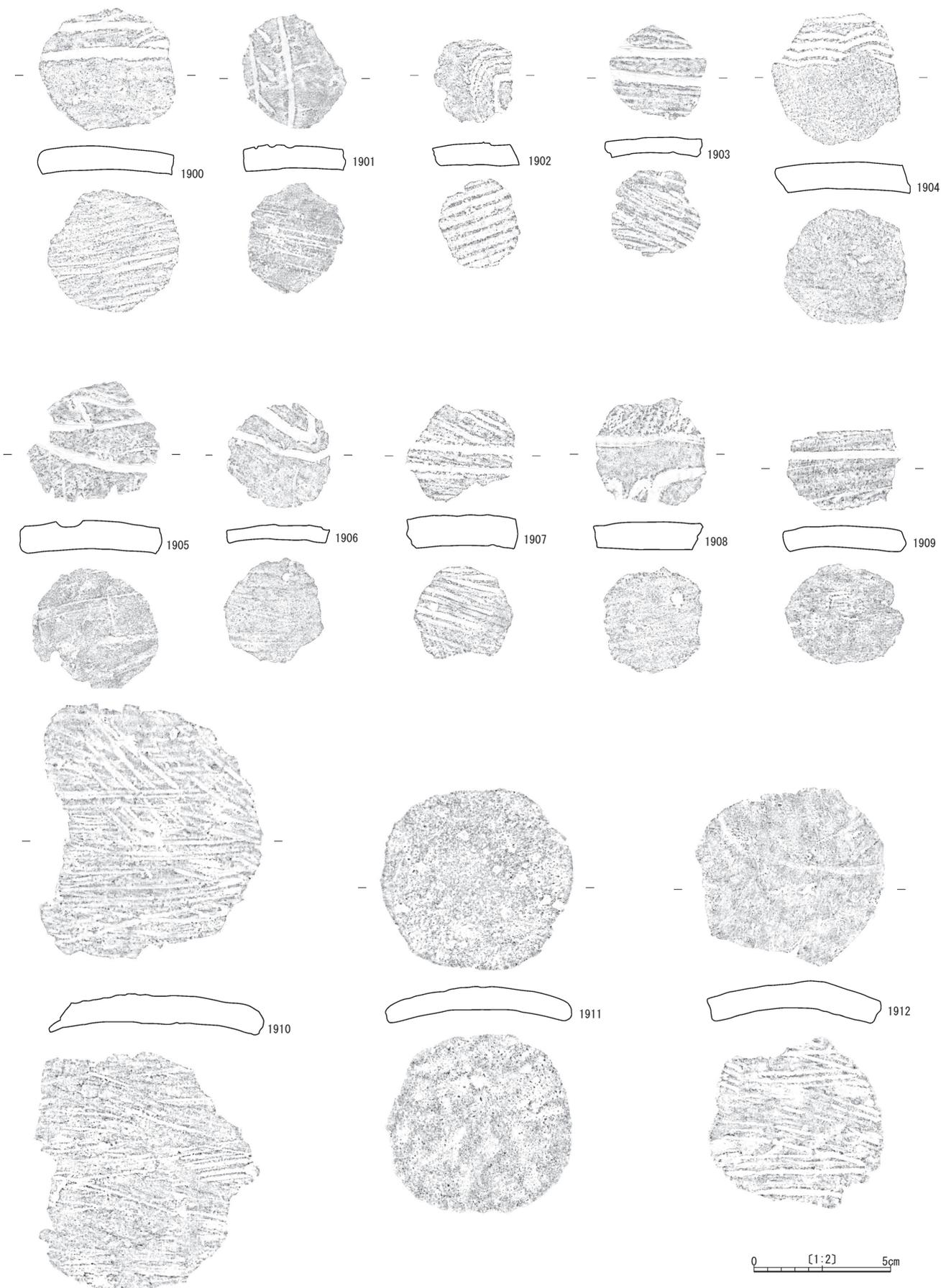
第2-122図 土製品 (1)



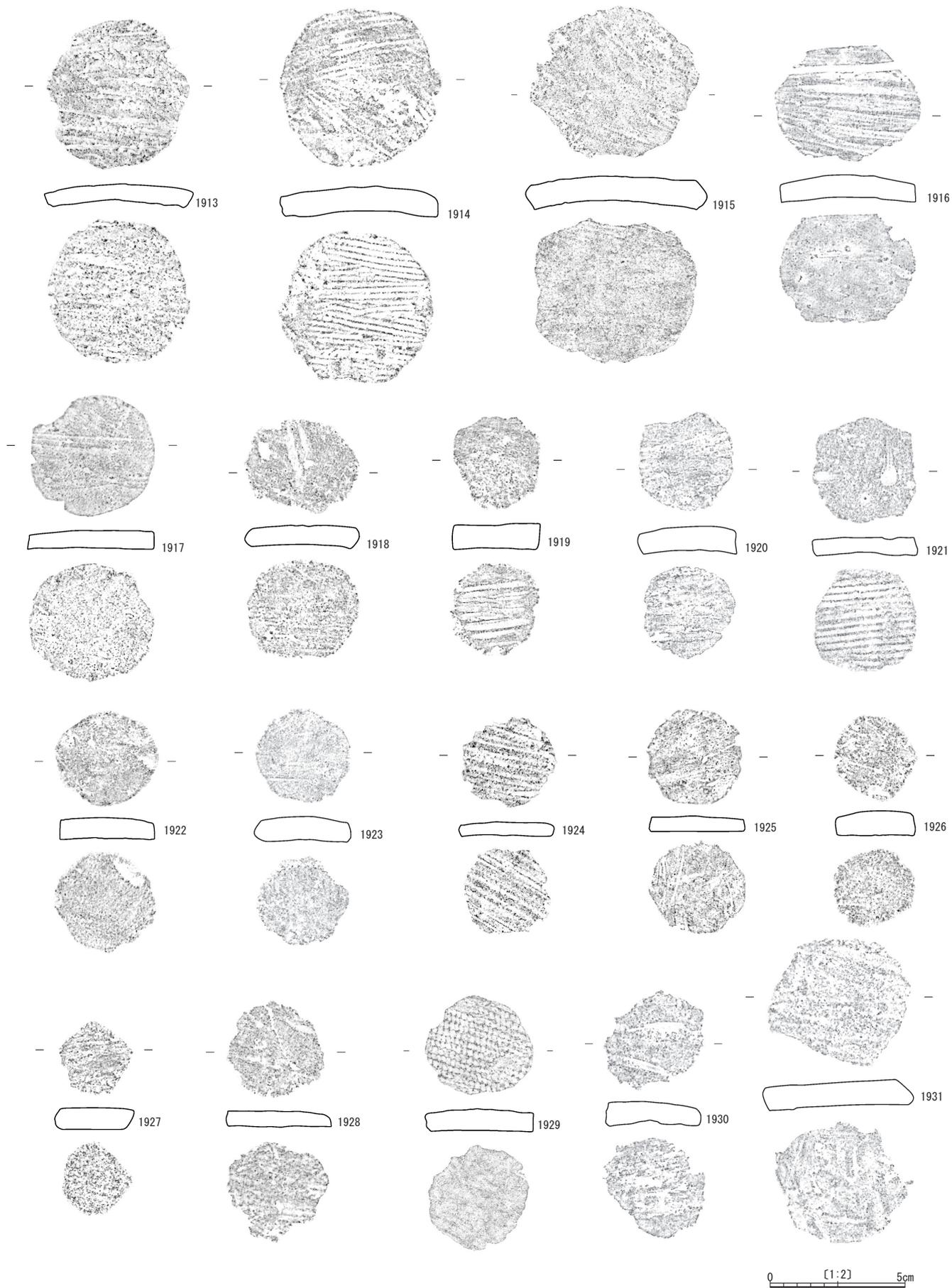
第2-123図 土製品 (2)



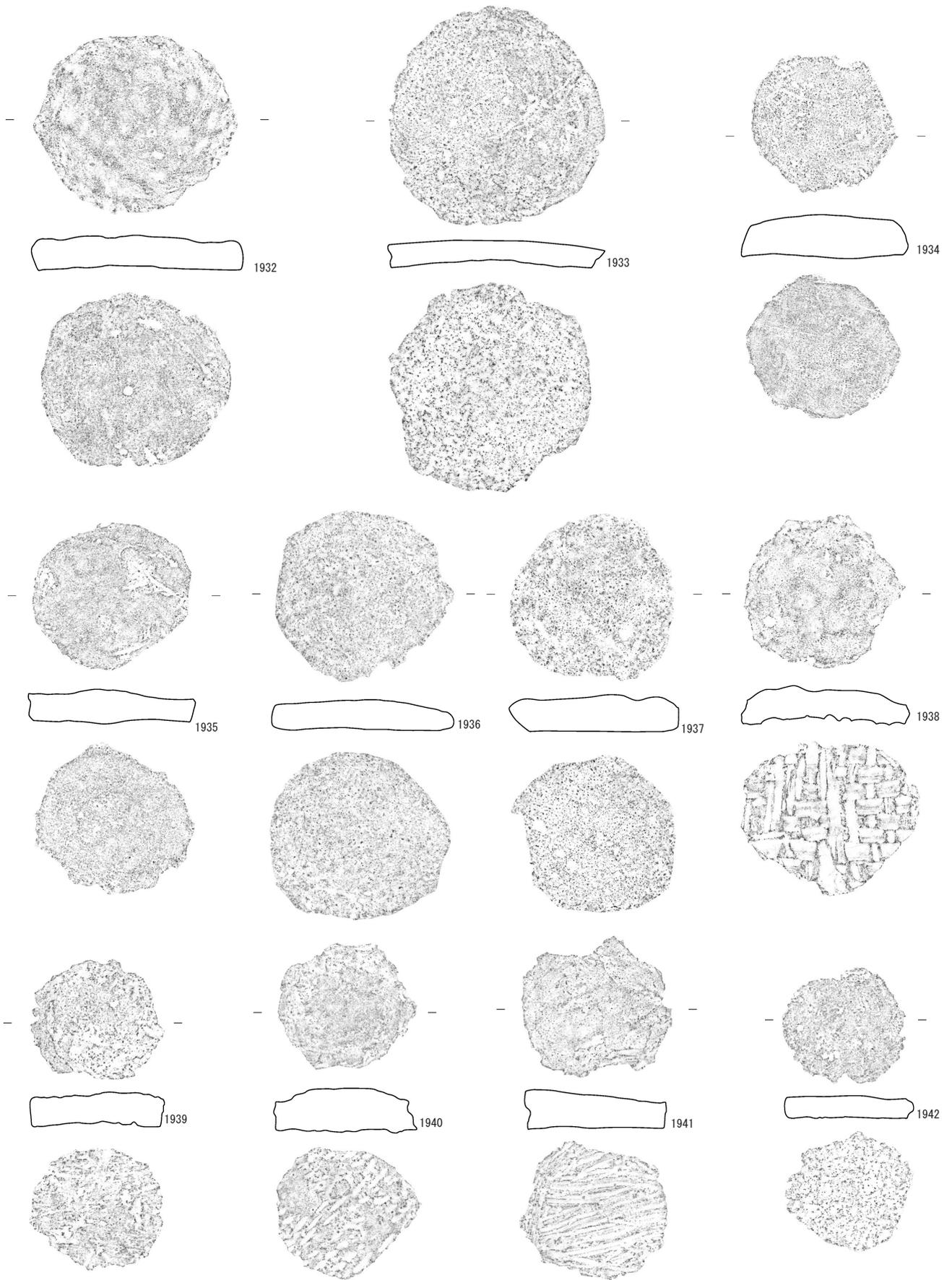
第2-124図 土製品 (3)



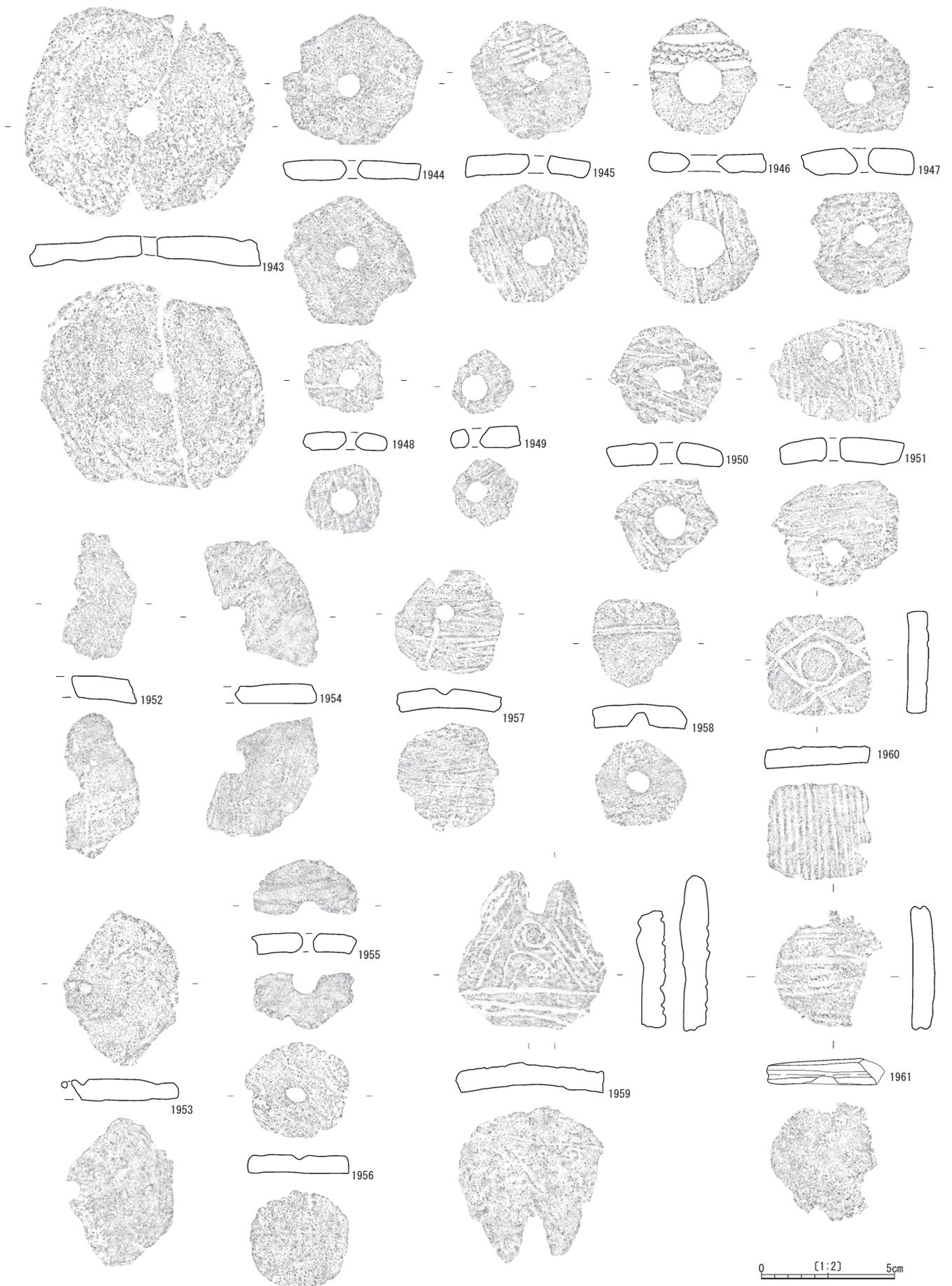
第2-125図 土製品 (4)



第2-126図 土製品 (5)



第2-127図 土製品 (6)



第2-128図 土製品 (7)

#### (1) 阿高式土器 (第2-129図1962・1963)

掲載した阿高式土器は、2点である。1962は胴部で、円形の凹線を3条施し、内面には外面の凹線による凹圧痕が残る。1963は、口縁部に貼り付ける突帯が剥離したものである。「U」字形で外面に2列の刺突間に沈線を施す。

#### (2) 春日式土器 (第2-129図1964~1967)

掲載した春日式土器は、4点である。1964は内湾する口縁部をもち、横位の連続した刺突が4段めぐる。内面は、器面調整の条痕が残る。1965は口縁部が内湾し、口唇部は方形を呈し、口唇部に刺突を施す。口唇部直下に爪形刺突を施し、その下に波形の突帯を貼り付け、そこに刺突を施す。口唇部は、一部山形の突起を貼り付ける。1966は口縁部は直立し、口縁部内面から外面にかけて刺突の施された紐状の隆帯を貼り付けるものである。器面調整は内外面ともナデで、焼成は良好である。1967は口縁部が外反し、3条の縦位の刻目突帯を貼り付ける。突帯間に白色土の上から赤色顔料を塗布する。内面は、条痕による器面調整を行う。口唇部は、一部方形を呈す。1964・1965は轟ヶ迫段階、1966・1967は南宮島段階と考えられる。

#### (3) 轟式土器 (第2-129図1968~1970)

轟式土器は、3点図化した。1968は直立する口縁部をもち、やや細くなる口唇部には刻みが施される。外面にはミミズバレ状の隆帯文を波状に3条配し、刻みを施す。隆帯文の下位には横位の細沈線が残る。内面は、比較的明瞭な条痕調整を残す。1969は、直立する口縁部に内面から外面にかけて粘土紐を貼り付け垂下させる。1968・1969とも轟B式土器に比定でき、1969は荘タイプと呼ばれるものである。1970は胴部片で、器面を指頭で両側から押し出すことにより縦位の隆帯をつくる。器面には指頭痕が明瞭に残る。内面は、器面調整の条痕が残る。詳細は不明であるが、特徴から轟式土器の範疇に含まれると判断した。

#### (4) 曾畑式土器 (第2-129・130図1971~1999)

出土した曾畑式土器の器形は口縁部が外反もしくは直立し、胴部はやや膨らむものと直立するものがあるという特徴をもつ。文様は沈線と刺突で構成され、全体的に器壁が幾分薄い。胎土に滑石を明らかに含むものが、3点あった。

1971~1986は口縁部で、その中でも1971~1980は口縁部の内外面に施文を行うものである。1971・1972は口縁部が外反し、口唇部には刻みを施す。内外面とも横位の沈線で文様を構成する。1973・1974は、幅広の口唇部に刺突を施す。外面には横位と縦位の沈線で四角文と考えられる文様を施す。内面は、横位の短沈線が残る。1975は口縁部が外反し、断面方形の口唇部に連続した刺突を施す。外面は口唇部直下に横位の沈線を施し、その下に

は区画を意識した斜位の沈線を山形状に配し、その区画を充填する縦位の沈線を施す。内面には横位の沈線を5条施す。1976はやや外反する口縁部をもち、幅広の口唇部には刺突を施す。外面は斜位の沈線で文様を構成し、内面は横位の沈線を施す。1977は外面に横位と斜位の沈線、内面は横位の沈線を施す。1978・1979は、内面に連続した横位の刺突とその下に沈線を施す。1979は、外面に横位の沈線の上に縦位の沈線を施す。1980は、内外面に刺突を施すものである。

1981~1986は内面に文様を施さないもので、口縁部は直立する。1981~1983は、縦位・斜位・横位の沈線で文様を構成する。1984~1986は、刺突で施文する。1984は口唇部から内面に向かって刻みを入れ、外面に羽状の刺突を巡らせ、その下位に横位の沈線を施す。1985・1986の刺突は口縁部に向かい、連続して施される。施文及び胎土等から両者は同一個体と考えられる。

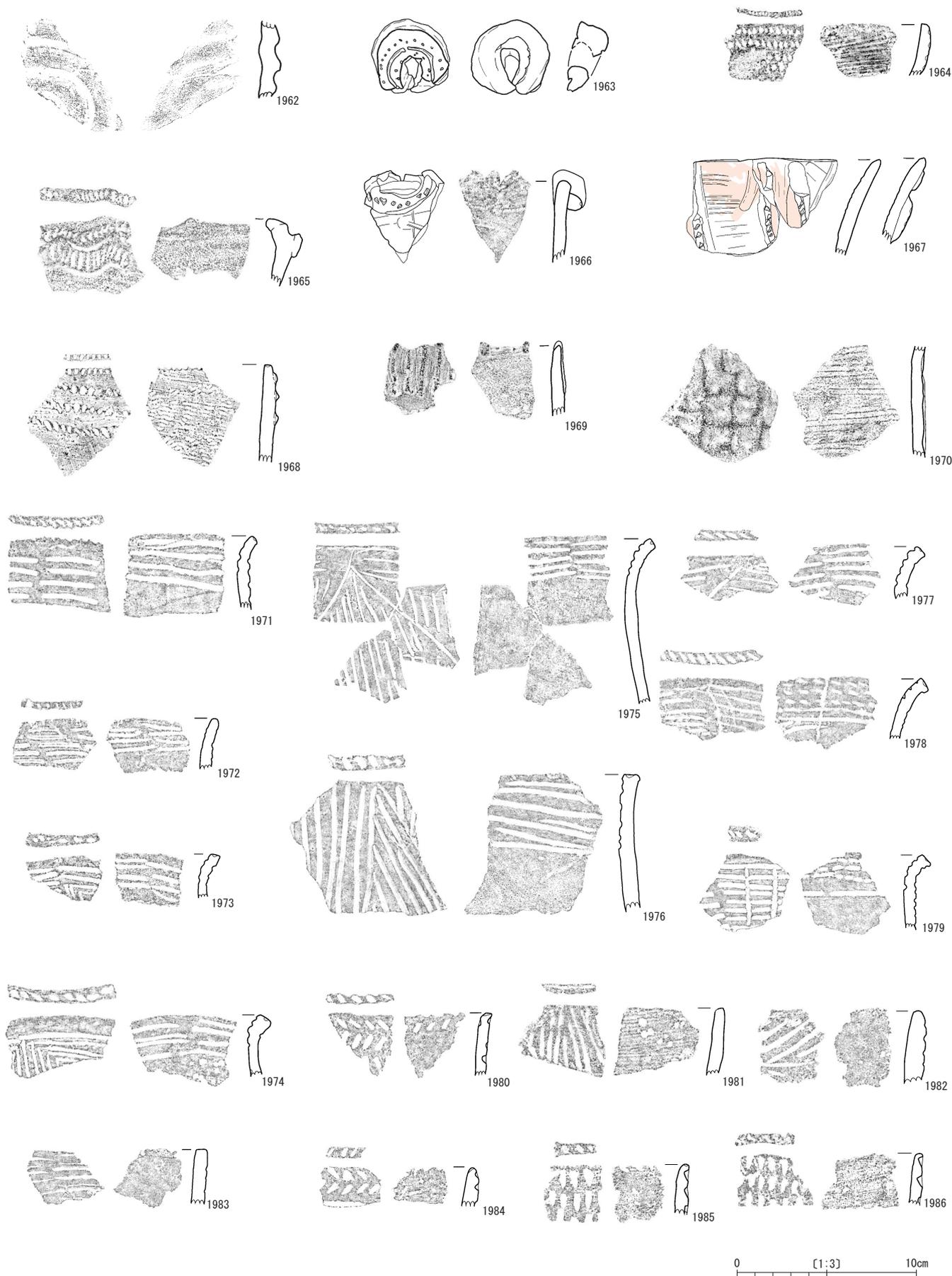
1987~1994は、胴部片である。1987は、口縁端部と底部を欠損する。文様は全面に施される。斜位の沈線で菱形に区画し、その区画を縦位の沈線で充填する文様をもつ。また、底部付近は、横位に近い沈線が施されている。口縁部内面には横位の沈線が残る。文様構成や胎土等から1975と同一個体と考えられる。1988は、斜位の細沈線を施す。1989は、横位もしくは斜位の沈線に縦位の沈線が上描きされる。胎土に滑石を含む。1991・1992は、同一個体と考えられる。器面を縦に区画するように3条の沈線を配し、逆「S」字状の曲線を上描きする。さらに、その両側には縦位・横位・斜位の沈線で規格性の乏しい文様を構成する。1993・1994も同一個体と考えられ、胎土には滑石を含む。文様は、横位の短沈線と連続した刺突で構成される。

1995は、底部片である。横位のやや幅広の短沈線で胴部と底部を区画し、底面中央に向かって縦位の短沈線を配する。

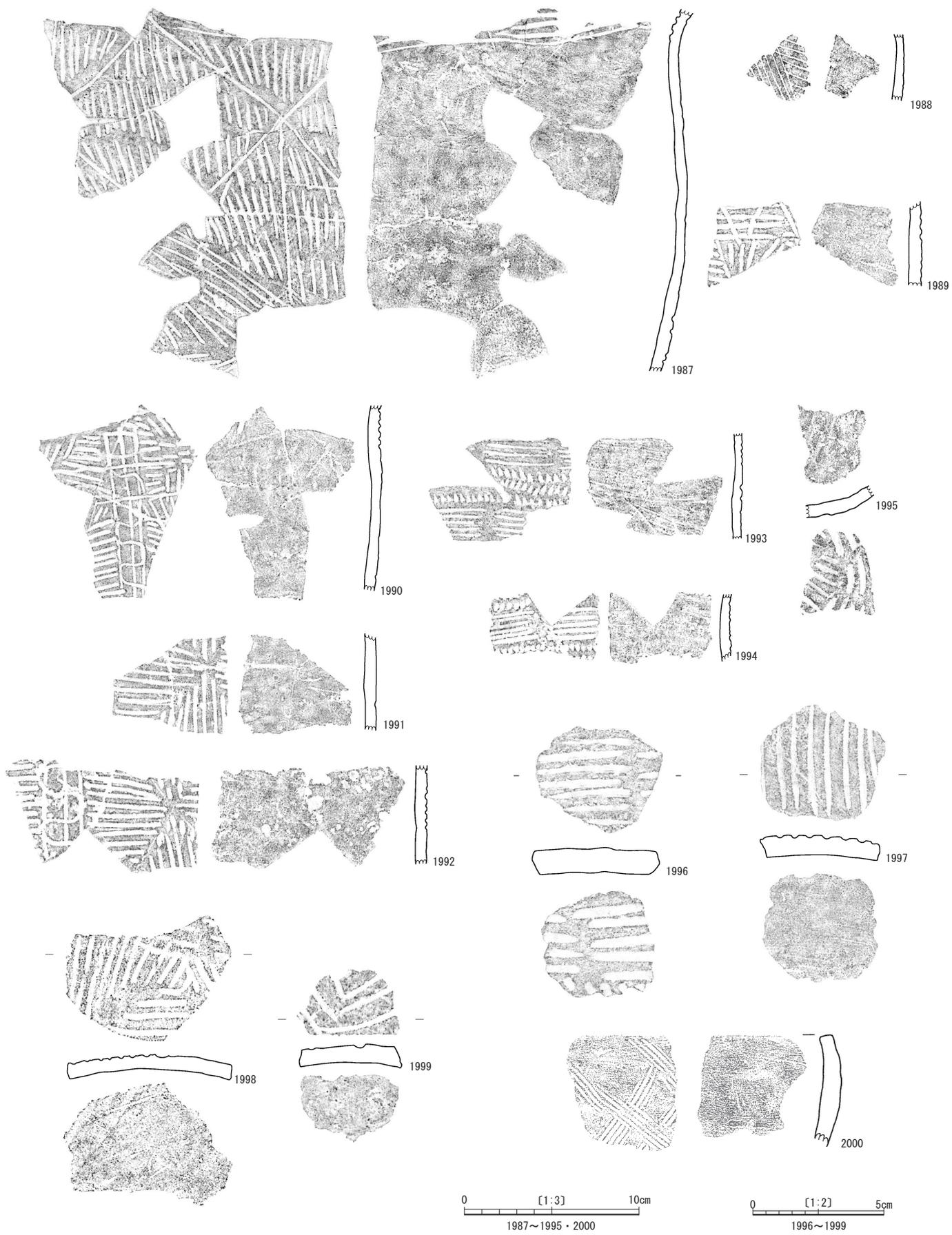
1996~1999は円盤形土製品で、いずれも沈線で文様が構成される深鉢の破片で作成され、側辺部は、打ち欠き作業を行っている。1996・1997は口縁部近辺の破片で、1998・1999は胴部片で一部欠損する。1996は、内面にも文様を施している。

#### (5) 塞ノ神式土器 (第2-129図2000)

塞ノ神式土器は、1点を図化した。2000は口縁部が内湾し、口縁部に斜めの格子目に貝殻押引文を施す。口唇部は方形を呈す。押引文は右上がりのあと、左上がりに施す。塞ノ神式土器としたが、苦浜式土器の可能性も考えられる。



第2-129図 縄文時代中期以前の土器・土製品（1）



第2-130図 縄文時代中期以前の土器・土製品（2）



第2-5表 縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（2）

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量 (cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土							備考				
								口径 (長軸)	底径 (短軸)	器高 (最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒		小礫	その他		
2-35	1127	E-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	口～胴部	後期	I e	-	-	-	ナデ	丁寧なナデ	沈線, 縄文刺突, 押圧	灰黄	黒褐	やや不良					◎					外面剥落 鐘崎式		
	1128	D-13	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	I e	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刺突, 押圧, 縄文刺突	灰	オリブ黒	不良	◎	○				○	△			鐘崎式 1129と同一		
	1129	E-12	Ⅱ	深鉢	口縁部	後期	I e	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 縄文刺突	褐灰	褐灰	不良	○	○				◎	△			鐘崎式 1128と同一		
	1130	D-13 E-13	Ⅲ Ⅲa	深鉢	口縁部	後期	I e	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	灰	灰	不良	○	○				◎					穿孔	
2-36	1131	E-13	Ⅲa	深鉢	口～胴部	後期	I f	20.8	-	(14.5)	ナデ	ナデ	沈線, 縄文刺突, 押圧	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	普通	○	○				○						
	1132	E-13	Ⅱ・Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	I f	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 縄文刺突, 押圧	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良好	○	○	◎									スス
	1133	E・F-12-13	Ⅲa	深鉢	口縁部	後期	I f	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突, 縄文刺突, 押圧	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	普通	○		◎			○						
	1134	D-13	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	I f	-	-	-	ナデ	条痕	刺突, 縄文刺突, 押圧	灰褐	灰黄褐	良好	○	○					○					
	1135	E-13	Ⅱ	深鉢	口縁部	後期	I f	-	-	-	ナデ	ナデ	縄文	褐灰	灰褐	良好	○	○					○					
	1136	D-22	Ⅱ	深鉢	口縁部	後期	I f	-	-	-	ナデ	ナデ	縄文	橙	橙	良好	○	○					○	△	○			
	1137	E-16	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	I f	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 縄文刺突, 押圧	灰褐	にぶい 黄橙	良好	○	○					○					
	1138	D-15	Ⅱ	深鉢	口縁部	後期	I f	-	-	-	ナデ	ナデ	縄文, 沈線	灰褐	褐灰	良									○			スス 1138と同一
	1139	D-15	Ⅱ	深鉢	胴部	後期	I f	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	にぶい 赤褐	褐灰	良		○					○		○			1138と同一
	1140	D-13	Ⅲ	深鉢	胴部	後期	I f	-	-	-	ナデ	ナデ	縄文	橙	橙	良好		○	○				○					
	1141	D-13	Ⅲa	深鉢	胴部	後期	I f	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 縄文	橙	にぶい 黄橙	普通	○	○					○					
2-37	1142	E-14	Ⅲa	深鉢	口縁部	後期	Ⅱa	-	-	-	ナデ	ナデ	凹線, 凹点	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良好	○						○					
	1143	E-13	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅱa	-	-	-	ナデ	ナデ	凹線, 刺突	褐灰	明褐	良好	○	○					○					
	1144	D-13	Ⅲa	深鉢	口～胴部	後期	Ⅱa	-	-	-	ナデ	条痕, ナデ	沈線, 刺突	灰褐	にぶい 赤褐	良好	○	○					○					
	1145	E-13	Ⅲa	深鉢	口～胴部	後期	Ⅱa	28.0	-	(15.5)	ナデ	条痕→ナデ	凹線, 刺突, 貝殻押圧, 凹線	にぶい 黄橙	灰黄褐	良好	○	○					△		△			
	1146	E-14	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅱa	-	-	-	ナデ	ナデ	貝殻押圧, 凹線, 刺突	黒褐	にぶい 黄橙	良好	○	○	△				○	△	△			
	1147	E-14	Ⅱ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅱa	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刺突, 凹線	赤褐	黒褐	良好	○	○					○	△				補修孔
	1148	E-16	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅱb	30.0	-	(14.3)	ナデ, ケズリ	丁寧なナデ	刻み, 刺突, 凹線	にぶい 黄橙	橙	良好	◎	○					○		○			
	1149	D-12 E-12	Ⅲa	深鉢	口～胴部	後期	Ⅱb	25.5	-	(18.2)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	凹線	褐灰	褐灰	良	○	○					○		○			
	1150	E-12	Ⅲb	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	28.0	-	(9.1)	ナデ	ナデ	沈線, 刻み, 凹線	にぶい 赤褐	褐灰	良好	○	○					○	△				
	1151	D-13 E-12	Ⅱ・Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅱb	25.0	-	(15.8)	ナデ	ナデ	沈線	褐灰	黒褐	やや不良	○	○					○	△				
	1152	D-18	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ	ナデ	凹線, 凹点, 短沈線, 押圧	にぶい 赤褐	灰黄	普通	○	○					○					
1153	E-15	Ⅲa	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	褐	橙	良好	○	○					○		△				
2-38	1154	D-13	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ	ナデ	凹線, 凹点	明褐	にぶい 黄橙	普通	○	○					○					
	1155	D-17	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ	ナデ	凹線	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良好	◎	○					◎		△			
	1156	D-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ	ナデ	凹線	灰褐	にぶい 黄橙	やや不良	○	○					○					
	1157	D-19	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ケズリ, ナデ	ナデ	凹線	褐	灰黄褐	良好	○	○					○					
	1158	E-15 E-16	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	条痕→ナデ	条痕→ナデ	凹線	橙	赤灰	良好	◎	◎						○	△			スス
	1159	E-15	Ⅱ	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	橙	灰黄褐	普通	○	○					○					補修孔
	1160	E-F-12-13 F-15	Ⅱ・Ⅲ a	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ	条痕, ナデ	沈線	褐灰	灰黄褐	良好	○	○					◎	◎				スス
	1161	F-13 F-16	Ⅲa カクラン	深鉢	口～胴部	後期	Ⅱb	23.0	-	(11.7)	ケズリ→ナデ	ナデ	沈線	暗赤褐	にぶい 赤褐	良好	○	○					○					
	1162	E-19	Ⅱc	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	明褐	明褐	やや不良	○	○					○					
	1163	E-14	Ⅲa	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	灰褐	灰褐	良好	○	○					○					
	1164	D-13	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	橙	橙	普通	○						○		○			
2-39	1165	E-21	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ	ナデ	連点, 沈線	橙	橙	良	○	○					○	○	○			
	1166	E-14	Ⅲa	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	灰褐	にぶい 赤褐	良好	○	○					○					
	1167	D-12	Ⅲb	深鉢	口～胴部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ, 条痕	ナデ, 条痕	刻み, 沈線	黄橙	褐灰	良好	○	○					○					
	1168	E-13	Ⅲa	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	明赤褐	黒褐	良好	○	○					○					
	1169	E-13	Ⅲa	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刺突, 刻目, 突帯	黒褐	にぶい 黄橙	良好	○	○					○					
	1170	D-20 D-21	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刻目, 突帯	褐	にぶい 黄橙	やや不良	○	○					◎					
	1171	E-19	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ	ナデ	凹線, 突帯, 沈線	にぶい 赤褐	にぶい 黄橙	良好	○	○					○	○				
	1172	E-14	Ⅱ	深鉢	口縁部	後期	Ⅱb	-	-	-	ナデ	ナデ	凹線, 突帯, 短沈線	灰黄褐	灰黄褐	良好	△	△					◎					



第2-7表 縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（4）

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量 (cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土							備考		
								口径 (長軸)	底径 (短軸)	器高 (最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒		小礫	その他
2-50	1219	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-2	25.0	-	(21.1)	ナデ, 指頭圧痕 条痕	条痕→ナデ	沈線	にぶい 褐	褐灰	良	○	○		○					スス	
	1220	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-2	24.0	-	(16.7)	ケズリ→ナデ	ナデ, 条痕	沈線	褐灰	褐灰	良	○	○		○			◎			
	1221	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅲb-2	-	-	-	条痕	ケズリ→ナデ	沈線	褐灰	褐灰	良	○	○		○			○		補修孔	
	1222	E-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅲb-2	-	-	-	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線	灰褐	灰褐	良	○	○					○	○		
2-51	1223	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-3	26.0	-	(9.9)	ナデ	ナデ	沈線	橙	橙	良	○	○		○						補修孔 1224と同一
	1224	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-3	26.0	-	(20.4)	ナデ	ナデ	沈線	橙	褐灰	良	○	○		○						1223と同一
	1225	D-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-3	51.4	-	(35.1)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	褐灰	褐灰	良	○	○		○						
	1226	E-18	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-3	25.6	-	(12.7)	ケズリ	ケズリ→ナデ	沈線	橙	にぶい 橙	良	◎	○		○			◎	◎		
2-52	1227	D-12 E-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲb-3	34.5	9.6	37.0	ナデ, 条痕	条痕	沈線	橙	橙	良好	◎	○		○						網代痕 白色土
	1228	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-3	27.0	-	(19.0)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	刺突	黄灰	橙	良	○		○		◎	◎				
	1229	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-3	25.0	-	(14.8)	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	黒褐	にぶい 黄橙	良	○	○		○				○		
	1230	E-18	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-3	16.8	-	(24.7)	条痕→ナデ	条痕, ナデ	沈線, 刻み	橙	にぶい 橙	良	○	○		○						
	1231	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-3	13.2	-	(21.5)	ナデ	ナデ	沈線	にぶい 赤褐	暗赤褐	良	○		○							白色土
2-53	1232	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-3	18.3	-	(18.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	黒褐	黒褐	良	○	○		○				○		
	1233	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-3	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	にぶい 橙	灰黄褐	良	○	○		○				○		
	1234	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-3	25.0	-	(21.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線	浅黄	暗灰黄	良	○	○		○				○		
	1235	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-3	30.0	-	(19.0)	条痕→ケズリ ナデ	条痕→ナデ	沈線	にぶい 褐	にぶい 褐	良	○	○		○				○		
	1236	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-3	39.7	-	(33.3)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 条痕	沈線, 刺突	浅黄橙	にぶい 黄橙	良	○	○		○				○		
2-54	1237	E-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲb-4	19.0	6.5	17.3	条痕	ケズリ, ナデ	沈線	灰黄褐	灰黄褐	良	○		○							網代痕
	1238	D-12	Ⅲ Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-4	34.6	-	(31.1)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	明黄褐	にぶい 黄橙	良	○	○		○						
	1239	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-4	30.0	-	(22.5)	条痕, ナデ	条痕	沈線	灰黄褐	にぶい 黄橙	良	○	○		○						資料No. KAWBAN-17
	1240	D-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-4	29.0	-	(19.6)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刻み	にぶい 褐	橙	良	○	○		○				○		
	1241	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-4	21.8	-	(21.9)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突 刻み	橙	褐灰	良	○	○		○				○		
2-55	1242	E-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-4	38.0	-	(31.5)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	黒褐	褐灰	良	○	○		○						
	1243	E-18	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲb-4	26.0	10.9	24.7	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	沈線, 刻み	にぶい 褐	黒褐	良	○	○		○			○	○		網代痕 白色土
	1244	D-22	Ⅱ	深鉢	完形	後期	Ⅲb-4	31.7	9.0	26.2	条痕→ナデ	条痕, ナデ	沈線, 刺突 刻み	明赤褐	明赤褐	良	○	○		○			○	◎		
	1245	D-12	Ⅱ Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-4	27.5	-	(17.3)	ケズリ→ナデ	ナデ, 指頭圧痕	沈線, 刻み	にぶい 黄橙	黒	良	○	○		○				○		補修孔
2-56	1246	D-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-4	20.0	-	(7.4)	ナデ	ナデ	沈線, 刻み	褐	灰褐	良	○	○		○						
	1247	E-17	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-4	25.0	-	(12.5)	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良	○	○		○			◎			突起ぬじれ
	1248	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-4	26.0	-	(11.7)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	灰褐	にぶい 褐	良	○	○		○						穿孔
	1249	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-4	25.6	-	(13.5)	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	にぶい 橙	明褐灰	良	○	○		○						
2-57	1250	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	(26.5)	-	(8.5)	ナデ	ナデ	沈線	黒褐	黒褐	良	○	○		○						
	1251	D-12	Ⅲa	深鉢	完形	後期	Ⅲb-5	16.6	6.6	14.0	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	褐	褐	良	○	○		○						
	1252	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	18.0	-	(15.0)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刻み, 沈線	褐	灰褐	良	○	○		○			○	○		
	1253	D-12	Ⅱ・Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	22.2	-	(13.3)	ケズリ→ナデ	条痕→ケズリ ナデ	沈線	黒褐	褐灰	良	○	○		○						
	1254	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	36.2	-	(27.0)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	にぶい 褐	にぶい 黄褐	良	○		○					◎		
	1255	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	33.6	-	(21.6)	ケズリ→ナデ	条痕→ケズリ	沈線	にぶい 橙	にぶい 褐	良	○	○		○						
	1256	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	24.3	-	(19.3)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ ケズリ→ナデ	刻み, 沈線	灰白	にぶい 黄褐	良	○	○		○				○		
	1257	D-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	27.9	-	(21.7)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突 刻み	にぶい 橙	にぶい 橙	良	○	○		○						
2-58	1258	D-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	14.0	-	(10.1)	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	暗褐	褐	良	○	○		○						
	1259	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	16.8	-	(13.0)	ナデ	ナデ	沈線	橙	橙	良	○	○		○						
	1260	E-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	16.3	-	(8.3)	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刻み	褐	にぶい 赤褐	良	○	○		○						
	1261	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	15.5	-	(8.0)	ナデ	ナデ	沈線	暗灰黄	黄灰	良	○	○		○						
	1262	D-12	Ⅲ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	26.6	-	(10.9)	ナデ	ナデ	沈線, 刻み	にぶい 橙	にぶい 褐	良	○	○		○						
	1263	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	20.8	-	(6.8)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刻み, 沈線	にぶい 橙	にぶい 褐	良	○	○		○						
	1264	D-19 E-19	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	-	-	-	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	にぶい 黄橙	褐灰	良	○	○		○			○			

第2-8表 縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（5）

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量 (cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土							備考					
								口径 (長軸)	底径 (短軸)	器高 (最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色 粒		小礫	その他			
2-58	1265	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	27.6	—	(21.0)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	沈線	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良	○	○											
	1266	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	24.6	—	(18.9)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	灰黄褐	にぶい 黄褐	良		○							◎				
	1267	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	29.1	—	(24.4)	条痕→ケズリ ナデ	条痕→ケズリ ナデ	沈線、刻み	黒褐	灰褐	良	○	○							◎				
	1268	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-5	29.0	—	(17.8)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	褐灰	褐灰	良	○	○											
2-59	1269	D-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲb-6	24.6	7.6	21.0	ナデ	条痕→ナデ	刺突、沈線	黒褐	黒褐	良	○	○											
	1270	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-6	20.2	—	(20.3)	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突、沈線	灰黄褐	褐灰	良	○	○											
	1271	C-16	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲb-6	14.6	7.4	15.0	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刻み、沈線 刺突	橙	橙	良	○	○							◎				
	1272	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-6	—	—	—	条痕→ナデ	ナデ	沈線 竹管文	灰褐	灰褐	良	○	○											
	1273	F-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅲb-6	—	—	—	ナデ	ケズリ→ナデ	擬縄文、沈線 竹管文	にぶい 黄橙	灰褐	良	○	○											
	1274	D-13 E-12	Ⅲ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-6	15.8	—	(6.2)	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線 擬縄文	褐灰	橙	良	○	○											
	1275	D-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-7	26.2	—	(20.1)	ナデ	ナデ、指頭圧痕	沈線	褐灰	にぶい 黄褐	良	○	○											
1276	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-7	35.4	—	(23.3)	条痕→ケズリ ナデ	条痕→ナデ	沈線、刺突	にぶい 橙	にぶい 橙	良	○	○												
2-60	1277	D-19	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-7	30.0	—	(22.0)	条痕→ナデ	条痕	沈線、刻み	黄灰	にぶい 黄	良	○	○											
	1278	E-12	Ⅱ Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-7	49.6	—	—	ナデ	条痕→ナデ	沈線	橙	褐灰	良	○	○											
	1279	D-11 E-11	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-7	27.5	—	(26.2)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	沈線	灰黄褐	灰黄褐	良	○	○											
	1280	E-16	Ⅱ・Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲb-7	32.5	8.8	30.9	条痕	条痕→ナデ	沈線	にぶい 黄橙	にぶい 黄褐	良	○	○							◎		網代痕→ 条痕、穿孔		
2-61	1281	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-7	20.8	—	(16.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線	黒褐	灰黄褐	良	○	○											
	1282	D-12 F-13	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-7	13.0	—	(6.6)	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	にぶい 黄橙	褐灰	良	○	○											
	1283	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲb-7	27.0	—	(20.7)	条痕	条痕、ケズリ→ ナデ	沈線	褐	明褐	良	○	○							◎		網代痕		
	1284	E-13 E-14	Ⅱ	深鉢	完形	後期	Ⅲb-7	12.5	6.0	16.5	ナデ	ナデ	沈線	にぶい 橙	にぶい 褐	良	○	○											網代痕
	1285	D-12	Ⅲa	深鉢	完形	後期	Ⅲb-7	19.8	10.2	23.3	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線、刺突 刻み	にぶい 橙	にぶい 褐	良	○	○								◎		網代痕	
2-62	1286	D-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲc	30.8	10.7	30.0	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線	橙	にぶい 褐	良	○	○											
	1287	E-18	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲc	23.0	9.6	21.9	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突、沈線	橙	にぶい 橙	良	○	○											
	1288	E-14	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲc	16.0	—	(15.3)	条痕→ケズリ ナデ	条痕→ケズリ ナデ	刺突	明赤褐	明赤褐	良	○	○							◎				
	1289	E-16	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅲc	—	—	—	ナデ	条痕→ナデ	凹点	灰黄褐	灰黄褐	良	○	○											
	1290	E-13 E-14	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲc	23.0	—	(19.6)	条痕→ケズリ ナデ	条痕→ケズリ ナデ	沈線	にぶい 橙	灰黄褐	良	○	○											
	1291	D-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲc	12.5	6.2	12.0	ナデ	ナデ、指頭圧痕	刻み、刺突	にぶい 赤褐	にぶい 赤褐	良	○	○											
1292	D-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲc	35.0	—	(24.6)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	灰黄	黄灰	良		○												
2-63	1293	D-27	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲd	13.2	—	(11.4)	ナデ、条痕	ナデ	—	橙	にぶい 赤褐	良	○	○											
	1294	D-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	11.6	7.7	12.6	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	—	にぶい 赤褐	にぶい 赤褐	良	○	○											
	1295	D-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	17.0	7.9	15.4	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	—	灰褐	にぶい 橙	良	○	○										網代痕 スス	
	1296	D-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	27.4	21.7	21.6	ケズリ	ケズリ→ナデ	—	浅黄橙	にぶい 橙	良	○	○								◎		網代痕	
	1297	D-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲd	11.2	5.6	13.6	ナデ	ナデ	—	明褐	橙	良	○	○											網代痕
	1298	E-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲd	10.9	6.3	16.1	条痕→ナデ	ナデ	—	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良	○	○	○										スス 網代痕
	1299	D-12	Ⅲ Ⅲa	深鉢	完形	後期	Ⅲd	13.0	7.0	13.4	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	—	にぶい 橙	黒	良	○	○											白色土
	1300	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲd	29.8	—	(19.9)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	—	灰褐	にぶい 褐	良	○	○											スス
	1301	D-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	27.0	9.0	24.8	ナデ	条痕→ナデ	—	灰黄	褐灰	良		○											補修孔、白色 土、網代痕
2-64	1302	D-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲd	17.6	7.5	17.8	条痕	条痕、ナデ	—	褐灰	黒褐	良	○	○											
	1303	E-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲd	21.8	9.5	22.9	条痕	条痕、ナデ	—	にぶい 橙	にぶい 黄橙	良	○	○											スス 網代痕
	1304	D-12	Ⅲb	深鉢	完形	後期	Ⅲd	13.2	9.6	10.4	ナデ	条痕→ナデ	—	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	普通	○	○											網代痕
	1305	D-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	13.6	7.6	14.4	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	ナデ	—	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良	○	○											堅果類圧痕 スス
	1306	D-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	15.6	8.0	16.9	条痕→ケズリ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	—	橙	にぶい 黄橙	良	○	○											スス
	1307	B-16	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	25.7	6.0	23.4	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	—	橙	明赤褐	良	○	○											
	1308	D-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	27.5	12.2	26.0	条痕→ナデ	条痕→ナデ	—	明赤褐	灰褐	良	○												網代痕 スス
	1309	D-12	Ⅲa Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅲd	13.0	—	(10.5)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	—	橙	にぶい 橙	良	○	○											
2-65	1310	D-12	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅲd	15.5	6.2	13.6	ナデ	ケズリ→ナデ	—	にぶい 赤褐	橙	良	○	○											もじり痕 網代痕





第2-11表 縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（8）

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量 (cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土								備考		
								口径 (長軸)	底径 (短軸)	器高 (最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫		その他	
2-74	1403	E-12	II	深鉢	口～胴部	後期	IVb-3	-	-	-	条痕→ナデ 指頭圧痕	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突, 沈線	にぶい 赤褐	灰褐	良好	○	○								スス 穿孔	
	1404	F-15	II IIIa	深鉢	口～胴部	後期	IVb-3	41.2	-	(15.2)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突 竹管, 刻み	明赤褐	橙	良好	◎										
	1405	E-13	IIIa	深鉢	完形	後期	IVb-3	20.2	8.2	22.2	条痕→ナデ ケズリ	条痕→ナデ ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	にぶい 橙	褐灰	良好	○	○			○					もじり痕	
	1406	E-13	IIIa	深鉢	口～胴部	後期	IVb-3	18.8	-	(17.9)	条痕→ナデ	条痕, ケズリ→ ナデ	沈線, 刺突	にぶい 橙	褐灰	普通	○	○						◎			
	1407	E-12	II	深鉢	口～胴部	後期	IVb-3	37.4	-	(26.6)	条痕→ナデ	条痕	沈線, 刺突	にぶい 橙	にぶい 橙	良好	○					○					
2-75	1408	E-13	III	深鉢	口～胴部	後期	IVb-4	34.0	-	(24.4)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突	にぶい 黄褐	黄灰	良好	○	○				○		△	△		
	1409	F-15 F-16	IIIa カクラン	深鉢	口縁部	後期	IVb-4	25.3	-	(9.6)	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	にぶい 橙	明赤褐	良好	△	○				○					
	1410	E-13	II	深鉢	口～胴部	後期	IVb-4	19.2	-	(11.7)	ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	黒褐	黒褐	良好	○	○				○					
	1411	E-13	IIIa	深鉢	口～胴部	後期	IVb-4	32.4	-	(12.4)	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	にぶい 黄褐	黒褐	良好	○	○									
	1412	F-13	IIIa	深鉢	口縁部	後期	IVb-4	28.4	-	(7.8)	条痕→ナデ	ナデ	沈線, 刺突	灰褐	にぶい 褐	良好	○	○				○			△		
	1413	F-15	II IIIa	深鉢	口縁部	後期	IVb-4	-	-	-	条痕→ケズリ→ ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	橙	明赤褐	良好	○	○									
	1414	E-14	IIIa	深鉢	口～胴部	後期	IVb-4	36.0	-	(13.5)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	褐	褐	良好	○	○				○					
2-76	1415	E-F- 10-13	II・III IIIa	深鉢	口～胴部	後期	IVb-4	32.2	-	(35.5)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○							◎		
	1416	E-13	III	深鉢	口～胴部	後期	IVb-4	32.0	-	(20.2)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	赤	にぶい 黄橙	普通	○	○									
	1417	E-13 E-14	IIIa カクラン	深鉢	口～胴部	後期	IVb-4	21.0	-	(16.8)	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突	灰褐	にぶい 褐	良好	○	○				△					
	1418	E-13	II	深鉢	口～胴部	後期	IVb-4	27.2	-	(19.6)	ケズリ→ナデ	条痕, ケズリ→ ナデ	沈線, 刺突	にぶい 褐	黒褐	良好	○	○				○					
	1419	E-13	III	深鉢	口縁部	後期	IVb-4	-	-	-	条痕→ナデ	ナデ	沈線, 刺突	にぶい 褐	灰褐	普通	○	○				○					
	1420	F-15	II IIIa	深鉢	口～胴部	後期	IVb-4	25.3	-	(13.3)	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	明赤褐	にぶい 褐	普通	○	○				○		○			
2-77	1421	F-13	II IIIa	深鉢	口～胴部	後期	IVb-4	-	-	-	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ, ケズリ →ナデ, 指頭圧痕	沈線, 刺突	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○				○		◎	○		
	1422	F-15	IIIa カクラン	深鉢	口縁部	後期	IVb-4	-	-	-	ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	赤褐	明赤褐	良好	◎	△									
	1423	D-14	III	深鉢	口～胴部	後期	IVb-4	20.6	-	(18.9)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突	明赤褐	灰褐	良好	○	○		○	○			◎			
	1424	E-13	II	深鉢	口縁部	後期	IVb-4	-	-	-	ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	明赤褐	明赤褐	良好	◎										
	1425	F-15	II・III	深鉢	口～胴部	後期	IVb-4	32.0	-	(23.7)	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	条痕→ナデ	沈線, 刺突	橙	橙	良好	◎	△									
	1426	F-13 F-15	II IIIa	深鉢	口縁部	後期	IVb-4	29.6	-	(8.8)	ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	にぶい 褐	にぶい 褐	良好	○	○				○					
	1427	E-14 F-13	II	深鉢	口縁部	後期	IVb-4	-	-	-	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 竹管	にぶい 赤褐	にぶい 赤褐	良好	○	○				○		○			
2-78	1428	E-F-13注 記なし	IIIa IIIb	深鉢	口～胴部	後期	IVb-4	26.8	-	(22.1)	ケズリ→ナデ	ナデ	沈線, 刺突	にぶい 橙	にぶい 橙	良好	○	○				○				スス	
2-79	1429	E-F- 12-13	IIIa	深鉢	口～胴部	後期	IVb-5	21.0	-	(16.9)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	橙	にぶい 褐	良好	○	○				○					
	1430	E-13	III	深鉢	口～胴部	後期	IVb-5	23.0	-	(19.8)	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突	褐灰	黒褐	良好	△	△						◎			
	1431	E-13	III	深鉢	口～胴部	後期	IVb-5	38.2	-	(25.4)	ケズリ→ナデ	ナデ	刺突, 沈線	にぶい 黄橙	黄灰	普通	○	○				○					
	1432	F-15	IIIa	深鉢	口～胴部	後期	IVb-5	-	-	-	ナデ, 指頭圧痕	ナデ, 指頭圧痕	沈線, 刺突	にぶい 赤褐	にぶい 橙	普通	○	○				○					
	1433	E-13 E-14	III IIIa	深鉢	口縁部	後期	IVb-5	13.2	-	(7.2)	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突	にぶい 黄褐	黒褐	良好	○	○				○					
	1434	E-14 E-16	IIIa	深鉢	口～胴部	後期	IVb-5	36.8	-	(21.6)	条痕→ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突, 沈線	黒褐	灰褐	普通	○	○				○				補修孔	
2-80	1435	E-13	III	深鉢	口縁部	後期	IVb-5	-	-	-	ケズリ→ナデ	指頭圧痕, ナデ	沈線, 刺突	褐灰	にぶい 黄橙	良好	○	○			○	○					
	1436	D-12	IIIb	深鉢	口縁部	後期	IVb-5	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突, 沈線 刻み	褐灰	灰黄褐	良好	○	○				○		△			
	1437	E-15	II	深鉢	口縁部	後期	IVb-5	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刻み	にぶい 黄褐	にぶい 黄橙	良好	○	○					○	◎			
	1438	F-12 F-13	II IIIa	深鉢	口縁部	後期	IVb-5	-	-	-	ケズリ→ナデ	ナデ	刺突, 沈線	にぶい 褐	褐灰	良	○	○					△	◎			
	1439	D-13	IIIa	台付皿	口縁部	後期	IVb-5	-	-	-	ナデ, 指頭圧痕	ナデ	沈線, 刺突	にぶい 黄橙	灰黄褐	良好	○	○				○					
	1440	E-12	IIIb	台付皿	口縁部	後期	IVb-5	-	-	-	ケズリ→ナデ	ナデ	沈線, 突帯	にぶい 褐	明褐	良好	○	○				○				赤色顔料 穿孔	
	1441	E-13	IIIa	深鉢	口～胴部	後期	IVc	-	-	-	ケズリ, ナデ	ケズリ→ナデ	沈線	にぶい 赤褐	にぶい 赤褐	良好	○	○				○					
	1442	F-13	IIIa	深鉢	口縁部	後期	IVc	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刻み	灰褐	にぶい 褐	良好	○	○				○					
	1443	D-13	III	深鉢	口縁部	後期	IVc	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	にぶい 褐	灰黄褐	良好	○	○			○	○					
	1444	F-13	IIIa	深鉢	口～胴部	後期	IVc	26.4	-	(19.1)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	灰褐	にぶい 橙	良好	○	○				○		◎			
	1445	E-13	IIIa	深鉢	口縁部	後期	IVc	-	-	-	条痕→ナデ	ナデ	回転押圧 沈線	黒褐	黒	普通	△					△				ヘナタリ	
	1446	E-13	IIIa	深鉢	口～胴部	後期	IVd	-	-	-	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	-	橙	にぶい 黄橙	普通	○	○				○		◎			
	1447	D-13	III	深鉢	口～胴部	後期	IVd	20.0	-	(15.7)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	-	橙	褐灰	良好	○	○				○					
	1448	D-13	III	深鉢	口～胴部	後期	IVd	17.8	-	(17.8)	ナデ	ナデ	刻み	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良好	○	○				○					



第2-13表 縄文時代遺物観察表（土器・土製品）(10)

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量 (cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土							備考					
								口径 (長軸)	底径 (短軸)	器高 (最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	角閃石	滑石	赤色粒	小礫		その他				
2-86	1495	D-13	Ⅲ	深鉢	□~胴部	後期	V a-3	22.4	-	(19.2)	ケズリ→条痕 ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	刺突	暗褐	にぶい 褐	良好	○	○		○									
	1496	E-13	Ⅲ	深鉢	□~胴部	後期	V a-4	17.0	-	(15.1)	条痕→ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突	暗赤褐	暗赤褐	普通	○	○	○								スス		
	1497	D-13	Ⅲ	深鉢	□~胴部	後期	V a-4	26.5	-	(17.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	褐灰	にぶい 黄橙	良好	○			○				△					
	1498	E-F- 12-13	Ⅱ Ⅲ a	深鉢	□~胴部	後期	V a-4	28.6	-	(14.3)	ナデ	ナデ	刺突	灰褐	にぶい 赤褐	良好	○	○		○									
	1499	E-F- 12-13	Ⅱ Ⅲ a	深鉢	□縁部	後期	V a-4	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突	明赤褐	褐灰	良好	○	○		○									
	1500	D-13	Ⅲ	深鉢	□~胴部	後期	V a-4	27.8	-	(27.5)	条痕→ナデ	条痕, ナデ	刺突	灰黄褐	にぶい 黄褐	良好	○	○		○									
	1501	D-13	Ⅲ a	深鉢	□~胴部	後期	V a-4	-	-	-	条痕→ナデ ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい 黄橙	にぶい 橙	普通	○	○		○									
	1502	D-13	Ⅲ a	深鉢	□縁部	後期	V a-4	-	-	-	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 条痕	刺突	にぶい 黄橙	にぶい 橙	良好	○	○	○	○					◎				
2-87	1503	F-13	Ⅲ a	深鉢	□縁部	後期	V b-1	-	-	-	丁寧なナデ	ケズリ→ナデ	刺突	橙	にぶい 褐	普通	○	○		○									
	1504	E-13	Ⅲ	深鉢	□~胴部	後期	V b-1	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突	黒褐	褐灰	不良	○	○		○				△	△				
	1505	E-13	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	V b-1	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突	灰黄褐	黒褐	良好	○	○		○									
	1506	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	V b-1	-	-	-	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	灰褐	にぶい 橙	良好	○	○		○									
	1507	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	V b-1	-	-	-	ナデ, 指頭圧痕	ナデ	刺突	灰褐	にぶい 橙	普通	○	○		○									
	1508	D-12	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	V b-1	13.2	-	(4.7)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい 橙	灰褐	普通	○	○		○									
	1509	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	V b-1	-	-	-	ケズリ→ナデ	ナデ	凹線, 刺突	にぶい 褐	にぶい 褐	普通	○	○		○	○								
	1510	E-13	Ⅲ a	深鉢	□~胴部	後期	V b-2	23.0	-	(15.8)	ナデ, 指頭圧痕	ナデ	刺突	にぶい 黄褐	灰黄褐	やや 不良	○	○		○									
	1511	E-12	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	V b-2	-	-	-	ケズリ→ナデ 条痕, 指頭圧痕	条痕, ケズリ ナデ	刺突	黒褐	黒褐	良好	○	◎		◎									
	1512	D-23	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	V b-2	-	-	-	ナデ	条痕→ナデ	半裁竹管	灰褐	明褐	良好	○	○											
	1513	E-12	Ⅲ a	深鉢	□~胴部	後期	V b-2	18.6	-	(15.8)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	黒褐	暗褐	良好	○	○										壺果類圧痕	
	1514	E-14	Ⅱ Ⅲ	深鉢	□~胴部	後期	V b-2	23.2	-	(14.1)	条痕→ナデ 指頭圧痕	条痕→ナデ	刺突	にぶい 赤褐	にぶい 赤褐	良好	○	○		○					△				
	1515	E-12	Ⅲ a	深鉢	□~胴部	後期	V b-2	20.4	-	(9.8)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	良好	○	○	◎						○				
	1516	E-F- 12-13	Ⅱ Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	V b-2	-	-	-	ナデ	ナデ	竹管	にぶい 橙	にぶい 橙	普通	○	○						○					
	1517	E-13	Ⅲ	深鉢	□~胴部	後期	V b-2	15.4	-	(14.2)	ナデ	条痕	刺突	黒褐	黒褐	普通	○	○											
1518	E-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	V b-2	-	-	-	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい 橙	にぶい 橙	普通	○	○		○										
2-88	1519	D-13	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	V b-3	-	-	-	ナデ	条痕→ナデ	刺突	灰褐	にぶい 赤褐	普通	◎	○		○					○				
	1520	D-17 E-17	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	V b-3	27.3	-	(6.6)	ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい 褐	にぶい 褐	良好	○	○		○									
	1521	E-13	Ⅲ	深鉢	□~胴部	後期	V b-3	33.5	-	(14.8)	ナデ	ナデ	刺突	黒褐	灰褐	良好	○	◎					○						
	1522	D-13	Ⅲ	深鉢	□~胴部	後期	V b-3	23.0	-	(15.6)	ナデ, 指頭圧痕	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突	にぶい 褐	橙	普通	○	◎										赤色顔料	
	1523	E-13	Ⅲ	深鉢	□~胴部	後期	V b-3	22.8	-	(23.7)	条痕→ナデ 指頭圧痕	条痕, ナデ 指頭圧痕	刺突	暗灰黄	暗灰黄	良好	○	○	○	○								スス, 試料No. KAWBN-13C	
	1524	D-13	Ⅱ	深鉢	□~胴部	後期	V b-3	18.0	-	(11.5)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	にぶい 黄褐	暗オリ ープ褐	良好	○	◎					○						
	1525	F-15	Ⅲ a	深鉢	□縁部	後期	V b-3	-	-	-	条痕→ナデ	ナデ	刺突	褐	にぶい 褐	普通	○	○		○									
	1526	E-12	Ⅲ b	深鉢	□~胴部	後期	V b-4	26.0	-	(28.2)	ケズリ→ナデ	指頭圧痕 ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	にぶい 橙	褐灰	良好	○	○		○				○					
	1527	D-13	Ⅲ	深鉢	□~胴部	後期	V b-4	22.0	-	(17.6)	ナデ	指頭圧痕, ナデ	刺突	暗赤褐	灰褐	やや 不良	○	○		○									
2-89	1528	E-12	Ⅲ b	深鉢	□~胴部	後期	V b-4	-	-	-	条痕→ナデ ケズリ, 指頭圧痕	ナデ, 指頭圧痕	刺突	にぶい 橙	にぶい 橙	普通	○	○		○			○					壺果類圧痕	
	1529	D-13	Ⅲ	深鉢	□~胴部	後期	V b-4	17.6	-	(16.4)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	沈線	明赤褐	暗赤褐	普通	○	○											
	1530	E-12	Ⅱ	深鉢	□~胴部	後期	V b-4	20.8	-	(19.1)	指頭圧痕 ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	橙	にぶい 橙	良好	○	○		○									
	1531	E-12	Ⅱ	深鉢	□~胴部	後期	V b-4	21.6	-	(14.4)	ナデ	条痕→ナデ	刺突	灰褐	暗赤褐	良好	○	◎		○									
	1532	D-13	Ⅲ	深鉢	□~胴部	後期	V b-4	23.6	-	(23.8)	ナデ, 指頭圧痕	条痕, ナデ 指頭圧痕	刺突	暗灰黄	にぶい 黄橙	普通		◎						◎			スス		
	1533	E-12 F-12	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	V b-4	-	-	-	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい 褐	にぶい 黄褐	良好													
	1534	E-12	Ⅲ a	深鉢	□縁部	後期	V b-4	-	-	-	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	刺突	灰黄褐	にぶい 褐	普通	○	◎		○									
	1535	E-11	Ⅲ b	深鉢	□~胴部	後期	V b-4	-	-	-	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	黒褐	暗赤褐	良好	○	○		○									
2-90	1536	E-13	Ⅲ	深鉢	□~胴部	後期	V b-4	21.3	-	(18.6)	ケズリ, ナデ 指頭圧痕	指頭圧痕 ケズリ→ナデ	刺突	灰褐	灰褐	良好	○	○		○									
	1537	D-14	Ⅲ	深鉢	□~胴部	後期	V b-4	20.6	-	(8.9)	ナデ	ナデ	半裁竹管	黄橙	黄橙	やや 不良	○			○									
	1538	E-12	Ⅱ	深鉢	□~胴部	後期	V b-4	20.2	-	(20.2)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい 黄橙	灰黄褐	良好	○					△		○					
	1539	E-12	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	V b-4	-	-	-	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ, ケズ リ→ナデ, 指頭圧痕	刺突	灰黄褐	にぶい 橙	普通	○	○		○								穿孔 スス	
1540	D-13	Ⅱ	深鉢	□~胴部	後期	V b-4	-	-	-	ナデ, 指頭圧痕	ナデ	竹管	黒褐	灰褐	良好	○	○		○										

第2-14表 縄文時代遺物観察表（土器・土製品）(11)

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量 (cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土							備考				
								口径 (長軸)	底径 (短軸)	器高 (最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒		小礫	その他		
2-90	1541	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	26.8	-	(24.6)	条痕→ケズリ ナデ, 指頭圧痕	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突	にぶい 橙	にぶい 橙	良好	○	○								スス		
	1542	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	31.6	-	(27.3)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 凹線	橙	橙	普通	○	○						○		スス		
	1543	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	20.0	-	(20.9)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良好		○							○		スス	
	1544	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	19.4	-	(13.3)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	橙	にぶい 橙	普通	○	○			○						スス	
	1545	E-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	21.0	-	(11.3)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	にぶい 褐	にぶい 褐	良好	○	○			○							
	1546	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	22.5	-	(18.0)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	良好	○	○			○						スス	
	1547	E-12	Ⅲb	深鉢	□縁部	後期	Vb-4	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突	灰黄褐	にぶい 黄橙	良好	○	○			○		○	○				
	1548	E-12	Ⅱ	深鉢	□～胴部	後期	Vb-4	-	-	-	条痕→ナデ 指頭圧痕	指頭圧痕, 条痕→ ナデ, ケズリ→ナデ	刺突	橙	にぶい 橙	普通	○	○			○			△	○			
2-91	1549	E-12	Ⅲa	鉢	□～胴部	後期	Vc	17.8	-	(14.1)	条痕	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突	橙	にぶい 褐	普通	○	○			○			△				
	1550	E-12	Ⅲa	鉢	□縁部	後期	Vc	-	-	-	ナデ	条痕→ナデ	刺突	にぶい 橙	にぶい 褐	良好	○	○			○							
	1551	E-13	Ⅲ	鉢	□縁部	後期	Vc	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突, 刻み	にぶい 褐	灰褐	良	○			○			○	△				
	1552	D-13	Ⅲ	鉢	□縁部	後期	Vc	20.4	-	(9.8)	条痕	条痕	刺突	灰黄褐	にぶい 赤褐	普通	○	○			○							
	1553	E-12	Ⅱ	鉢	□縁部	後期	Vc	19.0	-	(7.2)	条痕, ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	にぶい 橙	にぶい 橙	普通	○	○			○							
	1554	D-13	Ⅲa	鉢	□～胴部	後期	Vc	-	-	-	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	橙	にぶい 赤褐	良好	○	○			○				○			
	1555	D-13	Ⅲ	鉢	□縁部	後期	Vc	-	-	-	ナデ	ナデ	刻み, 刺突	灰	黒	良好	○	○			○							
	1556	D-13	Ⅱb	鉢	□縁部	後期	Vc	-	-	-	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	橙	にぶい 橙	良	○	○			○				○		穿孔	
2-92	1558	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴa-1	15.0	-	(8.0)	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突	橙	にぶい 赤褐	普通	○	○			○							
	1559	E-12	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴa-1	-	-	-	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	橙	橙	良好	○	○			○							
	1560	E-12	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴa-1	26.9	-	(20.6)	ナデ	ナデ	刺突	橙	にぶい 橙	良好	○	○			○			○				
	1561	E-12	Ⅲb	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴa-2	14.0	-	(14.5)	ナデ	ケズリ→ナデ	刻み	灰黄褐	灰黄褐	普通	○	○			○						赤色顔料	
	1562	E-F- 12-13	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴa-2	23.4	-	(10.6)	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	にぶい 赤褐	黒褐	良好	○	○			○							
	1563	E-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅴa-2	24.8	-	(10.4)	条痕→ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突, 沈線	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良好	○	○			○							
	1564	E-13 E-15 F-15	Ⅱ Ⅲa	深鉢	完形	後期	Ⅴa-2	15.6	6.4	16.9	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 竹管	にぶい 赤褐	にぶい 橙	良好	◎	△										
	1565	F-15	Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴa-2	12.8	-	(15.7)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	明赤褐	明赤褐	良好	◎	○							◎			
	1566	F-13	Ⅲa	深鉢	完形	後期	Ⅴa-2	13.2	6.6	13.2	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	灰黄褐	黒褐	良好	○	○			△							
	1567	E-13	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅴa-2	-	-	-	ナデ, 条痕	ナデ	刺突, 沈線	灰褐	黒褐	良好	○	○			○							
	1568	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴa-2	23.6	-	(19.0)	ケズリ→ナデ	指頭圧痕, ナデ	刺突, 沈線	灰褐	灰褐	普通	○	○			○				△			
	1569	E-13	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅴa-2	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突, 沈線	灰黄	灰黄	良好	○	○	○		○				○			
1570	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅴa-2	-	-	-	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	にぶい 褐	にぶい 褐	良好	○	△	○		○								
1571	D-12	Ⅲa	深鉢	□縁部	後期	Ⅴa-2	-	-	-	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線	褐灰	褐灰	普通	○	○			○								
2-93	1572	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴa-2	28.2	-	(21.1)	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	ナデ, 指頭圧痕	沈線, 刺突	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良好	○	○			○							
	1573	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴa-2	11.8	-	7.8	ナデ	ナデ	刺突, 短沈 線	灰褐	灰黄褐	良好	○	○			○							
	1574	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴa-2	17.1	-	(19.4)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 条痕	刺突, 短沈 線	明赤褐	にぶい 褐	良好	○	○			○							
	1575	E-12	Ⅲb	深鉢	□縁部	後期	Ⅴa-2	-	-	-	ナデ	ナデ	刻み, 沈線	浅黄橙	にぶい 橙	不良	○	◎			○							
	1576	E-12	Ⅱ	深鉢	□縁部	後期	Ⅴa-2	-	-	-	ナデ	条痕→ナデ	刺突, 短沈 線	橙	黒褐	良好	○	○			◎							
	1577	D-13	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅴa-2	-	-	-	ナデ	条痕	沈線, 刺突	褐	褐灰	良好	○	○			○			○				
	1578	E-13	Ⅲa	深鉢	完形	後期	Ⅴa-3	32.0	11.5	36.5	指頭圧痕 条痕→ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突	明赤褐	黒褐	良好	◎	○			○				◎		白色土	
	1579	E-13	Ⅲ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴa-3	32.2	-	(25.4)	条痕→ナデ	ナデ, 指頭圧痕 ケズリ	刺突	黒褐	暗赤褐	普通	○	○	○		○						スス	
2-94	1580	D-13	Ⅳ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴa-3	41.9	-	(32.6)	条痕→ナデ 指頭圧痕	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突	にぶい 赤褐	にぶい 褐	良好	○	○			○							
	1581	D-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴa-3	34.6	-	(20.0)	条痕→ナデ 指頭圧痕	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突	橙	橙	良好	○	○	△		○							
	1582	E-14	Ⅱ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴa-3	32.9	-	(17.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突	褐灰	灰黄褐	普通	○	◎						○				
	1583	D-26	Ⅲ	深鉢	□縁部	後期	Ⅴa-3	-	-	-	ナデ	条痕→ナデ	刺突	灰褐	黒褐	普通	○	○			○							
	1584	F-13 E-13	Ⅱ Ⅲa	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴa-3	-	-	-	ナデ	条痕→ナデ	刺突, 竹管	黒褐	灰褐	良好	○	○			○							
2-95	1586	E-13	Ⅲ	深鉢	□～胴部	後期	Ⅴa-3	31.4	-	(21.5)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 刻み	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良好	○	○			○						スス, 試料No. KAMBN6	

第2-15表 縄文時代遺物観察表（土器・土製品）(12)

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量(cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土							備考				
								口径 (長軸)	底径 (短軸)	器高 (最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒		小礫	その他		
2-95	1587	E-12	Ⅱ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴa-3	35.4	-	(29.9)	条痕→ナデ	ケズリ→ナデ 条痕→ナデ	刺突	明赤褐	橙	良好	○	○									スス	
	1588	D-13	Ⅲa	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴa-3	19.4	-	(30.5)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刻み, 刺突	にぶい 黄橙	浅黄橙	良好	○	○			○							
	1589	E-13	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴa-3	26.9	-	(18.7)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 刻み	灰黄	にぶい 黄橙	良好	○	○			○			○				
	1590	D-13	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴa-3	28.2	-	(28.0)	条痕→ナデ	ナデ, 条痕 →ケズリ	短沈線, 竹管	にぶい 橙	灰黄褐	良好												
2-96	1591	D-13	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴa-4	26.1	-	(18.5)	ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	沈線, 刺突	褐灰	褐灰	良好	○				○							
	1592	E-13	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	Ⅴa-4	26.4	-	(9.5)	ナデ	ケズリ→ナデ	沈線, 刺突	にぶい 橙	灰黄褐	良好	○	○			○							
	1593	E-13	Ⅲa	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴa-4	-	-	-	条痕→ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	暗赤褐	暗赤褐	良好	○	○										
	1594	D-14	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴa-4	40.6	-	(20.5)	ケズリ→ナデ	条痕→ケズリ→ ナデ, 指頭圧痕	沈線, 刺突	にぶい 黄橙	にぶい 橙	普通	○	○			○							
	1595	E-13	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴa-4	31.8	-	(27.3)	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	刺突, 沈線	橙	灰褐	良好	○	○			○				○		スス, 試料No. KAWBAN-2	
2-97	1596	E-13	Ⅱ	深鉢	口縁部	後期	Ⅴa-4	-	-	-	ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	沈線, 刺突	暗赤褐	暗赤褐	良好	○	○										
	1597	E-15	Ⅲa	深鉢	口縁部	後期	Ⅴa-4	-	-	-	ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	橙	にぶい 橙	良好	○	○			○							
	1598	E-13	Ⅲa	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴa-4	-	-	-	条痕→ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	沈線, 刺突	黒褐	黒褐	良好	○	○			△			◎			赤色顔料	
	1599	D-13	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴa-4	16.6	-	(15.7)	条痕, ナデ	条痕, ナデ	刺突, 沈線	にぶい 橙	にぶい 橙	良	○	○			○						スス, 試料No. KAWBAN-16	
	1600	D-13	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴa-4	28.2	-	(14.8)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	橙	明赤褐	良好	○	○			○							
	1601	E-13	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴa-4	19.0	-	(20.5)	ナデ	条痕→ナデ 指頭圧痕	刺突, 沈線	にぶい 黄	浅黄	良好	○	◎			○							
	1602	D-13 E-13	Ⅱ・Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴa-4	(25.2)	-	(18.3)	ナデ, 条痕	ナデ, 条痕	刺突, 沈線	明赤褐	明赤褐	良好	○	○										
2-98	1603	D-13	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴa-4	-	-	-	条痕→ナデ	ナデ, 指頭圧痕 条痕 刺突	竹管文, 沈線 刺突	にぶい 橙	にぶい 橙	良好	○	○							◎			
	1604	D-13	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴa-4	-	-	-	条痕, ケズリ →ナデ	指頭圧痕 条痕→ナデ	刺突, 沈線	にぶい 橙	褐灰	普通	○	○										
	1605	E-13	Ⅱ Ⅲa	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴa-4	48.0	-	(22.8)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	暗褐	黒褐	良好	○	○			○							
	1606	E-12	Ⅲ	特殊	口～胴部	後期	Ⅴa-4	31.5	-	(13.0)	ナデ	ケズリ, ナデ 指頭圧痕	沈線, 刺突 竹管	褐灰	灰褐	やや 不良	○	◎			◎							
	1607	F-13	Ⅲa	深鉢	口縁部	後期	Ⅴa-4	34.6	-	(7.5)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良好	○	○					△					
	1608	E-13	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	Ⅴa-4	-	-	-	ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良好	○	◎							△			
	1609	D-13	Ⅱ	深鉢	口縁部	後期	Ⅴa-4	-	-	-	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 沈線	橙	黄橙	普通	○	◎										
	1610	E-14	Ⅲa	深鉢	口縁部	後期	Ⅴa-4	-	-	-	ナデ	条痕→ナデ	沈線, 刺突 竹管	にぶい 黄橙	橙	良好	○	○					○					
	1611	E-11	Ⅲb	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴb-1	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突, 凹点	灰黄褐	灰褐	普通	○	○			○			△				
2-99	1612	E-11	Ⅲb	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴb-1	25.0	-	(14.9)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 凹点	橙	にぶい 黄橙	良好	○	○			○							
	1613	E-12	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴb-1	17.2	-	(13.4)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ ケズリ	刺突	橙	橙	良好	○	○			○							
	1614	E-12	Ⅱ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴb-1	24.5	-	(22.3)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	刺突, 凹点	灰褐	にぶい 褐	普通	○	○			○							
	1615	E-12	Ⅲb	深鉢	口縁部	後期	Ⅴb-1	13.5	-	(11.1)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ 指頭圧痕	刺突, 凹点	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○			○							
	1616	E-12	Ⅱ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴb-1	-	-	-	条痕→ナデ	ナデ	刺突, 凹点	にぶい 褐	褐灰	良好	○				○				○			
	1617	D-13	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴb-2	26.8	-	(24.6)	条痕→ナデ ケズリ	条痕→ナデ ケズリ→ナデ	凹点, 凹線 刺突	にぶい 橙	にぶい 黄橙	良好	○	○			○							
	1618	D-13	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴb-2	27.5	-	(13.5)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	凹線, 刻み 凹点	にぶい 褐	橙	良好	○	○			○							
	1619	D-13	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴb-2	20.2	-	(11.7)	ナデ	条痕→ナデ	凹線, 刺突 凹点	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良	○	○										
	1620	E-12	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴb-2	14.7	-	(20.0)	ケズリ→ナデ	ナデ	刺突, 凹線 凹点	にぶい 橙	にぶい 黄褐	良好	○	○			○							
2-100	1621	D-13	Ⅲ	深鉢	完形	後期	Ⅴb-2	16.8	6.1	18.4	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 凹線 凹点	灰黄褐	黒褐	良好	○	○									スス, 試料No. KAWBAN-12	
	1622	D-13	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴb-2	21.0	-	(14.8)	条痕→ナデ	ナデ, 条痕	刻み, 刺突 凹線	橙	にぶい 黄橙	良好	○	○			○						穿孔	
	1623	E-12	Ⅱ Ⅲb	深鉢	口縁部	後期	Ⅴb-2	26.0	-	(5.8)	ナデ	ナデ	刺突, 沈線 凹点	にぶい 橙	灰褐	やや 不良	○	○			○							
	1624	E-12	Ⅲa	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴb-2	-	-	-	条痕→ナデ	条痕→ナデ	刺突, 凹線 凹点, 刻み	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○			○							
	1625	E-12	Ⅱ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴb-2	18.2	-	(12.1)	ナデ	ナデ	刺突, 凹線 凹点	オリブ 灰	オリブ 灰	不良	◎	○			○			△				
	1626	E-12	Ⅱ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴb-2	-	-	-	ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 凹線 凹点	灰	灰	不良	○	○			○				○			
	1627	E-12	Ⅲb	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴb-2	26.4	-	(17.7)	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	刺突, 沈線 凹点	にぶい 赤褐	褐灰	良好	○	○			○				△			
	1628	E-12	Ⅲ Ⅲb	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴb-2	39.8	-	(25.2)	条痕→ナデ ケズリ	条痕→ナデ ケズリ	刺突, 凹線 凹点	にぶい 赤褐	にぶい 黄褐	良好	○	○			○							
2-101	1629	E-12	Ⅲb Ⅲc	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴb-2	14.6	-	(15.6)	ナデ	条痕→ナデ	凹線, 凹点 刺突	橙	黒	良好	○	○			○							
	1630	E-14	Ⅱ	深鉢	口縁部	後期	Ⅴb-2	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突, 沈線	にぶい 黄橙	灰黄褐	良	○	○			◎						スス	
	1631	C-18	Ⅲ	深鉢	口縁部	後期	Ⅴb-2	-	-	-	ナデ	ケズリ, 条痕 →ナデ	凹線, 刺突	明赤褐	明赤褐	良好	○	○			○							
	1632	D-13	Ⅲ	深鉢	口～胴部	後期	Ⅴb-2	28.2	-	(15.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	凹線, 刺突 凹点	にぶい 黄褐	灰黄褐	良	○	○			○						スス, 試料No. KAWBAN-11	





第2-18表 縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（15）

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量 (cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土								備考				
								口径 (長軸)	底径 (短軸)	器高 (最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色 粒	小 礫		そ の 他			
2-113	1725	E-14	II	台付皿	脚台	後期	Vf	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刺突, 突帯	にぶい 黄橙	灰黄褐	良	○	○		◎					○	赤色顔料 白色土			
	1726	D-12	II	台付皿	脚台	後期	Vf	-	11.2	(5.7)	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	沈線, 突帯	にぶい 橙	にぶい 橙	やや 不良	○	○								赤色顔料			
	1727	E-12	III b	台付皿	脚台	後期	Vf	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刺突, 突帯	にぶい 橙	灰黄褐	やや 不良	○	○											
	1728	D-13	III	台付皿	脚台	後期	Vf	-	11.0	(4.7)	ナデ	条痕, ナデ	沈線, 刺突	橙	にぶい 橙	良好	○	○								○	穿孔 白色土		
	1729	E-F- 12-13	II III a	台付皿	脚台	後期	Vf	-	11.0	(4.1)	ナデ	ナデ	刺突	にぶい 黄褐	灰黄褐	やや 不良	○												
	1730	E-14	II	台付皿	脚台	後期	Vf	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	にぶい 黄橙	灰黄褐	良	○	○			◎						○	透かし 赤色顔料	
	1731	E-13	III	片口付 壺型	突起	後期	Vf	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	橙	にぶい 褐	良好	○	○									○	赤色顔料	
	1732	F-15	III a	片口付 壺型	突起	後期	Vf	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突	にぶい 橙	暗灰	良好	○	○										赤色顔料	
	1733	D-17	III	注口 土器	注口	後期	Vf	注口 径2.3	-	-	ナデ	ナデ	-	にぶい 赤褐	黒褐	良好	○	○											
	1734	D-13	III	注口 土器	注口	後期	Vf	注口 径2.9	-	-	ナデ	ナデ	-	にぶい 橙	にぶい 橙	良好	○	○									△		
1735	E-12	II	注口 土器	注口	後期	Vf	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	にぶい 褐	灰褐	良好	○	○												
2-114	1736	D-28	III	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	-	-	-	ナデ	ナデ	凹線, 刺突	灰黄褐	橙	良好	○	○	◎										
	1737	C-27 C-28	III a III c	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	-	-	-	ナデ	条痕	沈線, 刺突	明褐	橙	普通	○	○											
	1738	E-18	III	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突	明黄褐	明黄褐	やや 不良	○												
	1739	D-28	II	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突	橙	にぶい 黄橙	やや 不良	○	○											
	1740	D-28	II III	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	-	-	-	ナデ	条痕→ナデ	刺突	橙	橙	普通	○	○											
	1741	D-27	III	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突	橙	橙	普通	○	○											
	1742	C-29	II	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突	橙	橙	普通	○	○											
	1743	D-28	III	深鉢	口～胴部	後期	丸尾式	24.0	-	(19.8)	ナデ	ナデ	刺突	橙	にぶい 褐	普通	○										◎		
	1744	C-17	III	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突	橙	にぶい 黄橙	良好	○	○											
	1745	D-26	III	深鉢	口縁部	後期	丸尾式	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突	橙	橙	良好	○										◎		
	1746	C-25 D-26	II III	深鉢	口～胴部	後期	丸尾式	20.0	-	(8.0)	ナデ	条痕	刺突	橙	橙	良好	○	○											
	1747	C-26	III	深鉢	口～胴部	後期	丸尾式	-	-	-	ナデ	条痕→ナデ	刺突	灰褐	明赤褐	普通	○	○											
	1748	D-18	II	深鉢	口～胴部	後期	丸尾式	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突	橙	橙	普通	○										△		
	2-115	1749	C-27 C-28	III	深鉢	口～胴部	後期	丸尾式	-	-	-	条痕→ナデ	条痕	刺突	橙	灰褐	良好	○	△								◎		
1750		F-13	III a	深鉢	口～胴部	後期	北久根 山式	30.0	-	(23.0)	ケズリ→ナデ	ナデ	刺突, 刻み	橙	黒褐	良	◎	○									スス		
1751		E-12	III b	深鉢	口縁	後期	北久根 山式	-	-	-	ミガキ	ミガキ	沈線	にぶい 黄橙	灰白	良	○												
1752		E-13	III a	深鉢	口～胴部	後期	北久根 山式	-	-	-	条痕, ナデ	条痕→ナデ	刻み	灰褐	灰褐	良	◎												
1753		E-14	II	深鉢	口縁部	後期	西平式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	にぶい 黄橙	灰黄褐	良	○	○									◎		
1754		E-17	III	小型鉢	胴部	後期	三万田 式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刻み	灰黄	黄灰	良	○	○	○										
1755		E-20	III	深鉢	口縁部	後期	VII	-	-	-	ナデ	条痕, ナデ	刻み	橙	黄橙	良	◎												
1756		E-12	III b	深鉢	口縁部	後期	VII	-	-	-	ナデ	条痕→ナデ	沈線	にぶい 橙	にぶい 橙	良	○	○											
1757		D-13	III a	深鉢	口～胴部	後期	VII	-	-	-	条痕→ナデ	条痕→ナデ	-	にぶい 赤褐	灰褐	良	○	○											
2-116	1758	D-12	II	深鉢	胴～底部	後期	A	-	8.9	(21.0)	ナデ	ナデ	-	褐灰	褐灰	良好	○	○											
	1759	D-12	III b	深鉢	底部	後期	A	-	7.1	(5.0)	ナデ	条痕→ナデ	-	にぶい 橙	黒褐	良	○	○									○	スス 炭化物	
	1760	D-12	II	深鉢	底部	後期	A	-	9.4	(4.2)	ケズリ 指頭圧痕→ナデ	ケズリ, 指頭圧痕 ナデ	-	灰黄褐	にぶい 黄橙	良好	○	○									○	堅果類圧痕	
	1761	E-13	III a	深鉢	胴～底部	後期	A	-	10.6	(13.0)	条痕, ナデ	条痕, ナデ	-	明赤褐	にぶい 赤褐	やや 不良	○	○										○	白色土
	1762	E-13	II	深鉢	底部	後期	A	-	8.3	(4.5)	ケズリ, ナデ	ナデ	-	にぶい 赤褐	にぶい 赤褐	やや 不良	○	○										○	白色土 堅果類圧痕
	1763	D-13 E-13	III	深鉢	胴～底部	後期	A	-	8.3	(11.5)	条痕, ナデ	条痕, ケズリ ナデ	-	にぶい 褐	にぶい 橙	不良	○	○										○	白色土
	1764	D-13	III	深鉢	胴～底部	後期	A	-	12.7	(12.8)	ケズリ→ナデ	条痕→ナデ	-	明赤褐	にぶい 黄橙	良	○	○										○	堅果類圧痕
	1765	D-13	III	深鉢	底部	後期	A	-	9.4	(5.8)	ケズリ→ナデ	条痕, ナデ, ケズ リ	-	褐灰	灰褐	良	○	○										○	白色土
	1766	D-13	III b	深鉢	底部	後期	A	-	10.2	(7.8)	ケズリ	ケズリ	-	黄褐	明褐灰	良	○	○										○	
	1767	F-13	III a	深鉢	胴～底部	後期	A	-	7.4	(23.8)	条痕→ナデ 指頭圧痕	条痕→ナデ 指頭圧痕	-	橙	黒	-	○	○											
1768	E-13	III a	深鉢	胴～底部	後期	A	-	10.0	(26.0)	ナデ	条痕	-	にぶい 黄橙	灰黄褐	良	○	○												
2-117	1769	F-12	III III a	深鉢	胴～底部	後期	A	-	9.7	(15.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	-	浅黄橙	褐灰	不良	○	○										○	
	1770	D-12	III a	深鉢	胴～底部	後期	A	-	10.6	(13.2)	ケズリ	ケズリ, ナデ	-	灰黄褐	褐灰	良好	○	○										○	



第2-20表 縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（17）

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量 (cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土								備考		
								口径 (長軸)	底径 (短軸)	器高 (最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫		その他	
2-119	1817	E-13	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	-	13.1	(6.3)	ケズリ, ナデ	条痕, ナデ	木葉痕	にぶい 黄橙	良	○	○								白色土		
	1818	C-25 D-25	Ⅱ	深鉢	底部	後期	B	-	8.2	(6.6)	ケズリ, ナデ	ナデ	木葉痕	明赤褐	黒褐	やや 不良	○	○	○	○				○	白色土		
2-120	1819	E-13	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	-	11.0	(2.7)	ナデ	ナデ	木葉痕	明褐灰	明褐灰	良	○	○	○	○					白色土		
	1820	E-12	Ⅲb	深鉢	底部	後期	B	-	8.2	(8.9)	ケズリ→ナデ	ケズリ, ナデ	木葉痕	にぶい 赤橙	淡赤橙	やや 不良	○	○	○	○				○	白色土		
	1821	D-12	Ⅲb	深鉢	底部	後期	B	-	8.5	(4.1)	条痕, ケズリ ナデ	ナデ	木葉痕	灰黄褐	にぶい 黄橙	やや 不良	○	○	○						白色土		
	1822	D-12	Ⅲa	深鉢	胴~底部	後期	B	-	10.9	(8.8)	条痕, ケズリ ナデ	条痕	木葉痕	にぶい 赤褐	にぶい 赤褐	良	○	○	○	○						白色土	
	1823	D-14	Ⅳ	深鉢	底部	後期	B	-	8.7	(3.4)	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	木葉痕	にぶい 橙	灰褐	良	○	○	○	○						白色土	
	1824	E-13	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	-	8.2	(3.6)	ナデ	ナデ	木葉痕	にぶい 褐	にぶい 橙	良	○	○	○	○					○	白色土	
	1825	E-16	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	-	7.9	(2.3)	ナデ	ナデ	木葉痕	黒褐	灰黄褐	やや 不良	○	○	○							白色土	
	1826	E-16	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	-	-	-	ナデ	ナデ	木葉痕	褐灰	にぶい 赤褐	不良	○	○		○							
	1827	D-12	Ⅲb	深鉢	底部	後期	B	-	9.8	(4.0)	条痕→ナデ	条痕→ナデ	鯨骨圧痕	明褐灰	明褐灰	やや 不良	○	○	○	○						白色土 スス	
	1828	E-12	Ⅱ	深鉢	底部	後期	B	-	11.0	(6.4)	ナデ	ナデ	鯨骨圧痕	にぶい 橙	灰褐	普通	○	○		○			△		白色土		
	1829	E-16	Ⅲ	深鉢	胴~底部	後期	B	-	10.9	(20.4)	条痕, ナデ	条痕, ナデ	条痕 網代痕	にぶい 黄橙	褐灰	良	○	○	○	○							
	1830	E-19	Ⅲ	深鉢	胴~底部	後期	B	-	9.0	(12.3)	条痕, ケズリ ナデ	条痕	条痕 網代痕	にぶい 黄橙	褐灰	やや 不良	○	○	○	○						白色土 スス	
	1831	D-21	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	-	11.0	(2.5)	ナデ	ナデ	網代痕	橙	橙	良	○	○	○	○					○	白色土	
	1832	E-13	Ⅲ	深鉢	底部	後期	B	-	10.2	(6.0)	条痕→ケズリ	条痕→ナデ	条痕 網代痕	にぶい 橙	灰褐	良	○	○	○						○	白色土	
	1833	F-12 F-13	Ⅲa	深鉢	胴~底部	後期	B	-	12.5	(21.0)	ナデ, 指頭圧痕	条痕	網代痕	にぶい 褐	にぶい 褐	-	○	○	○							壺栗類圧痕 白色土	
	1834	E-12	Ⅱ	深鉢	胴~底部	後期	B	-	9.9	(10.8)	ケズリ	条痕→ナデ	もじり痕 →条痕	褐灰	灰褐	良	○	○	○	○						白色土 スス	
	2-121	1835	D-14	Ⅳ	深鉢	底部	後期	C	-	10.2	(4.3)	ケズリ	ナデ	-	にぶい 橙	にぶい 橙	良	○	○	○	○					○	白色土
1836		D-12	Ⅱ Ⅲa	深鉢	胴~底部	後期	C	-	7.5	(6.8)	ナデ	ケズリ→ナデ	-	灰褐	にぶい 褐	良	○	○	○	○					○	白色土 炭化物	
1837		E-12	Ⅲb	深鉢	底部	後期	C	-	8.5	(4.5)	ケズリ, ナデ	条痕, ナデ	-	灰褐	灰褐	不良	○	○	○	○					○	白色土	
1838		E-14	Ⅲa	深鉢	底部	後期	C	-	7.9	(4.3)	丁寧なナデ	条痕→ナデ	-	橙	橙	やや 不良	○	○	○	○						○	白色土
1839		E-F- 12-13	Ⅲa	深鉢	底部	後期	C	-	9.7	(3.2)	ケズリ, ナデ	ナデ	-	褐灰	にぶい 褐	やや 不良	○	○	○	○						○	白色土
1840		D-13	Ⅲc	深鉢	底部	後期	C	-	10.2	(7.8)	ケズリ	ケズリ	-	黄褐	明褐灰	良	○	○	○	○						○	
1841		D-12	Ⅲa	深鉢	底部	後期	C	-	9.6	(2.6)	ケズリ, ナデ	ケズリ, ナデ	-	灰黄褐	にぶい 黄橙	良好	○										白色土
1842		E-19	Ⅲ	深鉢	底部	後期	C	-	7.5	(4.1)	ケズリ, ナデ	ケズリ, ナデ 条痕	-	にぶい 橙	にぶい 褐	良	○	○	○	○							
1843		F-13	Ⅲa	深鉢	底部	後期	C	-	6.4	(3.4)	ナデ	ナデ	-	灰褐	にぶい 橙	良	○	○		○							
1844		E-13	Ⅲ	深鉢	底部	後期	C	-	9.7	(2.2)	ケズリ→ナデ	ナデ	-	灰褐	灰褐	良	○	○	○							白色土	
1845		E-14	Ⅲa	深鉢	底部	後期	C	-	8.0	(4.9)	ケズリ, ナデ 指頭圧痕	ケズリ, ナデ 指頭圧痕	-	にぶい 赤褐	にぶい 黄橙	良			○	○						○	白色土
1846		E-12	Ⅱ	鉢	脚台	後期	C	-	6.6	(4.8)	ナデ	ナデ	-	褐灰	灰褐	普通	○				○						
1847		E-12	Ⅲa	鉢	脚台	後期	C	-	7.8	(4.8)	条痕, ナデ	ナデ	-	にぶい 褐	灰黄褐	良好	○	○		○						○	白色土
1848		E-15	Ⅲa	鉢	脚台	後期	C	-	9.6	(5.5)	ナデ	ナデ	-	にぶい 黄橙	明赤褐	やや 不良	○	○		○							白色土
1849		D-12	Ⅲb	鉢	脚台	後期	C	-	8.8	(6.9)	条痕, ナデ	ナデ	-	褐灰	褐灰	普通	○	○	○	◎							白色土
1850		D-12	Ⅲa	鉢	脚台	後期	C	-	11.2	(4.6)	条痕→ナデ	ナデ	-	灰黄褐	にぶい 褐	やや 不良	○	○	○	○							白色土
1851		F-15	Ⅱ	鉢	脚台	後期	C	-	8.9	(2.8)	ナデ	ナデ	-	にぶい 赤褐	にぶい 橙	やや 不良	○	○		○							
1852	E-12	Ⅲa	深鉢	胴~底部	後期	C	-	-	-	ナデ	ナデ	-	にぶい 橙	にぶい 褐	やや 不良	○	○		○							白色土	
1853	D-26	Ⅱ	小型鉢	底部	後期	D	-	6.8	(2.2)	ナデ	ナデ	植物繊維痕	橙	灰褐	良好	○	△		○								
1854	D-12	Ⅲ	鉢	底部	後期	D	-	7.2	(2.5)	ナデ	ナデ	刺突, 沈線	黄灰	黄灰	良好	○	○		○								
1855	E-12	Ⅲa	深鉢	底部	後期	D	-	9.0	(1.5)	ナデ	ナデ	-	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	普通	○	△	○	○							穿孔	
1856	E-14	Ⅲa	深鉢	胴~底部	後期	D	-	7.9	(3.7)	ナデ	ナデ	-	にぶい 赤褐	黒	普通	○	○									穿孔	
1857	E-14	Ⅲ	鉢	脚台	後期	D	-	10.0	(4.5)	ナデ	丁寧なナデ	-	黒褐	褐灰	良好	○			○	○							
2-122	1858	F-13	Ⅲa	円盤形 土製品	口縁部	後期	-	7.0	6.2	1.0	ナデ, 打ち欠き	ナデ, 打ち欠き	沈線	灰黄褐	褐灰	良好	○	○		○					○	57.8g	
	1859	E-13	Ⅲ	円盤形 土製品	口縁部	後期	-	6.3	5.6	1.2	打ち欠き	打ち欠き	-	黄灰	灰黄	良好	○	○		○					○	55.4g	
	1860	E-12	Ⅱ	円盤形 土製品	口縁部	後期	-	5.6	5.6	0.9	研磨	研磨	沈線	褐灰	褐灰	良好	○	○		○						33.3g	
	1861	D-27	Ⅳa	円盤形 土製品	口縁部	後期	-	4.7	4.2	1.2	ナデ	ナデ, 研磨	沈線	灰褐	にぶい 赤褐	良好	○	○		○						○	28.3g
1862	E-12	Ⅲb	円盤形 土製品	口縁部	後期	-	6.1	5.2	1.1	ナデ	ナデ, 研磨	凹線	褐灰	褐灰	良好	○	○		○							34.9g	

第2-21表 縄文時代遺物観察表（土器・土製品）（18）

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量 (cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土								備考							
								口径 (長軸)	底径 (短軸)	器高 (最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫		その他						
2-122	1863	E-17	Ⅲ	円盤形土製品	口縁部	後期	-	6.0	5.3	1.2	打ち欠き	打ち欠き	沈線	明赤褐	赤褐	良好	○	○											41.8g			
	1864	E-12	Ⅲb	円盤形土製品	口縁部	後期	-	4.9	4.8	1.0	ナデ	ナデ, 研磨	縄文, 沈線	黒褐	にぶい黄橙	良好	○	○												28.0g		
	1865	E-12	Ⅲb	円盤形土製品	口縁部	後期	-	4.7	4.5	0.9	ナデ	ナデ, 研磨	沈線	灰黄褐	褐灰	良好	○	○												26.2g		
	1866	D-27	Ⅳa	円盤形土製品	口縁部	後期	-	4.7	4.3	1.0	打ち欠き	打ち欠き	沈線, 刺突	暗褐	黄褐	良好	○	○												23.6g		
	1867	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	口縁部	後期	-	5.1	4.7	1.0	打ち欠き	打ち欠き	凹線 磨消縄文	灰白	灰	良好	○	○	○	○										22.4g		
2-123	1868	D-13	Ⅲa	円盤形土製品	口縁部	後期	-	3.5	3.3	0.7	一部研磨	一部研磨	沈線, 条痕	にぶい橙	にぶい橙	良好	○	○												10.8g		
	1869	E-12	Ⅱ	円盤形土製品	口縁部	後期	-	7.1	6.0	1.1	条痕→ナデ 打ち欠き	ナデ, 指頭圧痕	刺突	灰褐	にぶい褐	良好	○	○												53.4g		
	1870	D-13	Ⅱ	円盤形土製品	口縁部	後期	-	6.5	5.0	1.4	ナデ	ナデ, 打ち欠き	刺突	黒褐	にぶい黄橙	良好	○	○												46.3g		
	1871	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	口縁部	後期	-	3.9	3.8	0.8	研磨	研磨	-	灰白	にぶい橙	良好	○	○													14.0g	
	1872	E-12	Ⅲb	円盤形土製品	口縁部	後期	-	4.6	4.2	0.9	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	にぶい黄橙	にぶい褐	良好	○	○													24.6g	
	1873	D-18	Ⅲ	円盤形土製品	口縁部	後期	-	4.0	4.0	1.0	ナデ	ナデ, 研磨	沈線	灰黄褐	灰白	良好	○	○													19.3g	
	1874	E-14	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	8.2	6.8	0.6	ナデ	ナデ, 研磨 打ち欠き	沈線	灰黄褐	褐灰	良好	○	○													42.0g	
	1875	C-12	Ⅲb	円盤形土製品	胴部	後期	-	5.6	5.4	0.9	研磨	研磨	沈線	褐灰	黒褐	良好	○	○														31.3g
	1876	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	5.7	5.7	0.7	研磨	研磨	沈線	灰褐	黒褐	良好	○	○														35.3g
	1877	D-20	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	5.6	5.5	0.9	打ち欠き	打ち欠き	沈線	明黄褐	褐灰	良好	○	○														39.0g
	1878	D-12	Ⅲa	円盤形土製品	胴部	後期	-	5.2	5.1	0.9	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	沈線	黒褐	褐灰	良好	○	○														28.3g
	1879	E-14	Ⅲa	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.8	4.1	1.1	研磨	研磨	沈線	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○														27.4g
	1880	D-12	Ⅲb	円盤形土製品	胴部	後期	-	5.1	4.6	0.7	ナデ	ナデ, 研磨	沈線	褐灰	灰黄褐	良好	○	○														22.5g
1881	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	5.0	4.6	0.7	ナデ	ナデ, 研磨	沈線	にぶい黄橙	橙	良好	○	○														19.4g	
1882	D-12	Ⅲb	円盤形土製品	胴部	後期	-	5.0	4.4	0.9	ナデ	ナデ, 研磨	沈線 磨消縄文	灰黄褐	にぶい黄橙	良好	○	○														28.5g	
1883	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.4	4.3	1.0	研磨	研磨	刺突	浅黄橙	灰白	良好	○	○														23.4g	
1884	E-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.7	4.1	1.0	研磨	研磨	縄文, 凹線	浅黄	黒褐	良好	○	○														25.5g	
1885	E-18	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.3	3.6	0.7	研磨	研磨	沈線, 磨消	橙	にぶい黄橙	良好	○	○														16.5g	
1886	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.5	4.5	0.8	ナデ	ナデ, 研磨	縄文, 沈線	黒褐	黒褐	良好	○	○														19.0g	
1887	E-16	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.7	4.0	0.6	ナデ	条痕, 研磨	沈線, 刺突	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○														13.7g	
1888	C-28	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.0	3.8	0.8	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	沈線	褐	にぶい橙	良好	○	○														14.2g	
1889	E-14	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.7	3.4	0.6	研磨	研磨	沈線	褐灰	灰白	良好	○	○														12.4g	
1890	D-12	Ⅲb	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.7	4.1	0.6	研磨	研磨	沈線	黒褐	黒褐	良好	○	○														17.1g	
1891	D-17	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.4	3.4	0.7	ナデ	ナデ, 研磨	沈線	橙	にぶい褐	良好	○	○														11.1g	
1892	D-12	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.2	2.8	0.8	ナデ	ナデ, 研磨	沈線	黒褐	黒	良好	○	○														8.8g	
1893	E-14	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.2	2.9	0.8	研磨	研磨	沈線	にぶい橙	橙	良好	○	○														10.0g	
1894	F-13	Ⅲa	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.5	3.3	0.8	条痕	ナデ, 研磨	沈線	浅黄	灰黄	良好	○	○														9.4g	
1895	D-12	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.5	3.3	0.8	研磨	研磨	沈線, 刺突	にぶい黄橙	褐灰	良好	○	○														15.0g	
1896	C-21	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.8	3.5	0.8	ナデ	条痕, 研磨	沈線	赤	黒褐	良好	○	○														14.5g	
1897	E-19	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.8	3.7	0.7	打ち欠き→ 一部研磨	打ち欠き→ 一部研磨	沈線	浅黄橙	明褐灰	良好	○	○														11.9g	
1898	E-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.9	4.3	0.9	打ち欠き→研磨	ナデ, 打ち欠き→研磨	沈線 磨消縄文	灰黄褐	黒褐	良好	○	○														23.6g	
1899	D-20	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	5.0	4.2	0.6	打ち欠き→研磨	打ち欠き→研磨	沈線, 条痕	赤褐	橙	良好	○	○														14.2g	
2-125	1900	D-24	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	5.3	4.5	0.8	打ち欠き→研磨	打ち欠き→研磨	沈線	褐灰	褐灰	良好	○	○													27.1g	
	1901	E-15	Ⅲa	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.3	3.8	0.9	打ち欠き→研磨	打ち欠き→研磨	沈線	灰黄	灰黄	良好	○	○													16.4g	
	1902	E-13	Ⅲa	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.3	3.1	0.8	研磨	研磨, 条痕	沈線	黒褐	にぶい黄橙	良好	○	○														12.0g
	1903	E-19	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.6	3.5	0.6	研磨	研磨	沈線	にぶい黄橙	褐灰	良好	○	○														13.1g
	1904	D-26	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.9	4.8	1.0	ナデ	ナデ, 打ち欠き	沈線	灰黄褐	暗褐	良好	○	○														23.0g
	1905	E-13	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	-	5.2	5.0	1.0	打ち欠き	打ち欠き	沈線	灰褐	にぶい橙	良好	○	○														34.2g
	1906	C-12	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.0	3.8	0.5	打ち欠き	打ち欠き	沈線	暗褐	暗褐	良好	○	○														11.3g
	1907	D-12	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.1	3.5	1.1	条痕, 打ち欠き	条痕, 打ち欠き	沈線	にぶい褐	にぶい褐	良好	○	○														20.5g
1908	C-26	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.3	4.0	1.0	条痕, ナデ	ナデ, 打ち欠き	沈線	灰黄褐	にぶい黄橙	良好	○	○														22.0g	

第2-22表 縄文時代遺物観察表（土器・土製品）(19)

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量 (cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土								備考	
								口径 (長軸)	底径 (短軸)	器高 (最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫		その他
2-125	1909	D-12	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.4	3.7	0.8	打ち欠き, ナデ	ナデ, 打ち欠き	沈線	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○	○	○						17.6g
	1910	C-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	9.0	7.8	1.0	条痕, 打ち欠き 研磨	条痕, 打ち欠き 研磨	-	にぶい 黄	にぶい 黄	良好	○	○		○			○			96.0g
	1911	E-12	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	-	6.8	6.6	0.8	研磨	研磨	-	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良好	○	○		○						34.9g
	1912	E-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	7.0	6.3	1.0	ナデ, 研磨	条痕, 打ち欠き 研磨	-	にぶい 黄褐	黒褐	良好	○	○		○		○				46.2g
2-126	1913	D-12	Ⅲb	円盤形土製品	胴部	後期	-	5.5	5.2	0.7	条痕, 研磨	条痕, 研磨	-	オリ ープ黒	褐灰	良好	○	○		○						24.4g
	1914	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	5.9	5.9	0.9	条痕, 研磨	条痕, 研磨	-	にぶい 橙	黒	良好	○	○		○						35.3g
	1915	C-23	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	-	6.7	6.0	1.0	研磨, ナデ	研磨, ナデ	-	赤褐	にぶい 赤褐	良好	○	○		○		○	○			47.4g
	1916	D-12	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	-	5.0	4.3	0.8	研磨	ナデ, 研磨	沈線	黒褐	褐灰	良好	○	○		○						24.2g
	1917	D-17	Ⅱc Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.7	4.5	0.7	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	にぶい 黄橙	灰黄褐	良好	○	○		○						17.2g
	1918	D-12	Ⅲa	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.2	3.6	0.7	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	褐灰	褐灰	良好	○	○		○						壺栗類圧痕 15.9g
	1919	C-21	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.7	3.2	0.9	研磨, ナデ	条痕, 研磨	-	明赤褐	暗赤褐	良好	○	○		○						15.4g
	1920	D-21	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.0	3.6	0.8	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	にぶい 黄橙	にぶい 黄褐	良好	○	○		○						13.0g
	1921	D-20	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.9	3.9	0.7	ナデ, 研磨	条痕, 研磨	-	浅黄橙	橙	良好	○	○		○						12.5g
	1922	C-13	Ⅲa	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.5	3.5	0.8	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	にぶい 橙	にぶい 橙	良好	○	○		○						12.3g
	1923	D-19	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.7	3.5	0.8	研磨	研磨	-	褐	にぶい 褐	良好	○	○	○	○						13.2g
	1924	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.5	3.3	0.5	条痕, 研磨	条痕, 研磨	-	褐灰	褐灰	良好	○	○		○						7.0g
	1925	D-17	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.5	3.5	0.6	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	褐灰	橙	良好	○	○	○	○						9.6g
	1926	D-12	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	-	2.9	2.9	0.9	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	にぶい 黄橙	灰黄褐	良好	○	○		○						9.3g
	1927	E-12	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.0	2.9	0.8	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	褐	褐	良好	○	○		○			○			8.0g
	1928	D-14	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.9	3.7	0.6	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	褐灰	褐	良好	○	○		○						10.1g
	1929	E-14	Ⅲ	円盤形土製品	胴部	後期	-	4.0	3.7	0.8	研磨	ナデ, 研磨	縄文	褐灰	にぶい 黄橙	良好	○	○		○						15.1g
	1930	E-12	Ⅱ	円盤形土製品	胴部	後期	-	3.7	3.5	0.9	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	オリ ープ黒	灰	良好	○	○		○			○			13.8g
	1931	E-12	Ⅲb	円盤形土製品	胴部	後期	-	5.5	5.1	0.8	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	灰白	褐灰	良好	○	○		○						31.9g
	2-127	1932	D-13	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	-	7.7	7.0	1.1	ナデ, 研磨	指頭圧痕, ナデ 研磨	-	褐灰	にぶい 黄橙	良好	○	○		○					
1933		E-13	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	-	8.0	8.0	0.8	ナデ, 打ち欠き	ナデ	-	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○		○					61.9g	
1934		E-13	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	-	6.1	5.3	1.6	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	にぶい 黄褐	にぶい 黄橙	良好	○	○		○					63.1g	
1935		D-13	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	-	6.2	6.0	1.3	ナデ, 一部研磨	ナデ, 一部研磨	-	橙	橙	良好	○	○		○					44.1g	
1936		E-14	Ⅲa	円盤形土製品	底部	後期	-	6.7	6.5	1.1	ナデ, 研磨	ナデ	-	にぶい 黄橙	橙	良好	○	○		○			○		42.1g	
1937		E-12	Ⅱ	円盤形土製品	底部	後期	-	6.1	6.0	1.4	ナデ, 研磨	指頭圧痕, ナデ	-	橙	灰白	良好	○	○	○	○			○		56.2g	
1938		E-13	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	-	6.1	5.8	1.2	打ち欠き	打ち欠き	網代痕	黄褐	にぶい 黄	良好	○	○		○					45.3g	
1939		D-27	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	-	4.8	4.6	1.1	ナデ, 研磨	ナデ	-	赤褐	赤褐	良好	○	○		○					30.4g	
1940		D-13	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	-	5.1	5.0	1.6	指頭圧痕 打ち欠き	打ち欠き	もじり痕	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	良好	○	○		○					42.5g	
1941		E-18	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	-	5.1	4.4	1.5	条痕, 打ち欠き	ナデ	-	赤褐	橙	良好	○	○		○			○		49.2g	
1942		D-13	Ⅲ	円盤形土製品	底部	後期	-	4.6	4.0	0.8	打ち欠き	ナデ, 打ち欠き	鯨骨圧痕	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○		○			○		18.1g	
2-128		1943	D-13	Ⅲ	土製品	底部	後期	-	9.0	8.6	1.0	ナデ, 研磨	ナデ	-	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良好	○	○		○					
	1944	E-14	Ⅲa	土製品	胴部	後期	-	5.5	5.1	0.7	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	浅黄橙	浅黄橙	普通	○			○		○			穿孔 21.3g	
	1945	E-11	Ⅲb	土製品	胴部	後期	-	4.8	4.6	0.8	ナデ	ナデ, 研磨	-	にぶい 褐	にぶい 橙	良好	○	○		○					穿孔 18.9g	
	1946	E-14	Ⅲ	土製品	胴部	後期	-	4.4	4.0	0.7	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	沈線, 刺突	にぶい 黄褐	褐灰	良好	○	○		○		○			穿孔 17.7g	
	1947	F-13	Ⅲa	土製品	胴部	後期	-	4.2	4.0	1.0	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	灰黄褐	黒褐	良好	○	○		○			○		穿孔 18.8g	
	1948	E-18	Ⅲ	土製品	胴部	後期	-	3.3	3.1	0.6	ナデ	ナデ, 研磨	-	にぶい 橙	褐灰	良好	○	○		○					穿孔 7.6g	
	1949	C-26	Ⅱ~Ⅲ	土製品	胴部	後期	-	2.5	2.5	0.7	ナデ, 打ち欠き	ナデ, 打ち欠き	-	赤褐	灰褐	良好	○	○		○					穿孔 5.3g	
	1950	E-14	Ⅲ	土製品	胴部	後期	-	4.2	4.1	0.9	ナデ, 打ち欠き	ナデ, 打ち欠き	-	にぶい 赤褐	黒褐	良好	○	○		○		○			穿孔 11.6g	
	1951	F-13	Ⅲa	土製品	胴部	後期	-	5.3	4.0	0.9	ナデ, 打ち欠き	ナデ, 打ち欠き	-	褐灰	黒褐	良好	○	○		○					穿孔 20.2g	
	1952	E-13	Ⅲa	土製品	胴部	後期	-	5.7	2.4	0.8	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	にぶい 橙	にぶい 黄橙	良好	○	○		○					穿孔 14.8g	
	1953	E-13	Ⅲ	土製品	底部	後期	-	6.0	4.3	0.8	ナデ, 研磨	ナデ	-	にぶい 橙	明褐灰	良	○	○		○			○		穿孔, 白色土 19.6g	
	1954	E-12	Ⅱ	土製品	胴部	後期	-	6.0	3.0	0.7	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	にぶい 黄橙	褐灰	良好	○	○		○			○		穿孔 17.3g	

第2-23表 縄文時代遺物観察表（土器・土製品）(20)

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層位	器種	部位	時代	分類	法量 (cm)			調整		文様	色調		焼成	胎土								備考		
								口径 (長軸)	底径 (短軸)	器高 (最大厚)	外面調整	内面調整		外面	内面		長石	石英	雲母	輝石	角閃石	滑石	赤色粒	小礫		その他	
2-128	1955	E-17	Ⅲ	土製品	胴部	後期	-	4.0	1.6	0.7	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	明赤褐	橙	良好	○	○								穿孔 7.6g	
	1956	E-19	Ⅲ	土製品	胴部	後期	-	3.8	3.8	0.7	ナデ, 研磨	ナデ, 研磨	-	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○								13.4g	
	1957	F-15	Ⅱ	土製品	胴部	後期	-	4.3	3.9	0.7	条痕	ナデ, 打ち欠き	-	暗灰黄	黄灰	良好	○	○								17.0g	
	1958	D-12	Ⅲ	土製品	胴部	後期	-	3.5	3.3	0.8	ナデ研磨	ナデ, 研磨	沈線	褐灰	灰黄褐	良好	○	○								13.3g	
	1959	D-13	Ⅲ	土製品	口縁部	後期	-	5.9	4.4	1.0	ナデ	ナデ, 打ち欠き	沈線	黒褐	黒褐	良好	○	○					○	○	動物形 36.7g		
	1960	E-19	Ⅲ	土製品	胴部	後期	-	4.8	3.9	0.8	ナデ, 研磨	条痕, 研磨	線刻	にぶい 赤褐	暗赤褐	良好	○	○								19.1g	
	1961	D-27	Ⅱ	土製品	胴部	後期	-	4.7	4.4	1.0	条痕, 一部研磨	ナデ	-	明褐	橙	良好	○	○						○	17.2g		
2-129	1962	C-27 C-28	Ⅲ IVa	鉢	胴部	中期	阿高式	-	-	-	ナデ	ナデ	凹線	にぶい 赤褐	にぶい 褐	良	○	○									
	1963	E-15	Ⅲa	鉢	貼付突帯	中期	阿高式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	にぶい 赤褐	にぶい 赤褐	良	◎	◎			◎				○		
	1964	E-19	Ⅲ	深鉢	口縁部	中期	春日式	-	-	-	ナデ	条痕	刺突	明赤褐	明赤褐	普通	○	○									
	1965	D-13	Ⅲ	鉢	口縁部	中期	春日式	-	-	-	ナデ	ナデ	突帯, 刺突	オリ ーブ褐	オリ ーブ褐	良		◎						○			
	1966	E-14	Ⅲa	深鉢	口縁部	中期	春日式	-	-	-	ナデ	ナデ	隆帯文, 刺 突	褐灰	褐灰	良好	○	○			○						
	1967	E-12	Ⅲb	深鉢	口縁部	中期	春日式	-	-	-	条痕→ナデ	条痕, ナデ	貼付突帯, 刻み	灰褐	灰黄褐	やや 不良	○	○									白色土→ 赤色顔料
	1968	E-14	Ⅲa	深鉢	口縁部	前期	轟B式	-	-	-	ナデ	ナデ, 条痕	隆帯文, 刻 み, 沈線	褐灰	灰黄褐	良好	○	○									
	1969	D-24	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	轟B式	-	-	-	ナデ	ナデ	-	黒褐	褐灰	普通	○	○									
	1970	D-13	Ⅲ	深鉢	胴部	前期	轟式	-	-	-	指頭圧痕, ナデ	条痕	-	橙	黒褐	普通	○	○									
	1971	D-13	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	刻み, 沈線	褐灰	褐灰	良好	○	○									
	1972	C-13	Ⅱ	深鉢	口縁部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	-	刻み, 短沈 線	灰白	灰白	良好	○	○									
	1973	D-12	Ⅲa	深鉢	口縁部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	橙	明黄灰	良好	○	○									
	1974	D-12	Ⅲa	深鉢	口縁部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	褐灰	にぶい 黄橙	良好	○	○									
	1975	D-17 E-17	Ⅲ	深鉢	口~胴部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	褐灰	褐灰	良好	○	○									
	1976	E-13	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	黒褐	黒褐	良好	○	○									
	1977	D-17	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	褐灰	にぶい 黄褐	良好	○	○									
	1978	E-15	Ⅱ	深鉢	口縁部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	褐灰	明褐	良好	○	○						○			
	1979	D-12	Ⅲa	深鉢	口縁部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線, 刺突	灰黄褐	灰黄褐	良好	○	○									
	1980	B-17	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突	褐灰	明褐	良好	○	○									
	1981	D-13	Ⅳ	深鉢	口縁部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	にぶい 褐	にぶい 黄橙	良好	○	○									
1982	D-15	Ⅱ	深鉢	口縁部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	明褐	明赤褐	良好	○	○							○			
1983	C-19	Ⅱ	深鉢	口縁部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	明褐	にぶい 褐	良好	○	○										
1984	B-18	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突	褐	褐	良好	○	○										
1985	D-20	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突	灰黄褐	にぶい 黄橙	良好	○	○							○			
1986	D-20	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突	明黄褐	黄灰	良好	○	○										
2-130	1987	D-17 D-18 E-17	Ⅲ	深鉢	胴部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	褐灰	灰褐	良好	○	○							○		
	1988	B-15	Ⅱ	深鉢	胴部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	灰褐	褐灰	良好	○	○						○			
	1989	D-13	Ⅲ	深鉢	胴部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	にぶい 褐	褐灰	良好	○	○					○				
	1990	D-E- 14-15	Ⅱ	深鉢	胴部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	灰白	灰白	良好	○	○									
	1991	E-15	Ⅱ	深鉢	胴部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	灰白	にぶい 黄橙	良好	○	○									
	1992	E-15	Ⅱ	深鉢	胴部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	灰白	灰白	良好	○	○									
	1993	C-18	Ⅲ	深鉢	胴部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突, 沈線	赤褐	にぶい 黄橙	良好	○	○					○				
	1994	C-18	Ⅲ	深鉢	胴部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	刺突, 沈線	にぶい 褐	褐灰	良好	○	○					○				
	1995	D-14	Ⅳ	深鉢	底部	前期	曾畑式	-	-	-	ナデ	ナデ	沈線	黒褐	明赤褐	良好	○	○						○			
	1996	E-13	Ⅲ	円盤形 土製品	口縁部	前期	曾畑式	4.8	4.0	0.9	ナデ, 打ち欠き	ナデ, 打ち欠き	刺突, 沈線	橙	橙	良好	○	○					○				
	1997	D-13	Ⅲ	円盤形 土製品	口縁部	前期	曾畑式	5.0	4.6	0.8	打ち欠き	打ち欠き, ナデ	沈線	褐灰	褐灰	良好	○	○									
	1998	D-13	Ⅲ	円盤形 土製品	胴部	前期	曾畑式	6.3	4.1	0.6	ナデ	ナデ	沈線	橙	褐灰	良好	○	○									
	1999	D-12	Ⅱ	円盤形 土製品	胴部	前期	曾畑式	4.0	2.1	0.7	ナデ	ナデ	沈線	橙	黒	良好	○	○								スス	
	2000	E-17	Ⅲ	深鉢	口縁部	前期	葦ノ袴式	-	-	-	条痕	ナデ	貝殻押印文	黒褐	にぶい 赤褐	良	○	○						◎		苫浜式?	

### 第3節 遺物（石器・石製品）

本遺跡では、低地・低湿地のため、時代ごとの明確な層位を判断することは難しかった。ここでは、新しい時期の石器と判断したもの以外は、縄文時代後期の石器として、取り扱うこととした。

また、低地部であるC・D-25・26区や低湿地部であるC～E-12～14区に出土集中域がみられるが、エリア認定には至らなかったため、器種ごとに報告する。なお、石材分類（肉眼観察による）は第2-21表のとおりである。出土状況は、第2-131～134図のとおりである。

石器は、Ⅱ層とⅢ層から2380点出土（剥片・チップ含）している。各石器数の内訳は、器種毎に記載しており、石器組成については、総括にまとめてあるので、参照して欲しい。

#### 1 打製石鏃（第2-135～142図）

Ⅱ・Ⅲ層から出土した打製石鏃、未製品、破損品を含めて406点出土しており、そのうち166点を図化（Ⅰa類21点・Ⅰb類12点・Ⅱa類47点・Ⅱb類18点・Ⅲa類24点・Ⅲb類23点・Ⅳ類4点・Ⅴ類4点・Ⅵ類13点）した。包含層と時期区分が明確ではないが、土器の出土状況から主に縄文時代後期に帰属する打製石鏃と推定される。

主に形状を観察して、以下のように分類を行った。

#### 打製石鏃分類基準

- Ⅰ類 基部が平坦で抉りのない平基式無茎鏃
  - a 正三角形を呈するもの
  - b 二等辺三角形を呈するもの
- Ⅱ類 正三角形を呈し、抉りがあるもの
  - a 基部の抉りが浅いもの
  - b 基部の抉りが深いもの
- Ⅲ類 二等辺三角形を呈し、抉りがあるもの
  - a 基部の抉りが浅いもの
  - b 基部の抉りが深いもの
- Ⅳ類 先端部が錐状を呈するもの
- Ⅴ類 欠損のため、全体形状が不明なもの
- Ⅵ類 未製品

なお、石材の産地鑑定は肉眼観察によるものである。図化しなかったものの多くは、Ⅴ類である。

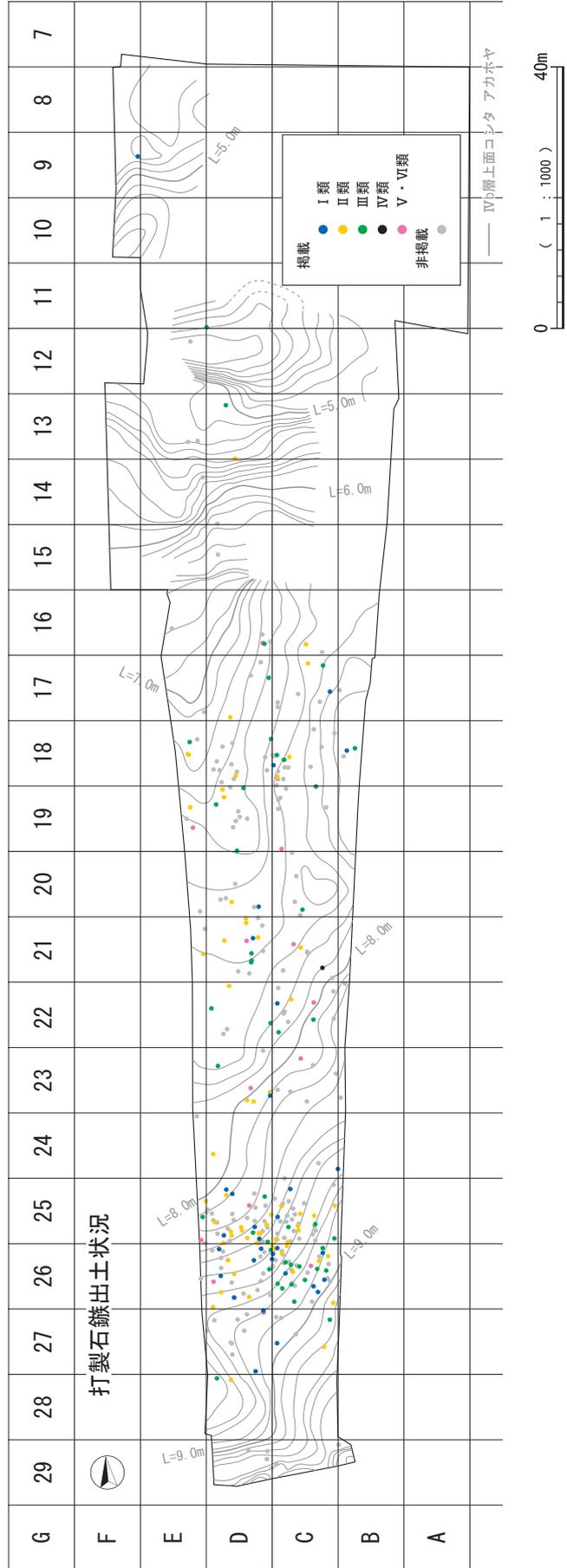
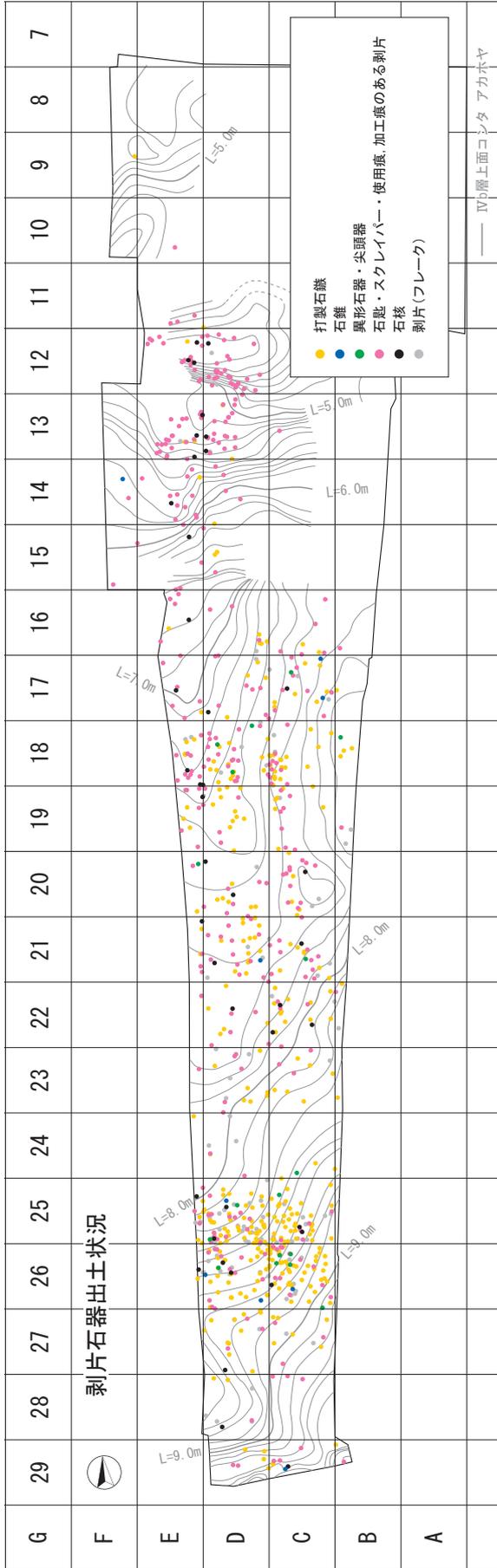
#### Ⅰa類（第2-135図2001～2021）

基部が平坦で抉りがない平基式無茎鏃で、正三角形を呈するものである。

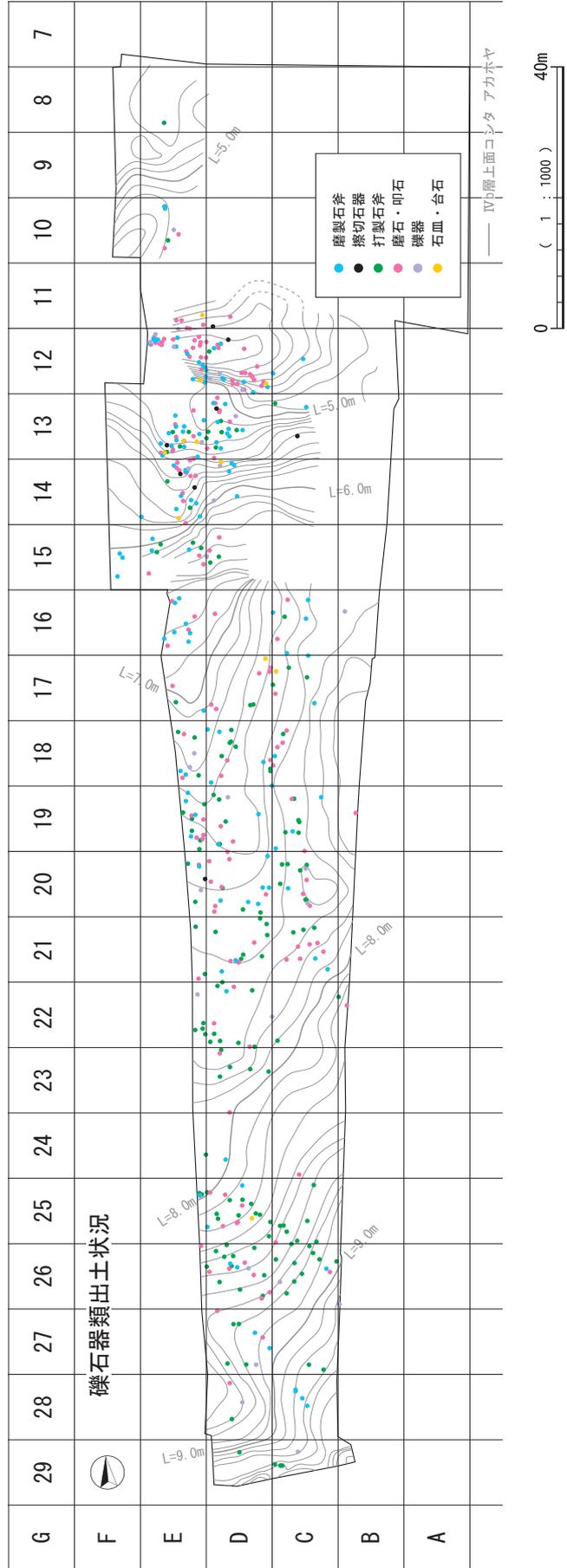
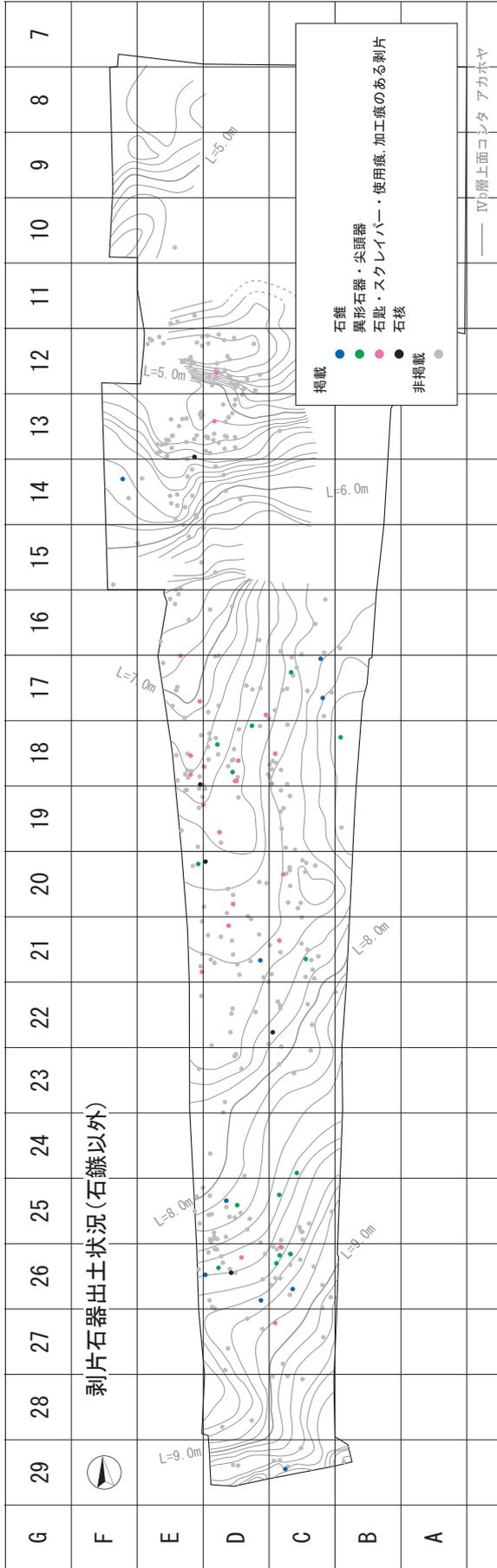
2001～2015は、腰岳産に類する黒曜石製である。2001

第2-24表 中津野遺跡における石材分類

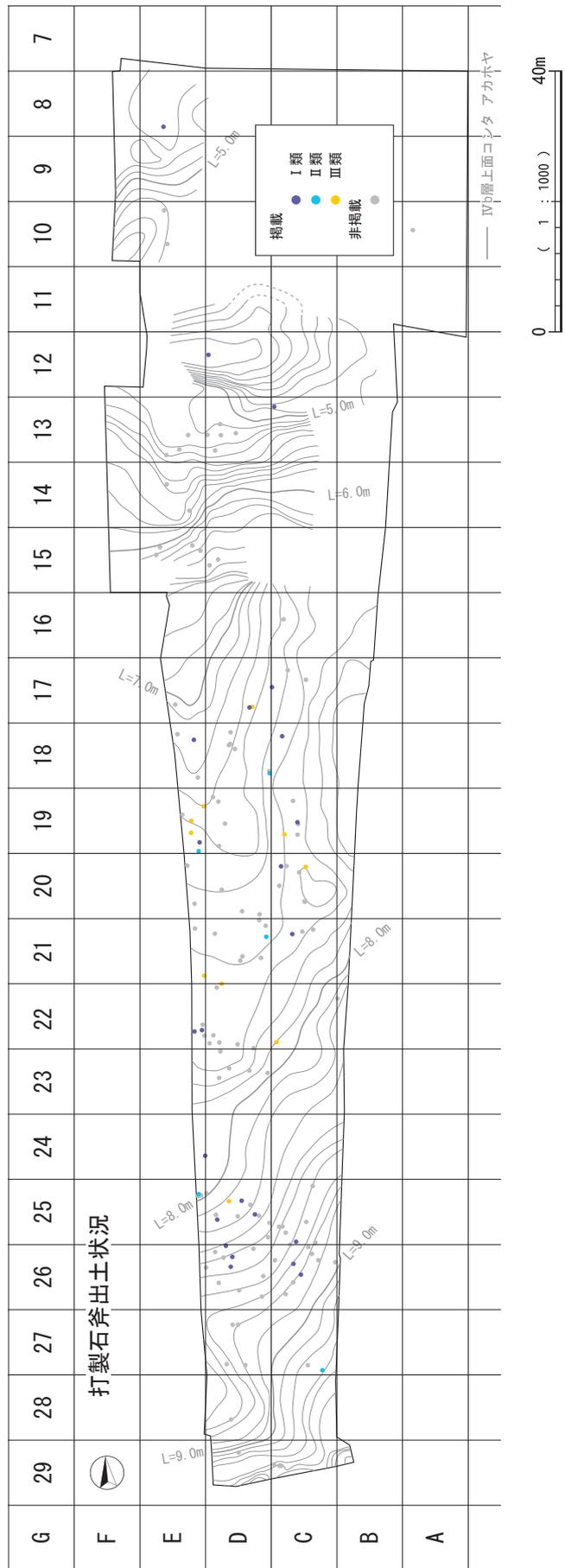
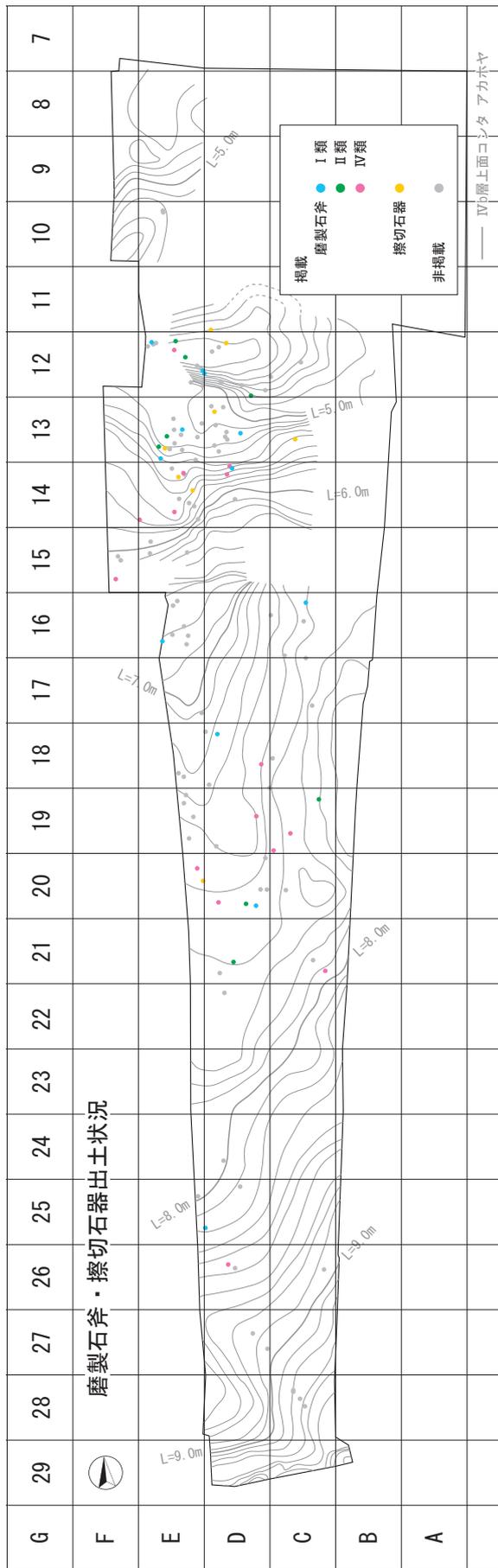
石材1	石材2	概要	備考
黒曜石 (OB)	1	不純物を含み、漆黒で光を通さないものを包括した。薩摩川内市樋脇町上牛鼻、いちき串木野市平木場、いちき串木野市宇都等の原産地資料に類似する。	上牛鼻、平木場・宇都系
	2	光を通し、不純物を大量に含むものを包括した。鹿児島市三船、伊佐市日東、五女木の原産地に類似する。	三船・日東系
	3	飽色～黒色を基調として、不純物をほとんど含まない良質や自然面が磨りガラス状を呈するものを包括した。えびの市桑ノ木津留、伊佐市上青木の資料に類似する。	桑ノ木津留・上青木
	4	黒色で不純物をほとんど含まない良質のものを包括した。佐賀県伊万里市腰岳産の資料に類似する。	腰岳系
	5	青灰色で不純物が少ないものを包括した。長崎県針尾や長崎県淀姫等西北九州の原産の資料に類似する。	西北九州系（針尾・淀姫）
	6	不純物をあまり含まない灰色のものを包括した。椎葉川周辺のもの原産地とするものに類似する。	椎葉川系
	7	乳白色を基調としており、微細な不純物を含むものを包括した。佐賀県姪島を原産地とするものに類似する。	姪島系
	8	霧島系	霧島系
安山岩 (AN)	—	色調は、黒灰色～青灰色系である。石英を質の不純物を含み、基調は滑らかでガラス質に富む質感のもの。不純物を含み、基調はややざらついた質感のもの。	サヌカイト含む
チャート (CH)	—	色調は、白色～灰色系、青灰色～緑色系、黒色系と様々である。珪質分に富み、光沢感を有するもの。珪質分にやや乏しく、透明感や光沢感がほとんどないもの。	
ホルンフェルス (HF)	—	色調は、黒～暗灰色系、茶色～ベージュ系、白色系と様々である。熱変成した泥岩～頁岩質のもので粒子が比較的細かいもの。	
頁岩 (SH)	—	色調は、暗灰色～灰色、黒色～暗灰色系と様々である。珪質分に非常に富み、光沢のあるもの。珪質分がほとんどなく、無光沢で、節理が発達せず、緻密で良質なものの。	
砂岩 (SA)	—	色調は、暗灰色～灰色系である。砂粒、石英粒が集合して固まった堆積岩の一種である。触ると粒感が強いものを本類に含めた。	
めのう系 (CC)	—	めのう・玉髓・石英・蛋白石・鉄石英・水晶などを総称して、本類に含めた。	
粘板岩 (CL)	—	灰～青灰色。層状構造をなし、剥落するもの。	
花崗岩・閃緑岩 (GR)	—	石英・カリ長石・雲母・角閃石・輝石などを主成分鉱物として含む。	
凝灰岩 (TU)	—	気泡を多く含み、密度が低く軽い。軟質。	
その他	—	蛇紋岩や軽石など。	



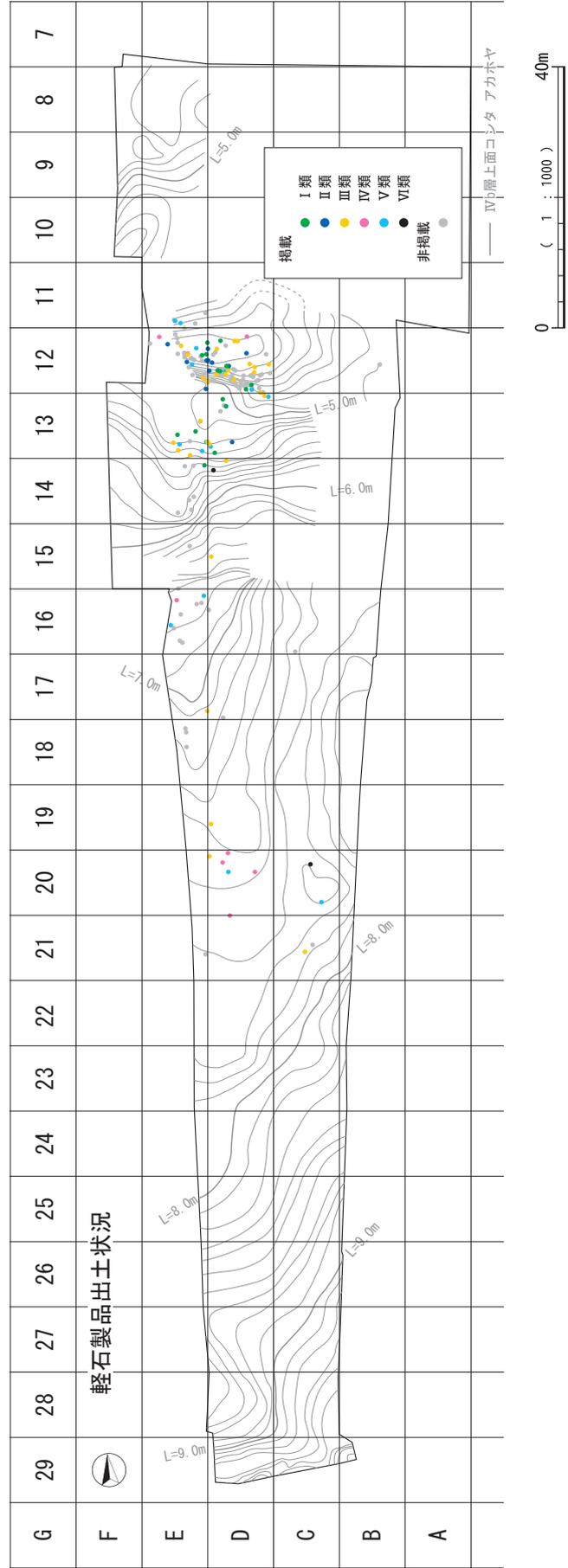
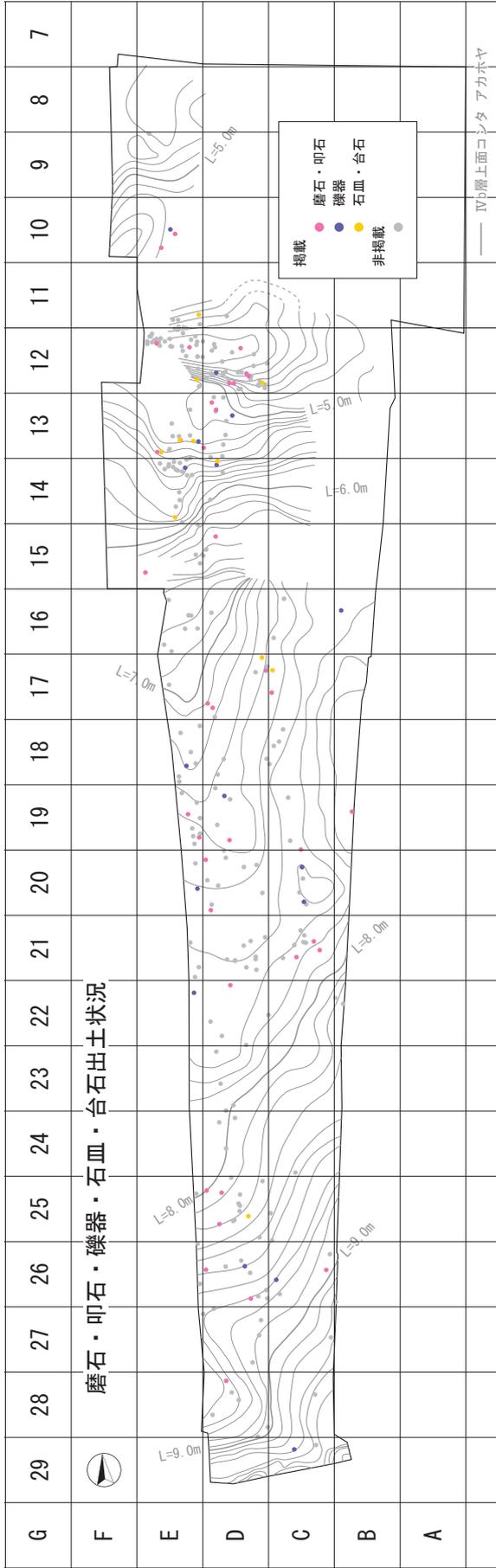
第2-131図 縄文時代後期石器・石製品出土状況図(1)



第2-132図 縄文時代後期石器・石製品出土状況図(2)



第2-133図 縄文時代後期石器・石製品出土状況図(3)



第2-134図 縄文時代後期石器・石製品出土状況図(4)

は表面基部には丁寧に押圧剥離を施すが、裏面は不純物のためか粗い調整である。2002は表面に丁寧に押圧剥離を施すが、裏面の調整は粗く自然面を残す。2003は左脚部を欠損するが、丁寧に押圧剥離を施す。2005は、全体に押圧剥離を施す。2007～2011は、丁寧に作りである。2012は、小型で薄く調整される。2013は側辺の整形が粗く、未製品の可能性もある。2014は不純物が多く、粗い整形である。2015は比較的厚みがあり、裏面は主要剥離面を大きく残す。2016～2020は、安山岩製である。2016は、側縁の調整が粗雑である。2017は丁寧に調整で、側縁は鋸歯状を呈する。2018は小型の石鏃で、丁寧に調整である。2019は、全体に丁寧に押圧剥離を施す。

I b 類 (第2-135・136図2022～2033)

基部が平坦で挟りがない平基式無茎鏃で、二等辺三角

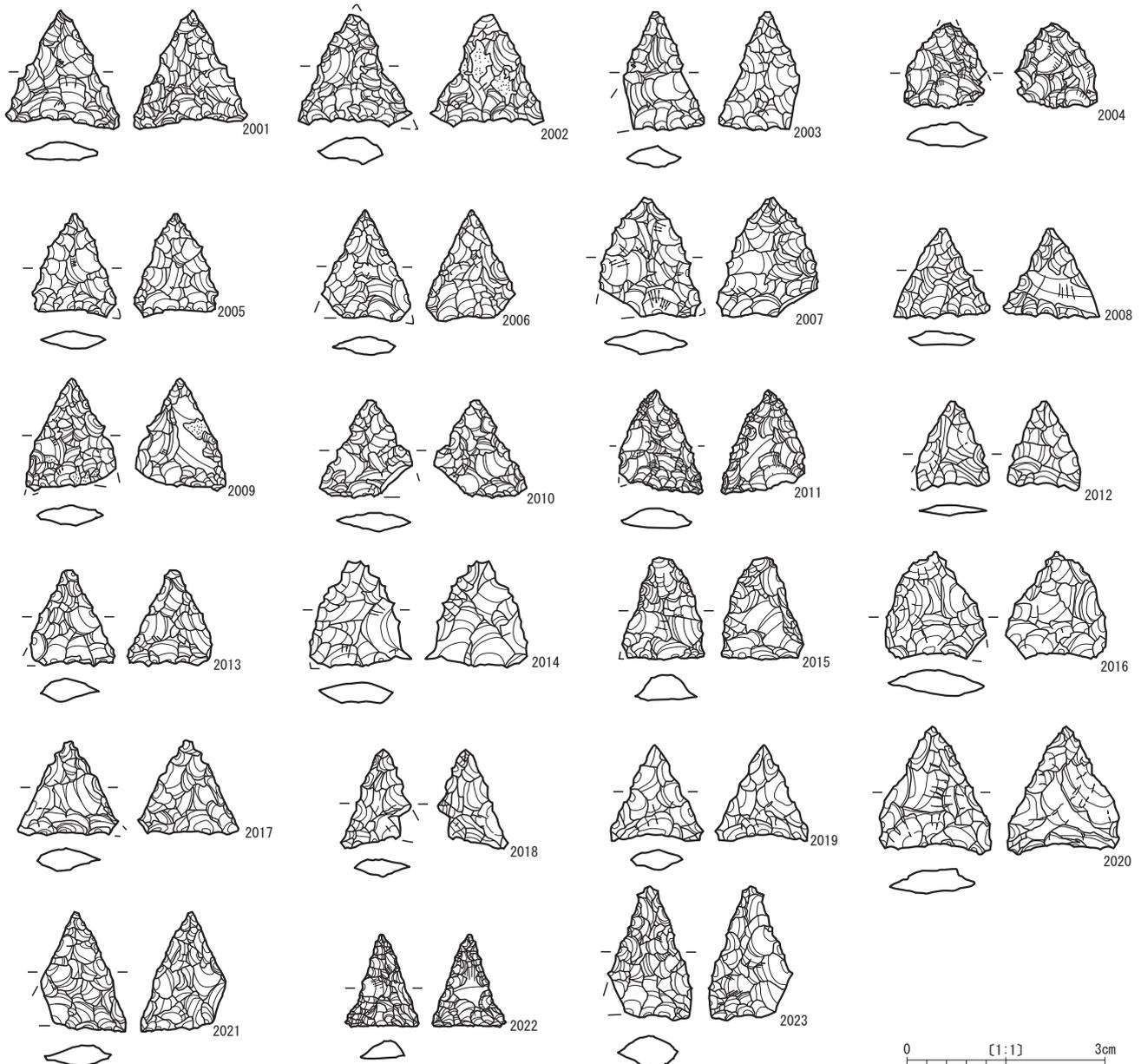
形状を呈するものである。

2022～2024は、腰岳産に類する黒曜石製である。2022はI類では一番小型で、裏面は平坦に仕上げる。2023は、先端部を薄く仕上げる。2024は体部下位に最大幅をもち、基部がわずかにすばまる形状を呈す。2026～2030は、安山岩製である。2026はI類では大型の製品で、側辺・基部に押圧剥離を施す。2028は、先端部を欠損する。2030は異質な形状であるが、基部に押圧剥離を施す平坦な基部調整のため石鏃と判断した。2031は、ホルンフェルス製である。2032・2033は、玉髓製である。

II a 類 (第2-136・137図2034～2080)

形状が正三角形を呈し、基部の挟りが浅いものである。

2034～2052は、腰岳産に類する黒曜石製である。2034は丁寧に調整だが、右脚部が長脚となる。2036は左脚部



第2-135図 打製石鏃(1) I類

を、2037は両脚部先端をわずかに欠損する。2038～2040は、小型でやや幅広の形状を呈す。2038は側縁が内湾気味で、2040は挟りがわずかに深い。2041は、側縁・基部の調整が同じである。2042は、Ⅱ類では最も小型である。2043は、丁寧な調整で全体的に薄い。2044～2047は部分的に欠損するが、残存部の形状から浅い凹基と推測した。2048は幅が広く、横長な形状である。2049は、丁寧な調整で薄い。2051は裏面の主要剥離面の平坦面を生かし、平坦に仕上げる。2053・2054は上牛鼻産に類する黒曜石製で、分量は違うが押圧剥離を丁寧に施し、側縁は細かい鋸歯状を呈す。

2055～2072は安山岩製で、わずかに縦長の石鏃が多い。2057は、わずかに深い挟りをもつ。2059～2064は、基部を欠損する。2059は、側縁がわずかに内湾する。2062は先端部から剥離が生じており、衝撃剥離の可能性もある。2066は、先端部がわずかに欠損する。2069は、両側縁部が弧状に内湾する。2072は表裏面に主要剥離面を残し、先端部がわずかに欠損する。2073は玉髓製で、丁寧に押圧剥離を施す。2074は凝灰岩製で、先端部と右脚部を欠損している。2075～2079は挟りが浅く、扇形を呈する一群で、異形石器に分類される可能性もある。2075・2079は、扇形で形状が類似する。2075は腰岳産に類する黒曜石製、2079は安山岩製である。2076～2078・2080は腰岳産に類する黒曜石製で、2076・2078は先端部が錐状を呈しⅣ類ともとれるが、2075・2077・2079に類似するため、ここに記載した。2080は欠損が多く、本来の向きは不明である。一部分のみ押圧剥離を施し、石鏃未製品あるいは石匙のつまみ部分等の可能性もある。

#### Ⅱ b 類 (第2-138図2081～2098)

正三角形を呈し、基部の挟りが深いものである。

2081～2090は、腰岳産に類する黒曜石製である。2081は、右脚部を欠損する。2082は丁寧な作りで、2083は側縁がわずかに内湾する。2084は、全体的に薄く整形される。2085は、形状の整った整形である。2086は全体的に薄く整形され、側縁は外湾する。2087～2089は、脚部を欠損する。2090は、右脚部がやや長脚の石鏃である。2091は、上牛鼻産に類する黒曜石製である。2092～2097は、安山岩製である。2092は、右側縁に丁寧な押圧剥離を施している。2093は側縁が外湾し、全体的に団栗状の形状を呈す。2095は丁寧な整形で、押圧剥離を施す。2097は左側縁部の不純物のため、少し変形した形状を呈す。2098は玉髓製である。幅広の石鏃で、丁寧な押圧剥離を施す。

#### Ⅲ a 類 (第2-139図2099～2122)

二等辺三角形形状を呈し、基部の挟りが浅いものである。

2099～2105は、腰岳産に類する黒曜石製である。2099～2101は、やや大型の石鏃である。2100は左脚部、2101

は先端部がわずかに欠ける。2102は、全体に丁寧な押圧剥離を施す。2106～2121は、安山岩製である。2106～2114は、比較的大型の石鏃である。2106は丁寧な整形で、全面に押圧剥離を施す。2107は厚みがあり、粗雑な整形で未製品の可能性もある。2108は、先端部に二次的な剥離が生じている。2109は丁寧な調整で、押圧剥離を施す。2110～2112は、整形が粗雑である。2113・2114は他より縦長な石鏃で、側縁が内湾し弧状を呈す。2116～2121は、丁寧な整形を施す。2116は縦長の石鏃で、2121はⅢ類では一番小型である。2122はホルンフェルス製で風化しているが、表裏面に主要剥離面を残し、右脚部がわずかに欠損する。

#### Ⅲ b 類 (第2-140図2123～2145)

二等辺三角形形状を呈し、基部の挟りが深いものである。

2123～2129は腰岳産に類する黒曜石製で、全体的に丁寧な押圧剥離を施す。2123は、縦横比が1.7で縦長である。2129は非常に丁寧な調整で、断面三角形になるよう正面と裏面で剥離方向を意図的に変え、基部が張り出す特徴的な形状をしている。2130～2133は、針尾産に類する黒曜石製である。2131は本遺跡最大の石鏃で、丁寧な整形で脚部先端部を平坦に調整する。2130は側縁が内湾し、弧状を呈す。2133は側縁が鋸歯状を呈し、基部の挟りも深い。2134は上牛鼻産に類する黒曜石製で、挟りが深く、両側縁が外湾する形状を呈す。2135～2143は、安山岩製である。2137は、挟りが非常に深い。2142は両側縁が内湾し弧状を呈するが、基部で外湾する。2143は両側縁が内湾し弧状を呈して、細身の形状である。2144・2145は、ホルンフェルス製である。2144は、表裏面に主要剥離面を残す。2145は、風化が進んでいる。挟りが深い。

#### Ⅳ類 (第2-141図2146～2149)

先端部が、錐状を呈するものである。

2146は、安山岩製である。縦長で、欠損した先端部を含めると3.0cm程の長さになる。2147～2149は、腰岳産に類する黒曜石製である。2147・2148は、全体的に整形が粗雑である。2149は先端部を錐状に作り出すために、深い剥離を施す。

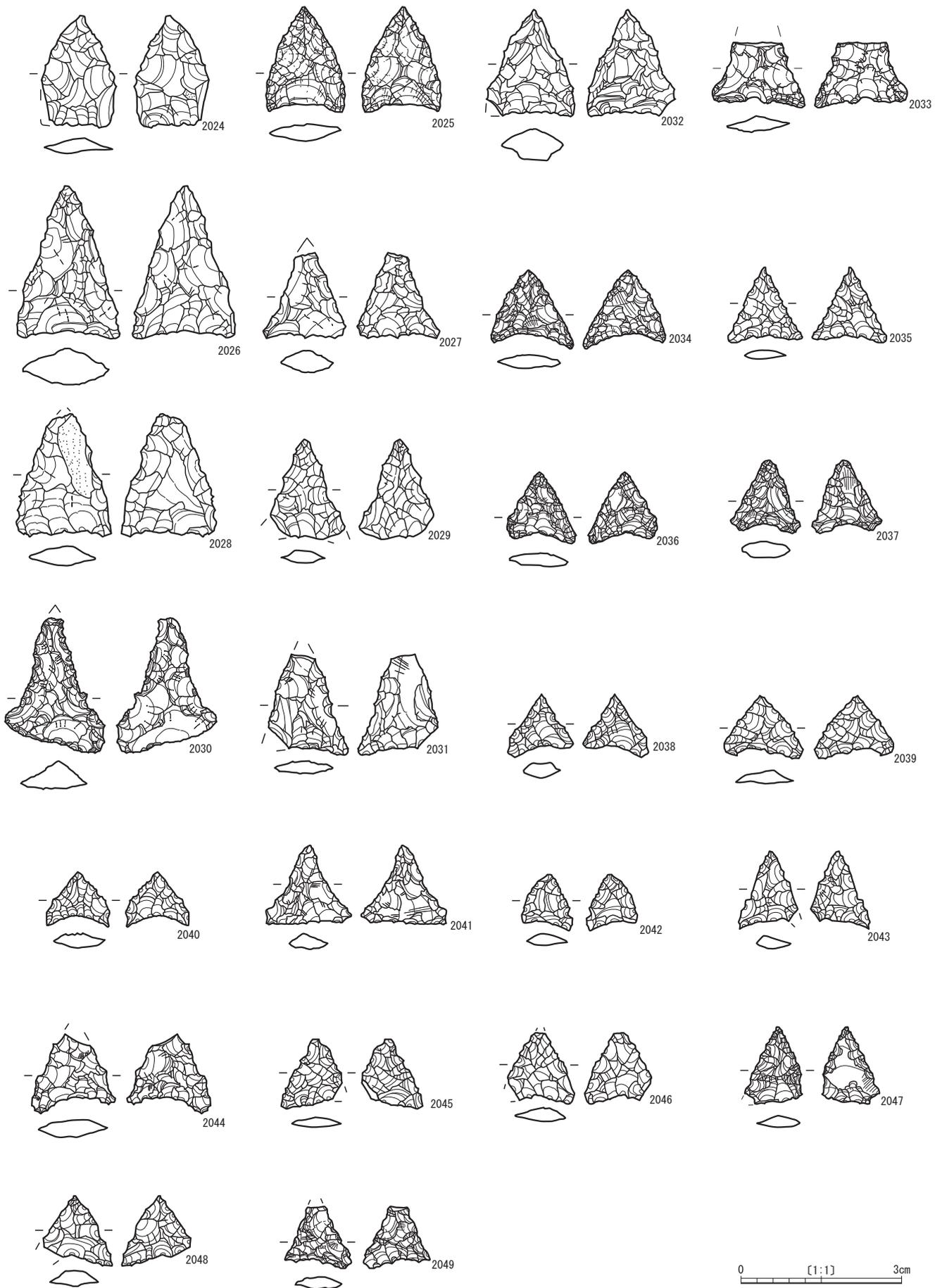
#### Ⅴ類 (第2-141図2150～2153)

欠損のため全体形状が、不明なものである。

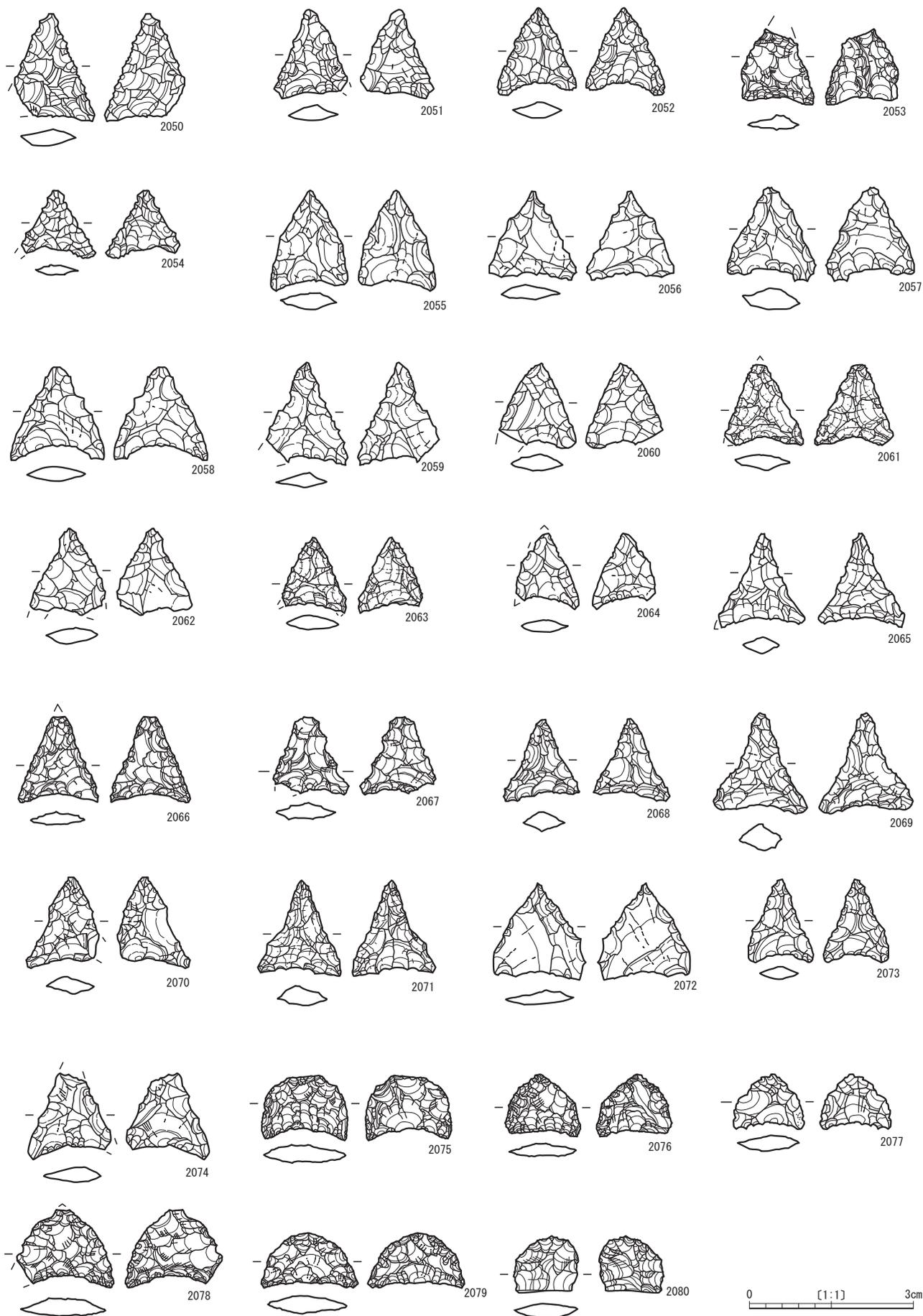
2150・2151は腰岳産に類する黒曜石製で、不純物を境に下部が欠損している。2152は安山岩製で、丁寧な押圧剥離を施す。2153は玉髓製で、丁寧な押圧剥離を施す。

#### Ⅵ類 (第2-142図2154～2166)

Ⅵ類は、未製品としたものである。2154～2161は、腰岳産に類する黒曜石製である。多くの石鏃は、主要剥離面を残し、押圧剥離を一部施す。2159は表裏面に先行する剥離面を残しているが、周縁に丁寧な押圧剥離を施す。2161は、背部に礫面を残したまま側縁・基部の整形を行っている。裏面は主要剥離面が残り、基部のみに押



第2-136図 打製石鋏（2）Ⅰ類・Ⅱ類



第2-137图 打製石鏃（3）Ⅱ類

圧剥離を施す。2162は針尾産に類する黒曜石で、基部を欠損する。2163・2164は安山岩で、表裏面に主要剥離面を残す。2164は縦長で、基部形成がみられる。2165はホルンフェルス製で、側縁の一部に調整がみられる。2166は表裏面に素材剥離の剥離面を残し、基部を欠損する。

## 2 石錐 (第2-143~144図2167~2180)

石錐は表土・Ⅱ・Ⅲ層から14点出土し、全て図化した。

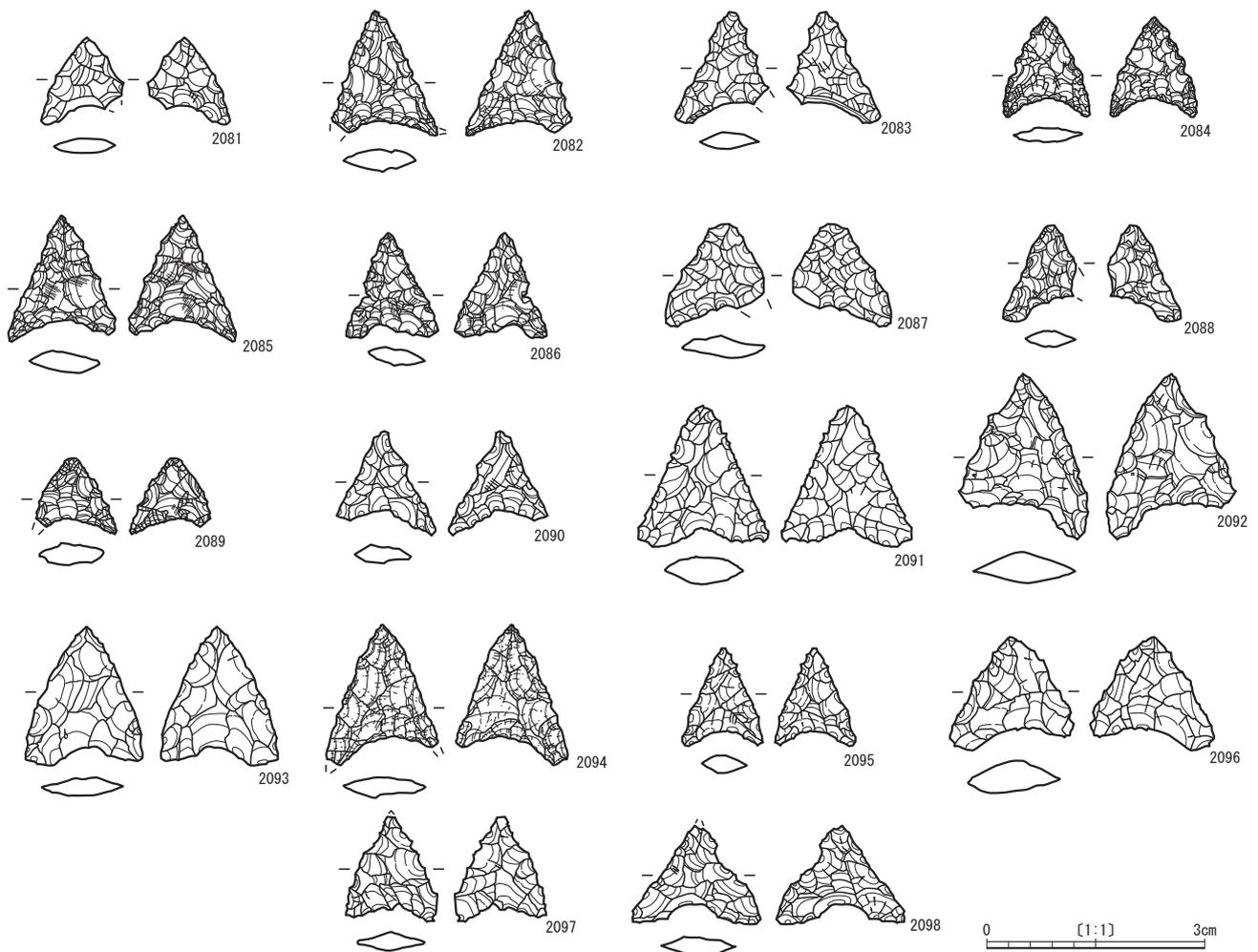
主に縄文時代後期に帰属する石錐と推定される。2167は腰岳産に類する黒曜石製で、正面は均等に剥離が入るが、裏面は規則性を欠く。両端とも潰れている。2168は腰岳産に類する黒曜石製で、先端部が潰れて丸みを帯びるため回転穿孔具としたが、石錐の脚部の一部の可能性もある。2169は、安山岩製で小型だが、厚みのある細片を素材とする。錐部の稜上にわずかに剥離がみられる。2171は、安山岩製の不定形剥片の周縁を加工している。錐部先端は丸く潰れ、わずかに光沢を帯びる。2172は安山岩製で、つまみ部は背面からの剥離で整形し、錐部は、両面から剥離調整を施す。先端を欠損する。2173は、安山岩製でつまみ部は欠損する。錐部は両面から丁寧な剥離を施しており、断面が菱形となる。先端も欠損するが、

刺突用と考えられる。2174は、安山製で薄い剥片の側縁のみ加工する。先端には衝撃剥離がある。2175はホルンフェルス製で、小型の横長剥片の一端に微細な加工を施し、錐部を作り出している。2176は水晶製で、方柱状の剥片の周縁を加工し整形している。錐部先端及び周辺は整形剥離と異なる微細剥離が集中し、回転剥離の可能性もある。2177はホルンフェルス製で横長の剥片の一端に加工を加え、錐部を作り出す。先端に刺突によると考えられる微細剥離がある。2178は腰岳産に類する黒曜石製で、整形段階で欠損したものの可能性がある。2179は安山岩製で、基部を打ち欠いて整形している。2180は安山岩製で、両先端部に微細な剥離を施す。

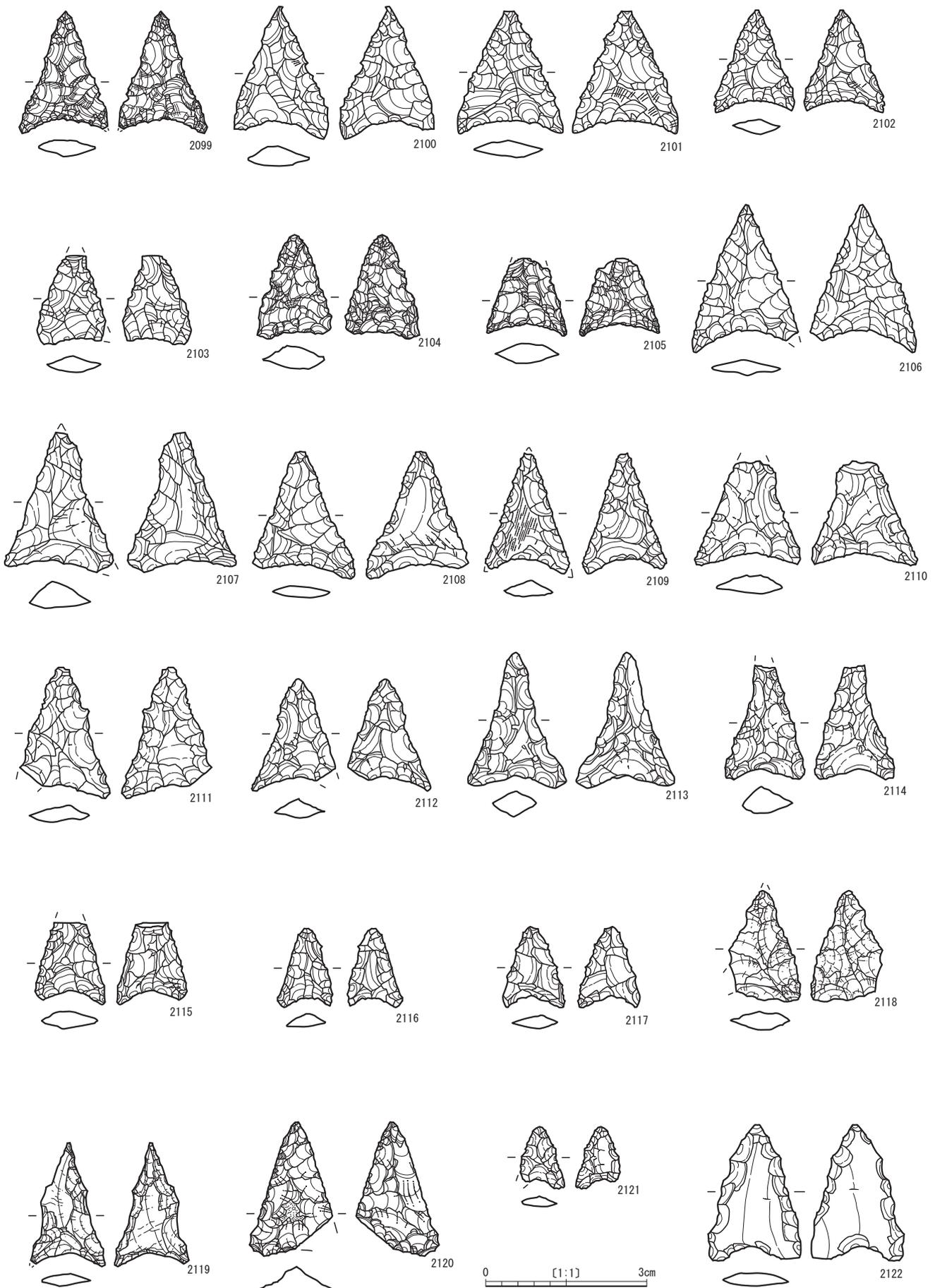
## 3 尖頭器 (第2-144図2181~2193)

尖頭器はⅡ・Ⅲ層から13点出土しており、全て図化した。土器の出土状況から主に縄文時代後期に帰属する尖頭器と推定される。

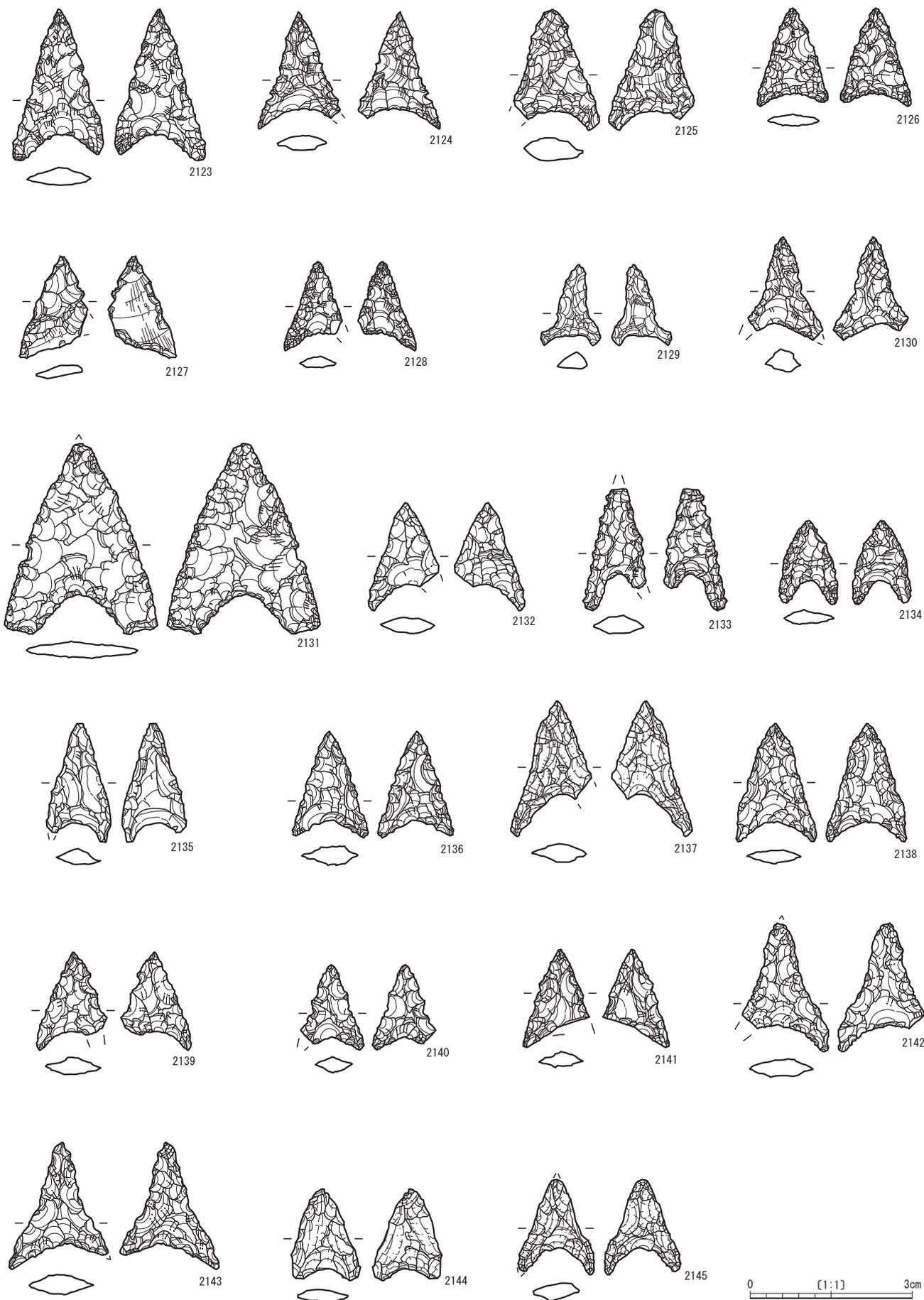
2181は安山岩製で、両面加工を施し、基部は丸く整形する。比較的大型の製品である。2182は安山岩製で、両面加工を施し柳葉形に整形する。2183は安山岩製で、両面からの剥離で細身に整形し先端のみ微細な剥離を加え



第2-138図 打製石錐(4)Ⅱ類



第2-139圖 打製石鏃（5）Ⅲ類



第2-140圖 打製石鏃（6）Ⅲ類

る。石錐の可能性もある。2184は腰岳産に類する黒曜石製で、両面加工を施し基部左下端をわずかに欠損する。2185は安山岩製で、裏面はやや平坦、正面側は凸状に整形されている。両端ともわずかに欠損している。2186は腰岳産に類する黒曜石製で、左下端には正面側から細かい微細剥離で調整される。先端がわずかに欠損している。2187は腰岳産に類する黒曜石製で、表裏ともに一次加工のみみられるが、縁辺への細かい剥離調整が見られないため、未製品の可能性もある。2188は安山岩製で、裏面中央稜上にわずかに摩耗のみみられる。2189は安山岩製で、表裏ともに交互剥離のような加工を施す。2190は腰岳産に類する黒曜石製で、正面と右側縁上端に自然面、裏面に主要剥離面を残す。製作途中に折れが生じた可能性がある。2191は上牛鼻産に類する黒曜石製で、表裏面に先行する剥離面を残す。側縁は比較的鈍角の剥離で整えるため、鋭利ではない。左下縁を欠損している。2192は腰岳産に類する黒曜石製で、先端からの剥離面を残し、裏面はより顕著である。先端は潰れる。2193は安山岩製で、裏面に主要剥離面が残る。剥離はやや粗い。

#### 4 異形石器 (第2-144図2194)

2194は、1点出土した異形石器である。包含層および時期区分が明確でないが、土器の出土状況から主に縄文時代後期に帰属する異形石器と推定される。腰岳産黒曜石製で、欠損のため、形状不明である。薄い、縁辺に微細剥離がなく未製品の可能性がある。

#### 5 石匙 (第2-145図2195~2197)

Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ層から出土した石匙は3点で、全て図化した。包含層の時期区分が明確でないが、土器の出土状況から主に縄文時代後期に帰属する石匙と推定される。

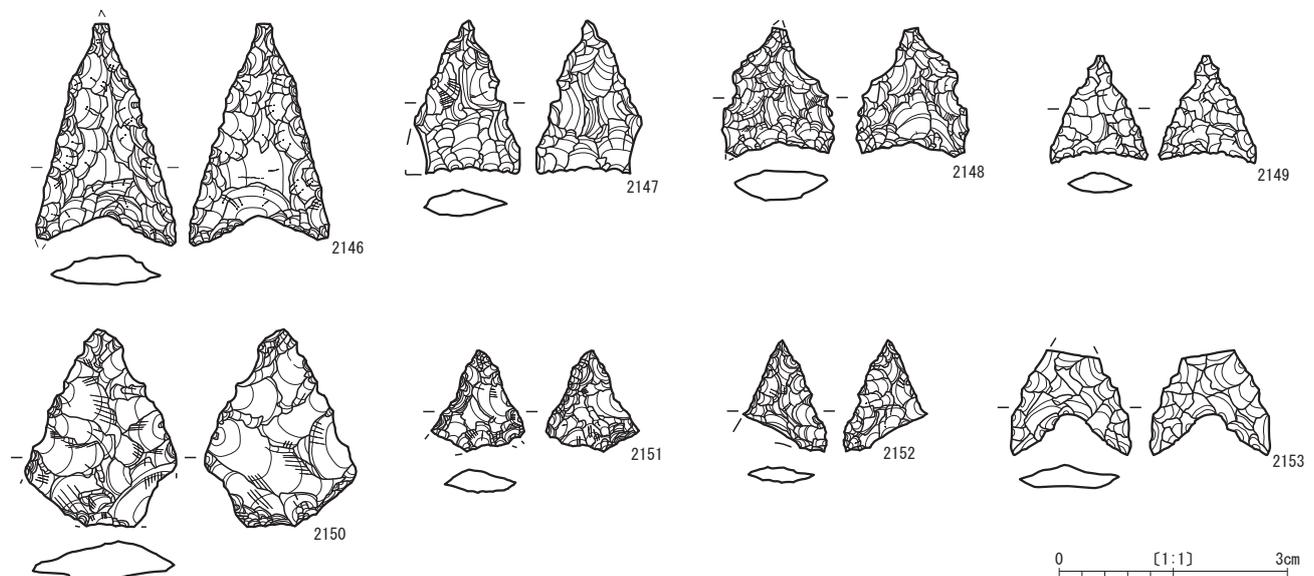
2195は横幅が12.3cmと大型の砂岩の横長製剥片を利用し、剥離整形の後に表裏面を研磨している。2196は

チャート製の不定形剥片を利用し、右側縁は、素材剥片の末端そのままである。つまみ部は両面からの加工で仕上げ上げるが、刃部は裏面からの剥離で仕上げ、左下端のみ両面から剥離を加え調整している。2197は安山岩製で、つまみ部上面は自然面を残す。全形に比してつまみ部が大きい。刃部は、下縁と左側縁に形成する。素材の厚みなどから、縦形の再加工ではないと考えられる。

#### 6 スクレイパー (第2-145・146図2198~2211)

Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ層から52点のスクレイパーが出土した。破片資料が多いため、全形の分かる14点を図化した。包含層の時期区分が明確でないが、土器の出土状況から主に縄文時代後期に帰属するスクレイパーと推定される。

2198~2200は安山岩製、2201は腰岳産に類する黒曜石製である。側縁に加工痕があり、つまみ部が明瞭でないことからスクレイパーとしたが、石匙の可能性もある一群である。2201は正面はほぼ均等に深い剥離を求心的に施し、裏面は主要剥離面を残し、断面三角形に整形している。正面縁辺の微細剥離と裏面の整形剥離が施され、サメ歯製垂飾品を想起させる。2202は厚みのある砂岩製の不定形剥片で、両側縁に加工痕がある。左側縁が主に利用されたと考えられ、基部も軽く調整している。2203はホルンフェルス製の横長製剥片で、下縁を刃部として横刃状に使用したと考えられる。上面のみ調整加工している。2204は、ホルンフェルス製の横長剥片の下縁を使用する。刃部中心付近には潰れが生じて、わずかに凹む。2206はホルンフェルス製の幅広剥片で、表裏から調整を加え、ノッチ状の刃部を形成している。2207は安山岩製で、側縁に加工痕があることからスクレイパーとした。しかし、右下先端部に摩耗痕のみみられることから、石錐の可能性もある。2208はホルンフェルス製で、細身の右側縁部は剥離で鋭利に調整されており、縦方向に図化し



第2-141図 打製石鏃(7)Ⅳ類・Ⅴ類

たが横刃の可能性もある。2209はホルンフェルス製で、周縁を剥離で加工する。下縁の刃部には摩耗が生じている。2210はホルンフェルス製で、下縁に剥離調整でやや厚みのある刃部を作る。摩耗が観察され、上縁には敲打による刃潰し加工が行われている。2211はホルンフェルス製で、下縁には丁寧な調整で刃部を形成し、刃部には摩耗が生じている。上縁には剥離で抉りを作る。周縁の摩耗から、柄の装着が行われた可能性がある。

#### 7 使用痕剥片・加工痕のある剥片

(第2-147・148図2212~2227)

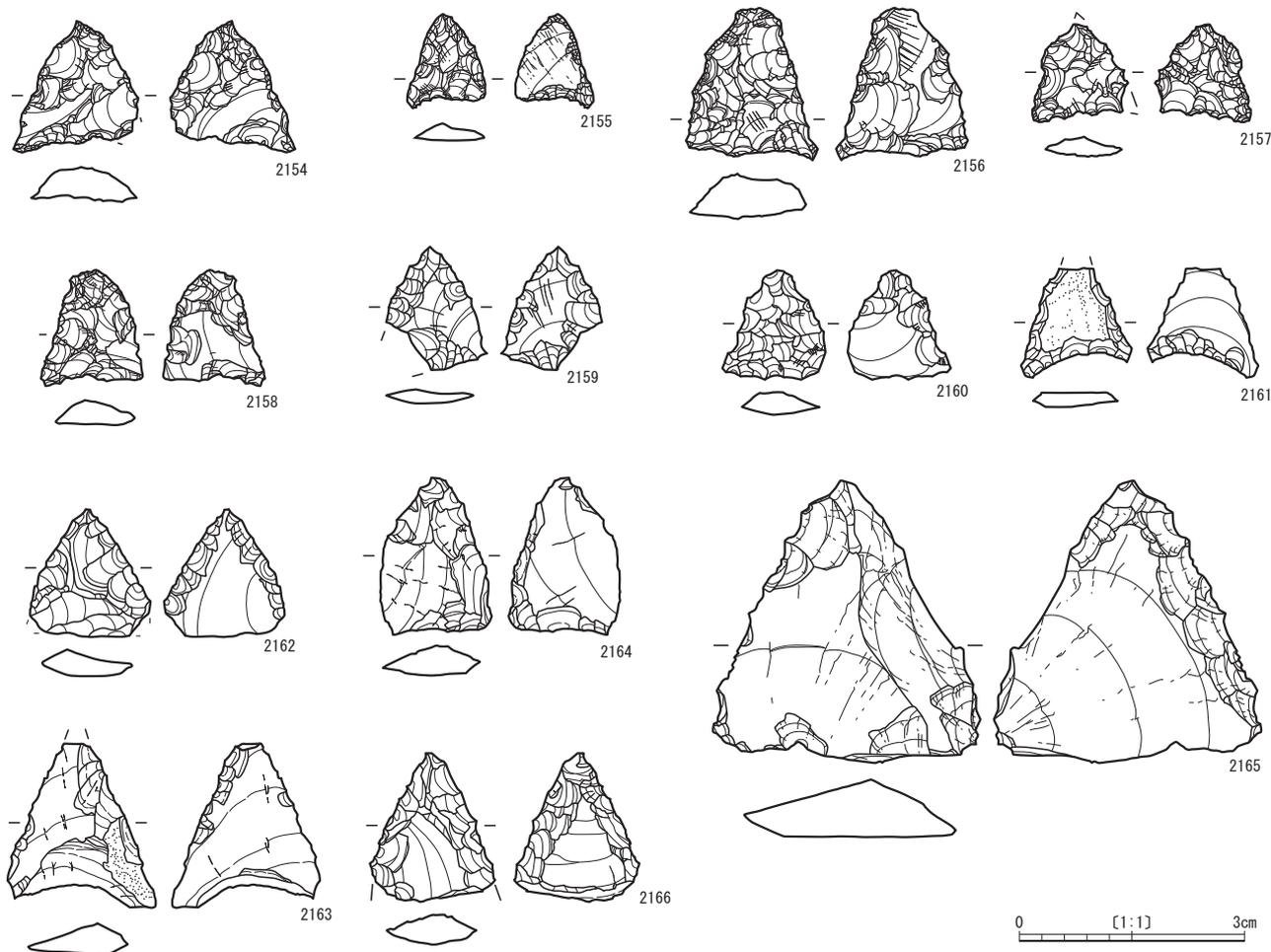
Ⅱ・Ⅲ層から出土した剥片類は528点で、そのうち使用痕剥片や加工痕のある剥片16点を図化した。土器の出土状況との対比から主に縄文時代後期に帰属する石器と推定される。

2212~2217は、腰岳産に類する黒曜石製である。2212は、薄い剥片の側縁に腹面側から微細な剥離がみられる。下縁は、基部側からの加撃で整形している。2213は、厚みのある剥片の下縁に微細な剥離がみられる。左側辺にも剥離がある。2214は厚みのある小型の不定形剥片で、下端に微細な剥離がみられる。2215は、剥片の左側縁下端に微細剥離がみられる。2216は、薄い剥片の側縁

に腹面側から微細な剥離がみられる。2217は、小形剥片の錐状に先細る端部の縁に微細な剥離がみられる。2218は頁岩製で、両側面に二次加工がある。明確な使用痕はみられない。2219は、ホルンフェルス製である。裏面は自然面を残し、裏面縁からの加えた打撃で整形する。2220は安山岩製で、裏面には主要剥離面を残し、下辺から左側辺部に微細剥離がみられる。2221は砂岩製で、砥石の破片を敲具に再利用したと考えられる。左右側縁の剥離に潰れが生じており、楔様の使用の可能性もある。2222は砂岩製で、転礫から剥ぎ取った横長の剥片の下縁部に使用痕がある。2223は頁岩製で、剥片の両側縁に微細剥離がみられる。2224は砂岩製で、剥片の両側縁に潰れや摩耗などの使用痕跡がみられる。2225はホルンフェルス製で、加工痕のある剥片である。敲打調整が施され摩耗が生じている。2226は砂岩製で、方柱状の剥片の下端に剥離が生じている。楔様の石器として使用された可能性がある。2227は砂岩製の大型剥片で、周縁は粗い剥離が加えられている。石斧の未製品の可能性もある。

#### 8 石核 (第2-149・150図2228~2233)

Ⅱ・Ⅲ層から出土した石核は45点で、そのうち6点を図化した。土器の出土状況から主に縄文時代後期に帰属



第2-142図 打製石鏃(8) VI類

する石核と推定される。

2228は、上牛鼻産に類する黒曜石を素材とする。角礫素材で上面を打面として固定し、打面調整を繰り返しながら90°単位に作業面を移動させ、剥片剥離を行っている。2229は玉髄製で、作業面と打面を入れ替えつつ連続して剥片を取り出している。2230は、安山岩製である。角礫素材で90°単位で打面転移を行いながら、各打面から左から右へ打点を移動させ、連続して剥片剥離を行っている。2231はホルンフェルス製で、礫の周縁から剥片剥離を行っている。2232はホルンフェルス製の石核で、周縁の自然面を打面として求心状に剥片剥離が行われている。2233は、玉髄製である。90°単位で上下・左右に打面と作業面を移動して剥片剥離を行った後、先行する剥離面を打面として、周辺から求心的に不定形な剥片を剥離している。

### 9 磨製石斧 (第2-151~154図)

磨製石斧はⅡ・Ⅲ層から178点出土し、そのうち52点を図化(Ⅰ類13点・Ⅱ類13点・Ⅲ類4点・Ⅳ類22点)した。主に刃部や基端部の形状などで以下のように分類を行った。

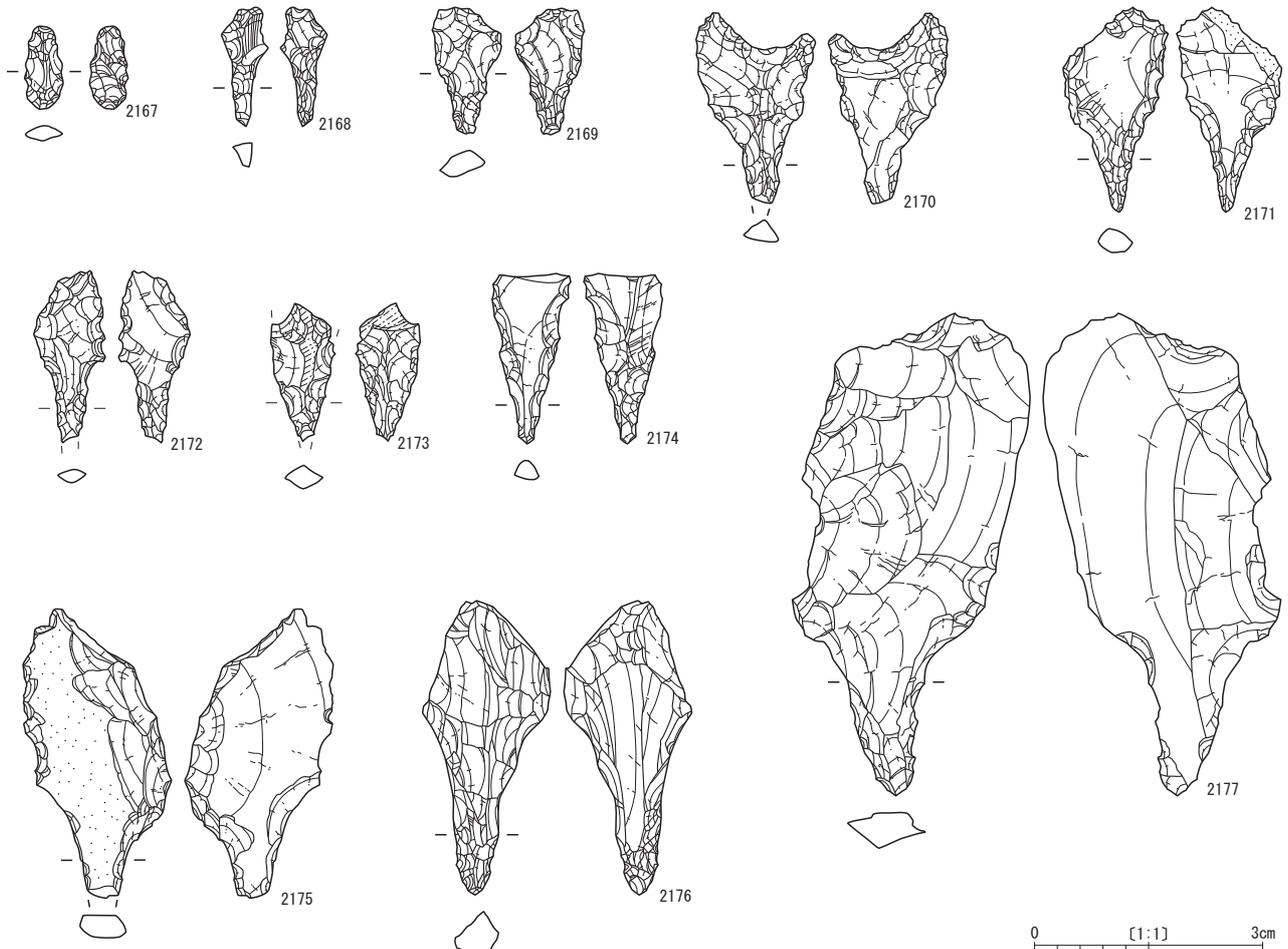
### 磨製石斧分類基準

- Ⅰ類 断面が楕円形であり、頭部の細い乳房状のもの  
いわゆる乳頭状磨製石斧
- Ⅱ類 断面が隅丸長方形で、両側面及び頭部が研磨されたもの、いわゆる定角式磨製石斧
- Ⅲ類 片刃で研磨成形を施すものいわゆる石ノミ形石斧
- Ⅳ類 その他で、Ⅰ～Ⅲ類以外のもの

#### Ⅰ類 (第2-151図2234~2246)

断面が楕円形を呈し、頭部の細い乳房状のもので、いわゆる乳頭状磨製石斧とされるものである。

2234はホルンフェルス製で、基部が欠損している。裏面に成形時の敲打痕が残る。2235は砂岩製で、右側面と上部に使用による敲打痕がみられる。2236は砂岩製で、裏面に打撃による剥離がみられる。2237は砂岩製で、丁寧な研磨により、蛤刃を呈する。2238はホルンフェルス製で、裏面刃部から基部の部分までに剥落が生じている。2239は閃緑岩製で、基部が欠損する。刃部は使用による摩滅と剥落がみられる。2240は砂岩製で、丁寧な研磨が施される。2241は砂岩製で、上半部が欠損している。両側縁には着装のため、再加工したとみられる痕跡が残



第2-143図 石錐(1)



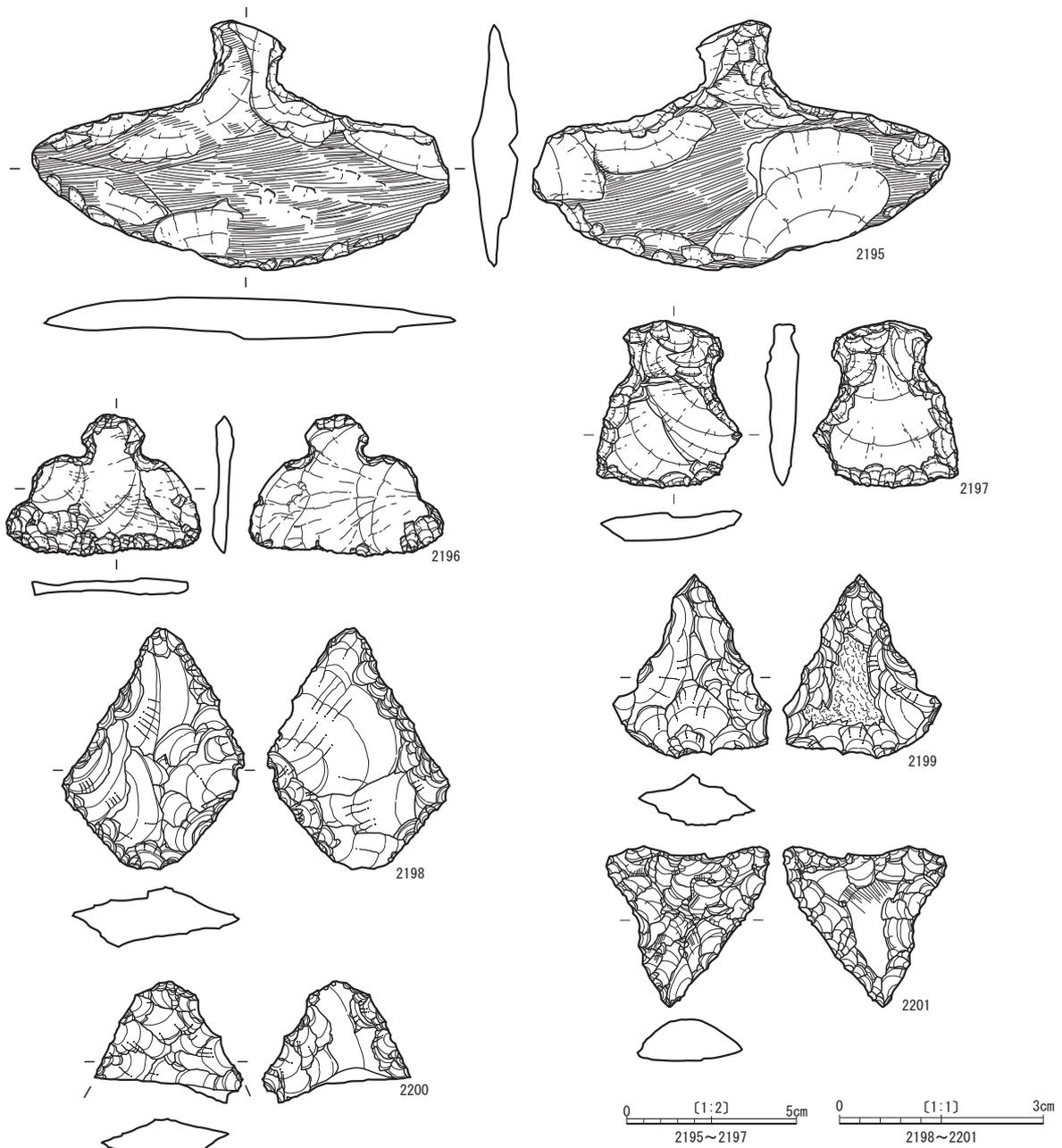
第2-144図 石錐（2）尖頭器・異形石器

る。2242は砂岩製で、刃部を欠損する。やや扁平な形状である。2243は安山岩製で、刃部を欠損する。表面が研磨による平坦面で再加工の可能性がある。2244は頁岩製で、敲打による成形痕が全面に残る。刃部が欠損しているが、大型の製品である。2245はホルンフェルス製で、扁平で厚みが薄い。裏面が平坦面を呈している。2246はホルンフェルス製で、刃部が欠損している。

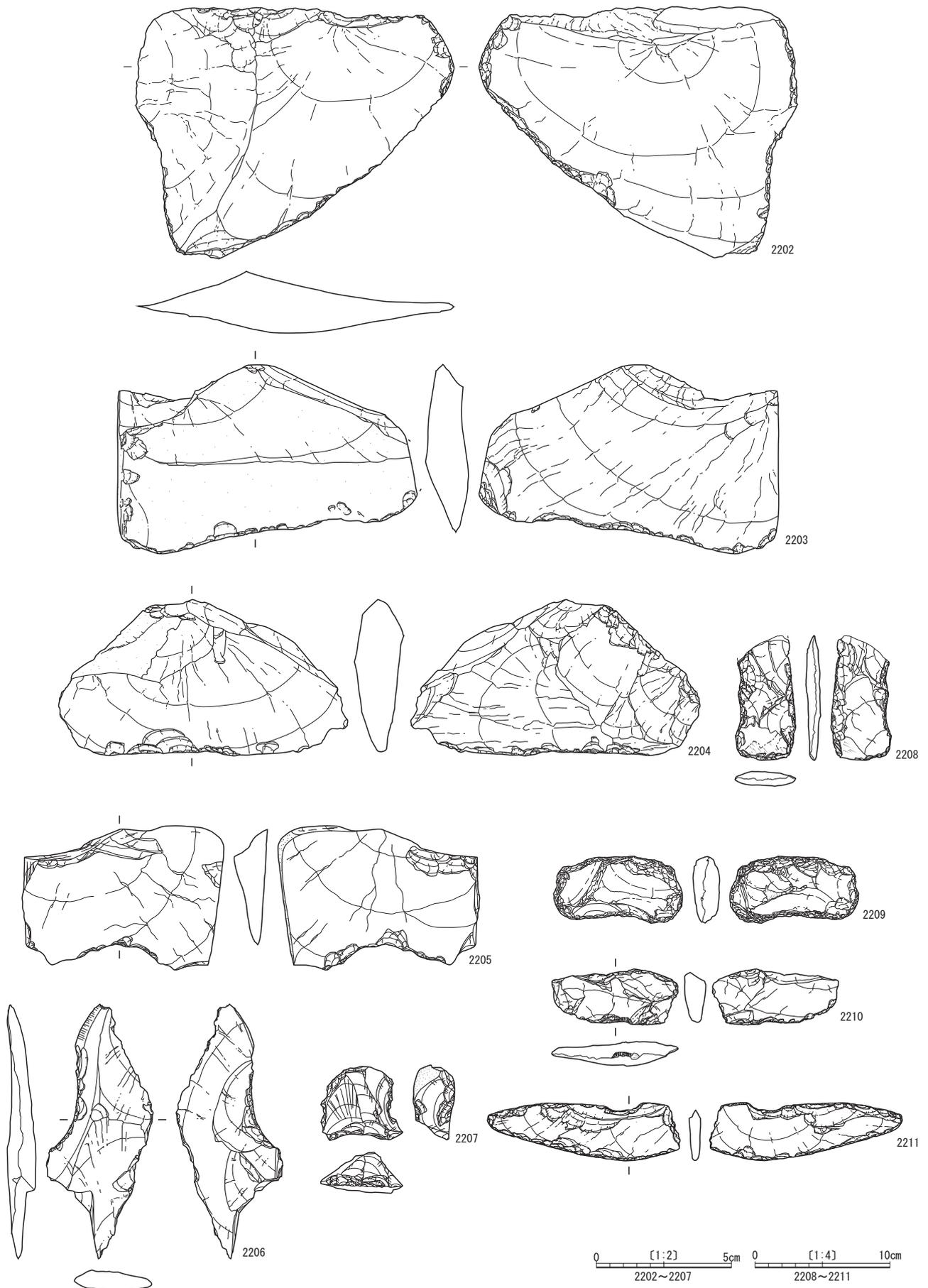
Ⅱ類 (第2-152図2247~2259)

2247は蛇紋岩製で、全面に丁寧な研磨を施す。刃部は扁平な片刃で、基端部にも研磨が施される。2248は蛇紋岩製で、基部を欠損している。丁寧に研磨され、扁平な刃部は横方向の擦痕があり、片刃である。2249はホルンフェルス製で、小型撥状を呈す。丁寧に研磨され、刃部

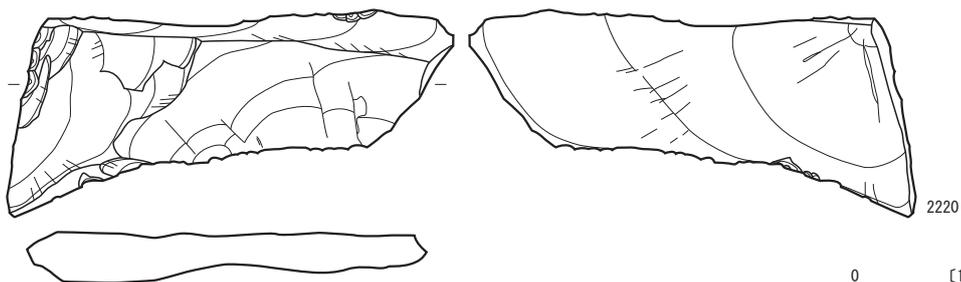
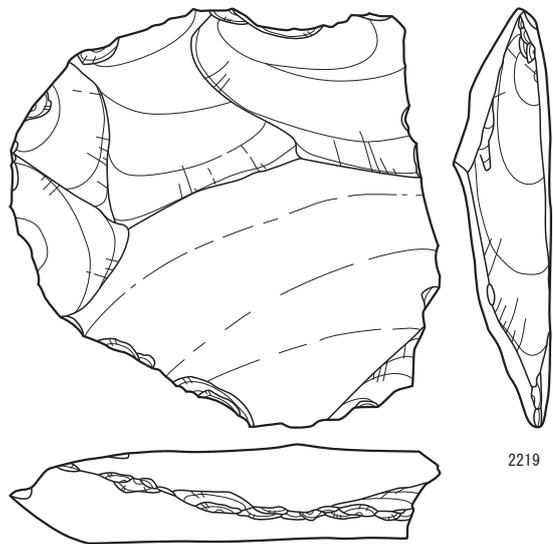
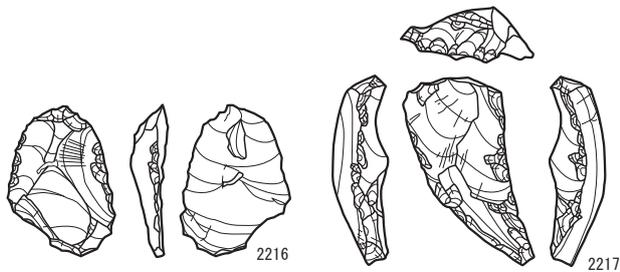
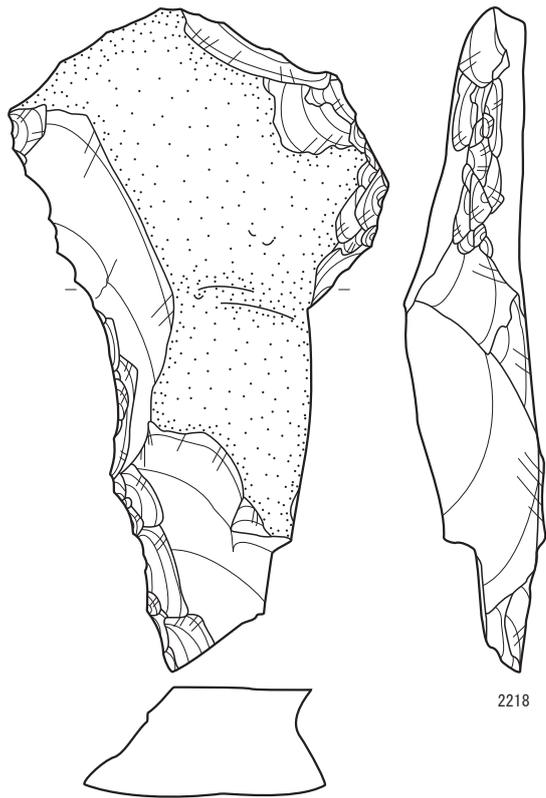
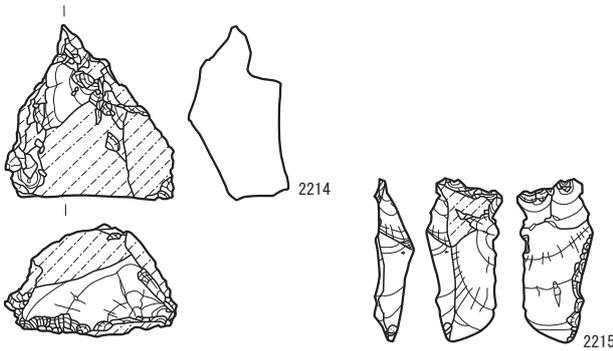
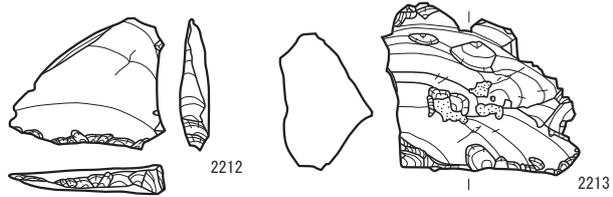
は片刃である。2250は粘板岩で、側面は擦り切り技法で、切断された可能性がある。基部は尖り気味の定角式である。2251は、全面研磨を施す。基部に向かって細くなる。基端部にも研磨が施される。2252は砂岩製で、全面に研磨が施され、両側面に平坦面をもち、刃部は片刃に近い。2253は砂岩製で、刃部のみ欠損する。2254は閃緑岩製で、刃部があれば大型の製品である。基端部を研磨している。2255はホルンフェルス製で、使用により刃部が剥落する。2256は砂岩製で、大型である。2257は頁岩製で、基部欠損しているが大型である。丁寧に研磨で仕上げられ、両側面も研磨が施される。刃部は、使用による摩滅と剥落がみられる。2258はホルンフェルス製で、上半を欠く大型の製品である。刃部は使用により摩滅と潰れがみられ、



第2-145図 石匙・スクレイパー (1)



第2-146図 スクレイパー（2）



0 [1:1] 3cm

第2-147図 使用痕・加工痕のある剥片（1）

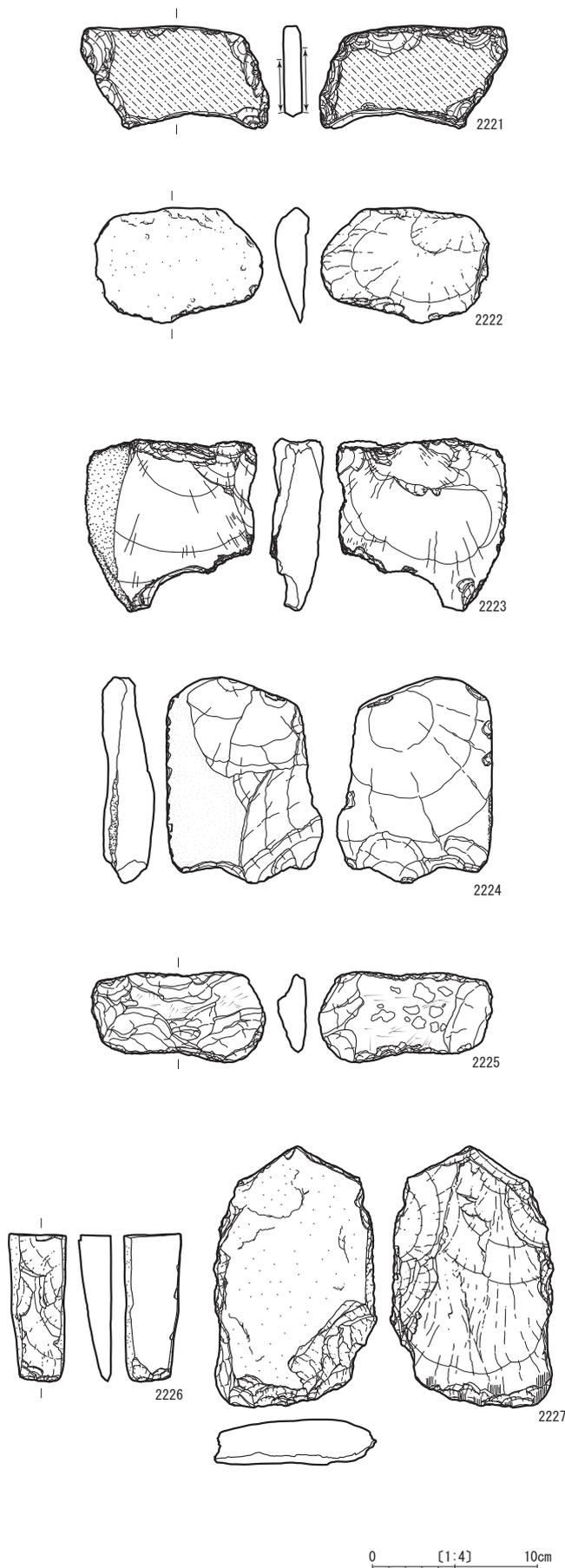
鋭利さがない。2259は閃緑岩製で、上半を欠く。右側面  
部がわずかに凹み、装着に伴う加工の可能性がある。

### Ⅲ類 (第2-153図2260～2263)

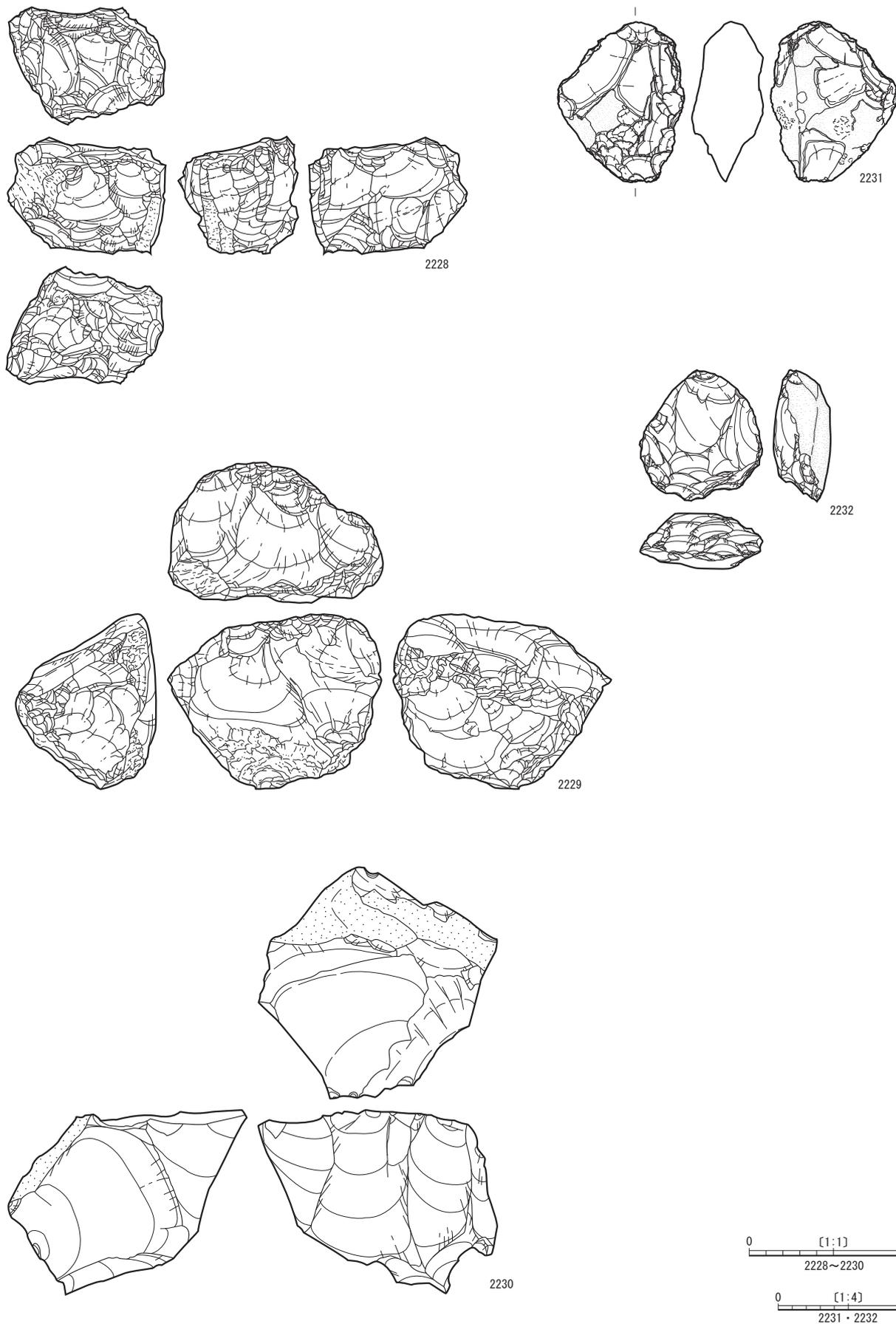
2260は砂岩製で、表裏・側縁部も研磨を施す。上下に  
刃部をもつ、双頭斧で、片刃で直刃である。2261はホル  
ンフェルス製で、左側縁を大きく欠損するが、側縁にも  
研磨が施されている。刃部に比して基部がかなり薄い。  
2262は、全面に研磨が施されている。2263は粘板岩で、  
全面に研磨が施され、基部に段が生じているが、明瞭な  
装着痕は見られない。木口部分に微少な片刃の刃部を作  
り出す。

### Ⅳ類 (第2-153・154図2264～2285)

2264は砂岩製で、小型である。刃部は微細剥離が見ら  
れ、両側縁部はわずかに内湾気味となる。2265はホルン  
フェルス製で、基部のみで、両側縁部は平坦に研磨され  
る。擦り切りの可能性がある。2266は頁岩製で、両側縁  
部は敲打痕が残る。刃部は直刃で片刃である。2267は粘  
板岩製で、表裏面に丁寧な研磨を施す。扁平な片刃であ  
る。2268は表裏面に剥離面を残し、刃部のみ研磨を施す  
扁平な片刃である。2269はホルンフェルス製で、両側縁  
部に研磨を施し、刃部は片刃である。2270はホルンフェ  
ルス製で、大部分は欠損している。扁平な片刃である。  
2271はシルト質の頁岩を素材とし、小型撥状を呈す。丁  
寧な研磨を施す。刃部は横方向の擦痕が残り、片刃であ  
る。2272はシルト質の頁岩を素材とし、基部を欠損する。  
両側縁には剥離成形の痕があり、刃部はやや扁平で片刃  
である。2273は蛇紋岩製で、扁平な石斧の基部である。  
比較的大型の製品だった可能性がある。2274は砂岩製  
で、全面に丁寧な研磨を施す。刃部は両刃に近く、使用  
による微細剥離がみられる。2275は閃緑岩製で、器面  
には敲打痕が残る。刃部は使用による摩滅及び剥離が生  
じており、鋭利さがない。2276はホルンフェルス製で、  
刃部は摩滅しており、鋭利さはない。全体的に剥落がみ  
られる。2277は砂岩製で、全体的に粗雑な成形で、刃部  
は円刃である。2278はホルンフェルス製で、全面に丁寧  
な研磨を施す。刃部は片刃で、刃部幅に対して基部が非  
常に長い。2279は砂岩製で、刃部と基部端部には敲打痕  
が見られ、敲石として転用されている。2280は砂岩製で、  
基端部に敲打痕がみられる。2281は砂岩製で、断面方形  
の柱状礫で側面の稜上に敲打の痕跡があり、磨製石斧の  
未製品又は敲打具として使用された可能性がある。2282  
はホルンフェルス製で、両側縁に剥離と部分的敲打調整  
がみられる。磨製石斧の未製品とみられる。2283はホル  
ンフェルス製で、かなり細身である。研磨調整が行われ、  
磨製石斧の未製品の可能性がある。2284はホルンフェル  
ス製で、厚みのある転礫の上下端に剥離が生じている。  
磨製石斧の未製品の可能性が高い。2285はホルンフェル  
ス製の厚みのある剥片を素材とし、周縁から剥離を加え



第2-148図 使用痕・加工痕のある剥片(2)



第2-149图 石核 (1)

ている。磨製石斧の未製品の可能性が高い。

#### 10 擦切石器 (第2-155図2286~2294)

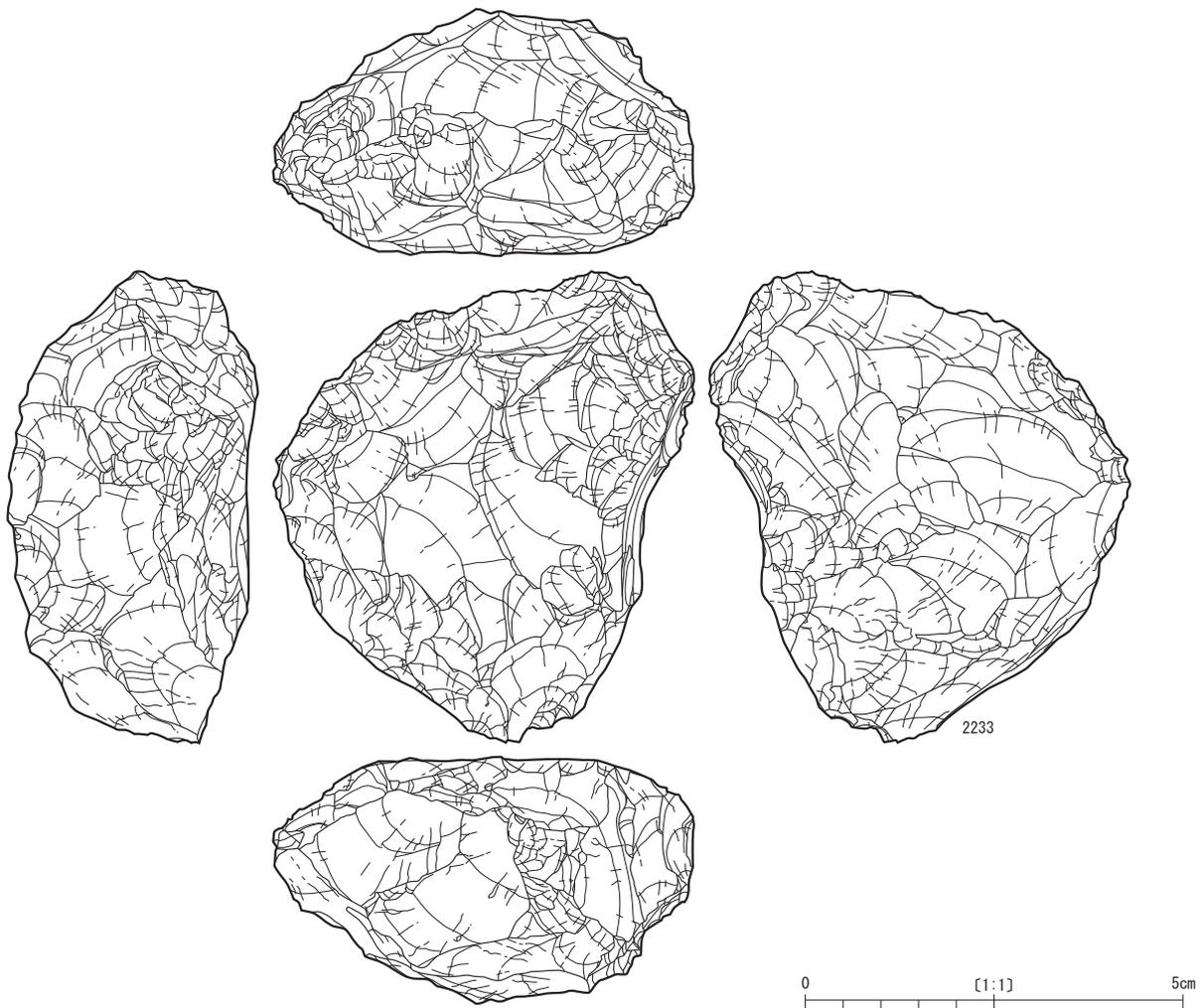
Ⅱ・Ⅲ層から9点の擦切石器が出土しており、全て図化した。土器の出土状況との対比から主に縄文時代後期に帰属すると推定される。磨製石斧との関連性もあることから、ここで記載する。

2286は細粒砂岩製で、左半分を欠損する。上面裏面側には面取りが施され、全体に丁寧な仕上げである。刃部は表裏から研ぎ出され、全体に摩耗が生じている。2287は凝灰岩製で、全体に丁寧な研磨で整形されている。右上辺には刃部と並行する擦痕が、下辺には刃部とやや斜行する擦痕が残り、いずれも擦切具として使用されたとみられる。2288は細粒砂岩製で、薄く均質な石材を用いる。刃部両端が丸く摩耗していることから、欠損後も使用されていたと考えられる。刃部は主に裏面側から研ぎ出されたものとみられるが、表裏面とも横方向の擦痕が生じている。2289は砂岩製で、左右側面を欠損する。刃部はやや片刃状で直線的だが、左端は刃先には潰れが生じている。2290は砂岩製で、上辺及び左右側辺を欠損し

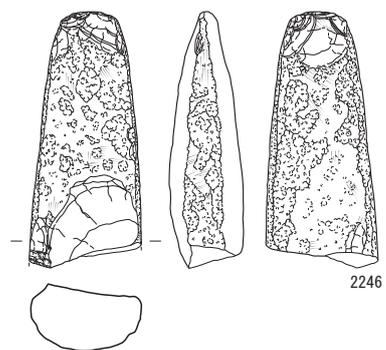
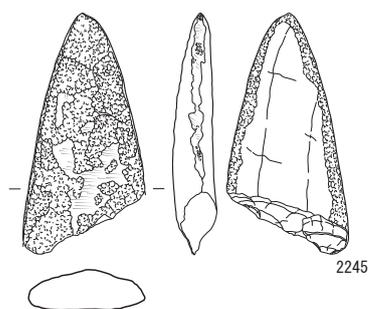
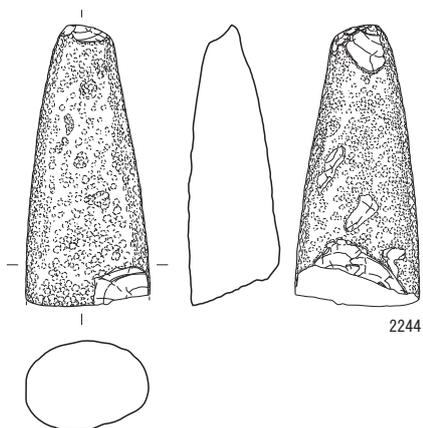
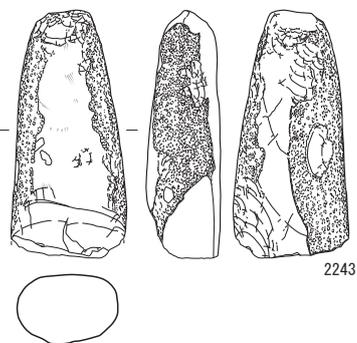
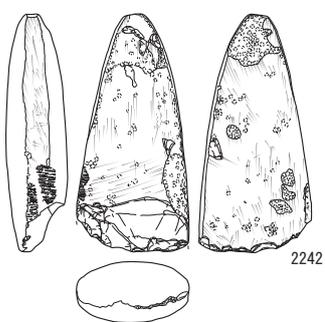
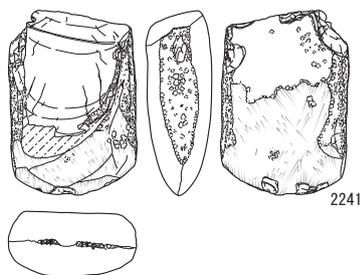
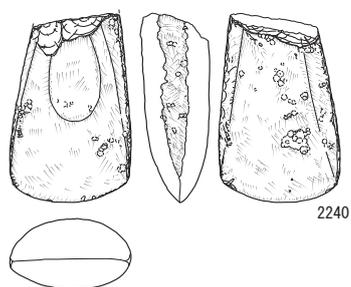
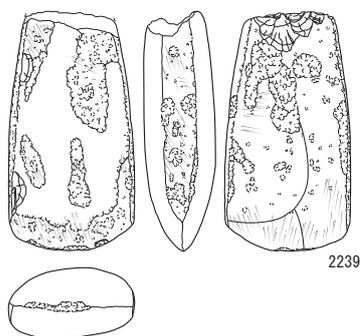
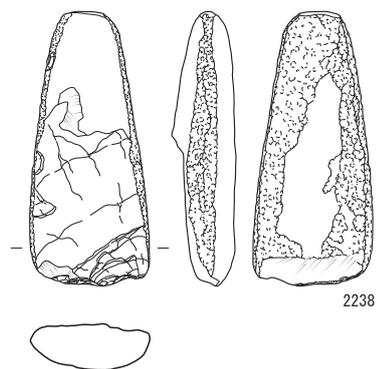
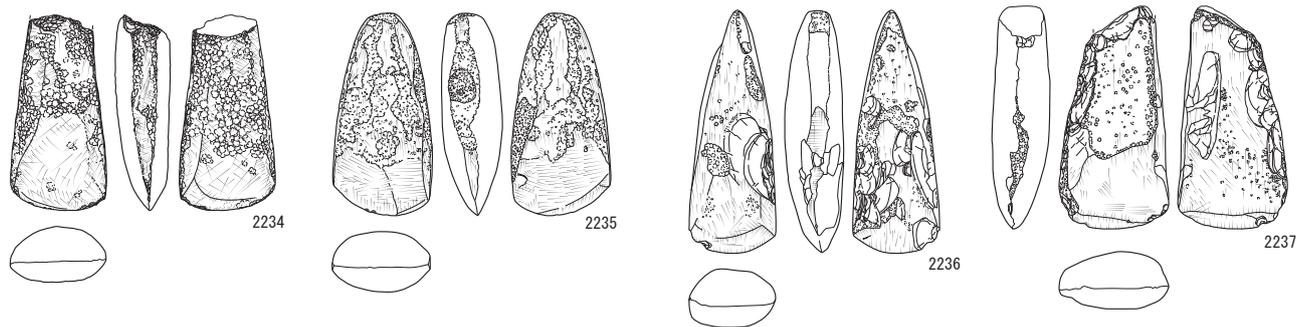
ている。刃部は表裏両面から研ぎ出されるが、全体に摩耗があり刃先部分に折れが生じている。2291は細粒砂岩製で、刃部に直行する強い擦痕が観察される。刃先には使用によって生じたと考えられる平坦面が残る。2292は細粒砂岩製で、右側辺は荒い剥離で弧状に整形し、刃部は裏面がやや厚みをもつ片刃状である。わずかに残る刃部には二次的剥離が生じているが、刃部と並行する擦痕がみられる。2293は、節理に沿って剥離した扁平な砂岩製の剥片である。剥離後、上辺に表面から調整剥離を施す。下辺は片刃状を呈するが、刃部研ぎ出しによるものではなく素材礫の形状によるものと考えられる。下辺側面側にもわずかに擦れが生じている。2294はホルンフェルス製で、上辺及び両側辺を欠損する。破損後も継続利用されている。刃部は片刃状を呈し、使用により刃先は鈍く、わずかに蛇行する。刃部に並行する擦痕が明瞭に残る。

#### 11 打製石斧 (第2-156~159図2295~2343)

Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ層から打製石斧が162点出土したが、そのうち、54点を図化(Ⅰ類35点・Ⅱ類6点・Ⅲ類13点)した。主に刃部や基端部の形状などで以下のように分類を

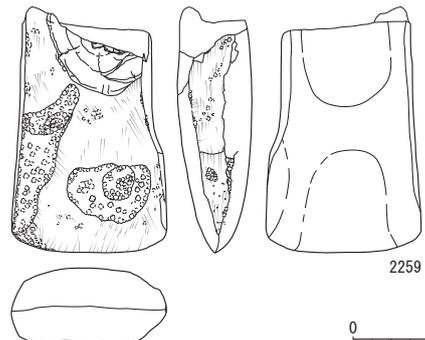
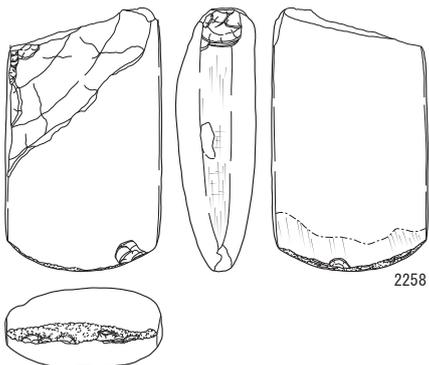
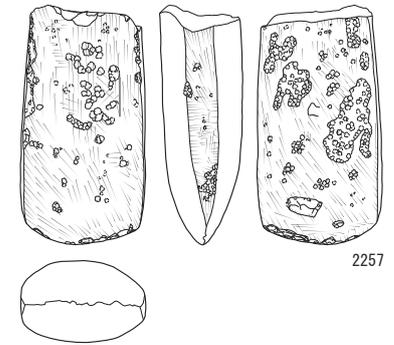
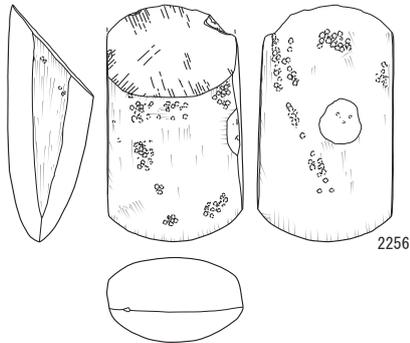
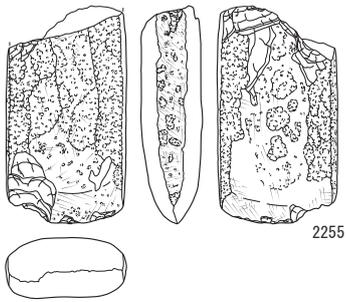
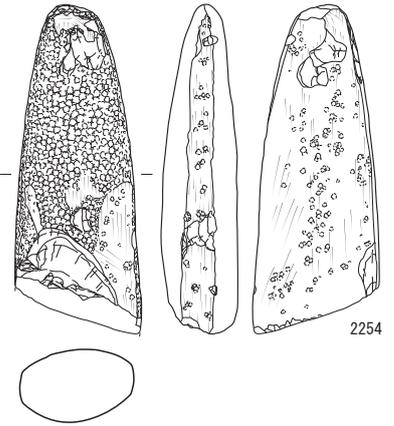
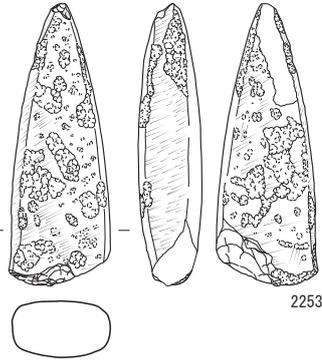
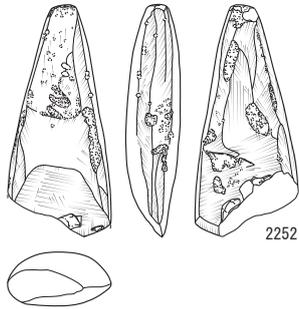
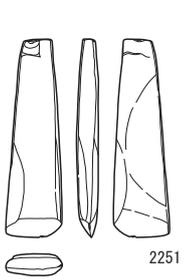
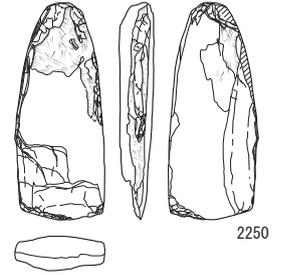
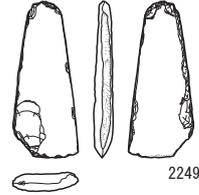
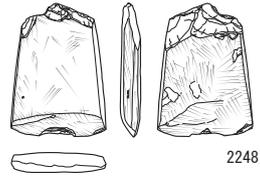
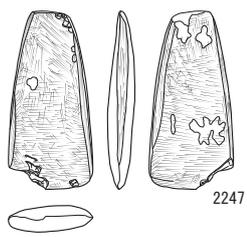


第2-150図 石核(2)



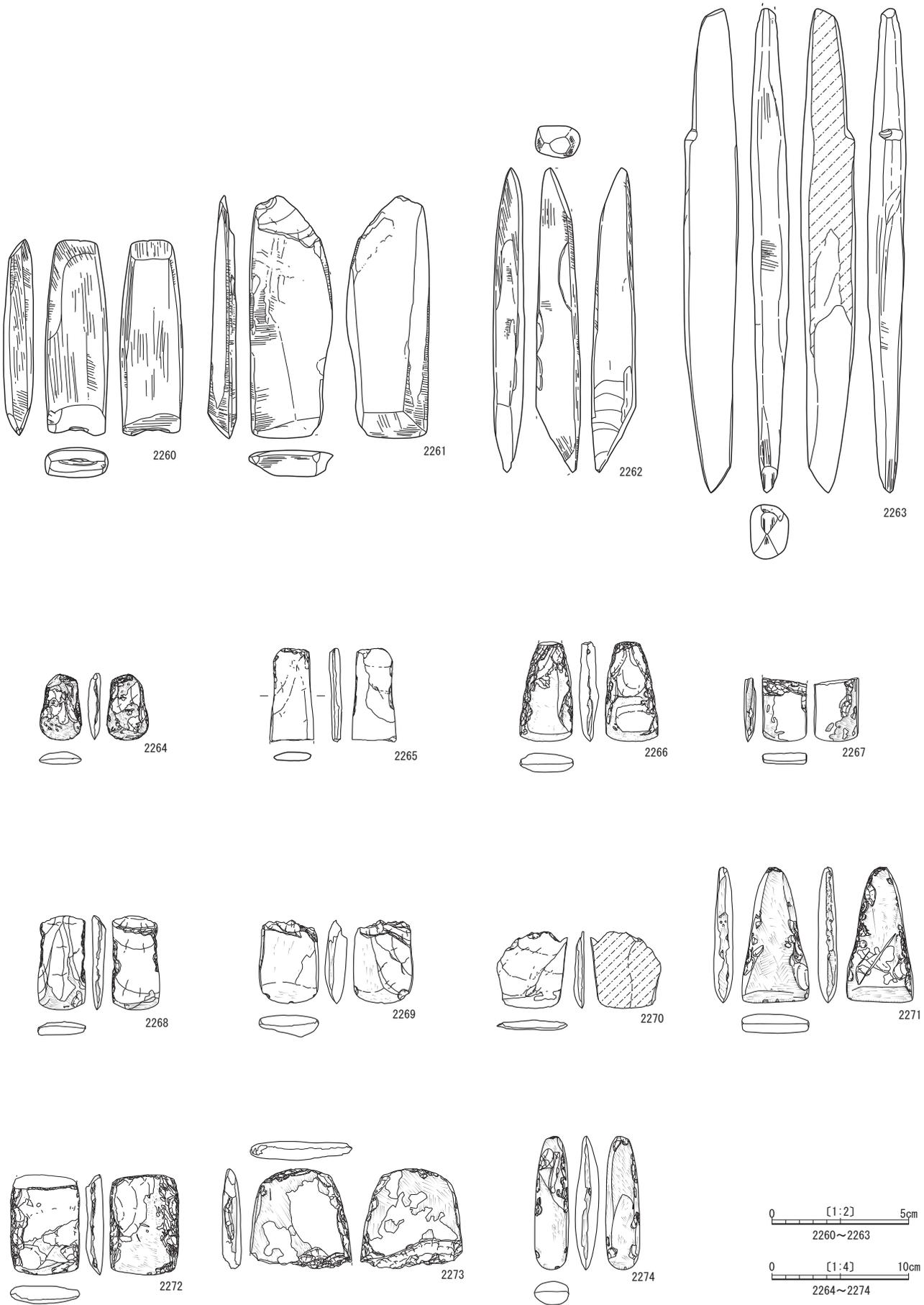
0 [1:4] 10cm

第2-151図 磨製石斧（1）I類

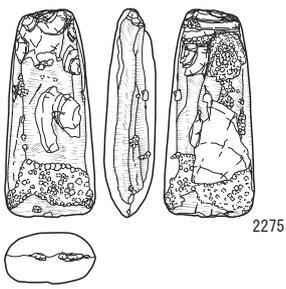


0 [1:4] 10cm

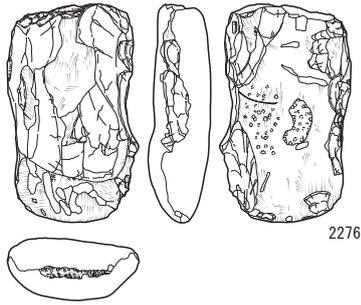
第2-152図 磨製石斧（2）Ⅱ類



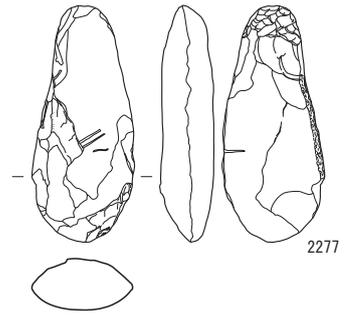
第2-153図 磨製石斧 (3) III類・IV類



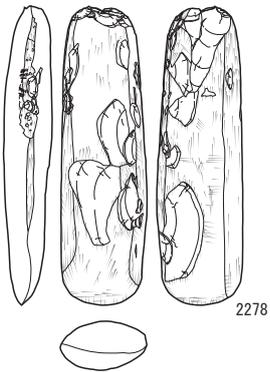
2275



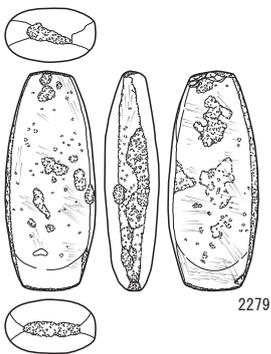
2276



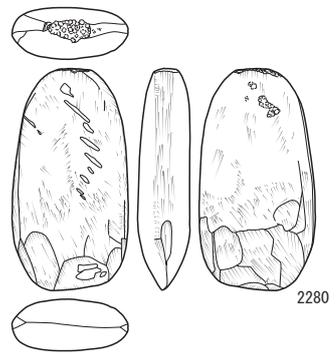
2277



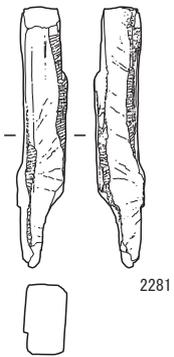
2278



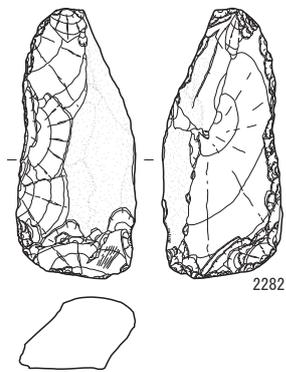
2279



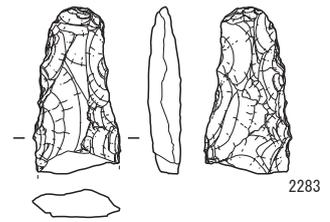
2280



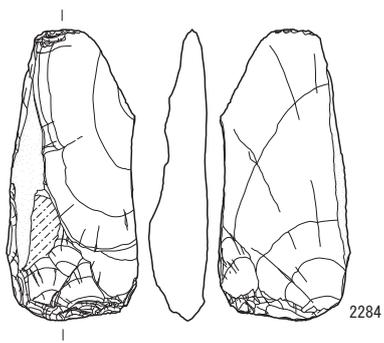
2281



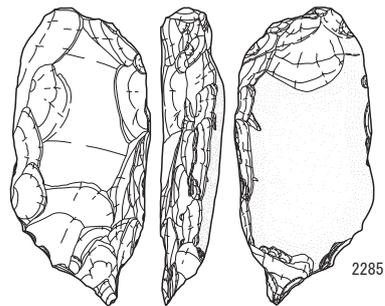
2282



2283



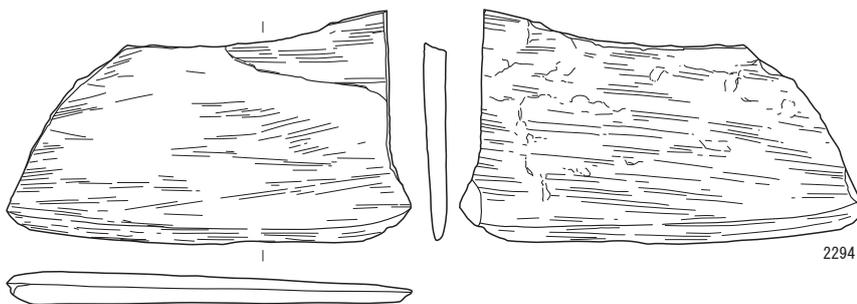
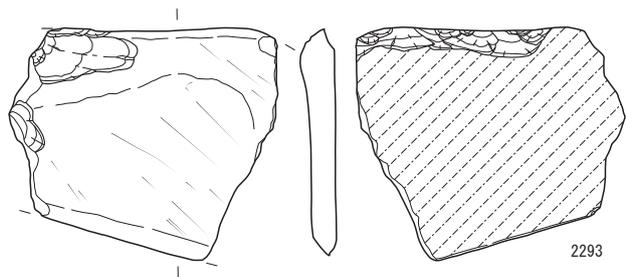
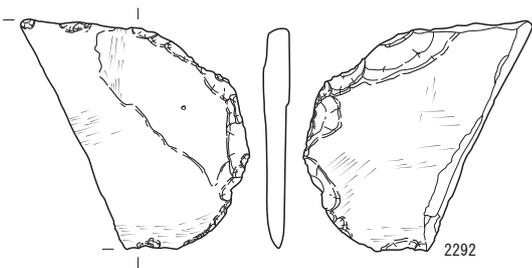
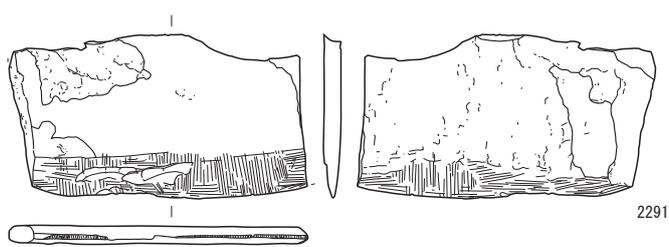
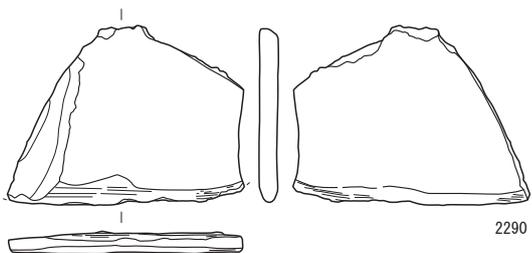
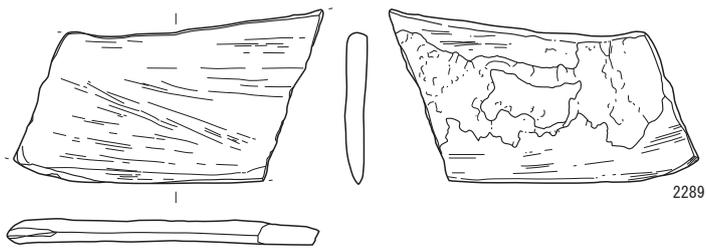
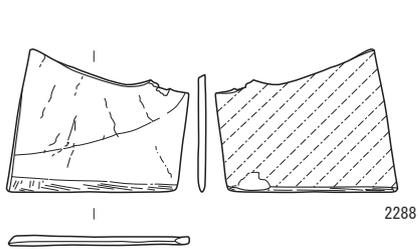
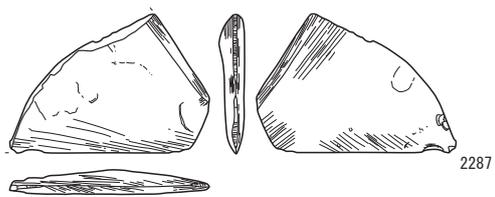
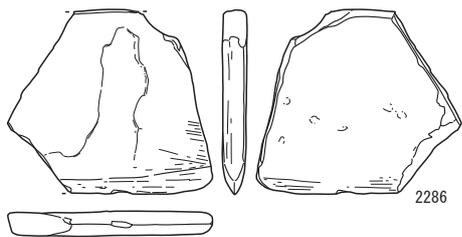
2284



2285

0 [1:4] 10cm

第2-154図 磨製石斧(4) IV類



0 [1:2] 5cm

第2-155图 擦切石器

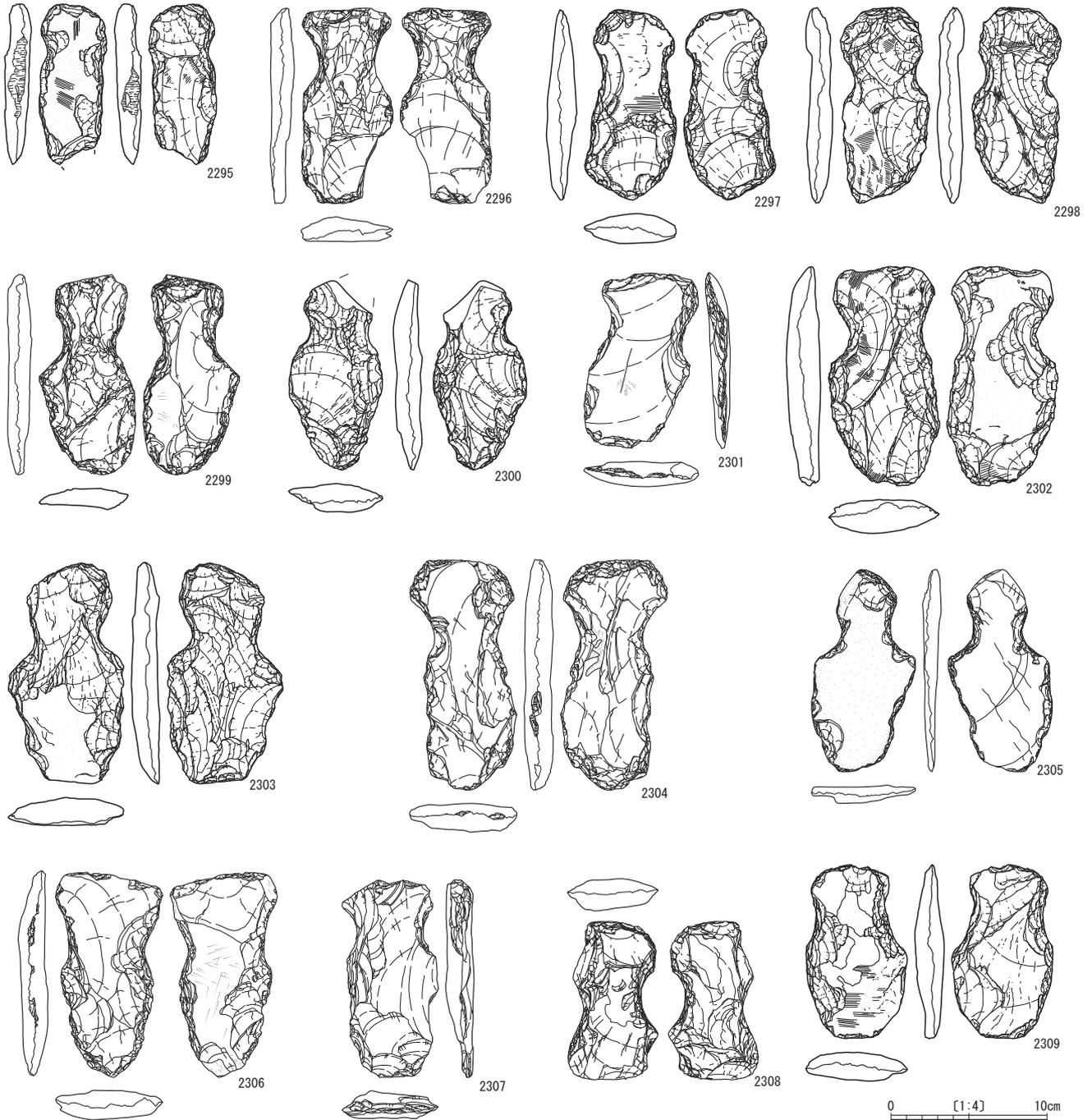
行った。

### 打製石斧分類基準

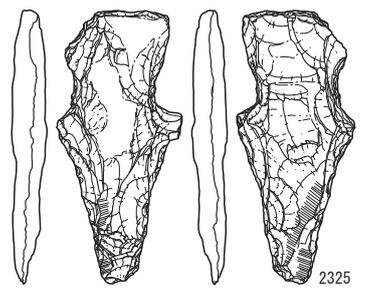
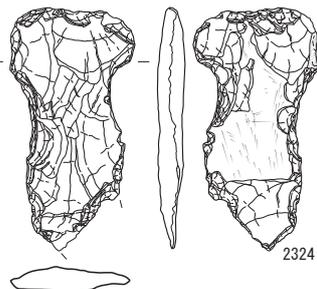
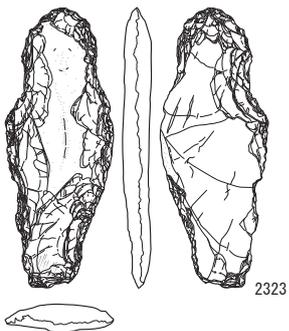
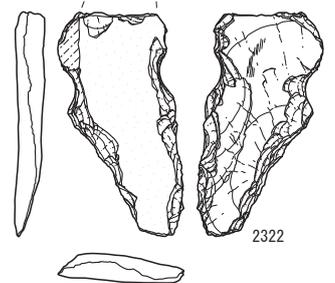
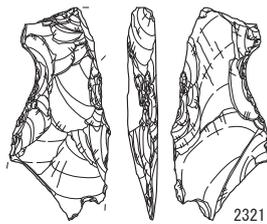
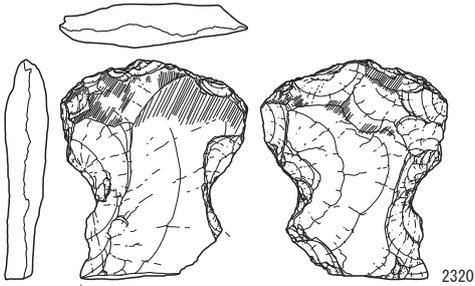
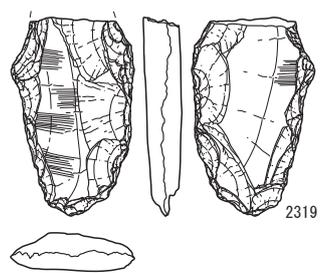
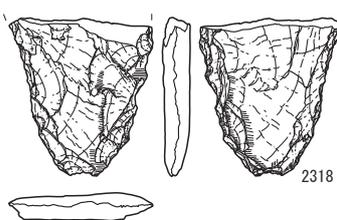
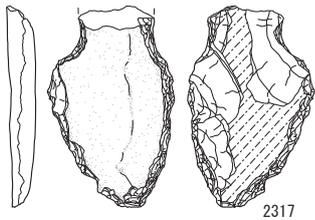
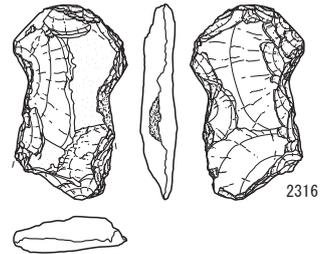
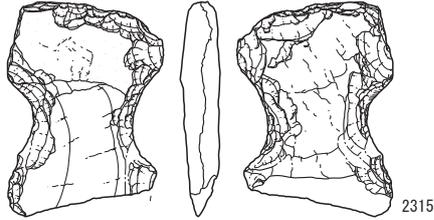
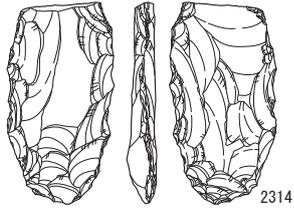
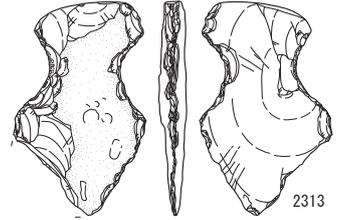
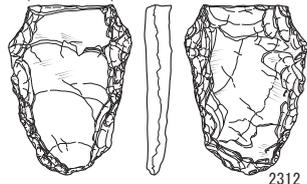
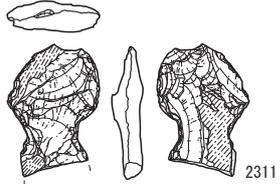
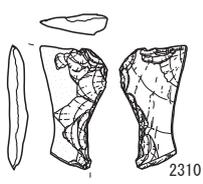
- I類 ヘラ形（両耳型）で、基部に挟りがあり、刃部の両側部が摩耗し、潰れた光沢があるもの
  - II類 ラケット形（有肩石斧）で、刃部に刃こぼれや摩耗が生じ、基部が細く両側部に摩滅による光沢や潰れが生じているもの
  - III類 その他、I・II類以外のもの
- なお、図化しなかったものの多くは破片資料で、形状等の不明のものである。

### I類（第2-156～158図2295～2329）

2295は頁岩製で、刃部は欠損する。2296はホルンフェルス製で、先端部は歯潰れ状の微細剥離と摩滅痕がわずかにみられる。下縁右の破損で全体が大きく剥落する。2297は頁岩製で、基部側・挟り部分には、紐擦れと考えられる摩耗がある。2298はホルンフェルス製で、基部の左右から挟りを入れ、刃部は編刃で斜行する。2299は粘板岩製で、破損後に再加工された可能性がある。2300は安山岩製で、刃部裏面に斜方向の擦痕がみられる。2301はホルンフェルス製で、裏面に自然面を残す剥片を用い



第2-156図 打製石斧（1）I類

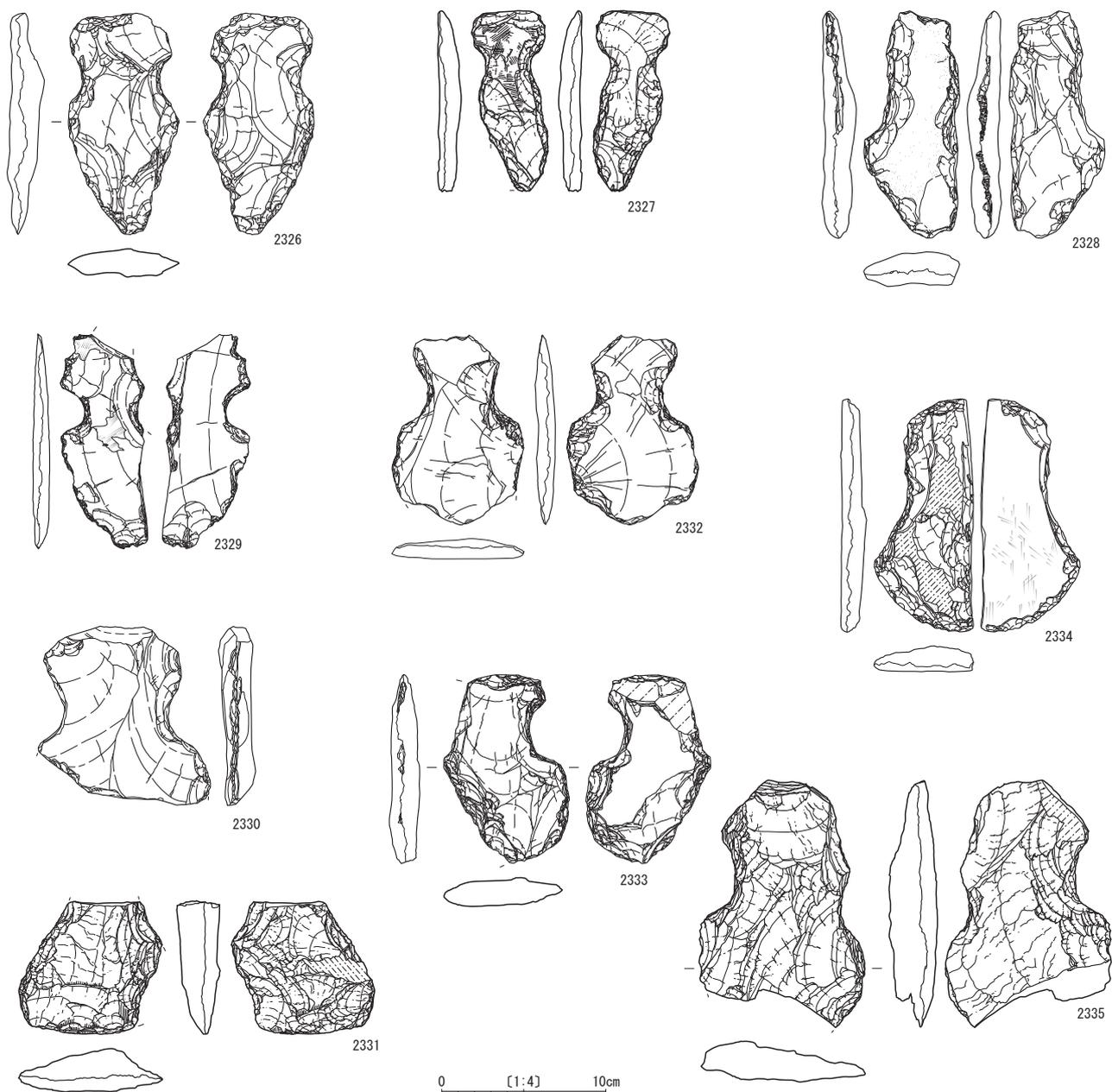


0 [1:4] 10cm

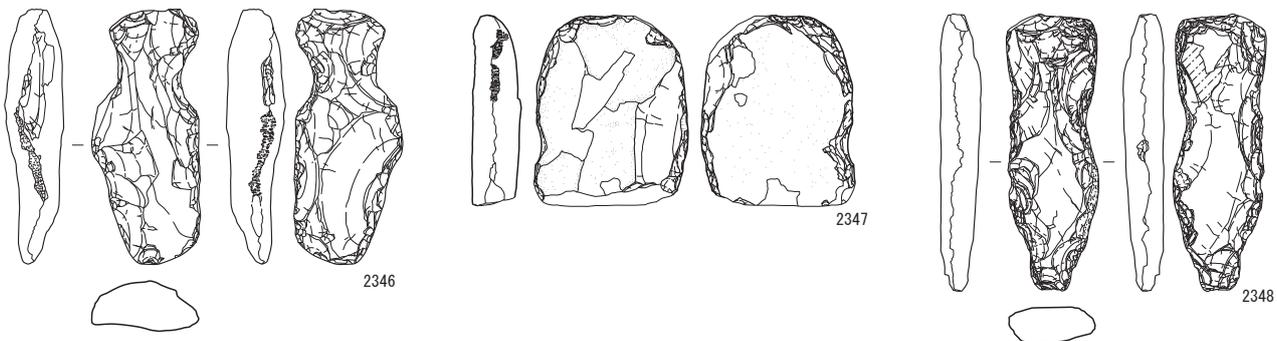
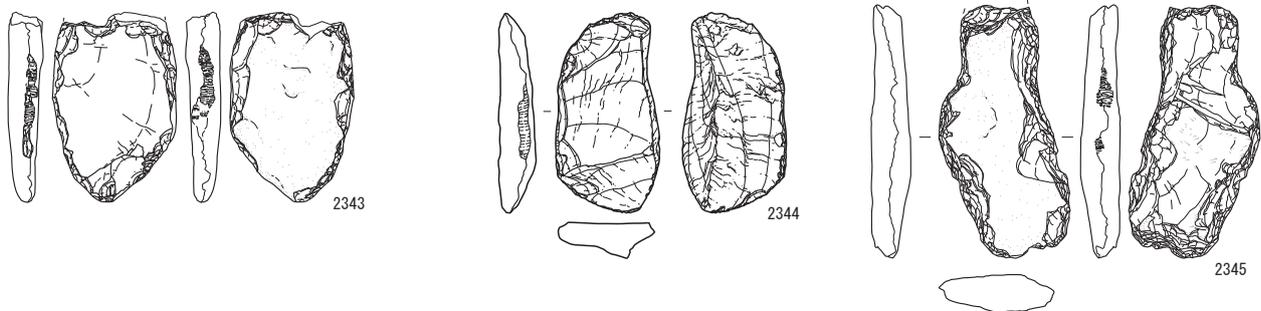
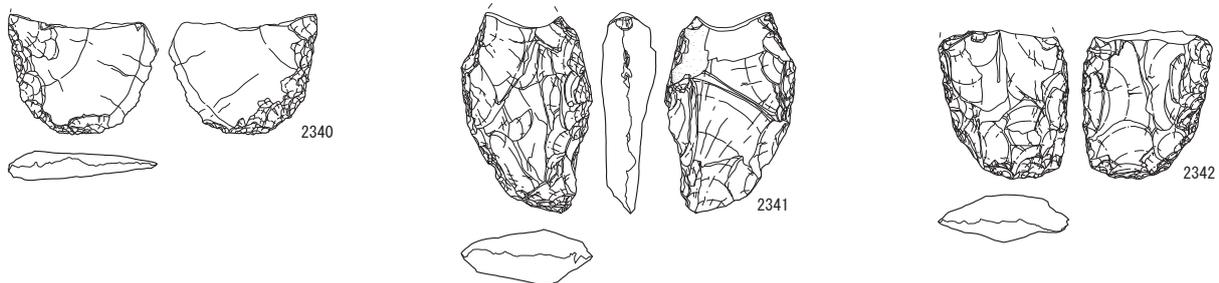
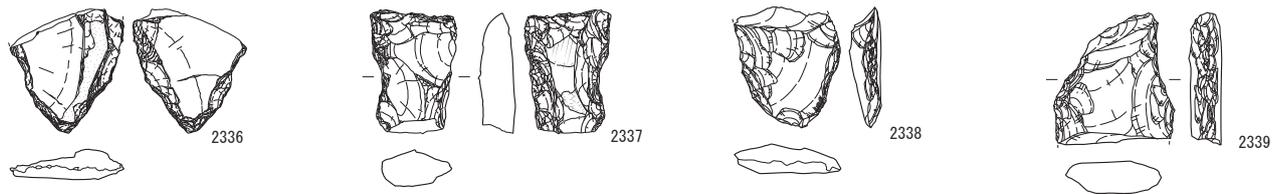
第2-157図 打製石斧(2) I類

ている。2302はホルンフェルス製で、刃部先端はやや丸みを帯び、端部に潰れが生じる。2303はホルンフェルス製で、刃部に付近の自然面には摩耗が生じている。2304はホルンフェルス製で、刃部が欠損しており、両側縁は摩滅している。2305はホルンフェルス製で、基部に左右から抉りが入るヘラ形で表面はほぼ自然面である。抉りと刃部のみ細かい剥離で作り出し、刃部には両縁に敲打痕がある。2306は砂岩製で、基端部の幅が全形に比べ広い。2307はホルンフェルス製で、基部の両側から抉りが入り刃部周辺部は摩滅している。2308はホルンフェルス製で、刃部を大きく欠損する。2309は剥落や風化が著しく観察が困難だが、表面刃部周辺には横方向の擦痕を観察できる。端部には微細な剥離調整がみられる。2310は

ホルンフェルス製で欠損しているが、抉り状況からヘラ形の可能性が高い。2311は粘板岩製で、刃部が大きく欠損する。2312はホルンフェルス製で、全面に摩耗がみられる。2313はホルンフェルス製で、刃部を欠損している。抉りは摩滅がみられる。2314はホルンフェルス製で、基部を欠損するが、ヘラ形の可能性が高い。2315はホルンフェルス製で、装着痕と考えられる摩滅痕が残る。2316はホルンフェルス製で、刃部側を大きく欠損する。2317は粘板岩製で、表面に自然面を有する剥片を素材とする。2318は砂岩製で、表面に摩耗が生じている。2319はホルンフェルス製で、表裏面に横方向の擦痕を観察される。2320はホルンフェルス製で、刃部が欠損する。大型で幅広の基端部をもつ、ヘラ形の打製石斧とみられる。



第2-158図 打製石斧（3）Ⅰ類・Ⅱ類



0 [1:4] 10cm

第2-159図 打製石斧（4）Ⅲ類

2321はホルンフェルス製で、基部・刃部が欠損している。右側縁部は微細な剥離が確認できる。2322はホルンフェルス製で、刃部が右に斜行する偏刃である。2323はホルンフェルス製で、先細りの形状である。先端側に摩耗が生じている。2324は、基端部が全形に比べ幅広い。2325は粘板岩製で、刃部は先細りに尖る形状である。挟りから基端部にかけて、装着痕と考えられる摩滅がある。2326・2327はホルンフェルス製で、刃部は偏刃で先端が尖る形状である。2328はホルンフェルス製で、左下側縁部に剥離調整を施し、刃部とする。右縁部は、摩耗し線状痕が残る。2329は安山岩製で、薄い横長剥片を利用して、基部に挟りをもつ。基端部及び刃部右側を欠損する。

## Ⅱ類 (第2-158図2330～2335)

ラケット形(有肩石斧)で、刃部に刃こぼれや摩耗が生じ、基部が細く両側部に摩滅による光沢や潰れが生じているものである。

2330はホルンフェルス製で、完形であれば大型のラケット形打製石斧の可能性ある。2331はホルンフェルス製で、基部を欠損する。刃部の摩耗痕から、ラケット形とした。2332は、幅広の刃部をもつラケット形である。基端部も幅広で、肩部は挟り状を呈する。2333はホルンフェルス製で、基端部が幅広で挟り状を呈する。2334はホルンフェルス製で、上端部が欠ける薄い板状素材を利用している。2335はホルンフェルス製で、装着痕と考えられる摩滅痕が残る。

## Ⅲ類 (第2-159図2336～2348)

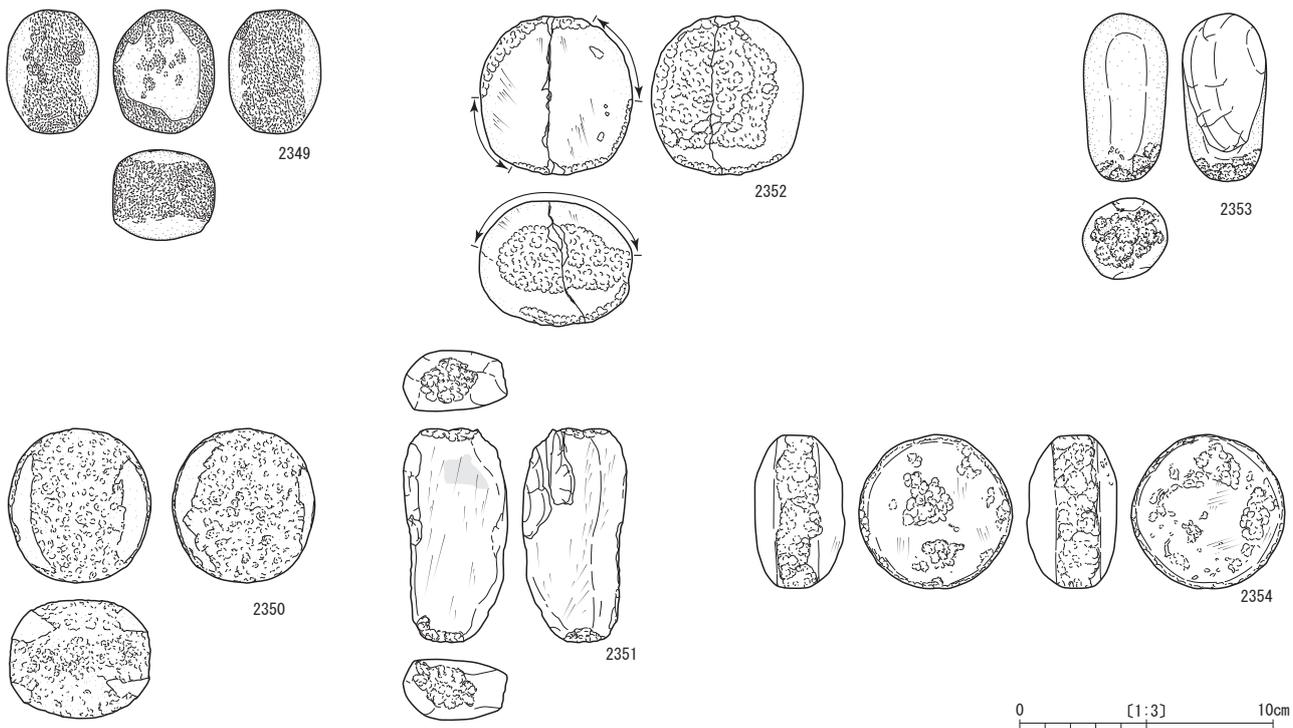
その他、Ⅰ・Ⅱ類以外のものである。

2336はホルンフェルス製で、刃部先端部に摩滅が見られる。2341はホルンフェルス製で、基部を欠損する。刃部は偏刃で、端部が尖る。2343はホルンフェルス製で、先端が尖形となる打製石斧の刃部片とみられる。裏面の刃部広範囲に摩滅が生じている。右刃側縁に敲打による潰れがあり、着装のため調整、もしくは破損後の敲打具への転用の可能性がある。2344はホルンフェルス製で、厚みのある剥片の端部にリタッチがみられる。2345はホルンフェルス製で、表面に自然面を残す。基端部を欠損している。肩部の右側面付近に摩滅が観察される。2346はホルンフェルス製で、刃部は摩滅している。挟り部分には敲打調整が加えられ、体部に厚みがあり、やや特殊な資料である。2347はホルンフェルス製で、厚みのある剥片の側縁の広い範囲に剥離と潰れがみられる。左下縁には浅いノッチ状の挟りがみられる。2348は頁岩製で、全体に整形が粗雑である。

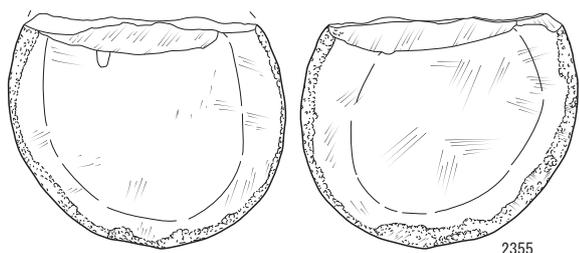
## 12 磨石・敲石 (第2-160～163図2349～2382)

ここに掲載した磨石・敲石は、Ⅱ・Ⅲ層から出土したものである。包含層の時期区分は明確でないが、土器の出土状況から主に縄文時代後期に帰属すると推定される。なお、磨石もしくは敲石のみの機能をもつものもあるが、一括して記載する。磨石・敲石は191点出土し、そのうち34点を図化した。

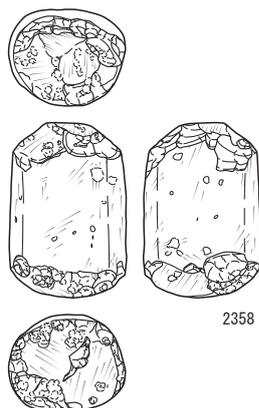
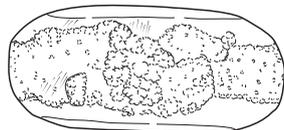
2349は石英斑岩製で、側縁の全周に敲打の痕跡がみられる。2350は砂岩製で、表面・裏面・周縁で、著しい敲



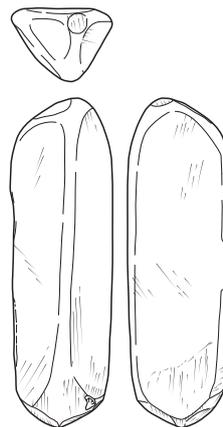
第2-160図 磨石・敲石 (1)



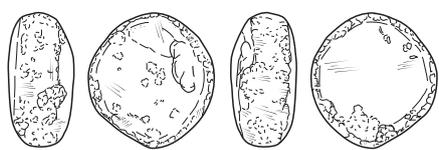
2355



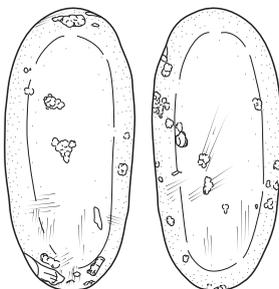
2358



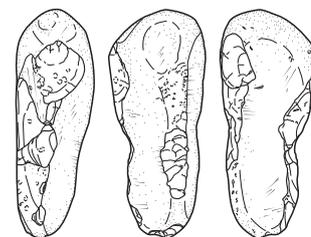
2359



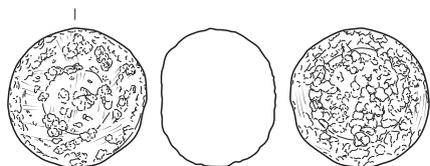
2356



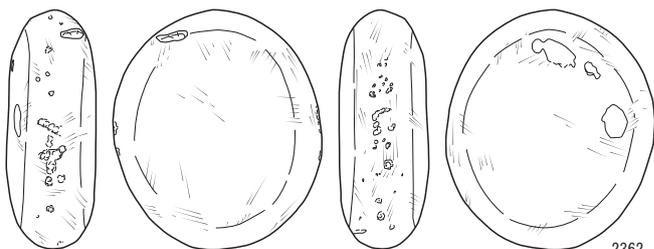
2360



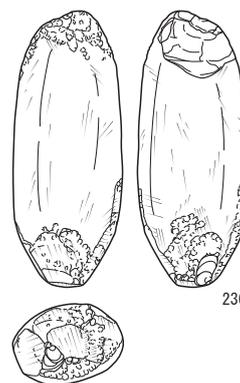
2361



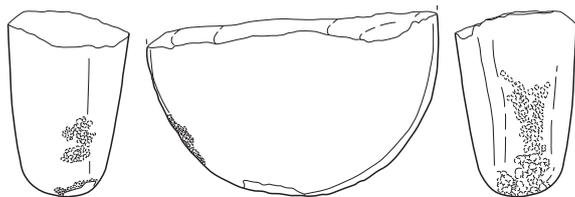
2357



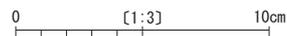
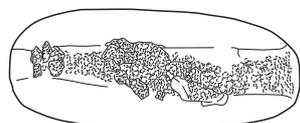
2362



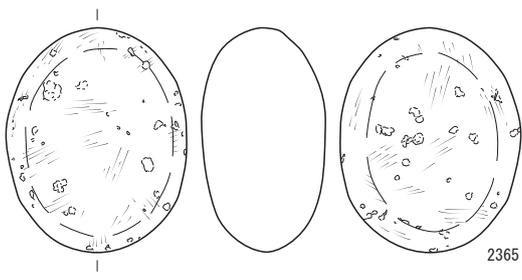
2364



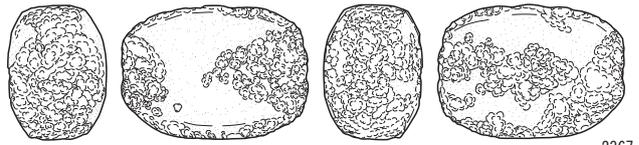
2363



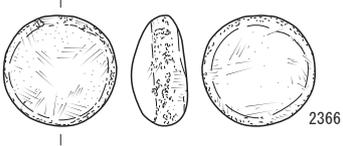
第2-161図 磨石・敲石（2）



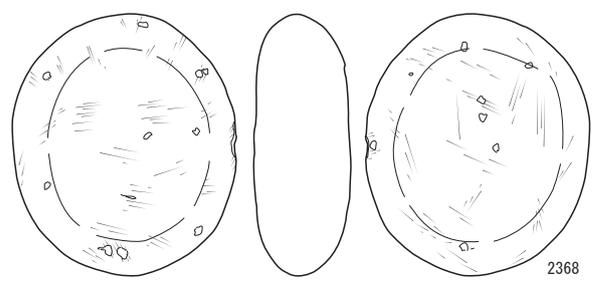
2365



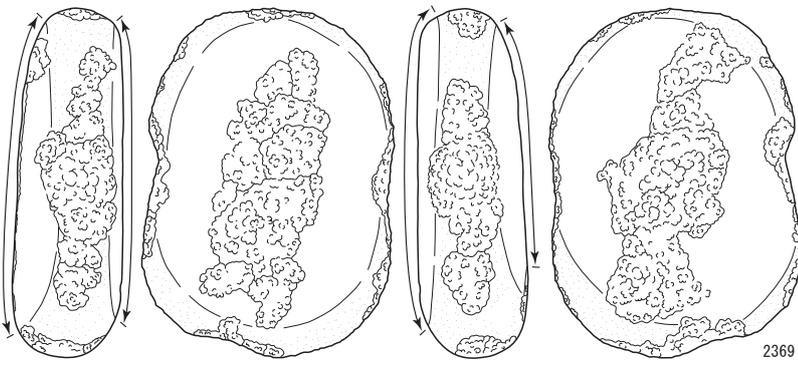
2367



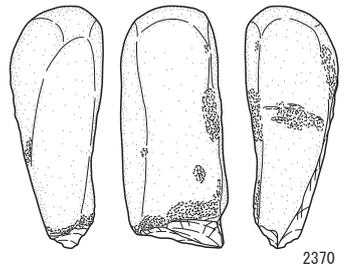
2366



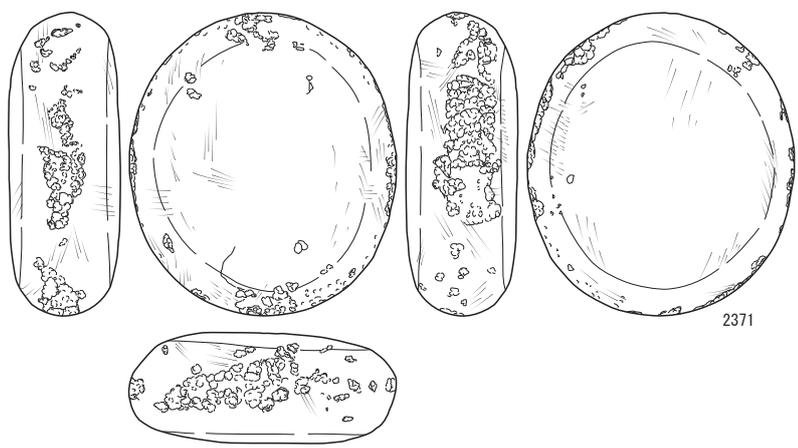
2368



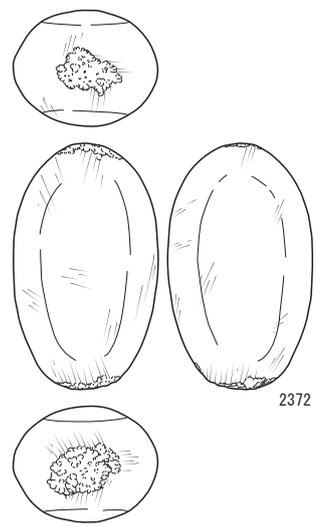
2369



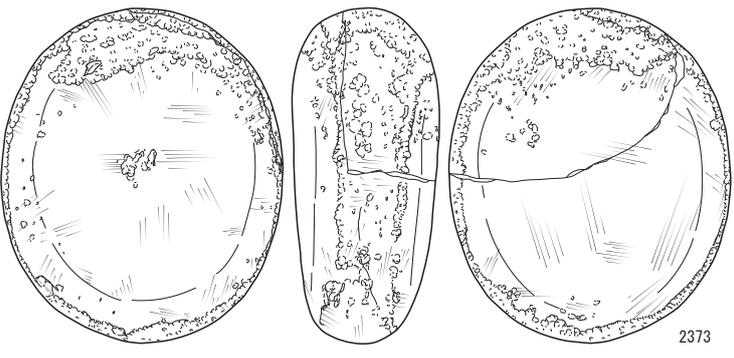
2370



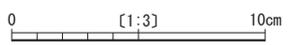
2371



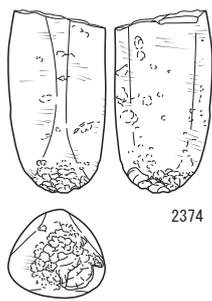
2372



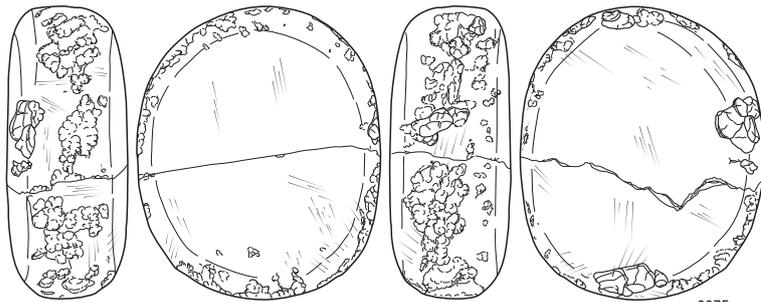
2373



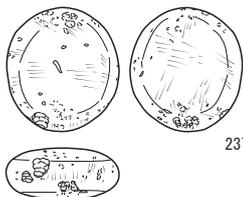
第2-162図 磨石・敲石 (3)



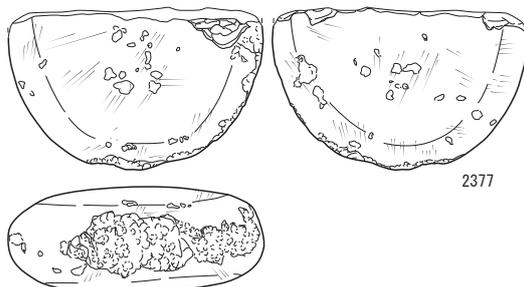
2374



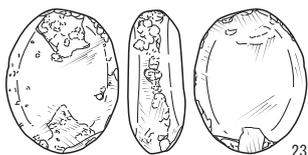
2375



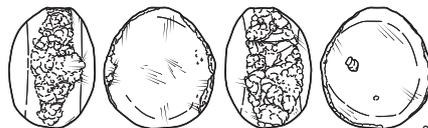
2376



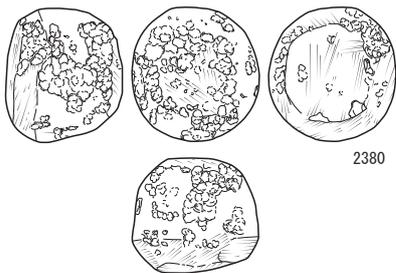
2377



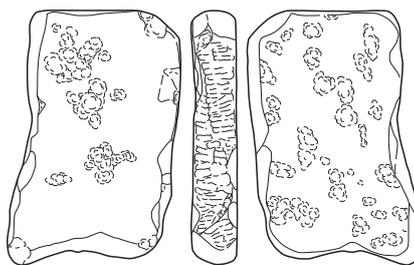
2378



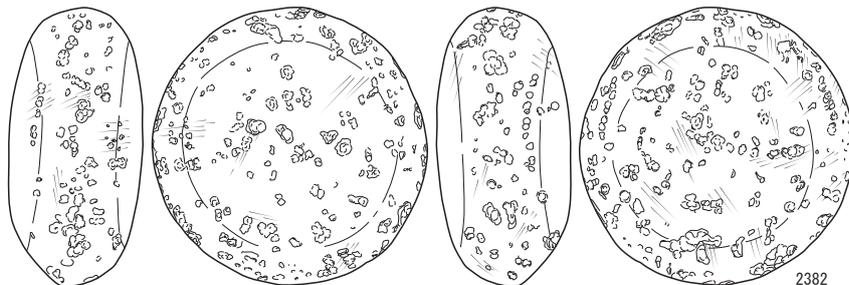
2379



2380



2381



2382

0 [1:3] 10cm

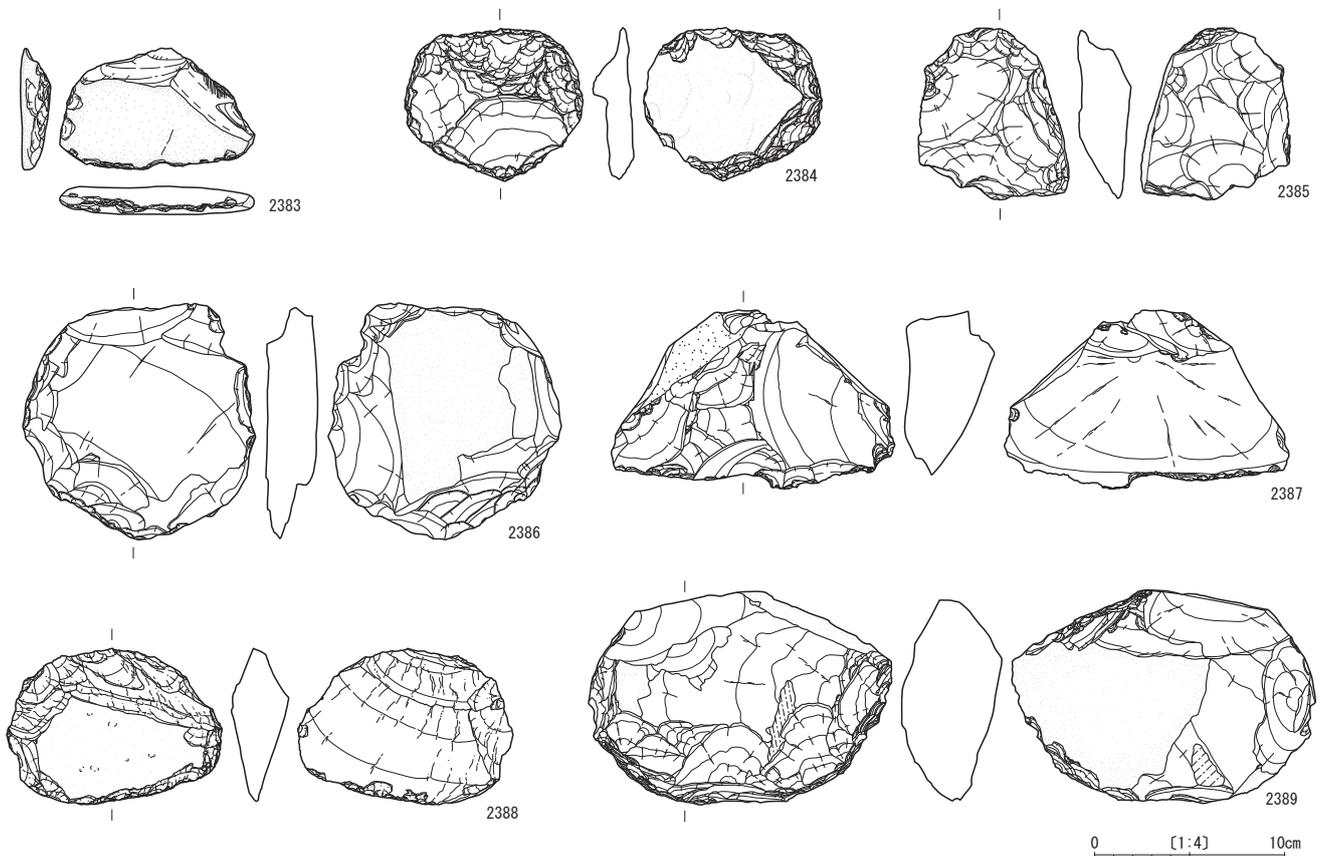
第2-163図 磨石・敲石（4）

打が礫面を帯状に広がる。2351は多孔質の安山岩製で、表面は平滑な礫面で、上下端に敲打痕がみられる。2352は玉髓製の亜円礫で、上端と下端を中心に敲打具として使用している。2353は棒状の砂岩亜円礫で、1/3程を欠損している。下端に敲打痕が集中してみられる。2354は砂岩製で、周縁には敲打・つぶれにより、側面が形成される。2355は砂岩製で、表・裏面に磨面が残る。周縁に敲打・つぶれで面状を呈するが、下部にあばた状の敲打痕が集中してみられる。2356は石英斑岩で、表・裏に磨面があり、周縁は敲打・つぶれが観察できる。2357は多孔質の安山岩で、周縁には径1.5cm大の不定形に、あばた状の敲打痕が集中する範囲が不規則に分布する。2358は安山岩製の断面楕円形を呈する棒状礫で上・下端に複数の敲打面が切り合う敲打・つぶれがみられる。2359は断面三角形を呈する砂岩礫で、下端及び左側縁の一部に敲打痕がみられる。2360は安山岩製の棒状礫で、上下端にわずかに敲打の痕跡がみられる。2361は砂岩製で、断面三角形を呈する棒状の亜円礫の稜線上に敲打とつぶれ、線状のキズがみられる。2362は砂岩の扁平な円礫で、裏面に磨面がある。周辺にもわずかに敲打の痕跡がある。2363は砂岩製で、表面に磨面があり、周縁は敲打により面状を呈する。下面の頂部を中心に金属で挟られたような強い敲打の痕跡がある。2364は砂岩製で、下端部は複数の敲打・つぶれによる敲打面の切り合いがみられ

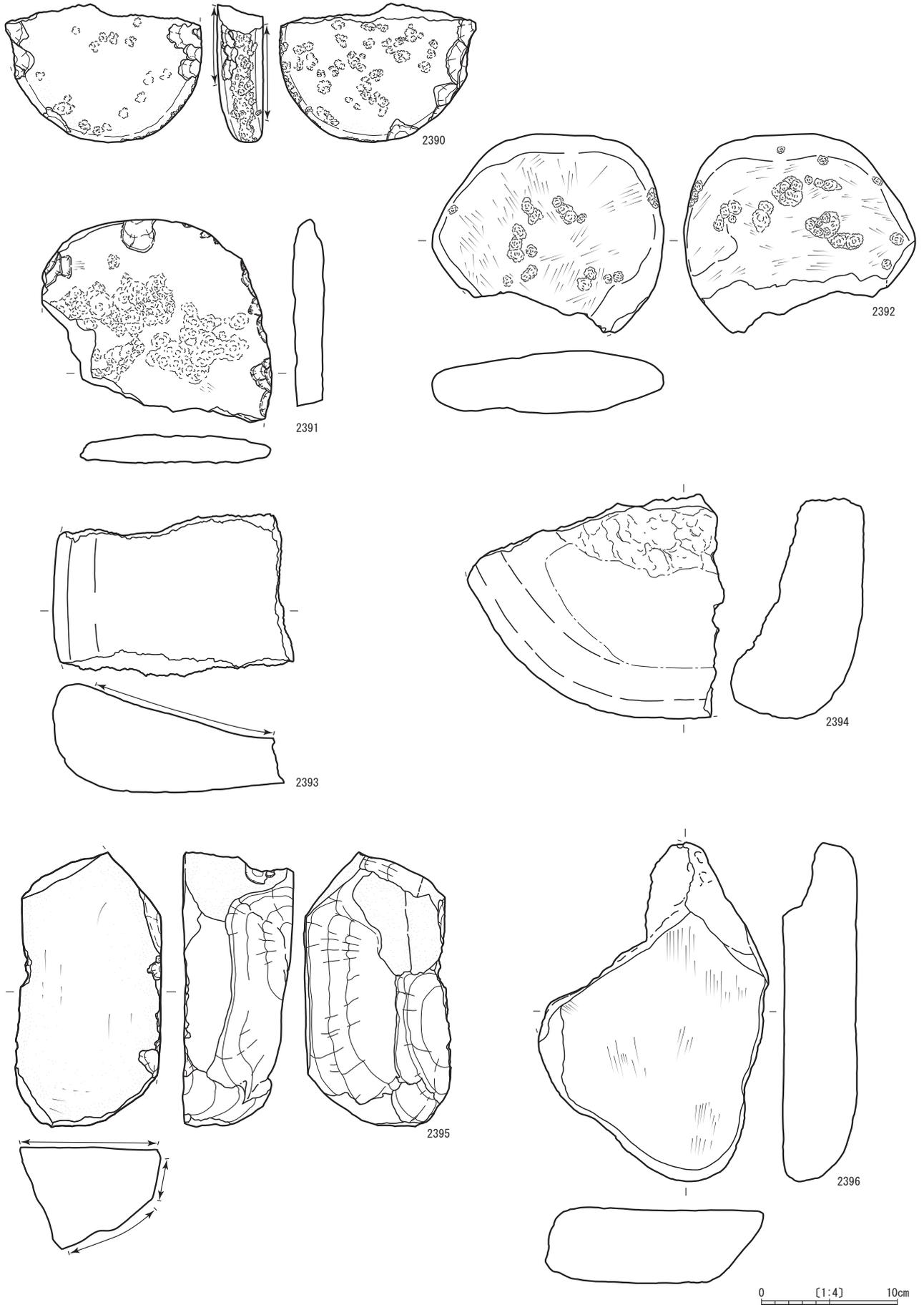
る。上端には敲打痕と、敲打によるとみられる剥落が生じており、石器製作に用いられた可能性がある。2365は安山岩の円礫で、表裏に磨面を有する。2366は砂岩製で、右側縁上部にわずかに敲打痕が残る。2367は安山岩製で方形状を呈する。各面にあばた状の敲打痕と剥離がみられ、裏面は磨面を切るように敲打痕と浅い凹みがみられる。2368は安山岩製で、表・裏面は平滑で、周縁に部分的に敲打の痕跡がある。2369は安山岩製で、表・裏の磨面を切るように中央付近に敲打による凹みがある。周縁には敲打痕がみられ、左・右側縁と下面は挟りが生じている。磨石から凹石・敲石、さらに石錘として転用された可能性がある。2370は砂岩製の棒状亜円礫で、右側面の角と右側面にわずかに敲打の痕跡が残る。2371・2373は砂岩製で、表裏に磨面が、周縁に敲打痕がみられる。2372は砂岩製の長形の円礫で、上・下端に敲打の痕跡がみられる。2374は断面が隅丸三角形を呈する砂岩の棒状礫で、下端部にあばた状の敲打痕と剥落が生じている。2375・2377は、安山岩製の磨石・敲石である。2376は表・裏に摩滅面をもつ磨石・敲石で、2379は敲石で、いずれも側縁に敲打の痕跡が残り、石器製作に関連する可能性がある。2380は花崗斑岩の亜円礫で、周縁に不規則に敲打痕が集中する部分がみられる。

### 13 礫器 (第2-164図2383~2389)

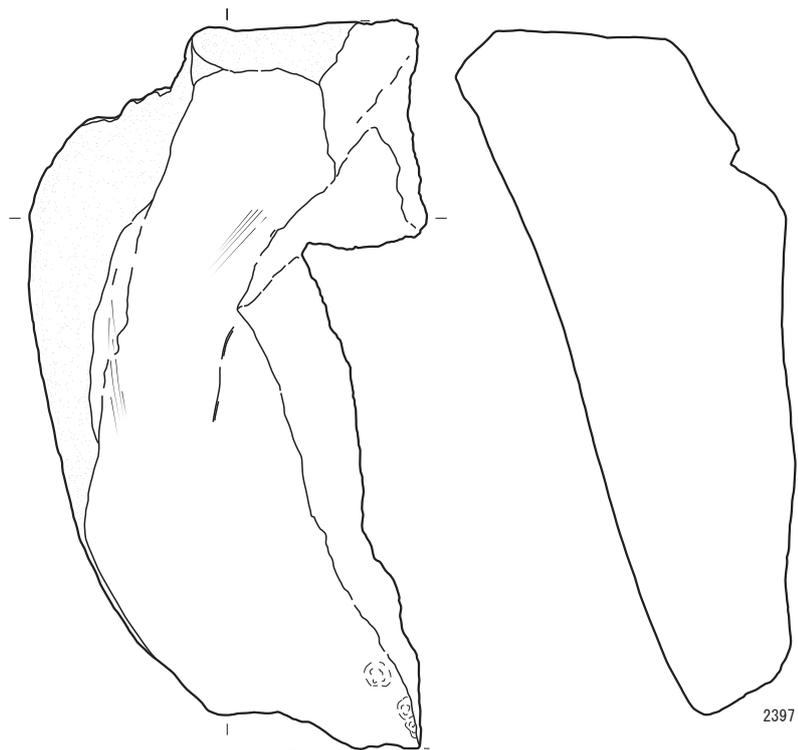
Ⅱ・Ⅲ層から出土した礫器は21点出土しており、その



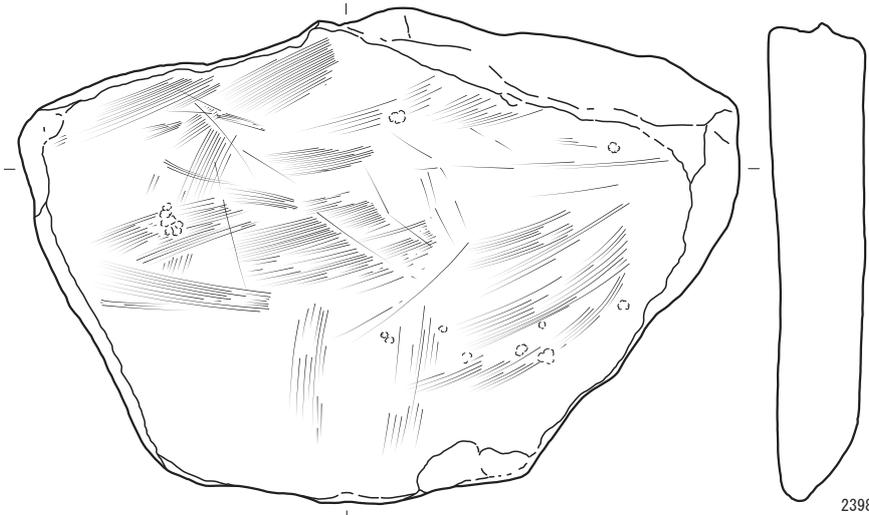
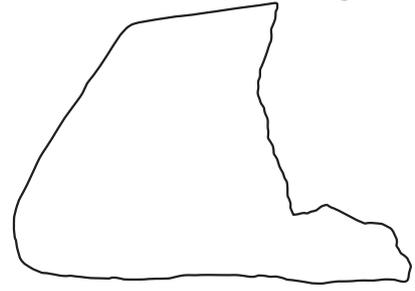
第2-164図 礫器



第2-165図 石皿・台石（1）



2397



2398



0 [1:4] 10cm

第2-166図 石皿・台石（2）

うち7点を図化した。

2383は砂岩製で、背面に自然面を残している。下縁部と左側縁部に剥離を施し、刃部とする。2384は粘板岩製で、周縁から求心状に剥離を施し刃部とする。2385はホルンフェルス製で、厚みのある剥片に調整剥離を加え、一端が尖頭状となる刃部を作る。2386はホルンフェルス製で、板状の剥片の周縁に粗い剥離を施して、刃部を作り出す。左下縁に微細剥離がやや集中する。2387は砂岩製で、厚みのある剥片の下縁に剥離を加えて刃部とする。2388は、厚みのある安山岩製の横長剥片の下縁を刃部とする。2389は分厚い砂岩製の剥片で、下縁を刃部とする。刃部には敲打痕が残る。

#### 14 石皿・台石（第2-165～167図2390～2399）

Ⅱ・Ⅲ層から112点の石皿・台石が出土した。そのほとんどは破片資料で比較的残存状況の良い10点を図化した。

2390は花崗斑岩製で、表裏に平滑な部分をもち裏面は平坦面となる。右側縁には部分的に敲打の痕跡がある。2391は盤状の凝灰岩で、全体的に風化・摩耗がみられる。2392は盤状を呈する安山岩で、表・裏面にやや平滑な部分がみられる。2393は、安山岩製の大型の石皿の破片である。残存部からみて周縁は丸みをもって整形され、表面が凹面となる。2394は凝灰岩製で、中央が凹む縁をもつ石皿である。周縁は丸く整形されている。2395は砂岩製で、平坦な磨面をもつ石皿である。部分的に帯状に摩滅する部分があり、砥石として使われた可能性がある。2396は石英斑岩の平盤な礫で、平坦な上面に磨面が残る。2397は砂岩製で、大型の石皿の破片である。使用面と底面が平行しない。2398は平盤な砂岩円礫で、平滑な表面に部分的な磨面が残る。周縁には整形等はみられない。2399は扁平な大型の砂岩円礫で、表・裏に部分的にあばた状の敲打痕が残る。台石として、使用された可能性がある。

#### 15 軽石製品（第2-168～179図）

Ⅱ・Ⅲ層から出土した軽石製品（加工品）は209点で、

そのうち103点を図化（Ⅰa類9点・Ⅰb類5点・Ⅰc類3点・Ⅱa類5点・Ⅱb類8点・Ⅱc類4点・Ⅲa類18点・Ⅲb類10点・Ⅲc類10点・Ⅳ類11点・Ⅴ類17点・Ⅵ類3点）した。意図的な穿孔や線刻、円形や板状・扁平形などへの形状加工があるものを軽石製品とした。明瞭な加工が見られないもの、また原石の状態のものは数量には入れていない。

主に形状や穿孔の有無・凹みの有無などで以下のように分類を行った。

#### 軽石製品分類基準

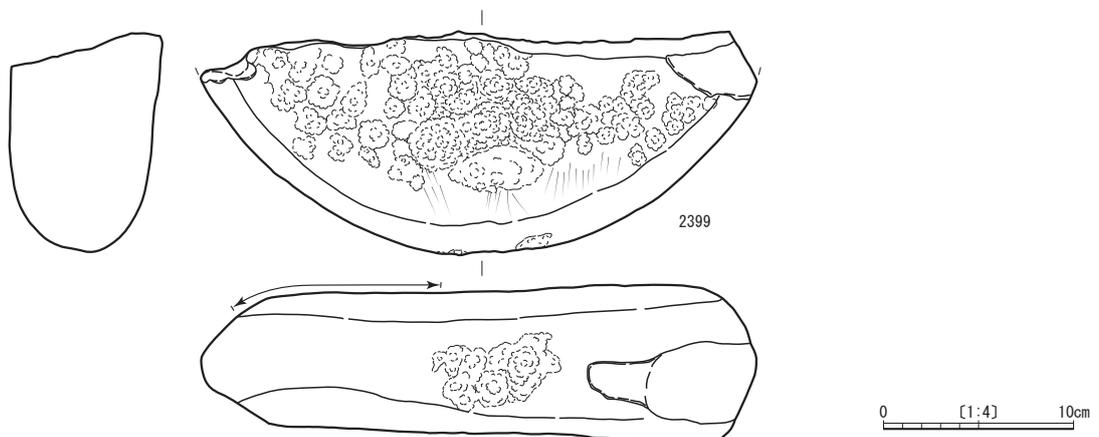
- Ⅰ類 特殊な軽石製品（岩偶・獣形・陰石・陽石・舟形）
  - a 岩偶に類するもの
  - b 陰石・陽石に類するもの
  - c 舟形に類するもの
- Ⅱ類 特殊な加工を施すもの
  - a 穿孔と線刻を施すもの
  - b 穿孔が複数なもの
  - c その他の特殊な形状
- Ⅲ類 1つの穿孔のあるもの
  - a 楕円形・長方形で穿孔のあるもの
  - b 円形で穿孔のあるもの
  - c 未貫通の穿孔のあるもの
- Ⅳ類 楕円形・円形・球体に形状を整えているもの
- Ⅴ類 線状又は帯状の凹みがあるもの
- Ⅵ類 何らかの加工痕のあるもの

なお、図化しなかったものの多くはⅥ類である。

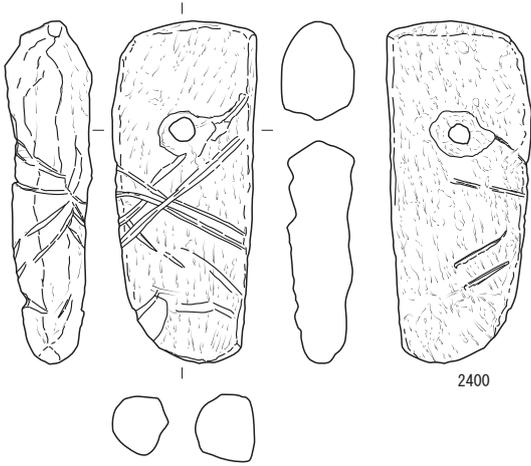
#### Ⅰa類（第2-168・169図2400～2408）

岩偶または岩偶に類するもので、9点出土し全て図化した。

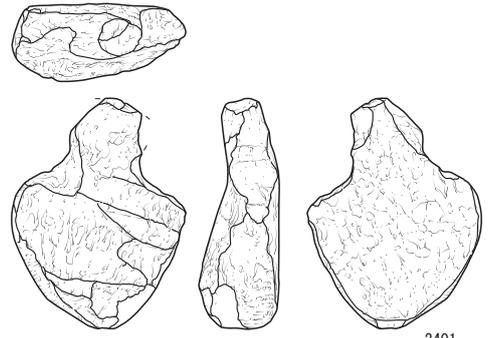
2400は表裏面・左側面に2条1対の線刻を斜位に施し、表面で交差させる。長軸の偏った位置に、両側から穿孔を施す。2401は肩部で抉れ、突起をもつ形状を呈する。各面とも加工されているが、左右下端の抉りにみえる部分は端部が欠損している。2402は上部に瘤状の突起を作り出し、突起の付け根には線状痕が廻る。表面は丁



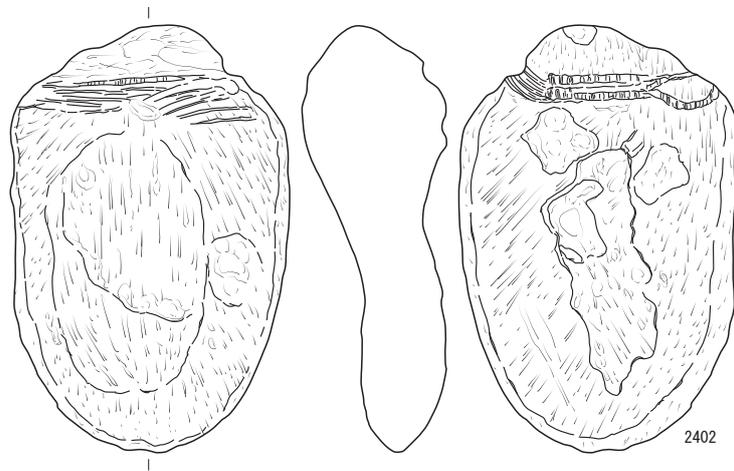
第2-167図 石皿・台石（3）



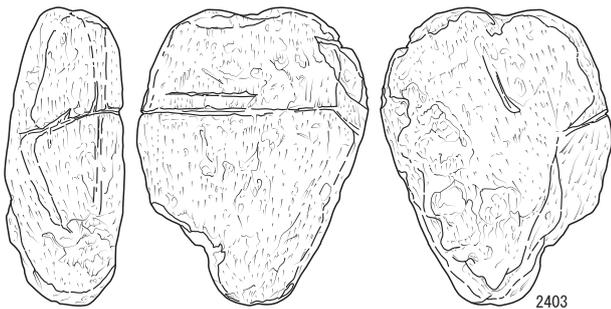
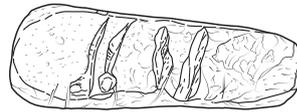
2400



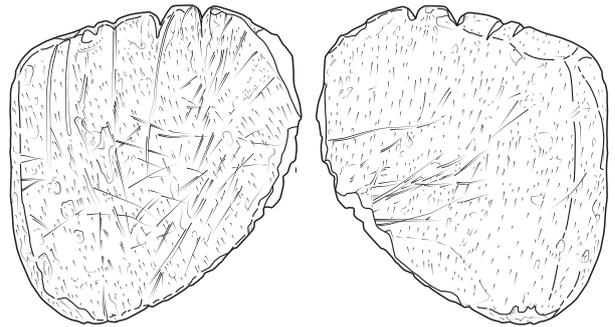
2401



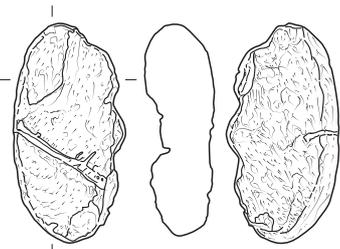
2402



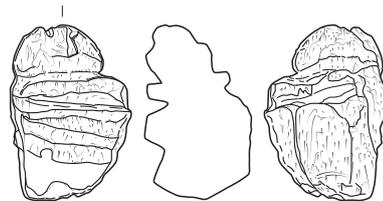
2403



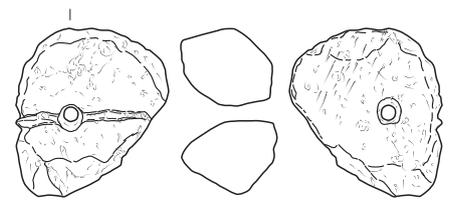
2404



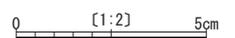
2405



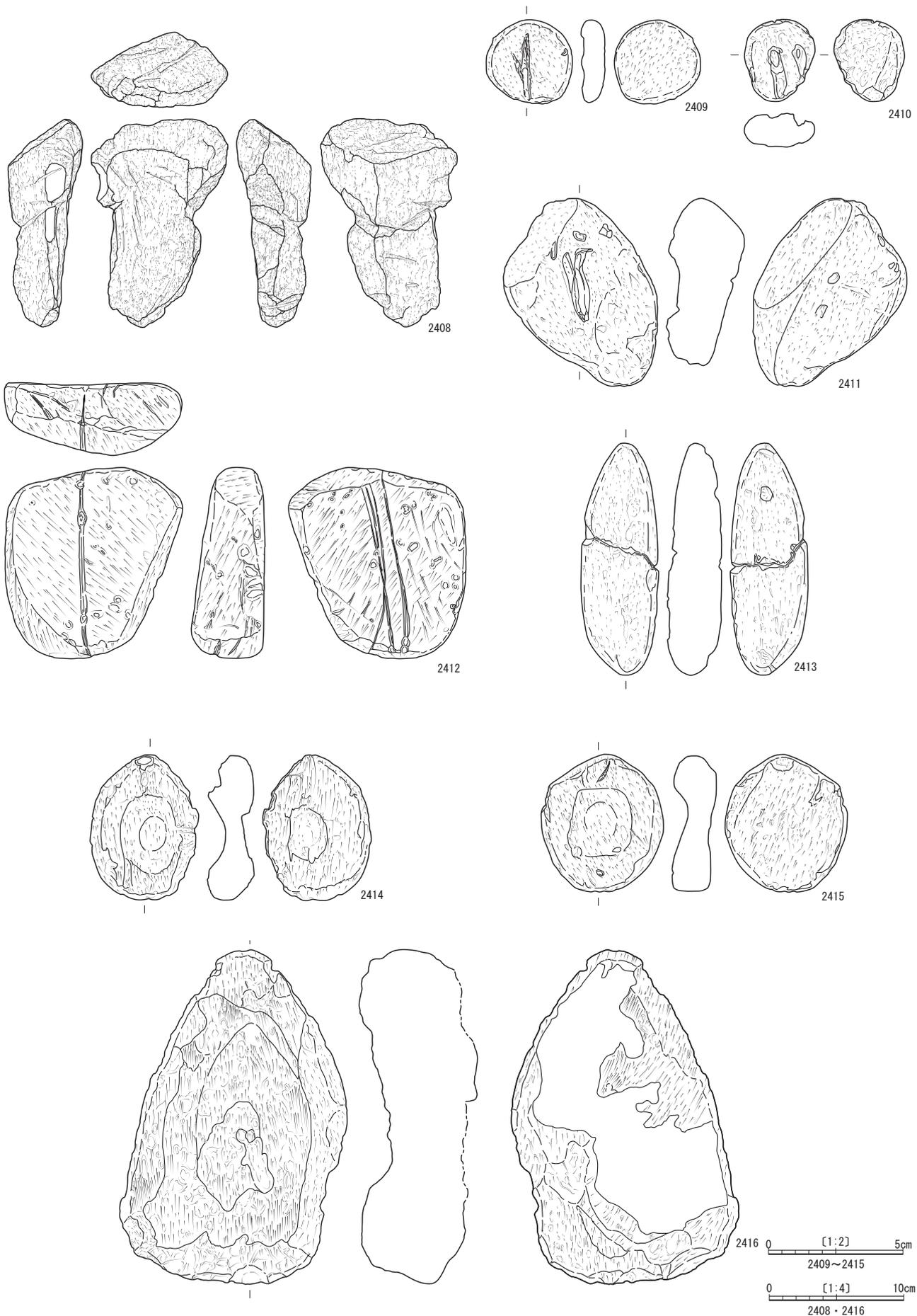
2406



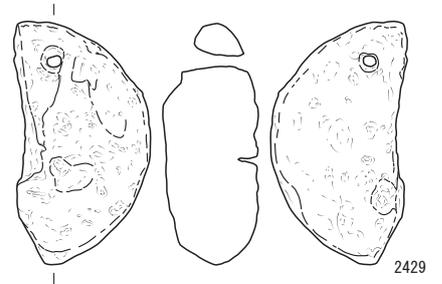
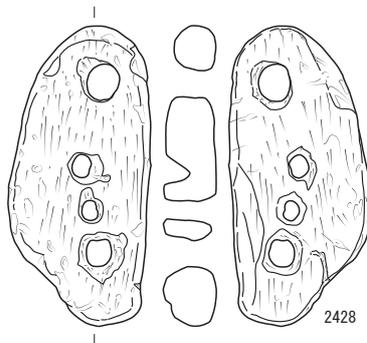
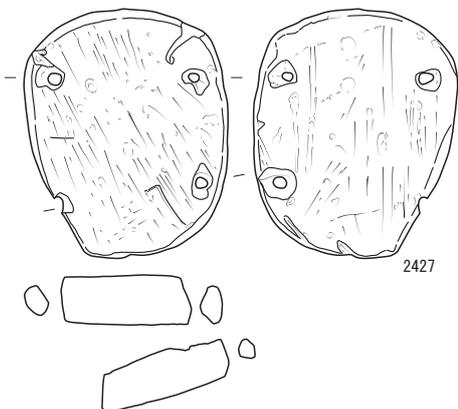
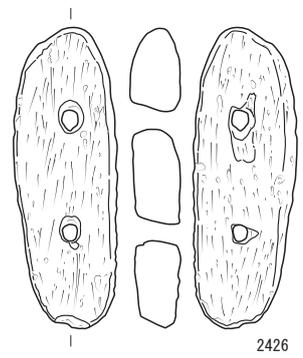
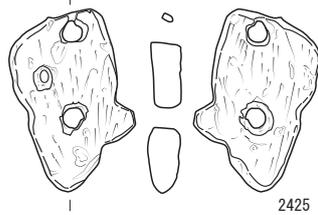
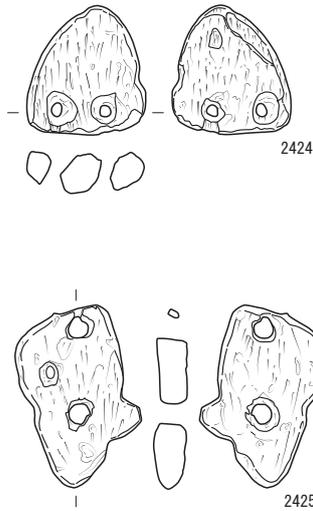
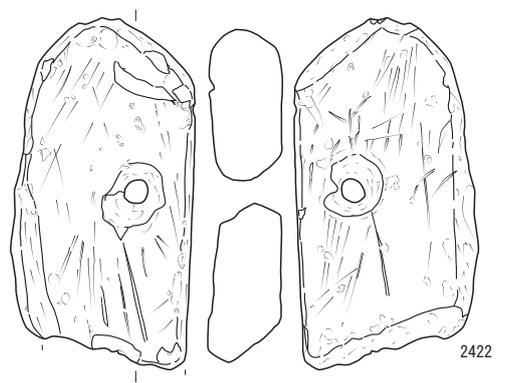
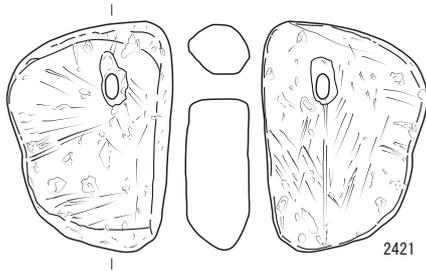
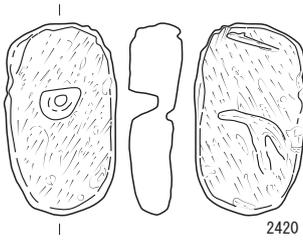
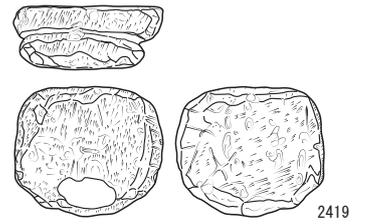
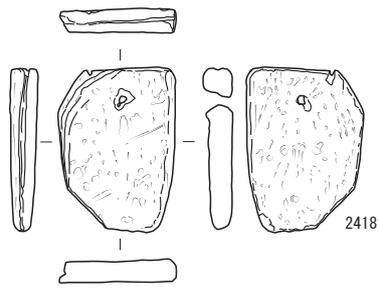
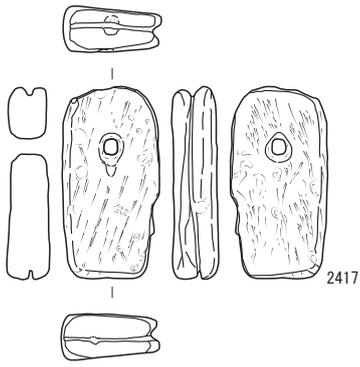
2407



第2-168図 軽石製品（1）I類



第2-169図 軽石製品（2）I類



0 [1:2] 5cm

第2-170図 軽石製品（3）Ⅱ類

丁寧な研磨による楕円形の凹みを、裏面には不定形で粗雑な凹みをもつ。2403は2条の線刻がみられ、1本は左側面にまで施される。上下逆の可能性もある。2404は下縁の右側部分を欠損しているが、隅丸方形の形状をしていた可能性がある。上部側面から表面端部にかけて、1.7～3.0cm、深さ0.1～0.3cmの刻みを施す。丁寧な研磨により整形されているが、表面には縦方向の削痕が多数あり、裏面にも横方向の削痕が複数ある。

2405～2407は、獣形とも考えられる一群である。2405は表面に凹みを加工し、その中に凹線を斜位に施す。右側面は緩やかな2つの凹みを施し、平面では波状を呈するよう形状を作り出す。2406は不定形で、「V」字状の凹線を表面・右側面・裏面に廻るように2条施す。表面下部にも凹みがあるが、加工なのか素材の形状なのかは不明である。2407は不定形な軽石で、表面中位に断面「V」字状の削りを施している。その「V」字状に加工した一番軽石の薄い部分に、径約0.6cmの丁寧な穿孔を施す。

2408は大型製品で、左右に凹みをつけ上部と下部を意識した形状である。裏面にはくびれ状に線刻を施す。上下が逆の可能性もある。

#### I b 類 (第2-169図2409～2413)

陰石・陽石に類するもので、出土した5点全てを図化した。

2409は、長さ2.5cm、幅0.2cm、深さ0.1cmの凹線を施す。2410は2条の凹線を加工し、各凹線端部(製品の中央)で未貫通の穿孔を施す。2411は不定形で、表面に長さ2.7cm、幅0.8cm、深さ0.3～0.5cmの凹線を施す。2412は不定形だが、丁寧な研磨で形状を整形している。長軸方向を廻るように凹線と刻線が施され、表面は幅0.2cm、深さ0.1cmの凹線を縦方向に施し、上下側面・裏面は線状となる。裏面にはその他にも線状痕・削痕が複数ある。2413に線刻はないが、陽石の可能性もある。長楕円形を呈してお

り、丁寧な整形である。

#### I c 類 (第2-169図2414～2416)

いわゆる舟形軽石製品に類するもので、出土した3点を図化した。

2414・2416は大きさが異なるが、整形や加工が類似したものである。表面全体を凹ませ、上部を三角形状に整形し、舟の軸先を思わせる。裏面は一部凹みがあり、加工なのか素材の自然の凹みなのか不明である。2415は、裏面を平坦面に整形している。

#### II a 類 (第2-170図2417～2421)

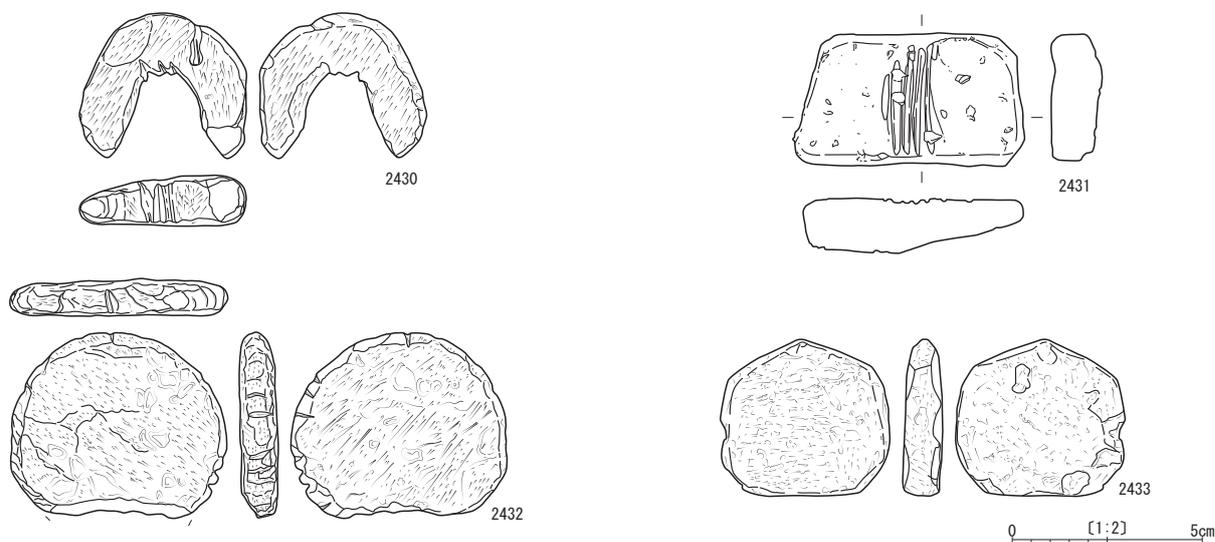
特殊な加工で、穿孔と線刻を施すものである。出土した5点を図化した。

2417・2418は長軸の一端に穿孔を施し、側面に溝状の凹線を施す。2418は、片側から穿孔を施す。2419はバレン状を呈しており、側面には「U」字状の凹線が廻る。2420は丁寧な整形で、表面に未貫通孔、裏面に2条の線刻がみられる。

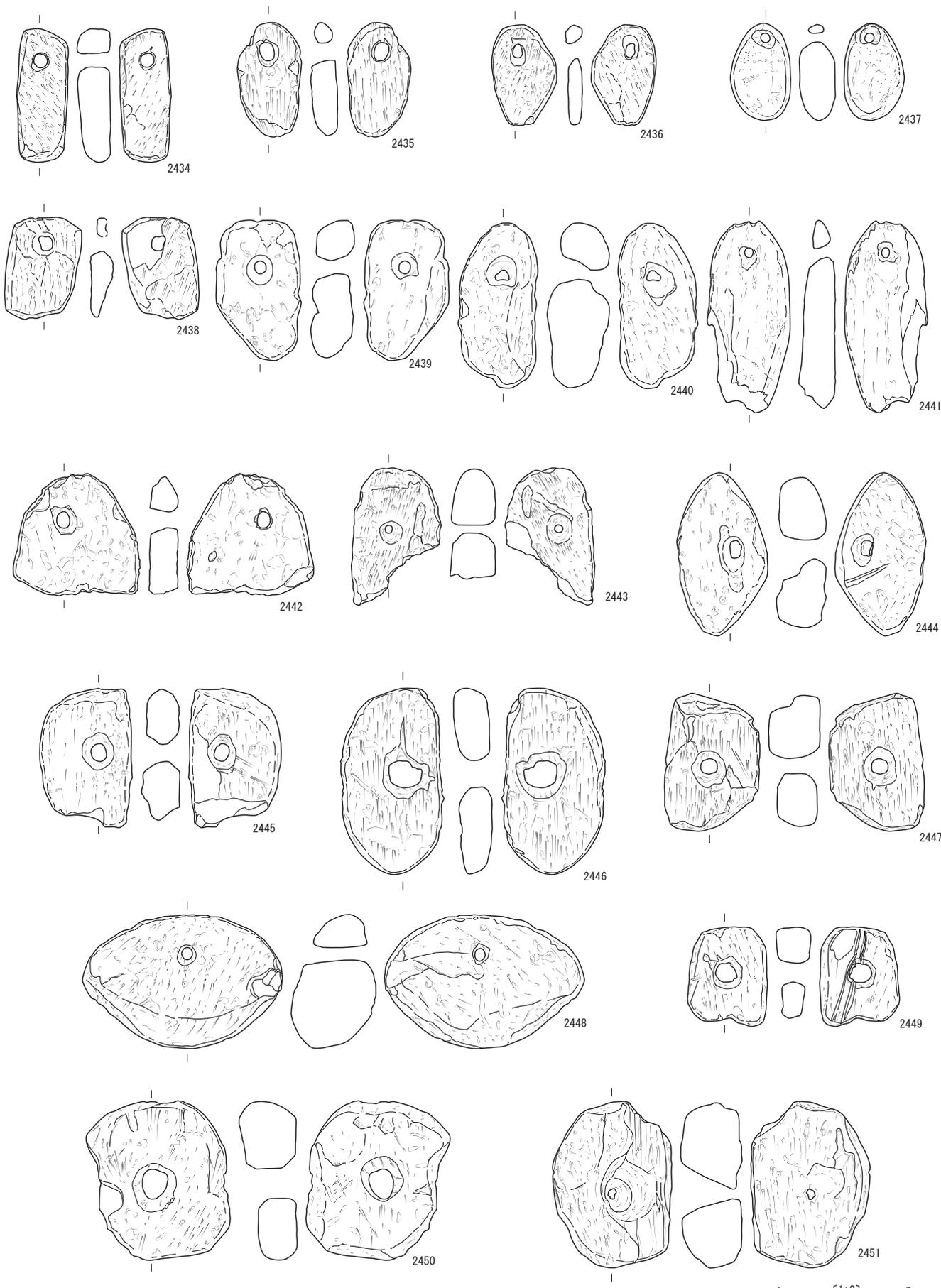
#### II b 類 (第2-170図2422～2429)

特殊な加工で、複数の穿孔を施すものである。出土した8点を図化した。

2422は下半部を欠損しているが、欠損箇所との境に2つの未貫通の孔痕が残る。2423は角錐状を呈しており、径約1.2cmの孔を施す。孔は表面では1つだが、内部で2つに分岐して、1つは貫通し、1つは未貫通である。2424は三角形を呈し、底辺側に2つの穿孔を施す。2425は、2つの穿孔と未貫通の穿孔を施す。2426・2427は、丁寧な整形を行っている。2427は4つの孔をもつが、1つは側面際に穿孔し、半円となっている。2428は、ほぼ直線上に4つの穿孔が並ぶ。2429は半円形を呈しており、表面に径0.6cmの穿孔と左側面に径0.4cmの穿孔があり、2つの孔がつながるように施されている。裏面には未貫通の孔を施す。



第2-171図 軽石製品(4) II類



0 [1:2] 5cm

第2-172図 軽石製品（5）Ⅲ類

II c類 (第2-171図2430~2433)

特殊な加工を施しているものである。

2430は、逆「U」字状の形状である。本来は「U」字状の可能性もある。内面上部に3つの「V」字状の刻みを施す。2431は正面と上下左右の側面に丁寧な面取りを行うが、裏面の整形は粗い。正面中央に下端がやや左に寄った片葉研状の浅い沈線が6条彫り込まれる。2432は下部を欠損しているが、本来の形状は円形の可能性が高い。側面は丸みを帯び、長さ0.5cm、幅0.1cm程度の浅い刻みを複数施す。2433は五角形状を呈しており、側面形

状を平坦に仕上げている。

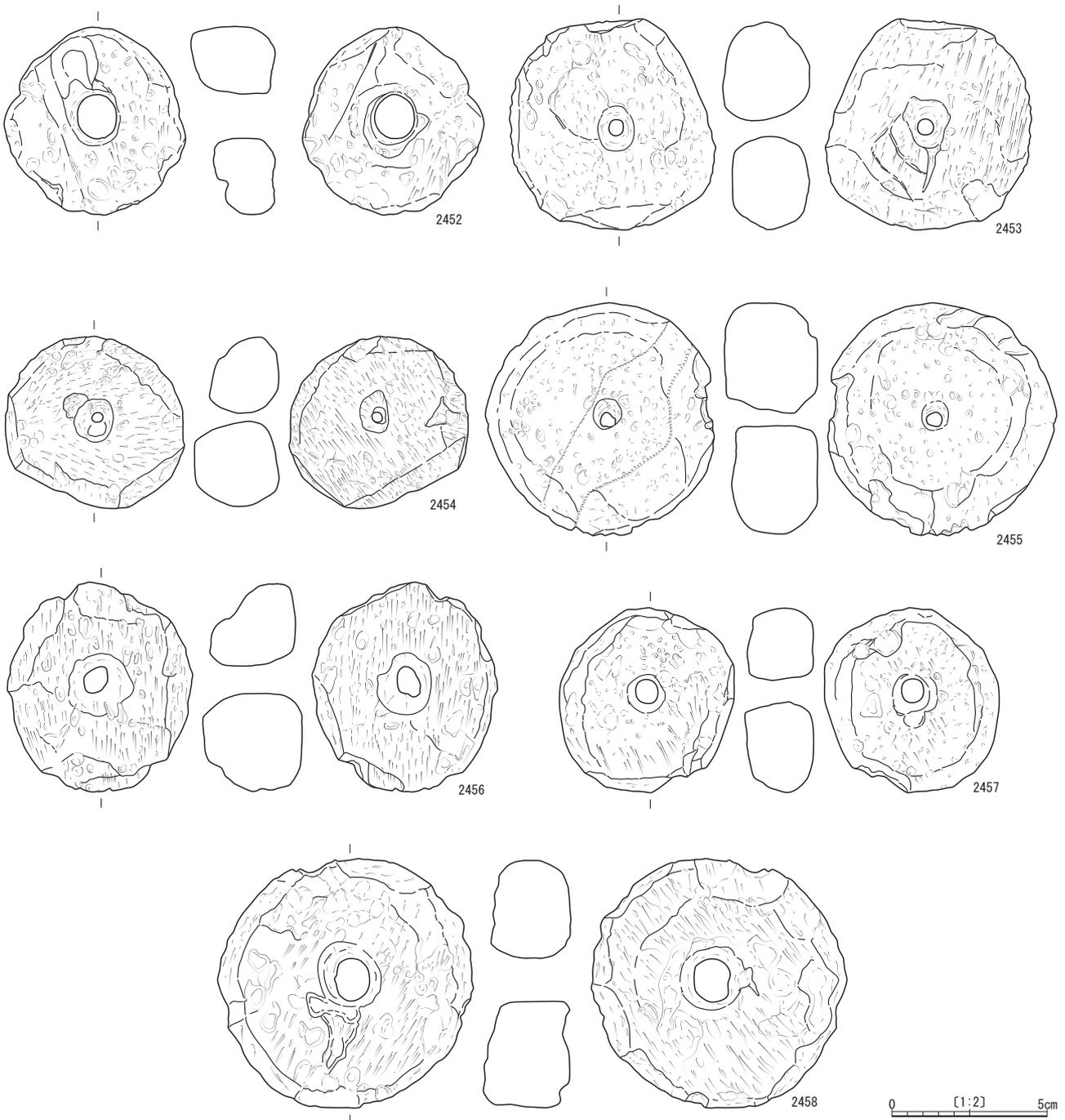
III a類 (第2-172図2434~2451)

楕円形・長方形で1つの穿孔をするものである。26点出土し、18点を図化した。

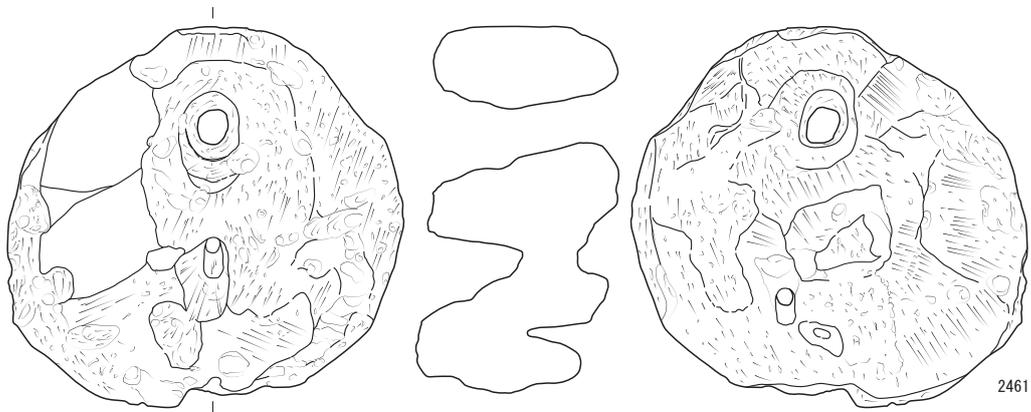
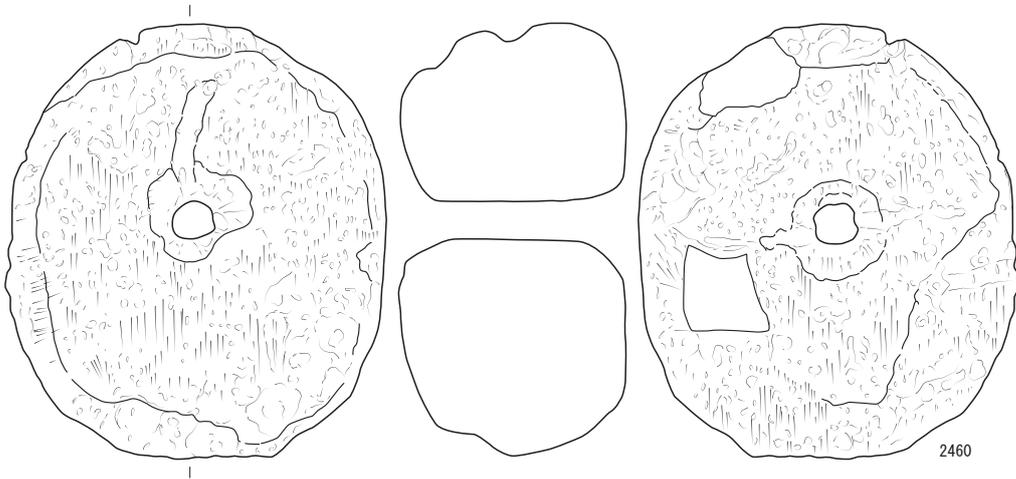
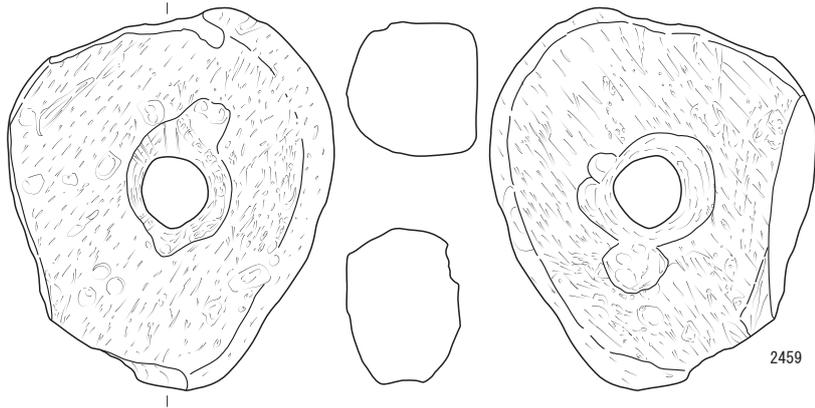
2434~2443は長軸方向の一端に穿孔するもので、いずれも両側から穿孔される。2434は形状の調整が緻密で、垂飾品を思わせる。2435~2437は、大珠を思わせる軽石製品である。

2444~2448は、短軸方向の一端に穿孔するものである。

2446は、径約1.2cmと大きな穿孔である。2448は、径

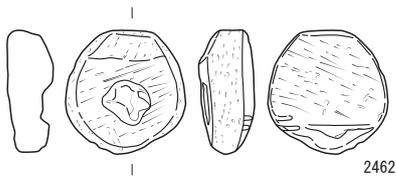


第2-173図 軽石製品(6) III類

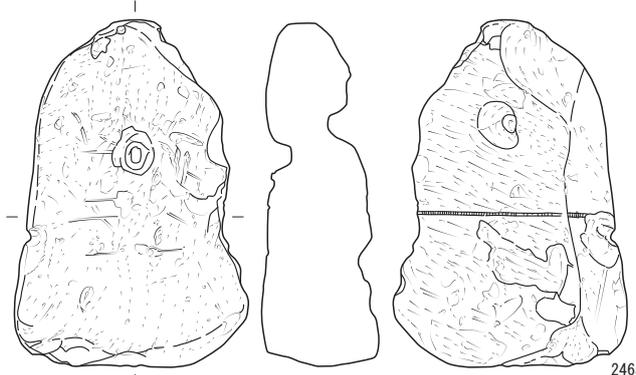


0 [1:2] 5cm

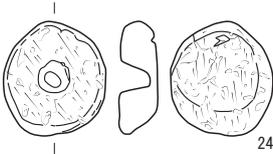
第2-174図 軽石製品（7）Ⅲ類



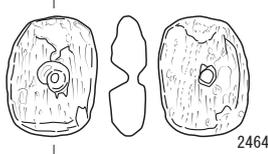
2462



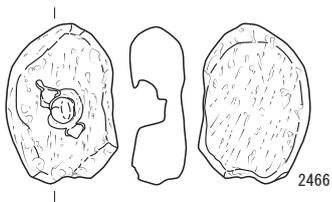
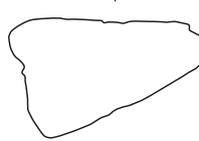
2465



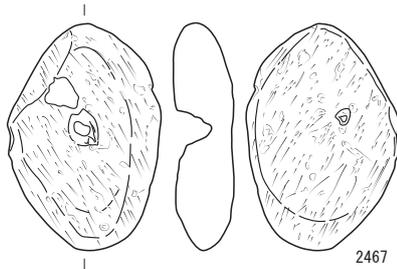
2463



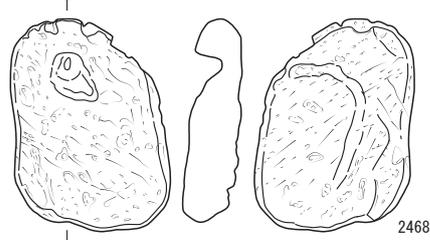
2464



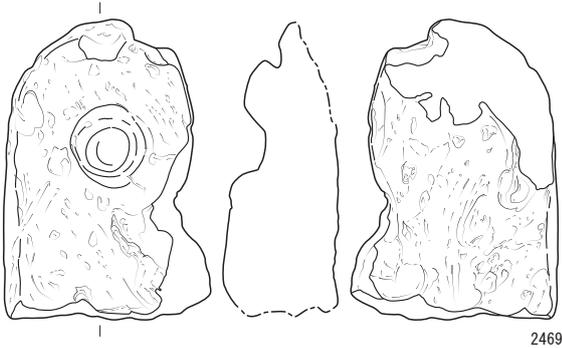
2466



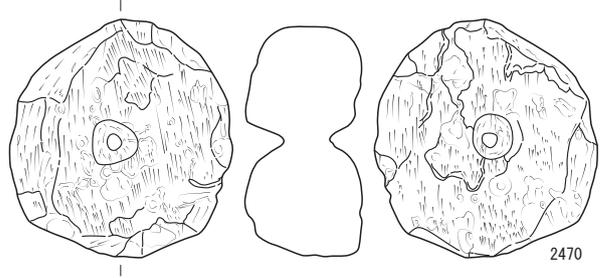
2467



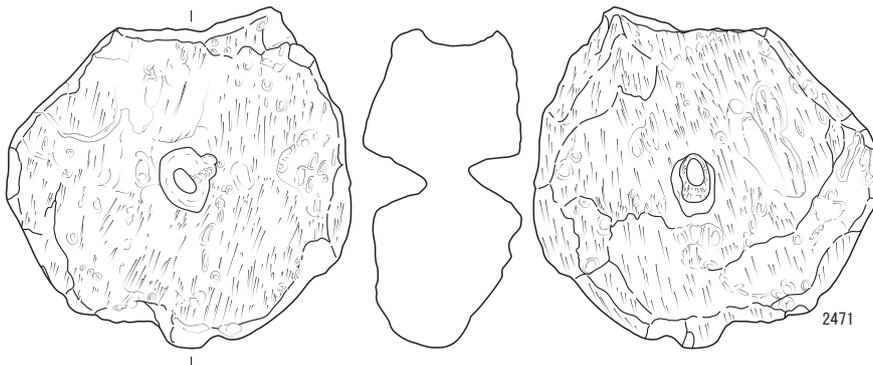
2468



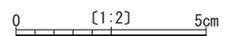
2469



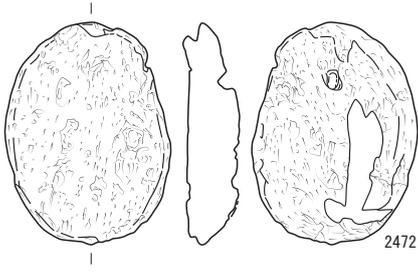
2470



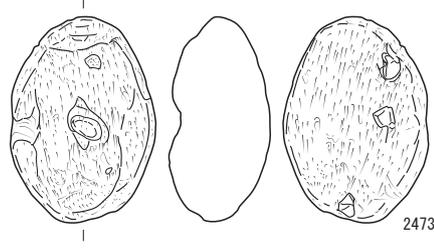
2471



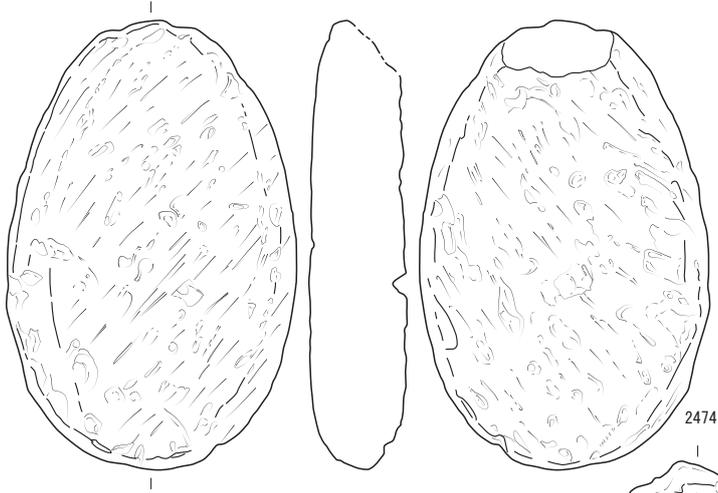
第2-175図 軽石製品（8）Ⅲ類



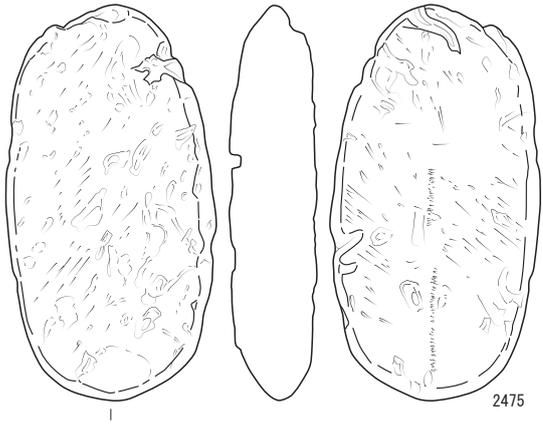
2472



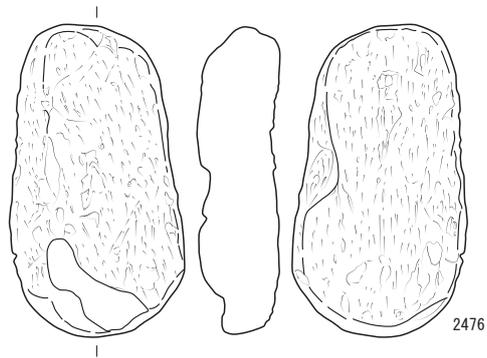
2473



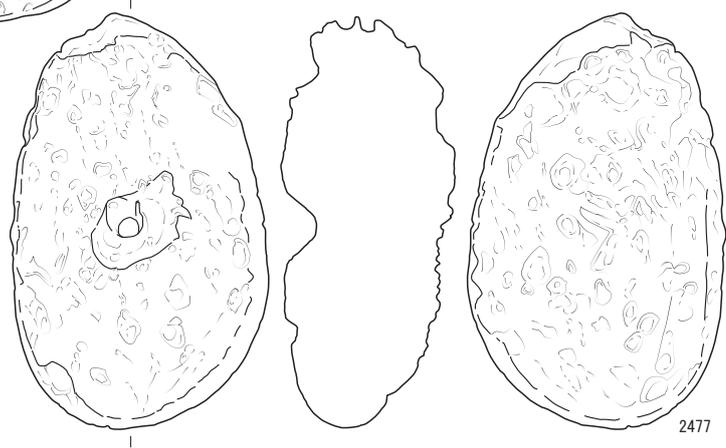
2474



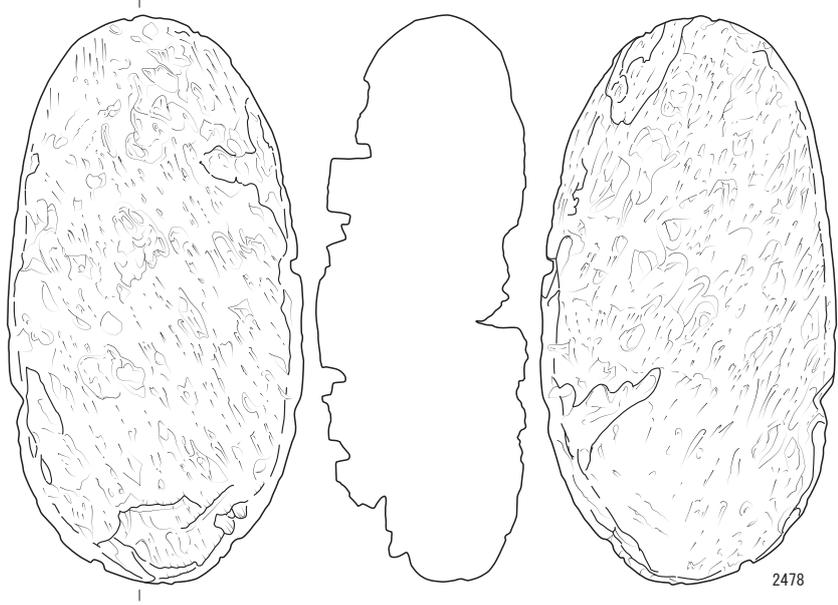
2475



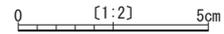
2476



2477



2478



第2-176図 軽石製品（9）IV類